

平成 24 年 度

専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部歯学科

ま え が き

この教育要項は、歯学部専門科目の授業を受ける学生諸君に、平成24年度4月以降に行われる予定の専門教育科目を示し、それら授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。加えて、学生周知事項、歯学科履修規則、試験規則、単位取得及び進級判定基準を掲載してあります。

学生諸君が、本学における歯学教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

モジュール情報、ユニット情報欄に必要自習時間数を示しました。各モジュールの学習目標と到達目標を達成するためには、学部の授業を出席するだけでは不十分であり、自学自習によって、自己の知識・技術を高める努力を惜しまないで下さい。

平成24年4月

歯学部歯学科教育委員会

東京医科歯科大学歯学部歯学科教育の基本的理念

豊かな人間性を有し、使命感をもって全人的な歯科医療を実践し、国民の健康の維持・増進に寄与するとともに、国際的視野から歯科医学・歯科医療の向上に貢献できる指導者を育成する。
(指導者：歯科界の発展のために、いかなる分野においても牽引力をもって指導的役割を果たすことのできる人材)

一般教育目標

- 1) 幅広い教養を身につけ、歯科医師としての豊かな人間性を培う。
- 2) 基本的な科学原理と概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
- 3) 科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。
- 4) 全身の常態と病態を理解した上で、口腔・頭蓋・顎・顔面領域の疾患の予防、診断、治療に関する知識および基本的技術を修得する。
- 5) 社会における歯科医学・医療の役割とその重要性を理解する。

歯学部長あいさつ

歯学部長 田上 順次

歯学科に進級した皆さん、おめでとう。いよいよ専門教育が本格的に始まります。ここに24年度の歯学科のシラバスをお届けします。各科目の内容がわかるようになっていますが、皆さんがこの中から受講科目を選択するということはほとんどありません。皆さんが歯科医師として、歯科医学研究者として活躍するために必要な内容です。皆さんの指導にあたる先生たちが、自分たちが学生のときに感じたこと、卒業して教育を担当する中で感じてきたこと、国際的に見て本学歯学部専門教育はどうあるべきか、これから歯科医師となる諸君のために何が必要か、そういうことを考えながら作られたカリキュラムです。

歯学科では平成23年度入学生より医歯学融合教育カリキュラムを実施しています。医学科学生と合同で授業を受ける科目が各学年にあります。これによって歯学科専門科目も従来以上に充実し、皆さんが卒業後に歯科医療人、歯科医学者としてリーダーシップを発揮し、歯科界の発展に貢献してゆくための根幹が形成されます。

1年次は「歯学入門」だけが専門科目で、ほぼ1年間は教養科目でしたが、2年次からは湯島キャンパスでの専門科目と医歯学融合教育科目が本格的に開始されます。また、3年次学生も2年間の教養部での勉強を修了し、本格的な専門科目が開始されます。新旧2つのカリキュラムが並行しますが、どちらも本学歯学科の教育理念、教育目標は変わりません。基礎と臨床の統合型講義と実習、歯科医療に必要な臨床医学が中心の専門科目のカリキュラムは、細分化された科目の講義や実習の形態ではなく、モジュール制という大きな枠組みの中で履修します。かつての専門科目ごとの縦割りの教育から、他の科目との関連も含めた、より包括的な知識の必要性から生まれたシステムです。

PBL、チュートリアルといった学習形式は既に諸君は訓練を受けていると思いますが、これからは歯科医学を学ぶために、こうした手法を多くのモジュールで利用してもらうことになります。3年次から5年次までの学生が学年を超えて興味のある内容を学べる学年混合選択セミナー、歯科に関するトピックを基礎と臨床の両面から同時に学べる課題統合セミナーなども特徴的なモジュールです。また、4年次に行う研究(体験)実習は自分の興味を育てる基礎あるいは臨床の研究分野での研究活動の入門編です。この実習は大学内および学外を含めて最長4ヶ月間行うことも可能です。全ては諸君の意向によるものです。すばらしい研究成果を挙げて、外国や国内の学会で発表する機会も提供されることがあります。5年次後期から開始する包括臨床実習は、本学歯学科の最大の特徴であり、最終学年の11月まで続きます。診療参加型の臨床実習を約1年間行いますので、臨床家として技術と知識の研鑽の場となります。出来るだけ多くの患者さんに積極的に接し、コミュニケーション、包括歯科医療の理論と実践を身につけて下さい。

本学歯学部は学生数に対して非常に多くの教員がいます。多くの教員が自らの研究の専門分野で国際的にもリーダーシップのとれる研究者でもあり、患者さんから信頼と尊敬を集める臨床家でもあります。このようなすばらしい先生方を目標として、将来はさらに自らが臨床家として、あるいは研究者として飛躍できるよう充実した学生生活にして下さい。

平成24年度歯学部歯学科専門科目授業計画表

第1学年

前期	学部専門科目「歯学入門」	24. 4. 17(火)
後期	学部専門科目「歯学入門」	24. 10. 2(火)～25. 2. 12(火) 毎週火曜日

第3学年

区分	期間
春季休業	24. 4. 2(月)～5(木)
ガイダンス	24. 4. 6(金)
授業1	W24. 4. 9(月)～24. 7. 31(火)
夏季休業	24. 8. 1(水)～24. 9. 14(金)
前期試験再試験期間	24. 9. 18(火)～24. 9. 21(金)
授業1	W24. 9. 24(月)～24. 9. 28(金)
授業2	W24. 10. 1(月)～24. 12. 21(金)
創立記念日のため休講	24. 10. 12(金)
お茶の水祭準備のため休講	なし
お茶の水祭	24. 10. 13(土)～24. 10. 14(日)予定
解剖体慰霊式	24. 10. 18(木)午後予定
冬季休業	24. 12. 25(火)～25. 1. 4(金)
授業8	W25. 1. 7(月)～25. 3. 1(金)
遺骨返還式	25. 1. 15(火)午後予定
再試及び進級判定期間	25. 3. 4(月)～25. 3. 8(金)
春季休業	25. 3. 11(月)～25. 3. 29(金)

第2学年

区分	期間
春季休業	24. 4. 2(月)～6(金)
ガイダンス	24. 4. 9(月)
授業1	W24. 4. 10(火)～24. 7. 27(金)
夏季休業	24. 7. 30(月)～24. 9. 7(金)
授業3	W24. 9. 10(月)～24. 9. 28(金)
授業1	W24. 10. 1(月)～24. 12. 21(金)
創立記念日のため休講	24. 10. 12(金)
お茶の水祭準備のため休講	なし
お茶の水祭	24. 10. 13(土)～24. 10. 14(日)予定
解剖体慰霊式	24. 10. 18(木)午後予定
冬季休業	24. 12. 25(火)～25. 1. 4(金)
授業8	W25. 1. 7(月)～25. 3. 1(金)
遺骨返還式	25. 1. 15(火)午後予定
再試及び進級判定期間	25. 3. 4(月)～25. 3. 8(金)
春季休業	25. 3. 11(月)～25. 3. 29(金)

第4学年

区分	期間
春季休業	24. 4. 2(月)～5(木)
ガイダンス	24. 4. 6(金)
授業1	W24. 4. 9(月)～24. 7. 31(火)
自己研修日	24. 5. 1(火) 24. 5. 2(水)
夏季休業	24. 8. 1(水)～24. 9. 19(水)
研究体験実習発表会	9月20日(木)、21日(金)
授業1	W24. 9. 24(月)～24. 9. 28(金)
授業2	W24. 10. 1(月)～24. 12. 21(金)
創立記念日のため休講	24. 10. 12(金)
お茶の水祭準備のため休講	なし
お茶の水祭	24. 10. 13(土)～24. 10. 14(日)予定
解剖体慰霊式	24. 10. 18(木)午後予定
冬季休業	24. 12. 25(火)～25. 1. 4(金)
授業8	W25. 1. 7(月)～25. 3. 1(金)
再試及び進級判定期間	25. 3. 4(月)～25. 3. 8(金)
春季休業	25. 3. 11(月)～25. 3. 29(金)

第5学年

区分	期間
春季休業	24. 4. 2(月)～5(木)
ガイダンス	24. 4. 6(金)
授業1	W24. 4. 9(月)～24. 7. 31(火)
振替休業	24. 5. 1(火) 24. 5. 2(水) (8月23日(木)、9月1日(土)の振替)
夏季休業	24. 8. 1(月)～24. 9. 4(火)
前期試験再試験期間	24. 9. 5(水)～24. 9. 7(金)
C	T24. 8. 23(木)
O	S24. 9. 1(土)
C	B24. 9. 15(土)
授業3	W24. 9. 10(月)～24. 9. 28(金)
授業・包括臨床実習	24. 10. 1(月)～24. 11. 8(木)
患者対応接遇セミナー	24. 10. 3(水) 予定
合宿研修	24. 10. 4(木)～24. 10. 5(金) 予定
お茶の水祭	24. 10. 13(土)～24. 10. 14(日) 予定
オナープログラム	24. 11. 9(金)～24. 11. 28(水) 予定
授業・包括臨床実習	24. 11. 29(木)～24. 12. 21(金)
冬季休業	24. 12. 25(火)～25. 1. 4(金)
授業・包括臨床実習	25. 1. 7(月)～25. 3. 29(金)

第6学年

区分	期間
包括臨床実習1	6W24. 4. 2(月)～24. 7. 20(金)
夏季休業	24. 7. 23(月)～24. 8. 17(金)
包括臨床実習6	W24. 8. 20(月)～24. 9. 28(金)
包括臨床実習9	W24. 10. 1(月)～24. 11. 28(水)
D6終了時OSCE	11月初旬予定
オナープログラム	24. 11. 9(金)～24. 11. 28(水) 予定
器具返却	24. 11. 29(木)～24. 11. 30(金)
自己研修	24. 12. 3(月)～25. 2. 8(金)
冬季休業	24. 12. 25(火)～25. 1. 4(金)
包括臨床実習※4	W25. 2. 12(火)～25. 3. 8(金) 予定
卒業	25. 3. 25(月) 予定

※卒業後臨床研修へのキャリアアップ研修

平成24年度 歯学部歯学科専門科目モジュール・コーディネーター 一覧

*平成23年度以降歯学科入学生		正 モジュール・コーディネーター	副 モジュール・コーディネーター
*D1	歯学入門	荒木孝二	
*D2	人体の構造と機能	高野吉郎	井関祥子、泰羅雅登、柴田俊一
*D2	患者と医療者	俣木志朗	礪波健一
*D2	社会と環境	川口陽子	佐々木好幸
*D2	生命の分子的基盤	森田育男	篠村多摩之
*D2	医歯学基盤教育	水口俊介	森尾郁子
*D2	頭頸部・基礎	井関祥子	柴田俊一
平成22年度以前歯学科入学生		正 モジュール・コーディネーター	副 モジュール・コーディネーター
D3	総合課題演習	森尾郁子	川口陽子
D3	歯科医療入門	俣木志朗	
D3	生命の分子的基盤と細胞の機能	森田育男	篠村多摩之
D3	人体の構造と機能	高野吉郎	井関祥子、泰羅雅登
D3-D5	学年混合選択セミナー	倉林 亨	三輪全三、鈴木聖一、森尾郁子、豊福 明
D3-D5	課題統合セミナー	小野卓史	隅田由香
D3	感染と生体防御	東 みゆき	中川一路
D3	生体材料	宇尾基弘	
D3	病理	山口 朗	坂本 啓
D3	臨床体験実習1	新田 浩	
D4	歯科医療基礎	大谷啓一	川口陽子、倉林 亨
D4	研究体験実習	小野卓史	井関祥子、中川一路
D4	臨床体験実習2	木下淳博	秀島雅之
D4	咬合育成・発達	森山啓司	小野芳明
D4	う蝕と歯髄疾患	三浦宏之	大槻昌幸、池田英治、吉田恵一
D4	咬合回復 I	五十嵐順正	水口俊介
D5	咬合回復 II	水口俊介	岡田大蔵
D5	歯周病	和泉雄一	渡辺 久
D5	臨床情報処理	佐々木好幸	
D5	全身と歯科治療	深山治久	小長谷 光
D5	顎口腔医療	小村 健	原田浩之、山口 聡
D5-D6	包括臨床実習	荒木孝二	小田 茂、秀島雅之

目 次

まえがき

東京医科歯科大学歯学部歯学科教育の基本理念

教 育 目 標

歯学部長あいさつ

平成24年度歯学部歯学科専門科目授業計画表

平成24年度歯学部歯学科モジュールコーディネーター一覧

学生周知事項等

〔歯科医師国家試験について〕

〔学生周知事項〕

〔建物案内図〕

平成22年度以前専門科目履修開始者

東京医科歯科大学歯学部歯学科履修規則	3
東京医科歯科大学歯学部歯学科試験規則	12
歯学カリキュラム 単位取得及び進級判定基準	16
専門科目	
02. 総合課題演習	19
03. 歯科医療入門	23
04. 生命の分子の基盤と細胞の機能	32
05. 人体の構造と機能	38
06. 学年混合選択セミナー	58
07. 課題統合セミナー	74
08. 感染と生体防御	84
09. 生 体 材 料	92
10. 病 理	97
11. 臨床体験実習 1	106
12. 歯科医療基礎	111
13. 研究体験実習	128
14. 臨床体験実習 2	132
15. 咬合育成・発達	138
16. う蝕と歯髄疾患	144
17. 咬合回復 I	162
18. 咬合回復 II	169
19. 歯 周 病	174
20. 臨床情報処理	181
21. 全身と歯科治療	185
22. 顎口腔医療	196
23. 包括臨床実習	209

平成23年度以降専門科目履修開始者

東京医科歯科大学歯学部歯学科専門科目履修内規	217
歯学科教育課程	218
東京医科歯科大学歯学部歯学科試験内規	222
歯学カリキュラム（平成23年度以降入学者）単位取得及び進級判定基準	223
専門科目	
平成24年度D1歯学入門 授業カレンダー	225
01. 歯学入門	
01 歯学概説	227
02 歯学史	229
03 最新の歯学	230
04 早期臨床体験実習	231
05 医の倫理	232
06 基礎情報医歯学	233
02. 人体の構造と機能	234
03. 患者と医療者	256
04. 社会と環境	264
05. 生命の分子的基盤	269
連携教育（教養教育）	
平成24年度連携教育（歯学科2年－教養教育）授業カレンダー	275
生命科学（生物物理学）	276
教養英語	277
人文社会科学総合講義	278
生命科学（人体の生物学）	279
サイエンスPBL	280
情報科学演習	281

學生周知事項等

歯科医師国家試験について

歯科医師になろうとする者は、厚生労働大臣の行う歯科医師国家試験に合格し、歯科医師の免許を受けなければならない。

歯科医師国家試験は臨床上必要な歯科医学及び口腔衛生に関して歯科医師として具有すべき知識及び技能について毎年厚生労働大臣が行う。

[受験資格及び受験手続について]

(受 験 資 格)

歯科医師国家試験は、次の号のいずれかに該当する者でなければ、これを受けることができない。

- (1) 学校教育法に基づく大学において、歯学の正規の課程を修めて卒業した者
- (2) 歯科医師国家試験予備試験に合格した者で、合格した後1年以上の診療及び口腔衛生に関する実地修練を経たもの。
- (3) 外国の歯科医学校を卒業し、又は外国で歯科医師免許を得た者であって、厚生労働大臣が(1)又は(2)に掲げる者と同等以上の学力及び技能を有し、かつ、適当と認定したもの。

(提 出 書 類)

ア. 受 験 願 書

イ. 写 真

ウ. 受験手数料 (収入印紙)

受験しようとする者は、上記に掲げられた書類を提出すること。

学生周知事項

1. 掲示について

学生へ告知、通知、連絡はすべて掲示板により掲示する。掲示の見落としのないよう十分注意すると共に、1日に1度は掲示を見て不利益をこうむらないように心がけること。(3～5学年用は7号館1階、6学年用は歯科棟北5階)

2. 学生証について

- (1) 学生証は常に携帯すること。
- (2) 学生証を紛失又は破損等したときは、学務企画課(1号館西1階)に届け出て再交付の手続きをすること。
再交付費用(2,200円)は学生本人の負担とする。
- (3) 学生証は卒業、退学または除籍のときは直ちに学務企画課へ返納すること。
返却出来ない場合は、費用を負担することとする。

3. 学生旅客運賃割引証

- (1) 課外活動又は帰省等でJR線を利用し、乗車区間が片道100kmを超える場合旅客運賃の割引(2割)を受けることができる。
- (2) 学割証の不正使用(第三者への貸与等)は絶対にしないこと。
- (3) 年間使用限度枚数は1人10枚(1回につき2枚まで)
- (4) 私鉄、バス等の利用において通学証明書を必要とする場合は、所定の用紙を貰い持参すること。
- (5) 学生が必要なときは5号館3階談話室にある証明書自動発行機を使用すること。
(利用日時:月曜日～金曜日、8:30～21:00)
(問い合わせ先)学生支援課(内線5077)

4. 証明書等

証明書等は、教務課及び証明書自動発行機にて発行する。

- (1) 教務課(受付時間 8:30～17:15)
次に掲げるものは、教務課で発行する。
(交付は原則として交付願を受理した日から1週間程度要します。)
 - ①成績証明書
 - ②卒業見込証明書(第6学年在籍者のみ。)
 - ③調査書
 - ④英文の在学証明書
 - ⑤通学証明書(交通機関から請求された場合に限る。)
鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入してください。
- (2) 在学証明書は自動発行機で発行する。
- (3) 通学証明書(交通機関から請求された場合に限る)
バス及び鉄道の通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅又は大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入すること。
問い合わせ先:学務企画課企画調査掛(内線5074)

5. 住所・氏名等の変更について

- (1) 本人又は保証人の住所、氏名、電話、本籍等（電話番号を含む。）に変更が生じたときは、速やかに教務掛へ申し出て所定の手続きをすること。

6. 休学、復学、退学、欠席

(1) 授業の欠席

病気その他の事由により欠席した場合は、欠席届を教務課へ提出すること。

(病気の場合は、必ず医師の診断書を添付すること。)

(2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を得ること。(病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。)

また、休学を許可される期間は、通算して2年以内。

(特別の事情があるときは、更に1年以内の休学が許可されることがある。)

(3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を得ること。(病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付すること。)

(4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けること。

なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談すること。

7. ネームプレート着用について

歯学部学生であることを明示するために、学内では必ず着用すること。

プレートは貸与とし、紛失又は破損した場合は再交付を受けるものとする。この場合は実費負担すること。

8. ロッカーの貸与

各人にロッカーを貸与する。

ロッカーでの盗難が多発しているため、貴重品等の管理は厳重にすること。

また、各人の責による破損等については、各人の負担により現状回復すること。

9. 授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「医学生教育研究賠償責任保険」（医学賠）の対象となります。(詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。)

10. 遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

- (1) 講義室、実習室、ロッカー室・・・学務部教務課（1号館西1階：内線5411）、歯学部防災センター（歯科棟北1階）
- (2) 上記（1）以外・・・歯学部総務課（歯科棟南2階：内線5406）

11. 授業料の払込について

金融機関の預金口座振替により、授業料を引き落とす。

前期分授業料は4月中に、後期分授業料は10月中に納付すること。

12. 湯島キャンパスにおける講義受講に際しての注意事項

- (1) 平日の午前8時30分から午後5時まで歯学部附属病院玄関から出入りすることを原則禁止
- (2) 歯学部建物内へは以下のように出入りすること
 - 1) 聖門 \leftrightarrow 7号館(旧校舎棟)、2号館
 - 2) 正門 \leftrightarrow 7号館(旧校舎棟)、1号館、2号館
 - 3) 御茶ノ水門あるいは丸の内線出口 \leftrightarrow 歯学部附属病院防災センター(歯学部時間外通用門)
- (3) 白衣又は実習着を着用していない学生は、歯学部附属病院の聖橋側エレベーターを使用すること。
- (4) 臨床実習履修中の学生以外がやむを得ない理由で歯学部附属病院内を移動するときは、私語を慎むこと。

13. その他

- (1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認してください。
なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようにお願いします。
- (2) 事務の窓口
教務事務・・・・・・・・学務部教務課歯学系教務掛(1号館西1階・内線5411)
授業料の納入・・・・・・・・財務部資金課収入管理掛(1号館西3階・内線5048)
奨学金・授業料免除・・学務部学生支援課学生支援総括掛(1号館西1階・内線5077)

7号館（旧歯学部校舎棟）の管理、使用について

1. 7号館（旧校舎棟）の出入口の施錠について

7号館（旧校舎棟）出入口（1階聖門側1ヵ所、歯科棟北側6ヵ所、1号館東側2ヵ所）

歯科棟接続口（東側6ヵ所）

1号館東（2F、3F 2ヵ所）

解錠 7:30

施錠 19:00

※聖門側は7:00～18:00

消防法の規定により、歯科棟北側は避難口のため施錠しても建物内から外へはいつでも出られる。

ただし、1号館東接続部（2F、3F）は施錠すると出入りできない。

2. 7号館（旧校舎棟）内各室の施錠について

講義室は7:30に解錠し、17:00に施錠する。（ただし、第1講義室のみ学生の自習室として使用するため、19:00施錠とする。）

学生更衣・控室は施錠しない。

3. 7号館（旧校舎棟）における講義室の目的外使用について

講義室は実習室兼用のため、原則として目的外使用は許可しない。

4. 学生の更衣・控室について

更衣・控室は、更衣の外、休憩室として利用する。

更衣・控室でサークルの集会をしたり、ゲーム等はしないこと。

5. その他

- * 講義室の机の上に腰をかけないこと。
- * 黒板に学生間の連絡事項を書いたときは、あとで学生自身が消すこと。
- * 7階以上は実験施設なので感染予防等のため関係者以外の出入りを禁止する。
- * 附属病院内の通行に際しては、特に患者さんに配慮すること。
- * 附属病院内の患者待合場所での休憩は差し控えること。
- * 講義室、実習室、更衣・控室等においては弁当、紙クズ等は散らさないように必ずゴミ箱にすてること。
- * 参考書、ノート等の私物は講義室の中に放置しないこと。
- * 室内は掲示物の貼付を禁ずる。
- * 講義室、実習室等においては、下駄ばきは厳禁する。
- * 白衣を着たまま大学外に出ることを禁ずる。

ロッカーの使用について

1. 各人にロッカーが貸与されるので、丁寧に使用すること。
第5学年までは、同一の更衣・控室（ロッカー室）を使用し、第6学年になってから移動する。
2. ロッカーの鍵は必ず閉め、盗難に注意すること。
3. ロッカーの上部に私物を置かないこと。
置いた場合は、教務掛で撤去します。
4. ロッカーの内外部にシール、ポスター等をはらないこと。
はった場合は、教務掛ではがします。

学生用掲示板使用について

1. 掲示物の内容について関知しないが、良識をもって掲示すること。
2. 掲示期間を過ぎることのないよう自主的に撤去すること。
(掲示板の設置場所……7号館1階・2階)

歯学部リフレッシュルームについて

7号館1F及び6Fには、学生の休息、自己学習等での使用を目的としたリフレッシュスペースが設けられている。
この施設では無線LANを利用して、学内LANへの接続も可能である。
施設を利用する場合は、下記の注意事項を厳守すること。

1. 利用時間
平日 午前8時30分～午後7時30分
2. 利用する上での注意事項
 - (1) きれいに、清潔に利用すること。
 - (2) 一部の学生が独占的に利用する環境を作らないこと。
 - (3) 私物や貴重品は極力置かないこと（紛失は本人の責任となる）。
 - (4) 禁煙とする。
 - (5) 本学学生としてあるまじき行為を行った場合、大学の懲戒規定にかかるとともに、他の学生を含め、当施設の利用を全面的に禁止することが有り得ることを念頭に置き、使用すること。
 - (6) 他に使用している学生を考慮し、騒がないこと。
 - (7) ゴミの始末は各自で行うこと。

視聴覚研修スペースについて

7号館6F「視聴覚研修室・歯学部学生リフレッシュルーム」の半分は、自己学習等に使用できるよう、備付PCが10台設置されている。また、無線LAN付の個人PCにより学内LANへの接続も可能である。

施設を利用する場合、下記の注意事項を厳守すること。

1. 利用時間

平日 午前8時30分～午後7時30分

2. 利用する上での注意事項

- (1) きれいに、清潔に利用すること。
- (2) 一部の学生が独占的に利用する環境を作らないこと。
- (3) 私物や貴重品は極力置かないこと（紛失は本人の責任となる）。
- (4) 禁煙とする。
- (5) 備付の機器の使用にあたっては丁寧に行い、故障・不具合があった場合は、教務課に連絡すること。
- (6) 共同利用施設であることを認識し、他の利用者の迷惑になるような行為をしないこと。
- (7) 無線LAN等による学内LANへの接続方法については本学HP、図書館情報メディア機構内のマニュアルを参照すること。

http://www2.tmd.ac.jp/cmnl/lib/using_lan.pdf

<付記>

本スペースの他、図書館情報メディア機構内「情報検索室」にも同様に使用できるPCがある。

歯学部附属病院の機構

歯学部附属病院は、患者の診療を通じて歯学の教育と研究を行う場である。しかし、最近では社会の要請にも答える必要から、歯科医療における模範的診療機関としての使命も課せられている。

1. 診療科

歯科病棟	8階
インプラント外来 歯科麻酔外来	7階
口腔外科外来 顎顔面外科外来 顎義歯外来・言語治療外来	6階
むし歯外来 歯周病外来	5階
第一総合診療室 第二総合診療室 歯科心身外来 顎関節治療部	4階
クリーンルーム歯科外来 スポーツ歯科外来 歯科アレルギー外来 義歯外来	3階
矯正歯科外来 小児歯科外来 ペインクリニック 口腔ケア外来	2階
歯科総合診療部 スペシャルケア外来（高齢者） スペシャルケア外来（障害者） 息さわやか外来	1階
歯科放射線外来	地下1階

2. 病棟（8階）

入院患者のために、60床のベッドとそれに必要な処置室、記録室等附帯施設が完備され、基準看護のもとに、日夜に亘る診療体制が敷かれている。

3. 薬剤部（1階）

ここには数名の薬剤師が配置されており、薬剤に関する業務、すなわち、調剤、製剤をはじめ、薬品の管理と情報の収集、伝達のみならず、臨床実習を行う学生に対して処方箋の取扱いその他の教育も行われている。

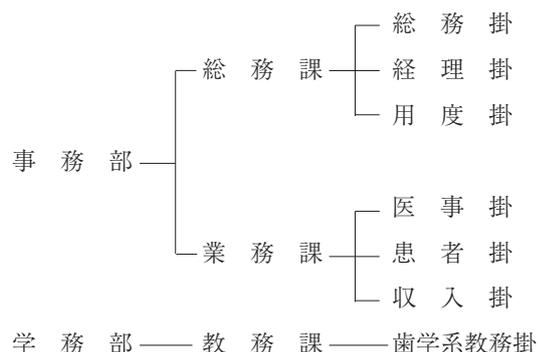
4. 医療技術部門

医療技術部門として次の2つが設けられている。

(1) 看護部	病院の看護業務を一本化するために看護部として独立させ、看護部長の統率のもとに80数名の看護婦が各診療科や病棟等に配置されている。
(2) 歯科衛生保健部	歯科診療における歯科健康教育・歯科予防処置および歯科診療補助を行うために部として位置づけ、32名の歯科衛生士が口腔ケア外来など関係診療部門に配置されている。

5. 事務部門

事務部門は次のような組織になっている。



歯学部の実務業務は総務課と業務課の両者の協力によって遂行される。また学生は学務部教務課歯学系教務掛を通じて病院内で勉学できるようになっている。また、患者は全て業務課を経て受診するように決められている。なお、患者の歯科技工に用いる歯科材料は医事掛材料室から給付される。

6. 病院の管理運営

病院長が病院の管理運営を統括し、病院は病院長、各科長、各部長等によって構成される病院運営会議によって運営される。また、学生の臨床教育については、各臨床系教授で構成される臨床教育会議および歯学科教育委員会において討議される。

7. 第1、第2総合診療室（4階）

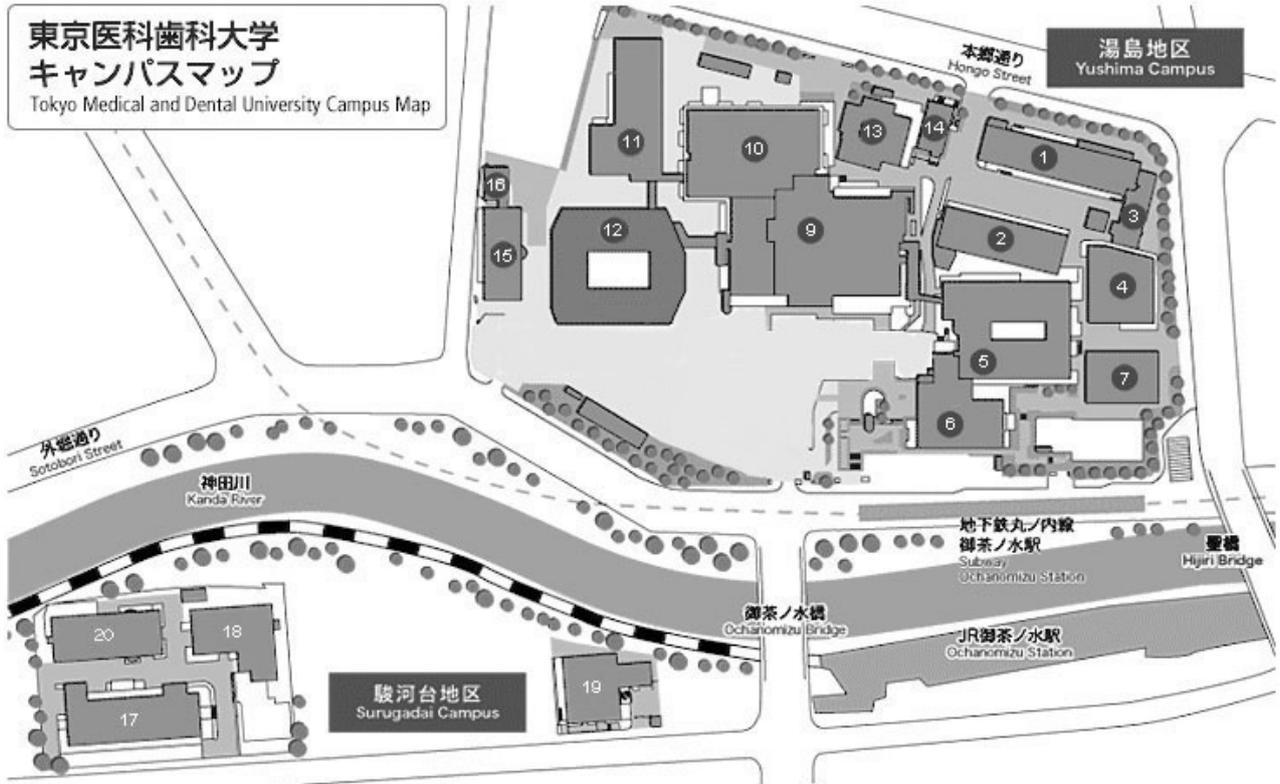
第1総合診療室は学生臨床実習の場として、成人における一口腔単位の総合歯科診療が行われている。学生には歯科診療用ユニットと技工機（総合技工室、5階）が配当される。なお、第2総合診療室では、臨床研修医の総合研修が行われている。

8. クリーンルーム歯科外来（3階）

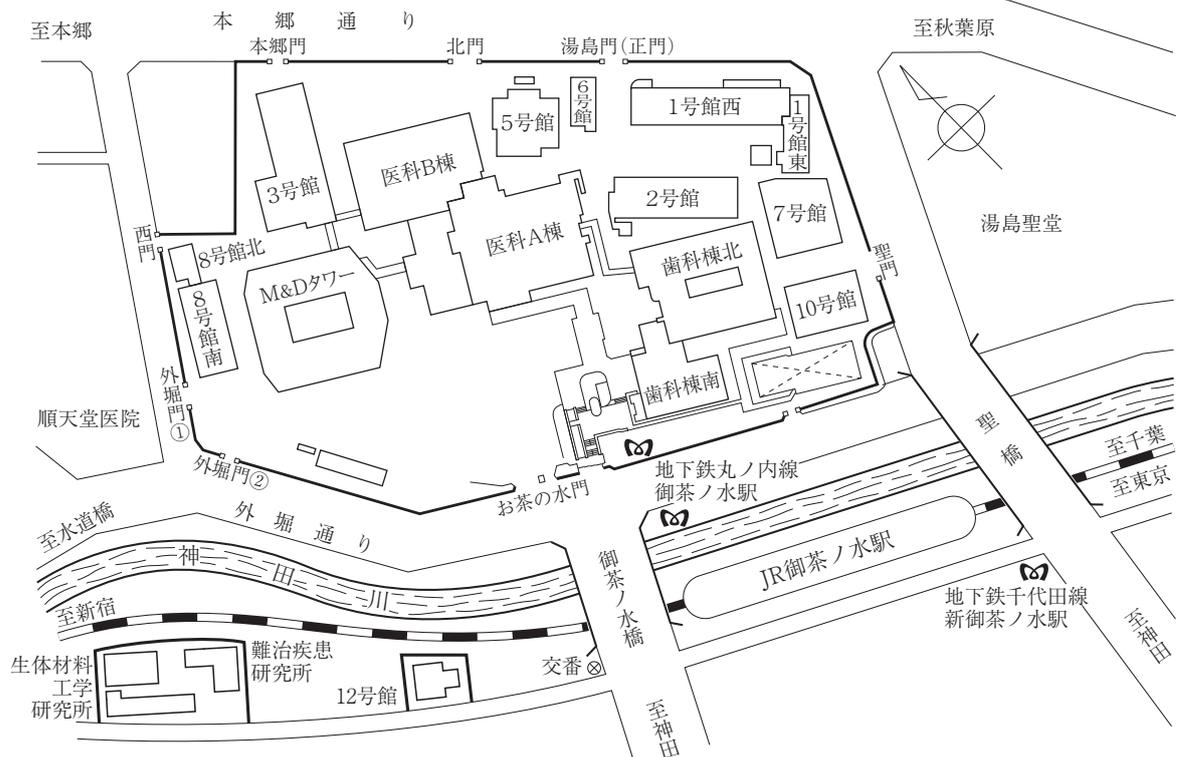
血液・唾液・その他を媒体として院内感染を引き起こす可能性のある病原微生物（肝炎ウイルス、H I V、MR S Aなど）を有して、本院を訪れる患者の数は極めて多い。そこで院内感染のリスクを分散しないために、これらの患者のうち、内科主治医等により疾患の管理がなされており、外来診療に耐え得る患者の一般歯科診療を行う施設としてクリーンルーム歯科外来が設けられている。

湯島キャンパス案内

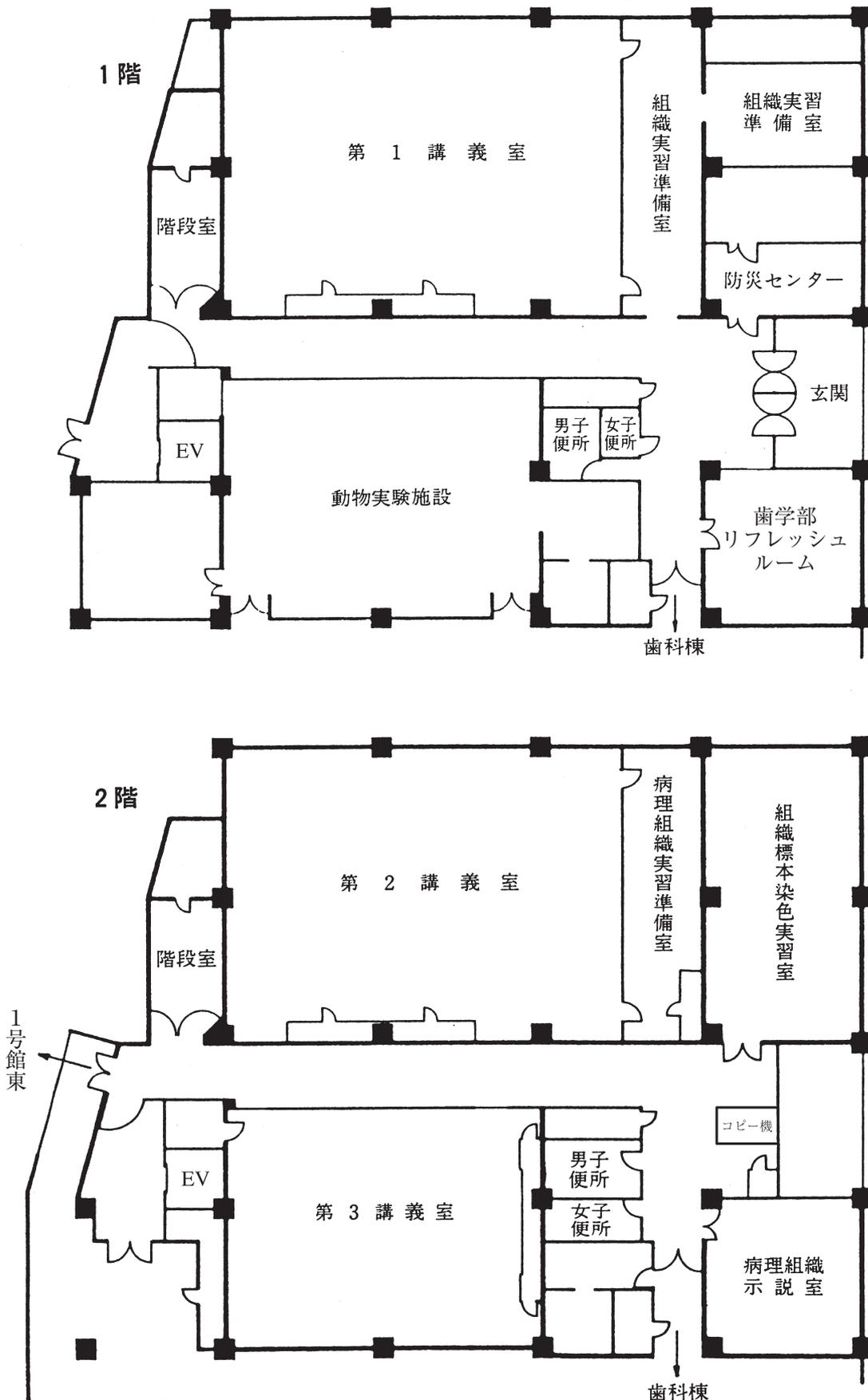
東京医科歯科大学
キャンパスマップ
Tokyo Medical and Dental University Campus Map

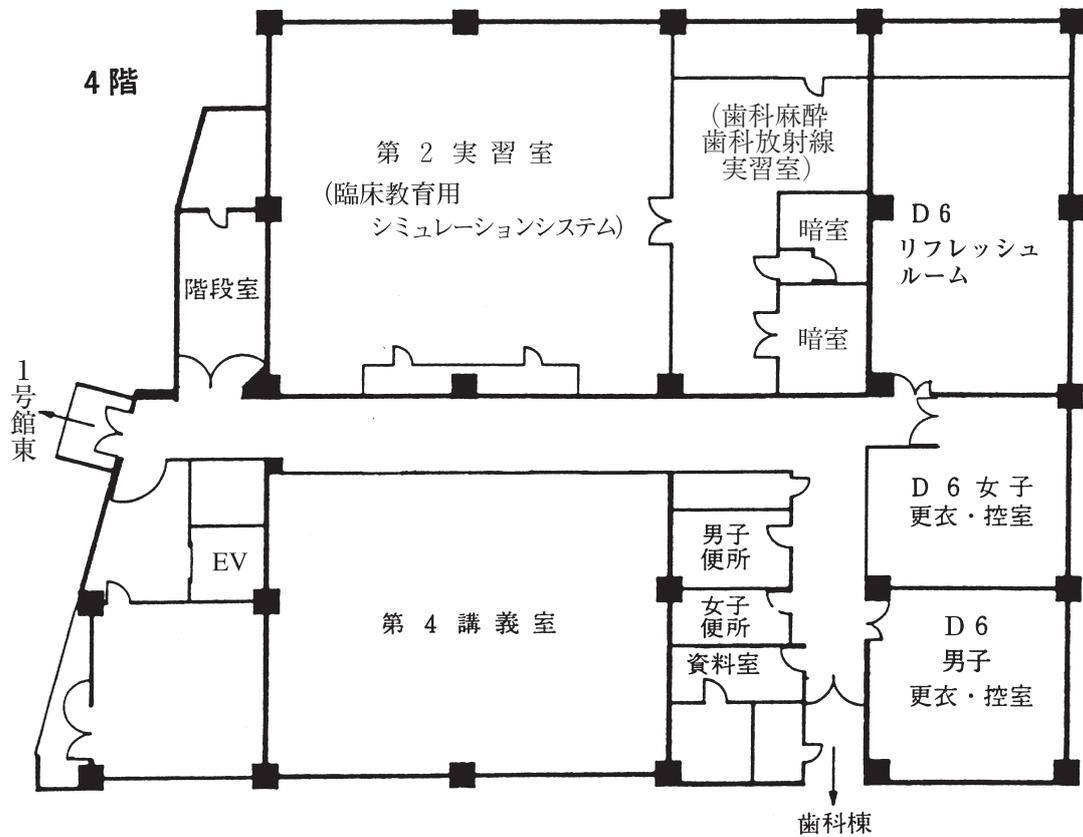
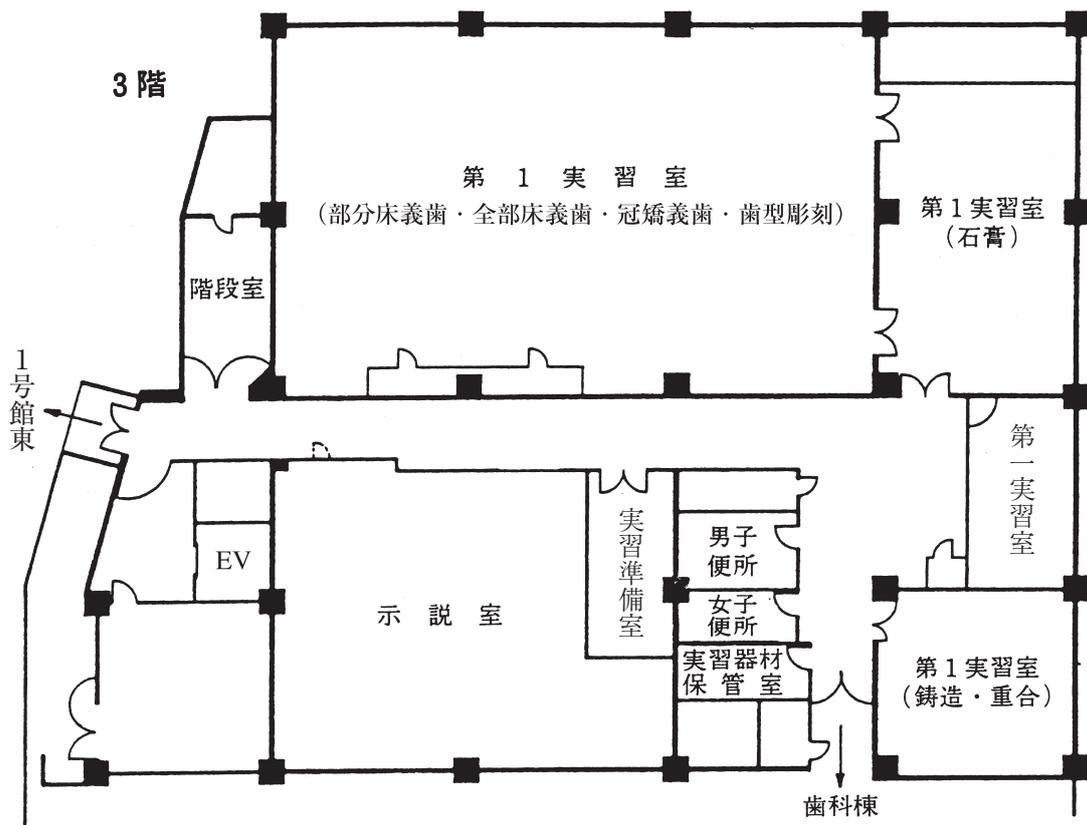


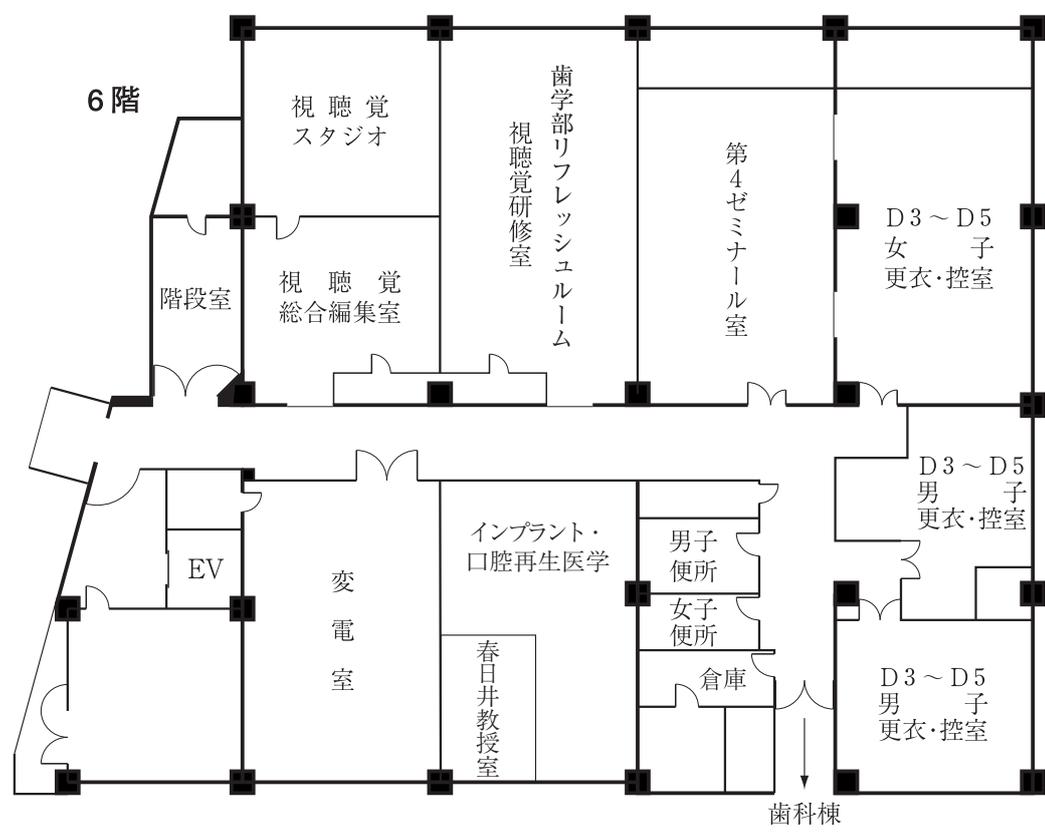
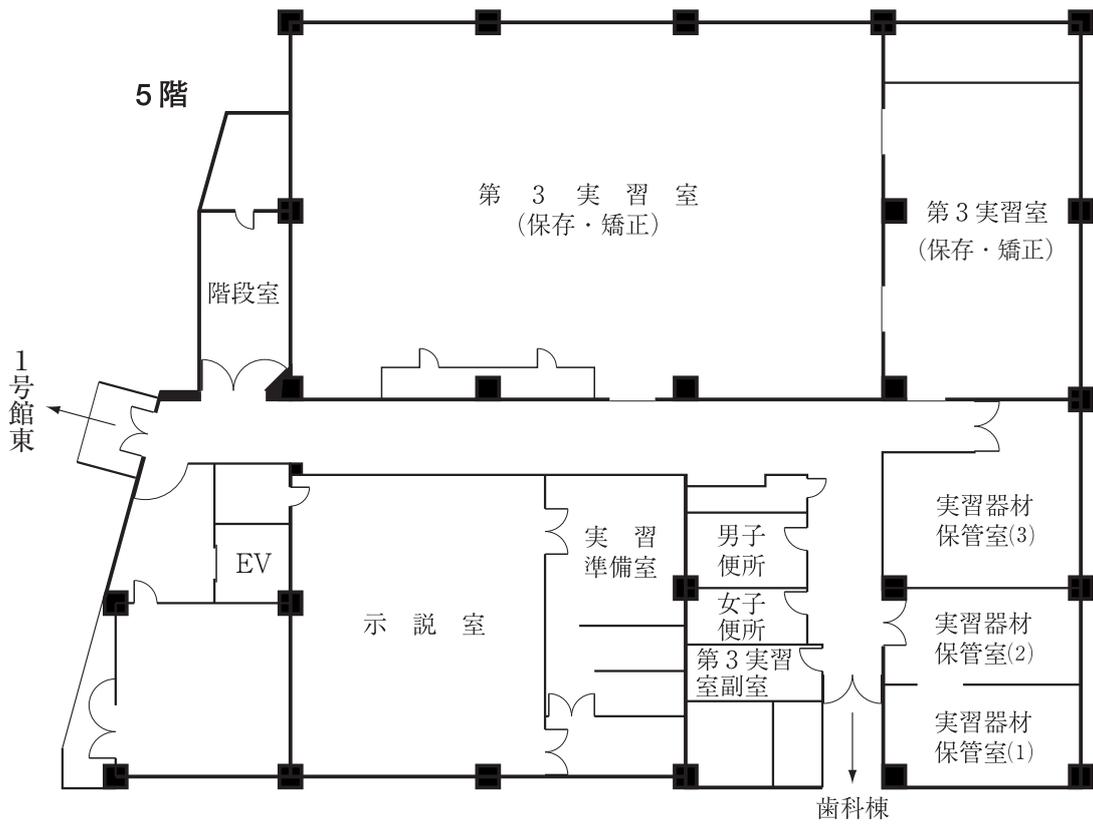
- | | | |
|--------------|------------|------------------------|
| 1. 1号館西 | 9. 医科A棟 | 16. 8号館北 |
| 2. 2号館 | 10. 医科B棟 | 17. 生体材料工学研究所 |
| 3. 1号館東 | 11. 3号館 | 18. 難治疾患研究所駿河台棟 |
| 4. 7号館・実験施設棟 | 12. M&Dタワー | 19. 12号館 |
| 5. 歯科棟北 | 13. 5号館 | 20. 看護師宿舎
(レジデンス茗芳) |
| 6. 歯科棟南 | 14. 6号館 | |
| 7. 10号館 | 15. 8号館南 | |



7号館（歯学部校舎棟）平面図







1号館西5, 6, 7, 8階 見取図

8階

実習室 メディア	坂本講師	品田教授	講座別 研究室3	講座別 研究室4	小野寺講師 近藤講師	吉増教授	学科事務室	非常勤 講師室	遠藤准教授	白田教授	寺岡教授	EV
保管室2 資料	臨床系研究室	口腔保健学科 第4講義室	学科セミナー室3	口腔保健学科 臨床基礎実習室	口腔保健学科 相互実習室							EV
トイレ (W)	トイレ (M)											

7階

学生ロッ カー室1	口腔保健学科 リフレッシュルーム	学生ロッ カー室2	学生ロッ カー室3	講座別 研究室1	ナ1室1	ナ1室2	講座別 研究室2	基礎系 研究室1	基礎系 研究室2	EV	
保管室1 資料	口腔保健学科 第1講義室	口腔保健学科 第2講義室	口腔保健学科 第3講義室	福祉介 護実習室	口腔保健学科 基礎科学実習室						EV
トイレ (W)	トイレ (M)										

6階

演習室11	演習室10	演習室9	演習室8	演習室7	演習室6	演習室5	先端材料評価学分野 研究室	歯学部基礎 小実習室	EV	
準備室	歯学部 演習室3・4	歯学部 演習室1・2	宇尾教授	先端材料評価学分野 研究室	実習準備室	歯学部 基礎実習室				EV
トイレ (W)	トイレ (M)									

5階

準備室 ラボII	執務室	MDセンター コンテナー	長室	MDセンター	情報図書室	MDセンター	MDセンター 客員教授室	MDセンター 客員教授室	MDセンター 外国人	写真室	女性研究者 支援室	EV
EV	スキルス ラボラトリーII	MDセンター 会議室	MDセンター 准教授室	荒木教授	生命倫理研究センター							EV
トイレ (W)	トイレ (M)											

1号館西・東研究室等の配置

階	実習室	分野	教授室等	その他
9				歯科同窓会事務室 (1号館西)
8	(1号館西) 口腔保健学科 講義室・実習室	(1号館西) 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	(1号館西) 遠藤 藤 品吉 田 白寺 岡	
7	(1号館西) 口腔保健学科 講義室・実習室	(1号館西) 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻		会議室 (1号館東) 第1、2ゼミナール室 (1号館東)
6	(1号館西) 歯学部演習室 基礎実習室	先端材料評価学 (1号館西) インプラント・口腔再生医学 (7号館)	宇尾 (1号館西) 春日井 (7号館6F)	第3ゼミナール室 (1号館東)
5	(1号館西) 医歯学教育システム研究センター スキルスラボラトリーⅡ	インプラント・口腔再生医学 (1号館西・東)	荒木 (1号館西)	
4		口腔病理学 (1号館東)	山口 (1号館東)	国際交流センター (1号館西)
3		全部床義歯補綴学 (1号館東)	水口 (1号館東)	資金課収入管理掛 (1号館西)
2		全部床義歯補綴学 (1号館東)		
1				教務課 学生支援課 学務企画課 (1号館西)

歯科棟北の配置

階	分野	教授室等	外来等	医 局	そ の 他
12	咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	小野 森山			
11	部分床義歯補綴学 摂食機能保存学 小児歯科学	五十嵐 三浦(宏)			
10	う蝕制御学 歯髄生物学 健康推進歯学	田上 須田 川口			歯科衛生保健部
9	顎口腔外科学 口腔放射線医学 顎関節咬合学	小村 林野 倉木		顎関節咬合学	
8			病棟		医員当直室(男)
7			歯科麻酔外来 インプラント外来 手術室	麻酔・生体管理学	医員当直室(女) 滅菌材料室
6	口腔病態診断科学		口腔外科外来 顎顔面外科外来 顎義歯外来 言語治療外来 検査部	顎顔面外科学 顎口腔外科学	
5			むし歯外来 歯周病外来	う蝕制御学 歯髄生物学 歯周病学	総合技工室
<歯科棟南>					
4			第1総合診療室 第2総合診療室 顎関節治療部 歯科心身外来		ヘッドライター室 器材準備室 歯学部特別講堂 演習室 歯科臨床研修センター 材料室 和同会売店
3			義歯外来 スポーツ歯科外来 歯科アレルギー外来 クリーンルーム歯科外来 技工部	部分床義歯補綴学 全部床義歯補綴学 摂食機能保存学 高齢者歯科学	大会議室 小会議室 看護部 研修医技工室
2			小児歯科外来 矯正歯科外来 ペインクリニック 口腔ケア外来	小児歯科学 咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	歯学部総務課 歯学部国際交流室
1			歯科総合診療部 スペシャルケア外来 息さわやか外来 薬剤部	歯科総合診療部	電算室 防災センター 器材薬剤センター 研修医控室
B1			歯科放射線外来		低温室 ボイラー室 談話室
B2 食堂					

M & Dタワーの配置

		分野	教授室等			分野	教授室等
(北側)	8階	硬組織構造生物学	高野	(南側)	8階	細菌感染制御学	中川
	8階	分子情報伝達学	高柳		7階	硬組織薬理学	大谷
	7階	硬組織病態生化学	柳下		7階	認知神経生物学	泰羅
	7階	歯学教育開発学	森尾		6階	医療経済学	川渕
	7階	口腔放射線腫瘍学	三浦(雅)		6階	顎顔面解剖学	柴田
	7階	硬組織再生学	篠村		6階	分子免疫学	東
	6階	分子発生学	井関				
	6階	ナノメディスン(DNP)					
	6階	分子細胞機能学	森田				

10号館（総合教育研究棟）の配置

	分野	教授室等	その他
7階	歯周病学	和泉	
6階	顎顔面外科学	原田	
5階	高齢者歯科学 疼痛制御学	嶋田	
4階	疼痛制御学 麻酔・生体管理学 スポーツ医歯学	深山	
3階	スポーツ医歯学 障害者歯科学 歯科医療行動科学	上野 篠塚 俣木	
2階	顎顔面補綴学 歯科心身医学 総合診療歯科学	谷口 豊福	

履 修 規 則

試 験 規 則

単位取得及び進級判定基準

(平成22年度以前歯学部歯学科入学者)

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則 (平成22年度入学者)

平成22年3月30日
規則第41号

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学医学部・歯学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則(平成16年規程第4号。以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目)

第2条 授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目(以下「全学共通科目」という。)と専門に関する教育科目(以下「専門科目」という。)とする。

(全学共通科目の履修)

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則(平成16年規則第217号)の定めるところによる。

(専門科目の履修)

第4条 専門科目の履修については、各教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

(専門科目の履修要件)

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。ただし、医学部医学科、医学部保健衛生学科看護学専攻は、この限りでない。

(授業)

第6条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修又は選択必修とする。

(1単位当たりの授業時間)

第7条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 医学科

ア 講義及び演習	15～30時間
イ 実習	30～45時間

(2) 保健衛生学科

ア 講義	15時間
イ 演習	30時間
ウ 実習	45時間
エ 臨地実習	
看護学専攻	45時間
検査技術学専攻	30時間

(3) 歯学科

ア 講義及び演習	15～30時間
イ 実習	30～45時間

(4) 口腔保健学科

ア 講義及び演習	15～30時間
イ 実習	30～45時間

(編入学者、転入学者の単位認定)

第8条 学則第12条から第18条までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部において行うものとする。

3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第9条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第10条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第11条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を取得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を取得することができない。

5 試験は、次のとおりとする。

(1) 医学部

定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験

(2) 歯学部歯学科

ユニット試験、共用試験、追試験及び再試験

(3) 歯学部口腔保健学科

期末試験、中間試験、追試験及び再試験

6 学習の評価は、別表2のとおりとする。

7 単位の認定は、学部教授会の議を経て学部長がこれを行う。

8 試験の方法に関しては別に定める。

(進級要件)

第12条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあつては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずることがある。

(卒業認定)

第13条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第14条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

2 東京医科歯科大学医学部履修規則(平成16年規則第201号)は、廃止する。

3 東京医科歯科大学歯学部履修規則(平成16年規則第213号)は、廃止する。

4 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者(以下「在学者」という。)及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。

5 平成22年3月31日において現に歯学部在学する者(以下「在学者」という。)及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

(4) 歯学科教育課程

授業科目	単位数	3年		4年		5年		6年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人体の構造と機能	12	○	○						
生命の分子的基盤と細胞の機能	3	○							
病理	3		○						
感染と生体防御	2		○						
生体材料	2		○						
歯科医療入門	2	○							
歯科医療基礎	6			○					
咬合育成・発達	3				○				
う蝕と歯髄疾患	8				○	○			
歯周病	3					○			
咬合回復	9				○	○			
顎口腔医療	5					○	○		
全身と歯科治療	5					○	○		
臨床体験実習	4	○	○		○				
学年混合選択セミナー	1	○		○		○			
課題統合セミナー	4		○		○	○			
総合課題演習	1	○	○						
研究体験実習	7			○					
臨床情報処理	1						○		
包括臨床実習	44						○	○	○
計	125								

別表 2

(1) 医学部

成績区分	評価区分	単位認定
100～90点	秀	合格
89～80点	優	
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

(2) 歯学部

成績区分	評価区分	単位認定
100～90点	秀	合格
89～80点	優	
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

(3) 歯学科

<p>(1) 次の授業科目について、第3学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第4学年次の授業科目を履修することができない 人体の構造と機能、生命の分子的基盤と細胞の機能、病理、感染と生体防御、生体材料、歯科医療入門、総合課題演習 (3学年次に開講されるモジュール内のユニットを対象とする) 臨床体験実習、学年混合選択セミナー、課題統合セミナー</p>
<p>(2) 次の授業科目について、第4学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第5学年次の授業科目を履修することができない 歯科医療基礎、咬合育成・発達、研究体験実習 (4学年次に開講されるモジュール内のユニットを対象とする) う蝕と歯髄疾患、咬合回復 臨床体験実習、学年混合選択セミナー、課題統合セミナー</p>
<p>(3) 次の授業科目について、第5学年次前期末までに単位の取得し、かつ、共用試験に合格しなければ、第5学年次後期以降の授業科目を履修することができない 歯周病 (5学年次前期に開講されるモジュール内のユニットを対象とする) う蝕と歯髄疾患、咬合回復、顎口腔医療、全身と歯科治療 学年混合選択セミナー、課題統合セミナー 共用試験 (C B T, O S C E)</p>
<p>(4) 次の授業科目について、第5学年次後期末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第6学年次の授業科目を履修することができない 臨床情報処理 (5学年次後期に開講されるモジュール内のユニットを対象とする) 顎口腔医療、全身と歯科治療、包括臨床実習</p>
<p>(5) 次の授業科目について、第6学年次末までに単位を取得しなければ卒業することができない(6学年次に開講されるモジュール内のユニットを対象とする) 包括臨床実習</p>

東京医科歯科大学歯学部歯学科履修規則（平成21年以前入学者）

（趣旨）

第1条 東京医科歯科大学歯学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目）

第2条 本学部の授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

（全学共通科目の履修）

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学教養部履修規則（平成16年規則第217号）に定めるところによるものとする。

（専門科目の履修）

第4条 専門科目における教育課程は、別表1に定めるとおりとする。

（専門科目の履修要件）

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。

（授業）

第6条 専門科目の授業は、講義、演習及び実習とし、必修又は選択とする。

（1単位当たりの授業時間）

第7条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については 15～30時間
- (2) 実習については、30～45時間

（編入学者及び転入学者の単位認定等）

第8条 学則第12条、第13条、第17条及び第18条の規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

- 2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については本学部において行うものとする。
- 3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第9条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の本学部における既修得単位は、全学共通科目及び本学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第10条 学則第12条、第13条及び第17条から第19条までの規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第11条 履修した授業科目については試験を行う。

2 試験の方法に関しては別に定める。

3 試験を行うことが困難な授業科目については、試験によらず学習の成果をもって、又は指定した課題の報告をもって試験に替えることがある。

4 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を取得することができない。

5 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければならない単位を取得することができない。

6 学習の評価に関しては別に定める。

(進級要件)

第12条 学生は、別表2「進級に関する事項」欄に示す要件を満たさなければ、次の学期又は学年の授業科目を履修することができない。

(卒業認定)

第13条 学生の卒業認定は、学則第39条の規定により行うものとする。

(補則)

第14条 この規則に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は教授会の議を経て別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

別表 1

(1) 歯学科専門科目学科課程表

授業科目	3 年		4 年		5 年		6 年		単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人体の構造と機能	○	○							12
生命の分子の基盤と細胞の機能	○								3
病理		○							3
感染と生体防御		○							2
生体材料		○							2
歯科医療入門	○								2
歯科医療基礎			○						6
咬合育成・発達				○					3
う蝕と歯髄疾患				○	○				8
歯周病					○				3
咬合回復				○	○				9
顎口腔医療					○	○			5
全身と歯科治療					○	○			5
臨床体験実習	○	○		○					4
学年混合選択セミナー	○		○		○				1
課題統合セミナー		○		○	○				4
総合課題演習	○	○							1
研究体験実習			○						7
臨床情報処理						○			1
包括臨床実習						○	○	○	44
								計	125

別表2

(1) 歯学科

進級に関する事項	授 業 科 目
<p>右の授業科目について、第3学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第4学年次の授業科目を履修することができない</p>	<p>人体の構造と機能、生命の分子の基盤と細胞の機能、病理、感染と生体防御、生体材料、歯科医療入門、総合課題演習</p> <p>(3学年次に開講されるモジュール内のユニットを対象とする)</p> <p>臨床体験実習、学年混合選択セミナー、課題統合セミナー</p>
<p>右の授業科目について、第4学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第5学年次の授業科目を履修することができない</p>	<p>歯科医療基礎、咬合育成・発達、研究体験実習</p> <p>(4学年次に開講されるモジュール内のユニットを対象とする)</p> <p>う蝕と歯髄疾患、咬合回復</p> <p>臨床体験実習、学年混合選択セミナー、課題統合セミナー</p>
<p>右の授業科目について、第5学年次前期末までに単位を取得し、かつ、共用試験に合格しなければ、第5学年次後期以降の授業科目を履修することができない</p>	<p>歯周病</p> <p>(5学年次前期に開講されるモジュール内のユニットを対象とする)</p> <p>う蝕と歯髄疾患、咬合回復</p> <p>顎口腔医療、全身と歯科治療</p> <p>学年混合選択セミナー、課題統合セミナー</p> <p>共用試験 (C B T, O S C E)</p>
<p>右の授業科目について、第5学年次後期末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第6学年次の授業科目を履修することができない</p>	<p>臨床情報処理</p> <p>(5学年次後期に開講されるモジュール内のユニットを対象とする)</p> <p>顎口腔医療、全身と歯科治療</p> <p>包括臨床実習</p>
<p>右の授業科目について、第6学年次末までに単位を取得しなければ卒業することができない</p>	<p>(6学年次に開講されるモジュール内のユニットを対象とする)</p> <p>包括臨床実習</p>

東京医科歯科大学歯学部試験規則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学歯学部履修規則第11条第2項及び第6項に基づき、歯学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

第2章 歯学部歯学科（平成22年以前入学者）

(試験の種類)

第2条 試験は、ユニット試験、共用試験、臨床能力判定試験とする。

(ユニット試験)

第3条 ユニット試験とは、学則第6条第3項別表（2）専門科目中の歯学部歯学科の表において定める授業科目（以下「モジュール」という。）におけるユニット終了時に行う試験をいう。

2 ユニット試験の実施日時は、原則として各ユニットの最終日に行う。

3 ユニット試験の受験資格は、講義は3分の2以上、実習は4分の3以上の出席を原則として、各ユニットで定める。

4 ユニット試験に係る追試験（疾病、負傷その他止むを得ない理由により受験できなかった者に対して、行う試験をいう。）、及び再試験（ユニット試験又は追試験を受験し不合格となった者に対して、改めて行う試験をいう。）は、学年末の再試験期間等において実施する。

なお、無断でユニット試験を欠席した場合、再試験または追試験を受験できないことがある。

5 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に必要事項を記入し、理由書又は医師の診断書等の証明書類を添えて、当該試験終了後5日以内に歯学科長に提出しなければならない。

6 歯学科長は、追試験の受験申請のあった者について担当教員と協議の上、その可否を決定し申請者に通知する。なお、追試験の施行期日は、予め公示する。

7 ユニット試験、追試験及び再試験の結果は、合否をもって公示する。

(共用試験)

第4条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいう。

2 共用試験は第5学年前期終了後に実施する。なお、試験日時は試験実施日の3週間前までに公示する。

3 共用試験を受験できる者は、第5学年前期に開講されるモジュール内のユニットの単位を全て修得している者とする。

4 共用試験の合格基準は別に定める。

(臨床能力判定試験)

第5条 臨床能力判定試験とは、第6学年末に行う包括臨床実習終了時OSCE及び臨床推論能力試験(症例発表会)をいう。

2 臨床能力判定試験については、別に定める。

(成績の報告)

第6条 モジュール担当教員は、ユニットごとの成績に基づき、平常授業態度等を加味し、所定の採点表に評点結果を記入して所定の期日までに歯学科長に報告しなければならない。

2 成績の評点は、100点満点とする。

3 成績の評価は、モジュールごとに、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とし、不可は不合格とする。

4 再試験の評点は、60点を限度とする。

第3章 歯学部口腔保健学科

(試験の種類)

第7条 試験は、期末試験、中間試験、追試験及び再試験とする。

2 期末試験は、履修を修了した授業科目及び授業科目を構成するユニット(以下「ユニット」という。)について定期的に行う試験をいう。

3 中間試験は、履修中の授業科目及びユニットについて適宜行う試験をいう。

4 追試験は、疾病、負傷その他止むを得ない理由により期末試験又は中間試験を受験できなかった者に対して、その授業科目及びユニットについて行う試験をいう。

5 再試験は、期末試験、中間試験、又は追試験を受験し不合格となった者に対して、その授業科目及びユニットについて改めて行う試験をいう。

(試験の実施時期)

第8条 期末試験及び中間試験の実施時期は別に定める。

2 追試験は、期末試験及び中間試験終了後1ヶ月以内に行う。

(試験の方法)

第9条 講義の試験は、筆記試験又は口頭試問により行う。

2 演習に関して試験を行う場合は、筆記試験又は口頭試問により行う。

3 実習に関して試験を行う場合は、筆記試験、口頭試問又は実技試験により行う。

(試験実施の公示)

第10条 期末試験及び中間試験の日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

2 追試験の施行期日は、予め公示する。

(期末試験及び中間試験の受験資格)

第11条 期末試験及び中間試験は、講義及び演習については、当該講義又は演習時間数の3分の2以上出席して履修した者、実習については、当該実習時間数の4分の3以上出席して履修した者でなければ、受験することができない。

(受験の申請)

第12条 試験を受験しようとする者は、受験申請書を提出するものとする。ただし、期末試験及び中間試験は、受験申請書の提出を要しない。

- 2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に必要事項を記入し、理由書又は医師の診断書等の証明書類を添えて、当該試験終了後5日以内に口腔保健学科長に提出しなければならない。
- 3 前項に規定する期日までに追試験の受験申請のない場合は、追試験を受験することができない。
- 4 再試験は原則として行わない。ただし、期末試験、中間試験及び追試験を受験し、不合格となった者で平素の履修状況及び出席状況が良好な者に対して、願い出により行うことができる。
- 5 前項ただし書きの試験を願い出る者は、試験結果の発表があった日から起算して5日以内に再試験願いを口腔保健学科長に提出しなければならない。

(追再試験受験の可否)

第13条 口腔保健学科長は、追再試験の受験申請のあった者について、担当教員と協議の上、その可否を決定し、申請者に通知する。

(成績の評価並びに評点)

第14条 成績の評価は、試験の結果並びに実習成績等により行う。

- 2 成績の評点は、100点満点とする。
- 3 成績の評価は、授業科目又はユニットごとに、秀（90点以上）、優（80点以上90点未満）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）、不可（60点未満）とし、不可は、不合格とする。
- 4 期末試験及び中間試験を正当な理由がなく受験しなかった者又は受験申請書を提出して正当な理由なく追試験及び再試験を受験しなかった者は、そのときの当該授業科目又はユニットの試験結果を不合格とする。
- 5 追試験の評点は第2項を準用する。
- 6 再試験の評点は60点を限度とする。

(試験結果の公示)

第15条 期末試験、中間試験、追試験及び再試験の結果は、合否をもって公示する。

(実習・演習の修了認定)

第16条 実習及び演習については、所定の出席率を満たし、かつ次の各号の一に該当する者を当該授業科目又はユニットの実習又は演習を修了した者と認める。

- (1) 製作品、レポート等（以下「製作品等」という。）の提出を必要とする授業科目・ユニットの実習又は演習で提出した製作品等について担当教員が合格と判定した者

- (2) 担当教員が行う実習又は演習の試験に合格した者
- (3) その他担当教員が実習又は演習を修了したと判定した者

(卒業研究の修了認定)

第17条 卒業研究については、研究終了後に行う研究成果報告によって合格と判定された者を当該研究を修了した者と認める。

(実習・演習、卒業研究の修了認定の結果の公示)

第18条 実習・演習、卒業研究の修了認定の結果は、合否をもって公示する。

(成績の報告)

第19条 担当教員は、授業科目又はユニットごとに所定の採点表に評点結果を記入し所定の期日までに口腔保健学科長に報告しなければならない。

第4章 その他

(罰則)

第20条 試験に関し不正を行った者は、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条により懲戒する。

(その他)

第21条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は平成19年7月18日から施行する。

附 則

この規則は平成21年4月1日から施行する。

歯学カリキュラム 単位取得及び進級判定基準 (平成22年度以前入学者)

1. 総則

- 1) 連携教育を含めた教養部の進級判定は、教養部がこれを定める。
- 2) 進級判定は、3学年終了時、4学年終了時、5学年前期終了時および5年後期終了時に行う。下記に示す各終了時まで実施されるモジュール単位を全て修得した場合に進級を認める。進級が認められなかった場合は当該学年に留年とする。
 - ① 3学年終了時
人体の構造と機能、生命の分子的基盤と細胞、歯科医療入門、臨床体験実習¹⁾、感染と生体防御、病理、生体材料、総合課題演習、課題統合セミナー¹⁾、学年混合選択セミナー¹⁾
 - 1) 3学年次に実施されるモジュール内のユニットを対象とする
 - ② 4学年終了時
歯科医療基礎、研究体験実習、う蝕と歯髄疾患²⁾、咬合回復²⁾、咬合育成・発達、臨床体験実習²⁾、課題統合セミナー²⁾、学年混合選択セミナー²⁾
 - 2) 4学年次に実施されるモジュール内のユニットを対象とする
 - ③ 5学年前期終了時
う蝕と歯髄疾患³⁾、咬合回復³⁾、全身と歯科治療³⁾、顎口腔医療³⁾、歯周病、課題統合セミナー³⁾、学年混合選択セミナー³⁾
 - 3) 5学年前期に実施されるモジュール内のユニットを対象とする5学年前期で取得すべき上記の全てのモジュール単位を取得していること、及び5学年8～9月に実施する共用試験（CBT、OSCE）の成績が合格基準を満たしていることを進級の条件とする。
 - ④ 5年後期終了時
全身と歯科治療⁴⁾、顎口腔治療⁴⁾、臨床情報処理⁴⁾、包括臨床実習⁵⁾
 - 4) 5学年後期に実施されるモジュール内のユニットを対象とする
 - 5) 出席日数及び平常学習態度を対象とし、包括臨床実習リクワイアメント達成度については6学年の包括臨床実習に含むものとする。
- 3) 6学年に実施される包括臨床実習モジュールの単位判定、および6学年修了判定については別途定める。
- 4) 留年した場合は、修得できなかったモジュールの一部または全部のユニットを次年度に再履修しなければならない。
- 5) 共用試験が不合格で留年した場合は、次年度の共用試験（CBT、OSCE）に合格しなければならない。

2. モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

3. ユニット試験の受験資格

各ユニットの受験資格はユニットごとに判定する。

各ユニットの全授業時間数のうち、授業形態が「実習」では4分の3以上、「講義」、「演習」、および「講義+演習」では3分の2以上、出席していなければならない。また、「講義+実習」では講義部分の全授業時間数の3分の2以上の出席、かつ実習部分の全授業時間数の4分の3以上の出席をしていなければならない。

ただし、時間数の少ないユニットにおいては、別途定める。

なお、受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

4. 包括臨床実習の単位判定

包括臨床実習モジュールの単位判定は、以下の成績によるものとする。

- 1) 包括臨床実習リクワイアメント達成度
- 2) 臨床能力判定試験結果：包括臨床実習終了時OSCE
臨床推論能力（症例発表会）
- 3) 平常点（D6臨床実習ライター、専門（特殊）診療外来実習担当指導者、看護師等からの観察記録）
なお、包括臨床実習モジュールの単位が取得できずに留年した場合の再履修に関しては、同モジュールの履修状況を勘案し、別途定める。

5. 学年混合選択セミナーの単位判定

単位取得のためには、すべてのユニット（＝6ユニット）に合格しなければならない。

ユニットの合格基準は以下の1), 2)を満たすこととする。

- 1) 授業回数の2/3以上(5回中4回以上)に出席すること。
- 2) 与えられた課題に対してレポートを提出すること。

6. 課題統合セミナーの単位判定

単位取得のためには、すべてのユニット（＝7ユニット）に合格しなければならない。

ユニットの合格基準は以下の1), 2)を満たすこととする。

- 1) 授業回数の2/3以上に出席すること。
- 2) ユニットごとに定める試験（レポート提出を含む）に合格すること。

7. D2連携教育：「歯学最新情報」について

「歯学最新情報」の成績判定（合格基準）は、下記1)「選択コース」及び2)「最新の歯科研究・歯科臨床」のいずれも合格することとする。

1) 「選択コース」

単位取得のためには、すべてのユニット（＝2ユニット）に合格しなければならない。

ユニットの合格基準は以下のi), ii)を満たすこととする。

- i) 授業回数の2/3以上（5回中4回以上）に出席すること。
- ii) 与えられた課題に対してレポートを提出すること。

2) 「最新の歯科研究・歯科臨床」

合格基準は下記のi) およびii) を満たすこととする。

- i) 講義回数の2/3以上に出席すること。
- ii) 与えられた課題に対してレポートを提出すること。

3) 「歯学最新情報」の成績が不良で留年した場合は、不合格であったユニットを再履修する。

8. この規程は平成16年度入学者から施行するが、それ以前の入学者に対してはこの規程に合わせて単位取得を行い、従前の必要単位取得をしたものとする。

9. その他

以上に定めがない事項については、教育委員会で審議し、歯学部長及び歯学部歯学科教授会の承認を得るものとする。

授 業 科 目

(平成22年度以前歯学部歯学科入学者)

モジュール情報

モジュール名	総合課題演習
モジュール責任者	(正)森尾郁子 (副)川口陽子
モジュール番号	02
開設時期	3年 前期、後期
モジュールコマ数	69(6) (必要自習時間 33時間)

学習目標(GIO)

自ら問題を発見し、解決する自己学習方法を身につけ、学習内容をまとめ、発表、討論する能力を体得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	総合課題演習ユニット(A)	講義・実習
02	総合課題演習ユニット(B)	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定 基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	総合課題演習ユニット(A)		
ユニット責任者	鶴田 潤、森尾郁子		
ユニット番号	01		
開設時期	3年 前期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	42+3	(必要自習時間 21時間)	
授業形態	講義・実習		

学習目標(GIO):

自ら問題を発見し、解決する自己学習方法を身につけ、学習内容をまとめ、発表、討論する能力を体得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 情報を自ら収集、分析して問題点を探し出すことができる。
- 2) 問題点を論理的に整理し、解決方法を自ら見出すことができる。
- 3) 必要に応じて他の学習者や教員と協力して、最適な解決方法を見出すことができる。
- 4) 教科書、論文等を読んで、重要事項や問題点を抽出して文書または口頭でわかりやすく説明できる。
- 5) 授業講演等の内容について、その中心課題の内容と問題点を抽出して文書または口頭でわかりやすく表現し、自分の考えを説明できる。

授業計画

	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs	
	24	4	11	全体説明/図書館について /グループ討議について	3	森尾郁子/鶴田 潤	第2講義室/演習室 (1号館6階)	講義/実習	1, 2, 5
			13	コミュニケーションゲーム (遭難)	3	森尾郁子/鶴田 潤	演習室/第2講義室	SGD	1, 2, 3, 4, 5
			18	ワールドカフェ	3	森尾郁子/鶴田 潤	演習室/第2講義室	SGD	1, 2, 3, 4, 5
			20	シナリオ1/小テスト	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5
			27	シナリオ1/小テスト	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5
	5	11	シナリオ2/討議	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5	
			18	シナリオ2/報告	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5
			25	シナリオ3/討議	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5
			30	シナリオ3/報告	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5
	6	15	シナリオ4/討議	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 5	
			22	シナリオ4/報告・討議	3	チューター	演習室/第1講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5
			29	シナリオ4/報告	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5
	7	6	シナリオ5/討議	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5	
			13	シナリオ5/報告・討議	3	チューター	演習室/第2講義室	テュートリアル	1, 2, 3, 4, 5
			20	ユニット(A) 総括的評価	3	森尾郁子/鶴田 潤	第2講義室	筆記試験	1, 2, 3, 4, 5

評価方法:

- ・ セッション毎に、チューターによる概略評定を実施する。チューターにより、必要に応じて、学習資料の閲覧を行う。
- ・ ユニット期間中に小テストを実施する。平成24年7月20日にユニット(A)試験(総括的評価)を行う。
- ・ 上記評価結果を合わせ、総合的に評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット(A)試験(総括的評価)(平成24年7月20日)を受験するためには、ユニット(A)全授業時間数の3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・同時期に行われているモジュール授業内容を参考とすること。参考図書についても、その内容に準ずる。

備考:

- ・授業開始時、口頭による出席確認時に不在の者は欠席とする。
- ・欠席の際は、理由書を、教務掛へ提出すること。
- ・交通機関等の乱れによる遅刻の際は、証明書を提出すること。
- ・学習時本学教員へのインタビューが必要となることもあると思われるが、自学自習を基本とし、安易に質問しないこと。
- ・その他、質問を行うにあたってのマナーもわきまえること。
- ・グループセッション後の自習時間については、必要に応じて講義を実施する。
- ・必要に応じ、モジュールコーディネーター、担当チューターによる面談を行うことがある。

担当教員の Office Hour:

鶴田 潤 講師 金 16:00~17:00 turuedev@tmd.ac.jp
 森尾郁子 教授 金 16:00~17:00 imorio.edev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	総合課題演習ユニット(B)
ユニット責任者	森尾郁子、川口陽子
ユニット番号	02
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21+3 (必要自習時間 12時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

自ら問題を発見し、解決する自己学習方法を身につけ、学習内容をまとめ、英語で発表、討論する能力を体得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 英語による講義を聞き、内容を理解し、問題点を探し出すことができる。
- 2) 資料を読み、重要事項や問題点を抽出して、文書または口頭で、英語でわかりやすく説明できる。
- 3) 英語により世界の歯科医療・健康情報を把握し、国際的な視野を持つ。

授業計画

月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	26	3	森尾郁子/アスリ・ジャヤ ワルディナ/川口陽子	第2講義室	講義・プレテスト	1,2,3
	11	2	3	アスリ・ジャヤワルディナ/ 留学生チューター	第2講義室/演習室 (1号館6階)	講義・演習	1,2,3
		9	3	アスリ・ジャヤワルディナ/ 留学生チューター	第2講義室/演習室	講義・演習	1,2,3
		16	3	アスリ・ジャヤワルディナ/ 留学生チューター	第2講義室/演習室	講義・演習	1,2,3
		26	3	アスリ・ジャヤワルディナ/ 留学生チューター	第2講義室/演習室	講義・演習	1,2,3
		30	3	アスリ・ジャヤワルディナ/ 留学生チューター	第2講義室/演習室	講義・演習	1,2,3
12	7		3	アスリ・ジャヤワルディナ/ 留学生チューター	第2講義室/演習室	講義・演習	1,2,3
		14	3	森尾郁子/川口陽子	第2講義室	試験	1,2,3

02 総合課題演習

評価方法:

- ・ 出席状況、受講態度と最終日に行う試験により、総合的に評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・ ユニット(B)試験(総括的評価)(平成 24 年 12 月 14 日)を受験するためには、ユニット(B)全授業時間数の3分の2以上出席していなければならない。
- ・ 受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・ 特になし

備考:

- ・ 授業開始時、口頭による出席確認時に不在の者は欠席とする。
- ・ 欠席の際は、理由書を、教務掛へ提出すること。
- ・ 交通機関等の乱れによる遅刻の際は、証明書を提出すること。
- ・ その他、質問を行うにあたってのマナーもわきまえること。
- ・ 必要に応じ、モジュールコーディネーター、担当チューターによる面談を行うことがある。

担当教員の Office Hour:

森尾郁子 教授 金 16:00~17:00 imorio.edev@tmd.ac.jp
川口陽子 教授 火・水 16:00~18:00 yoko.ohp@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	歯科医療入門
モジュール責任者	俣木志朗
モジュール番号	03
開設時期	3年 前期
モジュールコマ数	64 (6) (必要自習時間 16 時間)

学習目標(GIO)

将来、歯科医療、歯科医学にたずさわり社会に貢献するために、歯科医療に関わる基本的な知識、技能、態度を養う。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	医の倫理	講義・演習
02	インフォームドコンセント	講義
03	医療面接	講義・実習
04	チーム医療	講義
05	医療安全と危機管理の基礎	講義・実習
06	環境・社会1	講義・実習
07	環境・社会2	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	医の倫理
ユニット責任者	俣木志朗
ユニット番号	01
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1 (必要自習時間 1 時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

将来、適切な歯科医療あるいは歯学研究を实践、遂行するために、医療・歯科医療および医学・歯学研究における倫理の重要性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
- 2) ヒポクラテスの誓いを説明できる。
- 3) ジュネーブ宣言を説明できる。
- 4) 生と死に関わる倫理的問題を説明できる。
- 5) シドニー宣言を説明できる。
- 6) 患者の権利を説明できる。
- 7) リスボン宣言を説明できる。
- 8) 患者の自己決定権を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	9	倫理、道徳、法	1	俣木志朗	第 2 講義室	講義・演習	1, 2
			医の倫理 生命倫理	1	俣木志朗	第 2 講義室	講義・演習	3, 4
			患者—医療者関係の歴史	1	俣木志朗	第 2 講義室	講義・演習	1-8
	4	10	患者の権利	1	俣木志朗	第 2 講義室	講義・演習	6, 7, 8
			生と死に関わる倫理的問題	1	俣木志朗	第 2 講義室	講義・演習	4, 5
	4	16	試験	1	俣木志朗	第 2 講義室		1-8

評価方法:

・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

・星野一正『医療の倫理』(岩波新書 1991 年)

備考:

・チュートリアル 4コマ(1 課題・方法の説明、2 自己学習日 3 自己学習日 4 発表・質疑応答)

担当教員の Office Hour:

俣木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	インフォームドコンセント
ユニット責任者	俣木志朗
ユニット番号	02
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	8+0.5(必要自習時間1時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

将来、患者本位の歯科医療を実践するために、インフォームドコンセントに関する基礎的な知識、技能、態度を修得する

到達目標(SBOs):

- 1) インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。
- 2) インフォームドコンセントの歴史的経過を説明できる。
- 3) インフォームドチョイスを説明できる。
- 4) ヘルシンキ宣言を説明できる。
- 5) インフォームドコンセントの問題点を説明できる。
- 6) 患者の自己決定権を説明できる。
- 7) 患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。
- 8) インフォームドコンセントについて、患者さんに解りやすい言葉で説明できる。

授業計画

年	月	日	題 目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	16	インフォームドコンセント 1	1	俣木志朗、新田 浩	第2 講義室	講義	1, 2
			インフォームドコンセント 2	1	俣木志朗、新田 浩	第2 講義室	講義	3, 4
	4	17	歯科医療におけるインフォームドコンセント	1	俣木志朗、新田 浩	第2 講義室	講義	3, 6, 8
			インフォームドコンセントの実際 1	1	俣木志朗、新田 浩	第2 講義室	講義	5, 7
			インフォームドコンセントの実際 2	1	俣木志朗、新田 浩	第2 講義室	講義	5
	4	23	インフォームドコンセントの問題点	1	俣木志朗、新田 浩	第2 講義室	講義	1-8
			インフォームドコンセントの問題点	1	俣木志朗、新田 浩	第2 講義室	講義	1-8
			インフォームドコンセントの問題点	1	俣木志朗、新田 浩	第2 講義室	講義	1-8
	5	28	試験	0.5		第2 講義室		

評価方法:

・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・水野肇『インフォームド・コンセント——医療現場における説明と同意』(中公新書 1990 年)
- ・星野一正『医療の倫理』(岩波新書 1991 年)
- ・森岡恭彦『インフォームド・コンセント』(NHK ブックス 1994 年)

備考:

・チュートリアル 4コマ(1 課題・方法の説明、2 自己学習日 3 自己学習日 4 発表・質疑応答)

担当教員の Office Hour:

侯木志郎 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp
 新田 浩 准教授 月・水 16:30~18:00 nitta.behd@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	医療面接
ユニット責任者	侯木志郎
ユニット番号	03
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	23+0.5(必要自習時間2時間)
授業形態	少人数グループ討議・実習・講義

学習目標(GIO):

患者との信頼関係を築くために、コミュニケーション、医療面接に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 患者との信頼関係の構築に必要な要素を列挙できる。
- 2) 信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
- 3) コミュニケーションの目的と技法を概説できる。
- 4) 医療面接の役割を説明できる。
- 5) 言語的、非言語的、準言語的コミュニケーションを説明できる。
- 6) 言語的、非言語的、準言語的コミュニケーションを使い分けができる。
- 7) 患者の心理状態や社会的背景に配慮できる。
- 8) 基本的質問法を説明できる。
- 9) 医療面接に先立ち、身だしなみを整えることができる
- 10) 歯科医学生にふさわしい言葉遣いができる。

授業計画

年	月	日	題 目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	24	医療面接とは	1	侯木志郎 礪波健一 中村千賀子	第2講義室	講義	1-4
		医療におけるコミュニケーション	1	第2講義室		講義	3	
		指導・コンサルテーション・カウンセリング	1	第2講義室		講義	1-4	
24	4	25	コミュニケーション技法	1	侯木志郎 礪波健一 中村千賀子	第2講義室	実習	3, 5, 6
		医療面接を始める前に	1	第2講義室		実習	1-4	
		医療面接の意義	1	第2講義室		講義	1-4	
24	5	1	医療面接の3つの役割軸	1	侯木志郎 礪波健一	第2講義室	講義	4
		共感的態度	1	第2講義室		講義	5, 6, 7	
		医療面接の流れ	1	第2講義室		実習	6, 7, 9, 10	
24	5	2	シナリオ作成・ロールプレイ	1	侯木志郎 礪波健一	第2講義室	実習	6, 7, 9, 10
		ロールプレイ	1	第2講義室		実習	6, 7, 9, 10	
		ロールプレイ	1	第2講義室		実習	6, 7, 9, 10	
24	5	7	シナリオ作成・ロールプレイ	1	侯木志郎	第2講義室	実習	6, 7, 9, 10
		ロールプレイ	1	礪波健一	第2講義室	実習	6, 7, 9, 10	
		ロールプレイ	1		第2講義室	実習	6, 7, 9, 10	
	5	8	模擬患者実習の準備	1	侯木志郎 礪波健一	第2講義室	実習	1-10
		模擬患者実習の準備	1	第2講義室		実習	1-10	
		模擬患者実習の準備	1	第2講義室		実習	1-10	

5	14	模擬患者実習	1	俣木志朗 礪波健一	第2講義室	実習	1-10
		模擬患者実習	1		第2講義室	実習	1-10
		模擬患者実習	1		第2講義室	実習	1-10
5	15	模擬患者実習の振り返り	1	俣木志朗 礪波健一	第2講義室	講義	1-10
		医療面接のまとめ	1		第2講義室	講義	1-10
5	28	試験	0.5	俣木志朗 礪波健一	第2講義室		

評価方法:

・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・メディカル・インタビュー（訳 飯島克己、佐々木将人）メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・でんたるこみゆにけーしょん 歯科医療面接総論(山田隆文)学建書院

担当教員の Office Hour:

俣木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	チーム医療
ユニット責任者	俣木志朗
ユニット番号	04
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1(必要自習時間1時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

将来歯科医師として社会に貢献するために、社会における歯科医療とその重要性を理解し、医療が組織として実践されることを学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 保健・医療・福祉の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
- 2) 歯科医師に関する法律を概説できる。
- 3) 歯科医師の法的義務を説明できる。
- 4) 医療チームのメンバーの役割と連携を説明できる。
- 5) 高齢者のおかれた社会環境を説明できる。
- 6) ノーマライゼーションの考え方を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	15	チーム医療の実践 1	1	鈴木聖一	第2講義室	講義	4
		21	チーム医療の実践 2	3	岩上好伸	第2講義室	講義	1-6
		22	チーム医療の実践 3	1	遠藤圭子	第2講義室	講義	1-6
5	28		試験	1	俣木志朗	第2講義室	講義	

03 歯科医療入門

評価方法:

・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

俣木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	医療安全と危機管理の基礎
ユニット責任者	三輪 全三
ユニット番号	05
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1(必要自習時間 1 時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO)

将来安全で信頼される歯科医療を実践するために、歯科医療における安全性への配慮と危機管理に関する基本的な知識、考え方を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科医療における事故の特異性を説明できる。
- 2) 医療事故はどのような状況で起こりやすいかを説明できる。
- 3) 医療事故防止のためのリスク管理を説明できる。
- 4) フェイルセーフの必要性を説明できる。
- 5) 医療機関における安全管理体制を概説できる。
- 6) 医療事故とニアミスの違いを説明できる。
- 7) 医療事故やニアミスの事例の原因を分析できる。
- 8) 医療事故やニアミスの防止対策を説明できる。
- 9) 医療事故やニアミスの可能性とその対応を説明できる。
- 10) 医療事故に関連した法律・規則の基本的事項を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	22	医療事故はなぜ起こる	1	俣木志朗、三輪全三	第2講義室	講義	1,2
			医療事故防止対策	1	俣木志朗、三輪全三	第2講義室	講義	3
	5	23	フェイルセーフ、フールプルーフ	1	俣木志朗、三輪全三	第2講義室	講義	4
			リスク管理	1	俣木志朗、三輪全三	第2講義室	グループ	3-10
			医療機関における安全管理体制	1	俣木志朗、三輪全三	第2講義室	全体発表	3-10
	5	28	試験	1	俣木志朗、三輪全三	第2講義室		

評価方法:

・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・山内桂子、山内隆久『医療事故—なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか』(朝日新聞社 2000 年)
- ・米国医療の質委員会医学研究所『人は誰でも間違える—より安全な医療システムを目指して』(日本評論社 2000 年)
- ・海野雅浩 他、「一から学ぶ歯科医療安全管理」(医歯薬出版 2005 年)

担当教員の Office Hour:

侯木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp
 三輪全三 講師 月・水・木 16:30~18:00 miwa.dohs@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	環境・社会 1		
ユニット責任者	佐々木好幸		
ユニット番号	06		
開設時期	3年 前期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	12+1	(必要自習時間 5時間)	
授業形態	講義		

学習目標(GIO):

健康と社会制度や環境との関連を理解し、人々の健康推進を支援できる歯科医師となるために必要な知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1)健康の概念を説明できる。
- 2)環境による健康への影響を説明できる。
- 3)環境基準と環境汚染を説明できる。
- 4)主な保健医療統計を説明できる。
- 5)主な健康指標を説明できる。
- 6)調査方法と統計的分析法を説明できる。
- 7)疫学とEBMの概念を説明できる。
- 8)スクリーニング検査を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	9	衛生の主要指標	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	4-8
			人口問題	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	4-8
			生命表	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	4-8
	5	16	疾病・異常の発生要因	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	1,2,3
			疫学の方法論	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	4-8
			疫学演習	1	佐々木好幸	第2講義室	演習	4-8
	6	4	環境保健(気相)	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	2,3
			環境保健(液相)	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	2,3
			環境保健演習	1	佐々木好幸	第2講義室	演習	2,3
	6	6	廃棄物	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	2,3
			食品衛生	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	2,3
			感染対策	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	2,3
	6	11	試験	1	佐々木好幸	第2講義室	講義	

03 歯科医療入門

評価方法:

- ・6月11日の筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・衛生学・公衆衛生学(宮武光吉ら編)、医歯薬出版
- ・国民衛生の動向 2011/2012、厚生統計協会

担当教員の Office Hour:

佐々木好幸 准教授 月・水 17:00-19:00 sasaki.prev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	環境・社会2
ユニット責任者	川口陽子
ユニット番号	07
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+1 (必要自習時間5時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

健康と社会制度や環境との関連を理解し、人々の健康推進を支援できる歯科医師となるために必要な知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1)健康の概念を説明できる。
- 2)口腔と全身の健康との関連を説明できる。
- 3)疾病の概念、種類および予防を説明できる。
- 4)健康日本 21 を説明できる。
- 5)第一次予防、第二次予防、第三次予防を説明できる。
- 6)セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケアを説明できる。
- 7)プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。
- 8)主な保健医療統計を説明できる。
- 9)主な健康指標を説明できる。
- 10)国際保健医療活動を説明できる。
- 11)大災害時の保健医療を説明できる。

授業計画

年	月	日	題 目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	7	4	健康の定義、健康・疾病・障害の概念、疾病構造の変化、ライフスタイルと健康、生活習慣病	1	川口陽子	第2講義室	講義	1-4
			第1,2,3次予防、セルフケア・プロフェッショナルケア・コミュニティケア、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ	1	川口陽子	第2講義室	講義	5-7
			予防歯科臨床とヘルスプロモーション	1	川口陽子	第2講義室	講義	5-7
	7	10	WHOの健康戦略、国際保健	1	川口陽子	第2講義室	講義	7,10
			健康観と健康指標、QOL、口腔と全身の健康、地域保健	1	川口陽子	第2講義室	講義	1-4,8,9

		食生活と健康、食育と歯の健康	1	川口陽子	第2講義室	講義	1-4
7	25	歯科医師の任務、保健指導と健康教育、健康情報 感染症と生活習慣病、	1	植野正之	第2講義室	講義	1-9
		健康日本21、健康増進法、健康情報、ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケア	1	植野正之	第2講義室	講義	1-7
		国際保健協力活動、災害時の保健医療	1	田中健一	第2講義室	講義	10,11
7	31	試験	1	川口陽子	第2講義室		

評価方法:

・7月31日の筆記試験(9割)とレポート(1割)を総合的に評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・衛生学・公衆衛生学(宮武光吉ら編)、医歯薬出版
- ・The Strategy of Preventive Medicine (Geoffrey Rose) Oxford University Press

担当教員の Office Hour:

川口陽子 教授 水・木 16:00-18:00 yoko.ohp@tmd.ac.jp

04 生命の分子的基盤と細胞の機能

モジュール情報

モジュール名	生命の分子的基盤と細胞の機能
モジュール責任者	(正) 森田育男 (副) 篠村多摩之
モジュール番号	04
開設時期	3年 前期
モジュールコマ数	102(3)

学習目標(GIO)

生命現象の物質的基盤を細胞という生命単位を中心に理解する。生命を構成する分子とその代謝を理解し、各種疾患の分子的基盤を理解する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	生命を構成する分子とその代謝	講義
02	遺伝子と遺伝	講義
03	細胞機能の分子的基礎	講義
04	疾患の分子的基盤	講義
05	生命の分子的基盤実習	実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	生命を構成する分子とその代謝
ユニット責任者	中浜健一
ユニット番号	01
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	24+0.75
授業形態	講義

学習目標(GIO):

生命を構成する分子とその代謝を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 生命と物質の関係-概説。
- 2) 細胞学概説。
- 3) タンパク質の構造と生物学的機能の関係を酵素を例として理解する。
- 4) 糖代謝とエネルギー生成の仕組みを説明できる。
- 5) 脂質代謝の仕組みを説明できる。
- 6) アミノ酸、核酸の代謝の仕組みを説明できる。
- 7) 物質代謝の制御による生体機能の調節について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	9	生命の物質的基盤概説	3	高柳 広	第2講義室	講義	1
		10	細胞学概説	3	高野吉郎	第2講義室	講義	2
		11	タンパク質の構造と機能	3	横山三紀	第2講義室	講義	3
		12	酵素	3	中浜健一	第2講義室	講義	3
		18	糖代謝とエネルギーの生成	3	中浜健一	第2講義室	講義	4
		26	脂質代謝	3	中浜健一	第2講義室	講義	5
	5	10	アミノ酸、核酸の代謝	3	中浜健一	第2講義室	講義	6
		22	物質代謝の制御による生体機能の調節	3	中浜健一	第2講義室	講義	7
	6	25	試験	0.75	中浜健一	第1講義室	筆記試験	1-7

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・モジュール最終日(24年6月25日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料(全ユニット共通):

- ・「エリオット 生化学・分子生物学、第3版」エリオットら(東京化学同人)
- ・「カープ 分子細胞生物学」カープら(東京化学同人)
- ・「ストライヤー 生化学」L. Stryerら(東京化学同人)

担当教員の Office Hour:

中浜健一 准教授 水・木 17:00以降 nakacell@tmd.ac.jp・・・あらかじめメール連絡を

04 生命の分子的基盤と細胞の機能

ユニット情報

ユニット名	遺伝子と遺伝
ユニット責任者	篠村多摩之
ユニット番号	02
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+0.75
授業形態	講義

学習目標(GIO):

遺伝情報の物質的な基盤とその流れについて説明できる。

到達目標(SBOs):

- 1) 細胞構造と遺伝情報の流れについて相互の関係が説明できる。
- 2) DNA の構造とその複製機構が説明できる。
- 3) RNA の構造と転写の機構が説明できる。
- 4) タンパク質の合成とその分配機構が説明できる。
- 5) 遺伝子発現の制御機構が説明できる。
- 6) 遺伝子の進化とヒトゲノム DNA の特徴について説明できる。
- 7) 遺伝子のクローニングと組み換え技術について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	23	セントラルドグマ、DNA	3	篠村多摩之	第2講義室	講義	1, 2
		24	RNA	3	篠村多摩之	第2講義室	講義	3
	5	2	タンパク質	3	篠村多摩之	第2講義室	講義	4
		9	遺伝子発現制御	3	篠村多摩之	第2講義室	講義	5
		21	ヒトゲノム、遺伝子組み換え	3	篠村多摩之	第2講義室	講義	6,7
		23	分子生物学の統合的理解	3	篠村多摩之	第2講義室	講義	1-7
	6	25	試験	0.75	篠村多摩之	第1講義室	筆記試験	1-7

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・モジュール最終日(24年6月25日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

篠村多摩之 准教授 月・水・金 16:00 - 18:00 t.shinomura.trg@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	細胞機能の分子的基礎
ユニット責任者	横山三紀
ユニット番号	03
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	15+0.75
授業形態	講義

学習目標(GIO):

生命現象を理解するために細胞内における物質移動と代謝の過程を細胞の構造と関連づける。

行動目標(SBOs):

- 1) 生体膜の基本構造を説明できる。
- 2) 低分子の膜輸送の仕組みを説明できる。
- 3) 細胞内小器官の機能を説明できる。
- 4) 高分子の細胞内への取り込みおよび分泌の仕組みを説明できる。
- 5) 細胞内情報伝達経路の種類を述べ、仕組みを説明できる。
- 6) 細胞骨格の形成について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	16	生体膜の基本構造	3	横山三紀	第2講義室	講義	1
		17	低分子の膜輸送	3	横山三紀	第2講義室	講義	2
		19	細胞内小器官と高分子の移動	3	横山三紀	第2講義室	講義	3,4
		25	細胞内情報伝達	3	篠原正浩	第2講義室	講義	5
	5	8	細胞骨格	3	篠原正浩	第2講義室	講義	6
	6	25	試験	0.75	横山三紀	第1講義室	筆記試験	1-6

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・モジュール最終日(24年6月25日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

横山三紀 准教授 月-金 16:00 - 18:00 m.yokoyama.bch@tmd.ac.jp
 篠原正浩 助教 月・水・金 16:00 - 18:00 shino.csi@tmd.ac.jp・・・あらかじめメール連絡を

ユニット情報

ユニット名	疾患の分子的基盤
ユニット責任者	森田育男
ユニット番号	04
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	24+0.75
授業形態	講義

学習目標(GIO):

各種病態の発症機序の分子的基盤を理解するために、生体の恒常性維持のしくみを理解しその破綻の起こる原因を明らかにする。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯・骨に関連したミネラルの代謝について説明できる。
- 2) ホルモン役割と、その異常により発症する病態を説明できる。
- 3) ホルモンをはじめとする生理活性物質の作用機序を説明できる。

04 生命の分子的基盤と細胞の機能

- 4) オータコイドの役割とその作用機序を説明できる。
- 5) 血管新生関連病の発症機序を生理活性物質の相互関係で説明できる(炎症、ガン)できる。
- 6) 細胞外マトリックスを構成する分子について説明できる。
- 7) 発がんの仕組みとがん細胞の性質を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	7	ミネラルの代謝	3	竹内靖博	第2講義室	講義	1
		17	ホルモン(1)	3	森田育男	第2講義室	講義	2
		24	ホルモン(2)	3	森田育男	第2講義室	講義	3
		29	サイトカイン、ケモカイン、オータコイド	3	高柳 広	第2講義室	講義	4
	6	1	血管新生	3	森田育男	第1講義室	講義	5
		5	細胞外マトリックス(1)	3	篠村多摩之	第2講義室	講義	5
		13	細胞外マトリックス(2)	3	篠村多摩之	第2講義室	講義	6
		19	発がんの仕組み	3	池田正明	第2講義室	講義	7
	6	25	試験	0.75	高柳 広	第1講義室	筆記試験	1-7

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・モジュール最終日(24年6月25日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour :

森田育男 教授 morita.cell@tmd.ac.jp・・・あらかじめメール連絡を
 篠原正浩 助教 月・水・金 16:00 - 18:00 shino.csi@tmd.ac.jp・・・あらかじめメール連絡を

ユニット情報

ユニット名	生命の分子的基盤実習
ユニット責任者	森田育男
ユニット番号	05
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21+0
授業形態	実習

学習目標(GIO):

生命を構成する主要な分子(タンパク質、核酸)の性質を実習を通して知る。

到達目標(SBOs):

- 1) タンパク質の代表としての酵素の機能を知る。
- 2) 核酸の機能を知る。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	1	生命の分子的基盤 実習講義	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	第2講義室	講義	1,2
		14	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1,2
		15	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1,2
		16	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1,2
		28	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1,2
		29	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1,2
		30	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1,2

評価方法:

・レポート作成

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

森田育男 教授

morita.cell@tmd.ac.jp・・・あらかじめメール連絡を

篠原正浩 助教

月・水・金 16:00 - 18:00 shino.csi@tmd.ac.jp・・・あらかじめメール連絡を

モジュール情報

モジュール名	人体の構造と機能
モジュール責任者	(正)高野吉郎 (副)井関祥子 泰羅雅登 柴田俊一
モジュール番号	05
開設時期	3年 前期、後期
モジュールコマ数	418 (23) (必要自習時間 229時間)

学習目標(GIO)

人体を構成する組織、器官の構造と生理的機能および発生の仕組みを知るとともに、成長、発育・発達、加齢の過程でそれらがどの様に変化するかを理解する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	人体の基本要素	講義
02	人体の発生	講義
03	運動系	講義・実習
04	神経と感覚	講義
05	体液と循環	講義・実習
06	摂食、消化、吸収	講義・実習
07	生体の維持と恒常性	講義・実習
08	人体解剖実習	実習
09	中枢神経系	講義・実習
10	生理機能実習	実習
11	歯の解剖	講義・実習
12	歯の発生と組織	講義・実習
13	歯型彫刻	実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	人体の基本要素
ユニット責任者	高野吉郎
ユニット番号	01
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	30+2 (必要自習時間 18 時間)
授業形態	講義+実習

学習目標(GIO): 人体の最小構成単位である細胞とそれが分化して形成される諸組織の形態的、機能的特徴を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 組織標本作成法、観察法の概要を説明できる。
- 2) 細胞の基本構造を説明できる。
- 3) 細胞接着の概念、接着装置の構造と機能を説明できる。
- 4) 人体を構成する4つの組織を列挙し、概説できる。
- 5) 組織と器官を類別し、説明できる。
- 6) 上皮組織を形態的、機能的に分類できる。
- 7) 腺の概念と基本構造、種類を説明できる。
- 8) 結合組織の概念と構成(線維性要素、基質、細胞要素)を説明できる。
- 9) 骨の形成と改造の仕組み、構造を説明できる。
- 10) 軟骨の区分、構造と機能を説明できる。
- 11) 造血の場としての骨髄と血球の特徴を説明できる。
- 12) 筋の区分、組織構造の特徴と機能を説明できる。
- 13) 神経系の構成要素とそれらの構造の特徴を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	31	人体の基本要素 1 組織学研究法 顕微鏡操作実習	3	高野吉郎、馬場麻人	第1講義室	講義・実習	1
	6	1	人体の基本要素 2 上皮組織	3	高野吉郎	第1講義室	講義	6,7
		4	人体の基本要素 3 細胞・上皮実習	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	1,2,3,4,5,6,7
		5	人体の基本要素 4 結合組織 I	3	高野吉郎	第1講義室	実習	8,9,10
		6	人体の基本要素 5 結合組織 II	3	高野吉郎	第1講義室	講義	8,9,10
		7	人体の基本要素 6 結合組織実習 (線維要素、細胞要素、骨、軟骨)	3	高野吉郎	第1講義室	講義	8,9,10
		8	人体の基本要素 7 骨髄・血液	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	講義・実習	11
		18	人体の基本要素 9 筋組織	3	高野吉郎	第1講義室	講義	12
		20	人体の基本要素 9 神経組織	3	高野吉郎	第1講義室	講義	13
		25	人体の基本要素 10 筋神経組織実習	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	12,13
	7	2	筆記試験	2		第1講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

05 人体の構造と機能

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・実習はすべて出席が前提である。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「標準組織学総論」第3版(藤田尚男、藤田恒夫 著)医学書院
- ・「最新カラー組織学」(L.P.ガートナー、J.L. ハイアット 著)西村書店
- ・「カラーアトラス組織・細胞学」(岩永 敏彦 著) 医歯薬出版
- ・「Histology and Cell Biology」(A. L. Kierszenbaum 著) Mosby

備考:

- ・顕微鏡観察実習ではスケッチを行うので、実習日には12色程度の鉛筆セットを持参すること。
- ・スケッチ用紙としてA4普通紙を用意するが、A4ケント紙を持参してもいい。

担当教員の Office Hour:

高野吉郎 教授 随時 takanoy.bss@tmd.ac.jp (事前にメールでアポイントをとること)

ユニット情報

ユニット名	人体の発生
ユニット責任者	井関祥子
ユニット番号	02
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	14+ 1 (必要自習時間 5 時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO)

人体の発生過程とその基本的な仕組みを初期発生過程を中心に学び、口腔・頭蓋・顎顔面領域における器官形成の過程を理解する。

到達目標(SBOs)

- 1) 人体における初期発生の仕組みを説明できる。
- 2) 減数分裂の過程を概説できる。
- 3) 生殖細胞(卵子・精子)形成および受精の過程を概説できる。
- 4) 三胚葉の形成過程を説明できる。
- 5) 三胚葉から形成される器官を説明できる。
- 6) 器官形成の概要を説明できる。
- 7) 発生過程の異常と先天異常との関連を概説できる。
- 8) 胚性幹細胞と組織幹細胞を区別し、その特徴を説明できる。
- 9) 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。
- 10) 頭部神経堤細胞の役割について説明できる。
- 11) 一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。
- 12) 舌と唾液腺の発生を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	14	人体の発生1 初期発生	3	池田正明	第2講義室	講義	1, 2, 3, 4
		20	人体の発生2 形態形成の分子機構・器官形成	2 1	池田正明 太田正人	第2講義室	講義	4, 8 5, 6, 7,
		21	人体の発生3 器官形成と先天異常	2	太田正人	第2講義室	講義	4, 5, 6
		26	人体の発生4 頭頸部の発生1	3	井関祥子	第2講義室	講義	9,10,11,12

	28	人体の発生5 頭頸部の発生 2	3	井関祥子	第2講義室	講義	9,10,11,12
7	2	筆記試験	1		第2講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「ラングマン人体発生学」第9版(訳:安田峯生)メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・「ラーセン最新人体発生学」第2版(監訳:相川英三・山下和雄・三木昭徳・大谷浩)西村書店
- ・「ムーア人体発生学」第7版(訳:瀬口春道・小林俊博他)・医歯薬出版

担当教員の Office Hour :

井関祥子 教授 随時 s.iseki.emb@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	運動系
ユニット責任者	寺島達夫
ユニット番号	03
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	44 + 2 (必要自習時間 28 時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

人体における骨、筋の種類と配置および形態的特徴を理解し、運動器としての機能制御の仕組みと代謝を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 人体の基本構造について解剖学用語を用いて説明できる。
- 2) 骨と筋の発生の仕組みを説明できる。
- 3) 人体を構成する骨と筋を体系的に分類し、解剖学的名称を述べることができる。
- 4) 骨格と骨格筋の構造的、機能的関係を説明できる。
- 5) 骨の改造現象を説明できる。
- 6) カルシウム代謝と骨の関係を説明できる。
- 7) 骨格筋の組織構造と筋収縮のメカニズムを説明できる。
- 8) 筋の伸展受容器の構造と機能を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	7	解剖学総論	3	寺島達夫、鹿野俊一	第4講義室	講義	1, 2
		11	体幹の骨と筋	3	鹿野俊一、柴田俊一 寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第4講義室	講義・実習	3, 4
		12	上肢の骨と筋	3	鹿野俊一、柴田俊一 寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第4講義室	講義・実習	3, 4

05 人体の構造と機能

	13	上肢の骨と筋	3	鹿野俊一、柴田俊一 寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第4講義室	講義・実習	3, 4
	14	下肢の骨と筋	2	鹿野俊一、柴田俊一 寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第4講義室	講義・実習	3, 4
	18	下肢の骨と筋	3	鹿野俊一、柴田俊一 寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第4講義室	講義・実習	3, 4
	21	体幹・上下肢まとめ	3	鹿野俊一、柴田俊一 寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第4講義室	講義・実習	3, 4
	26	骨改造とカルシウム代謝	3	青木和広	第2講義室	講義	5, 6、
	27	脳頭蓋の骨1	3	寺島達夫、柴田俊一 鹿野俊一、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	3, 4
7	3	脳頭蓋の骨2	3	寺島達夫、柴田俊一 鹿野俊一、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	3, 4
	5	筋収縮機講	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	7, 8
	9	顔面頭蓋の骨1	3	寺島達夫、柴田俊一 鹿野俊一、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	3, 4
	17	顔面頭蓋の骨2	3	寺島達夫、柴田俊一 鹿野俊一、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	3, 4
	23	頭部と頸部の筋1	3	馬場麻人	第2講義室	講義	3, 4
	27	頭部と頸部の筋2	3	馬場麻人	第2講義室	講義	3, 4
	31	筆記試験・実習試験	2		第2講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に筆記試験と実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「分担解剖学 第1巻 総説・骨学・靭帯学・筋学」(森 於菟 他著)金原出版
- ・「解剖学講義」(伊藤 隆・高野廣子 著) 南山堂
- ・「グレイ解剖学」(訳塩田浩平 他) エルゼビア・ジャパン
- ・「グレイ解剖学アトラス」(訳塩田浩平 他) エルゼビア・ジャパン
- ・「ネッター解剖学アトラス」(訳相磯貞和) 南江堂
- ・「骨学実習の手引き」(寺田春水・藤田恒夫 著) 南江堂
- ・「新骨の科学」(須田立雄 他 編著) 医歯薬出版
- ・「標準生理学」第6版 (本郷利憲・廣重 力・豊田順一 監修) 医学書院
- ・「人体機能生理学」改訂第4版 (杉 晴夫 編集) 南江堂

担当教員の Office Hour:

- 柴田俊一 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) sshibata.mfa@tmd.ac.jp
 泰羅雅登 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp

寺島達夫	准教授	随時(要連絡)	t.terashima.mfa@tmd.ac.jp
青木和広	准教授		kazu.hpha@tmd.ac.jp
鹿野俊一	助教	随時(要連絡)	shika.mfa@tmd.ac.jp
阿部達彦	助教	火水金 16:00-18:00	tatsu_ab.mfa@tmd.ac.jp
馬場麻人	助教	水木金 16:30-18:00	o.baba.bss@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	神経と感覚
ユニット責任者	泰羅雅登
ユニット番号	04
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	30+2 (必要自習時間 15 時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

人体における末梢神経系と感覚器の構成と役割を理解し、それらの構造と機能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 神経系の発生の仕組みを説明できる。
- 2) 中枢神経系と末梢神経系の構成と基本機能を説明できる。
- 3) 体性神経系と自律神経系の構造的、機能的相違を説明できる。
- 4) 神経系を構成する細胞の種類、構造的特徴と機能を説明できる。
- 5) 脊髄と脊髄神経の構成と機能を説明できる。
- 6) 脳神経の構成と機能を説明できる。
- 7) 神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明できる。
- 8) シナプスの構造と興奮伝達の仕組みを説明できる。
- 9) 体性感覚受容器の構造と機能および伝導路を説明できる。
- 10) 聴覚・平衡覚器の構造と機能および伝導路を説明できる。
- 11) 味覚器、嗅覚器の構造と機能および伝導路を説明できる。
- 12) 視覚器の構造と機能および伝導路を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	29	神経系概論・神経の生理学	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	4,7,8
	7	3	末梢神経概論・脊髄神経	3	馬場麻人	第2講義室	講義	1,2,3,5
		4	感覚総論・体性感覚	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	9
		6	聴覚・平衡覚	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	10
		9	味覚・嗅覚	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	11
		11	視覚	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	12
		13	脳神経 1	3	馬場麻人	第2講義室	講義	1,2,3,6
		19	脳神経 2	3	馬場麻人	第2講義室	講義	1,2,3,6
		24	自律神経	3	馬場麻人	第2講義室	講義	3,5,6
		25	痛覚	3	砂川光宏	第2講義室	講義	9
		31	筆記試験			第2講義室		

05 人体の構造と機能

評価方法:

ユニットの最終講義時間に筆記試験を行い包括的評価を行う。
尚、この試験の合計得点が6割に達したものを合格とする。
不合格者には、原則として1回の再試験の機会を与える。
尚、再試験も合計得点が6割に達したものを合格とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「標準生理学」第6版 (本郷利憲・廣重 力・豊田順一監修) 医学書院 (神経系に限らない一般的な生理学教科書)
- ・「カールソン神経科学テキスト 脳と行動」丸善 (病態も含めた神経科学の教科書)
- ・「ベアー コノーズ パラディーソ 神経科学」西村書店 (神経科学の教科書)
- ・「基礎歯科生理学」医歯薬出版 (口腔領域が詳細)
- ・「Principles of Neural Science」4th.ed McGraw-Hill. (神経科学の教科書)
- ・「分担解剖学第2巻 脈管学・神経系」金原出版 (系統解剖学の基本的かつ詳細な教科書、
第1巻[総説・骨学・靭帯学・筋学]と2冊で肉眼解剖学的な神経の構成と機能の理解を助ける)
- ・「Sobotta 図説人体解剖学 第1巻 頭部・頸部・上肢、第2巻体幹・内臓・下肢」医学書院
- ・「Anatomy」(Clememte CD) . Urban&Schwarzenberg (Clememte は、Sobotta のダイジェスト版、詳細な図譜)

担当教員の Office Hour:

泰羅雅登 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp
砂川光宏 准教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) m.sunakawa.endo@tmd.ac.jp
馬場麻人 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) o.baba.bss@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	体液と循環
ユニット責任者	田畑 純
ユニット番号	05
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+2 (必要自習時間 6 時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

心臓血管系、リンパ管系の発生、およびそれらの構造、機能制御のメカニズムを学び、血液循環と体液のバランス維持の仕組みを修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 循環器の発生を説明できる。
- 2) 血液の組成と働きを説明できる。
- 3) 血液型について説明できる。
- 4) 血圧と血圧調節機構を説明できる。
- 5) 止血と血液凝固の機序を説明できる。
- 6) 大循環、肺循環、胎児循環を説明できる。
- 7) 心臓の構造と機能を説明できる。
- 8) 刺激伝導系の構造と機能を説明できる。
- 9) 心臓・血管運動の調節機構を説明できる。
- 10) 心電図を説明できる。
- 11) 主な動脈、静脈、リンパ管を説明できる。
- 12) 頭頸部の血管とリンパ管の走行および血流路、リンパ流路を説明できる。

- 13) 動脈、静脈、リンパ管の組織構造を説明できる。
 14) リンパ性組織とリンパ性器官の構造と機能を説明できる。
 15) 毛細血管の壁の構造と物質交換を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	8	循環器とリンパ器官	3	田畑 純	第1講義室	講義	1,2,6,13,14,15
		12	循環器の組織	3	田畑 純 馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	1,2,6,13,14,15
		15	血液・リンパの動通路1 (心臓)	3	田畑 純	第1講義室	講義	7,8,11,12,13
		19	体液と血液循環の生理機構	3	小長谷光	第2講義室	講義	2,3,4,5,8,9,10
		22	血液・リンパの動通路2 (動脈)	3	田畑 純	第1講義室	講義	6,11,12
		27	血液・リンパの動通路3 (静脈とリンパ)	3	田畑 純	第1講義室	講義	6,11,12,13,14
	7	30	筆記試験	2		第1講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。但し、筆記試験の中に実習試験を含むものとする。

実習について:

- ・組織標本の顕微鏡観察とスケッチを行うので、12色程度の色鉛筆を持参すること。A4 のケント紙もあるとなおよい。
- ・実習は全てに出席し、全ての課題を提出しなければ、ユニット最終日の筆記試験の受験資格を得られない。

ユニット試験の受験資格:

- ・全時間数のうち、講義は3分の2以上出席していなければならない。
- ・実習は全てに出席し、課題を全て提出していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「分担解剖学第2巻 脈管学・神経系」 金原出版
- ・「ネッター解剖学アトラス」第4版 南江堂
- ・「カラー人体解剖学」(井上貴央監訳) 西村書店
- ・「新解剖学」改訂第6版 (加藤征著) 日本医事新報社
- ・「標準組織学各論」第4版 (藤田尚男・藤田恒夫著) 医学書院
- ・「入門組織学」(牛木辰男著) 南江堂
- ・「最新カラー組織学」(L.P.ガートナー、J.L. ハイアット 著) 西村書店
- ・「新組織学」改訂第5版 (野上晴雄著) 日本医事新報社
- ・「標準生理学」第7版 (小澤滯司・福田康一郎総編集) 医学書院
- ・「人体機能生理学」改訂第4版 (杉 晴夫 編集) 南江堂
- ・「カールソン人体発生学」(白井敏雄監訳) 西村書店

担当教員の Office Hour:

田畑 純 准教授 随時 tabatamj.bss@tmd.ac.jp
 小長谷光 准教授 随時 hkohase.anph@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	摂食、消化、吸収
ユニット責任者	高野吉郎
ユニット番号	06
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	30+2 (必要自習時間 18 時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

人体における消化器系の全容とその発生を理解し、口腔の構造と口腔内臓、消化管と付属腺の構造と機能を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 消化器系の構成と発生を概説できる。
- 2) 口腔の構造を説明できる。
- 3) 口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。
- 4) 舌の構造と機能、支配神経を説明できる。
- 5) 唾液腺の名称と存在部位、組織構造を説明できる。
- 6) 唾液の分泌調節機構を説明できる。
- 7) 唾液の性状と役割を説明できる。
- 8) 消化管(食道、胃、小腸、大腸、肛門)の基本構造を説明できる。
- 9) 消化管の付属腺の位置、解剖学的、組織学的特徴と機能を説明できる。
- 10) 消化管運動について説明できる。
- 11) 三大栄養素の消化と吸収のメカニズムについて説明できる。
- 12) 消化液の特徴と役割および分泌機構について説明できる。
- 13) 消化管ホルモンの特徴とその機能について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	24	消化器系の概要、口腔の構造	3	高野吉郎	第1講義室	講義	1,2,3
		25	唾液腺、舌粘膜、味蕾の組織	3	高野吉郎	第1講義室	講義	4,5
		27	口腔粘膜、唾液腺(組織実習)	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	4,5
	10	4	唾液の分泌機構	3	勝山成美	第1講義室	講義	6,7
		9	消化管の組織構造	3	高野吉郎	第1講義室	講義	8,9
	10	15	消化管(組織実習)	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	講義・実習	8,9
		16	消化管付属器(肝臓)胆嚢、膵臓	3	高野吉郎	第1講義室	講義	8,9
		19	消化管付属器(胆嚢、膵臓)	3	高野吉郎	第1講義室	講義	8,9
		22	消化管付属器(組織実習)	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	8,9
		29	消化管の運動・消化・吸収機構	3	勝山成美	第1講義室	講義	10,11,12,13
	11	5	筆記試験	2		第1講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に筆記試験と実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「分担解剖学第3巻 感覚器学・内臓学」金原出版
- ・「標準組織学 各論」第4版 (藤田尚男・藤田恒夫著) 医学書院
- ・「最新カラー組織学」(L.P.ガートナー、J.L.ハイアット 著) 西村書店
- ・「標準生理学」第6版 (本郷利憲・廣重 力・豊田順一監修) 医学書院
- ・「人体機能生理学」改訂第4版 (杉 晴夫 編集) 南江堂
- ・「基礎歯科生理学」医歯薬出版 (口腔領域が詳細)
- ・「カールソン人体発生学」(白井敏雄監訳) 西村書店

備考:

- ・実習では組織標本の顕微鏡観察を行う。午後に行われる人体解剖実習を通して消化器系の包括的理解を期待する。
- ・顕微鏡観察実習ではスケッチを行うので、実習日には12色程度の色鉛筆セットを持参すること。
- ・スケッチ用紙としてA4普通紙を用意するが、A4ケント紙を持参してもいい。

担当教員の Office Hour:

高野吉郎 教授 随時 takanoy.bss@tmd.ac.jp (事前にメールでアポイントをとること)
 勝山成美 助教 随時 katz.cnb@tmd.ac.jp (事前にメールでアポイントをとること)

ユニット情報

ユニット名	生体の維持と恒常性
ユニット責任者	田畑 純
ユニット番号	07
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	30+2 (必要自習時間 16 時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

種の維持のための生殖器の位置づけと生殖器の構造、機能の概要を理解するとともに、生体の機能維持に必須な呼吸と血液濾過、内分泌について系統的に学び、生体機能の恒常性の維持機構を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 呼吸器の発生の仕組みを説明できる。
- 2) 気道と肺の構成と構造を説明できる。
- 3) 縦隔と胸膜を説明できる。
- 4) 呼吸筋と呼吸運動の機序および調節 機構を説明できる。
- 5) 肺気量と肺・胸郭系の圧・容積関係(コンプライアンス)を説明できる。
- 6) 肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。
- 7) 泌尿器の発生の仕組みを説明できる。
- 8) 泌尿器の構成、位置と形態および組織構造を説明できる。
- 9) 腎臓の血流について説明できる。
- 10) 尿の生成機構を説明できる。
- 11) 尿細管の走行と対向流系のしくみを関係づけられる。
- 12) 体液の量と組成および浸透圧の調節に果たす泌尿器の役割を説明できる。
- 13) 電解質平衡における泌尿器の役割を説明できる。
- 14) 泌尿器の機能障害が身体に与える影響を類推できる。
- 15) 生殖器の発生の仕組みを説明できる。
- 16) 生殖器の構成、位置と形態および組織構造を説明できる。
- 17) 精子の形成過程を説明できる。

05 人体の構造と機能

- 18) 男性生殖器の付属腺の役割を説明できる。
- 19) 卵胞の成熟と黄体の形成過程を説明できる。
- 20) 性周期と女性生殖器の形態、機能の変化を関係づけられる。
- 21) 男性と女性の生殖器の類似点、相違点について発生、形態、機能を対比しながら説明できる。
- 22) 内分泌器官を列挙し、産生ホルモンを説明できる。
- 23) 内分泌器官と内分泌細胞の構造と機能を説明できる。
- 24) 神経内分泌について説明できる。
- 25) 呼吸・循環・体温の調節中枢の働きを説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	26	泌尿器の発生・解剖・組織	3	田畑 純	第1講義室	講義	7,8,9,10,11
		27	泌尿器の組織	3	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	7,8,9,10,11
		28	内分泌器の発生・解剖・組織	3	田畑 純	第1講義室	講義・実習	22,23,24
	10	1	内分泌器の組織	3	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	22,23,24
		2	呼吸器の発生・解剖・組織	2	田畑 純	第1講義室	講義	1,2,3
			腎臓の機能	1	栗原秀剛	第1講義室	講義	7,8,9,10,11
		10	血液とガス交換・呼吸の生理	3	小長谷光	第1講義室	講義	4,5,6,25
		17	発熱、発汗、体温調節	3	杉本久美子	第1講義室	講義	25
		23	腎血流と尿の産生・電解質平衡	3	杉本久美子	第1講義室	講義	10,11,12,13,14
		30	生殖器の発生・解剖・組織	3	田畑 純	第1講義室	講義	15,16,17,18, 19,20,21
	11	2	生殖器と呼吸器の組織	3	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	1,2,3, 15,16,17,18, 19,20,21
		12	筆記試験 実習試験	2		第1講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に筆記試験と実習試験を行い、総括的評価を行う。

実習について:

- ・組織標本の顕微鏡観察とスケッチを行うので、12色程度の色鉛筆を持参すること。A4のケント紙もあるとなおよい。
- ・実習は全てに出席し、全ての課題を提出しなければ、ユニット最終日の筆記試験の受験資格を得られない。

ユニット試験の受験資格:

- ・全時間数のうち、講義は3分の2以上出席していなければならない。
- ・実習は全てに出席し、課題を全て提出していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「分担解剖学第3巻 感覚器学・内臓学」金原出版
- ・「ネッター解剖学アトラス」第4版 南江堂
- ・「カラー人体解剖学」(井上貴央監訳) 西村書店
- ・「新解剖学」改訂第6版 (加藤征著) 日本医事新報社
- ・「標準組織学各論」第4版 (藤田尚男・藤田恒夫著) 医学書院
- ・「入門組織学」(牛木辰男著) 南江堂
- ・「最新カラー組織学」(L.P.ガートナー、J.L.ハイアット 著) 西村書店
- ・「新組織学」改訂第5版 (野上晴雄著) 日本医事新報社
- ・「標準生理学」第7版 (小澤滯司・福田康一郎総編集) 医学書院

- ・「人体機能生理学」改訂第4版（杉 晴夫 編集）南江堂
- ・「カールソン人体発生学」（白井敏雄監訳）西村書店

担当教員の Office Hour:

田畑 純 准教授 随時 tabatamj.bss@tmd.ac.jp
 小長谷光 准教授 随時 hkohase.anph@tmd.ac.jp
 杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	人体の構造
ユニット責任者	柴田俊一
ユニット番号	08
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	105+3 (必要自習時間 66 時間)
授業形態	講義・実習

人体解剖実習

学習目標(GIO):

修得した解剖学的、生理学的知識を、実際にご遺体に触れ、身体の内臓構造を剖出する作業を通して、人体の正常な構造を肉眼的なレベルで三次元的に観察することにより、人体の構造の形態学的特徴と機能的特性を有機的に修得する。

実習を通して生命の尊厳に触れ、将来の歯科医師を目指す歯学生としての自覚を促し、倫理観の養成につとめるとともに、献体の意義についても考える。

到達目標(SBOs):

- 1) 人体の体表に現れる形態的特徴を認識し、それらに直接触れることで内部構造を類推することができる。
- 2) 人体解剖によって剖出される人体の基本構造の解剖学的名称と相互の位置関係を述べることができる。
- 3) 人体を構成する諸器官の位置・形態・機能・内部構造、それらの神経、血管支配、相互のつながりについて、剖出結果をもとに述べるができる。
- 4) 主要な血管の枝・走行・支配領域について、剖出結果をもとに説明できる。
- 5) 主要な神経の枝・走行・神経叢・神経節・支配領域について、剖出結果をもとに説明できる。
- 6) 主要なリンパ管の枝・走行・支配領域、リンパ節の分布について、剖出結果をもとに説明できる。
- 7) 主要な筋の起始・停止・走行・支配神経について、剖出結果をもとに説明できる。
- 8) 主要な骨や関節の名称と機能について、剖出結果をもとに説明できる。
- 9) 基本的な解剖学的構造の変異を指摘することができる。
- 10) 実習中に生ずる疑問点についてグループ内で自発的に調べ、説明することができる。
- 11) 強い精神力と柔軟性を身に付けて心のバランス 保ち、人体解剖にグループの一員として協調的に参加し、規律ある倫理的態度を保って意欲的に実習を遂行できる。
- 12) 生命の尊厳について考え、その重要について 自分の意見を述べるができる。
- 13) 人体解剖実習が献体により支えられていることを実感し、感謝の念と使命感を抱き、態度を律することができる。

頭頸部局所解剖(講義)

学習目標(GIO):

歯科臨床における器官としての顎顔面領域の役割を理解するために、局所解剖学的構造と機能を人体解剖実習と連動させて統合的に修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 頭蓋骨の構成と構造を説明できる。
- 2) 咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。
- 3) 頭頸部の脈管系を説明できる。
- 4) 三叉神経と顔面神経の走向と分布および線維構成を説明できる。
- 5) CTやMRIなどの断面画像での顎顔面領域の解剖学的構造を説明できる。

05 人体の構造と機能

- 6) 顎関節の構造と機能を説明できる。
- 7) 頭頸部の筋膜と筋間隙について説明できる。
- 8) 麻酔科と関連する解剖学的構造を説明できる。
- 9) インプラント治療と関連する顎骨の形態学的特徴を説明できる。
- 10) 舌の形態学的特徴と機能を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9 ~ 12	24 ~ 10	人体解剖実習 31回	3x31	柴田俊一 寺島達夫 鹿野俊一 阿部達彦 馬場麻人 太田正人	解剖実習室	実習	1-10
	9	24	解剖実習1	3				
		26	解剖実習2	3				
		28	解剖実習3	3				
	10	1	解剖実習4	3				
		3	解剖実習5	3				
		5	解剖実習6	3				
		10	解剖実習7	3				
		15	解剖実習8	3				
		17	解剖実習9	3				
		22	解剖実習10	3				
		24	解剖実習11	3				
		26	解剖実習12	3				
		29	解剖実習13	3				
		31	解剖実習14	3				
	11	5	解剖実習15	3				
		7	解剖実習16	3				
		9	解剖実習17	3				
		12	解剖実習18	3				
		13	解剖実習19	3				
		14	解剖実習20	3				
		19	解剖実習21	3				
		19	解剖実習22	3				
		21	解剖実習23	3				
		27	解剖実習24	3				
		28	解剖実習25	3				
		30	解剖実習26	3				
	12	3	解剖実習27	3				
		4	解剖実習28	3				
		5	解剖実習29	3				

		6	解剖実習30	3				
		10	解剖実習試験	3		第2講義室		
			頭頸部の局所解剖講義(5回)	3x5				
24	11	8	口腔周囲の壁の構造	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1-10
		15	頭頸部の筋間隙と連絡路	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1-10
		22	頭頸部の脈管・神経	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1-10
		29	画像による頭頸部臨床解剖	3	倉林 亨	第2講義室	講義	1-10
	12	12	総まとめ	3	柴田俊一	第2講義室	講義	1-10

評価方法:

・解剖実習および頭頸部局所解剖学講義は解剖実習態度、口頭試問による形成的評価とともに、解剖実習終了時の筆記試験を行い、総合的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・人体解剖実習、頭頸部局所解剖のいずれも4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「人体解剖実習」(浦 良治著) 南江堂
- ・「実習人体解剖図譜」(浦 良治著) 南江堂
- ・「分担解剖学 第1巻・第2巻・第3巻」 金原出版
- ・「口腔解剖学 1-5」(上條雍彦著) アナトーム社
- ・「グレイ解剖学」(訳塩田浩平 他) エルゼビア・ジャパン
- ・「グレイ解剖学アトラス」(訳塩田浩平 他) エルゼビア・ジャパン

備考:

人体解剖実習用具ならびに実習着等が必要となる。
(詳細については担当教員から指示ある予定)

担当教員の Office Hour:

柴田俊一 教授 随時(事前に必ず連絡のこと) sshibata.mfa@tmd.ac.jp
 泰羅雅登 教授 随時(事前に必ず連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp
 寺島達夫 准教授 随時 t.terashima.mfa@tmd.ac.jp
 鹿野俊一 助教 水 16:00-17:00 shika..mfa@tmd.ac.jp
 阿部達彦 助教 火水金 16:00-18:00 tatsu_ab.mfa@tmd.ac.jp
 馬場麻人 助教 水木金 16:30-18:00 o.baba.bss@tmd.ac.jp
 太田正人 助教 水木金 16:30-18:00 mota-dev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	中枢神経系
ユニット責任者	寺島達夫
ユニット番号	09
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	29 + 3 (必要自習時間 23 時間)
授業形態	講義・実習

05 人体の構造と機能

中枢神経系

学習目標(GIO):

中枢神経系の構成を理解し、それらの構造と機能および機能統御の仕組みを修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 中枢神経系の構成と基本機能を説明できる。
- 2) 脊髄の構造と機能を説明できる。
- 3) 脳幹の構造と機能を説明できる。
- 4) 脳と脳被膜の関係を説明できる。
- 5) 脳の外観と内部構造を、機能と関連づけて説明できる。
- 6) 脳の主な線維連絡と伝導路を説明できる。
- 7) 脳の血流と脳脊髄液の流れを説明できる。
- 8) 血液脳関門を説明できる。
- 9) 反射、半自動運動、随意運動の発現と調節の機序を説明できる。
- 10) 脳の高次機能を脳の構造と機能構成の観点から説明できる。

脳解剖実習

学習目標(GIO):

人体における脳の系統的観察法を修得し、これらの構造と機能について統合的に理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 神経系の発生の知識を基に脳の区分を説明し、同定することができる。
- 2) 脳の基本構造を実際の脳において剖出・同定し、それらの解剖学的名称と相互の位置関係、機能について述べることができる。
- 3) 脳の主要な血管の走向とその支配領域を、剖出結果をもとに説明することができる。
- 4) 脳幹と脳神経を同定し、その構造と機能を説明することができる。
- 5) グループでの脳実習に協調的に参加することができる。
- 6) 脳と脊髄の内部構造を説明することができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs	
	24	11	6	中枢神経解剖 1	2	寺島達夫	第2講義室	講義	1,2,3,4,5,7,8
			20	中枢神経解剖 2	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1,2,3,4,5,7,8
			22	中枢神経解剖 3	1	寺島達夫	第2講義室	講義	1,2,3,4,5,7,8
			26	中枢神経系の機能 1	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	3,5,6,9
			28	中枢神経系の機能 2	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	3,5,6,9
	12	5		中枢神経系の機能 3	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	3,5,6,9
			11	中枢神経系の機能 4	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	10
			12	脳解剖実習	3	寺島達夫、柴田俊一 鹿野俊一、阿部達彦 馬場麻人、太田正人	解剖実習室	実習	1,2,3,4,5
			13	中枢神経系組織	3	寺島達夫、柴田俊一 鹿野俊一、阿部達彦 馬場麻人、太田正人	第1講義室	講義・実習	6
			14	脳解剖実習	3	寺島達夫、柴田俊一 鹿野俊一、阿部達彦 馬場麻人、太田正人	解剖実習室	実習	1,2,3,4,5
			17	脳解剖実習	3	寺島達夫、柴田俊一 鹿野俊一、阿部達彦 馬場麻人、太田正人	解剖実習室	実習	1,2,3,4,5
			20	筆記試験	3		第2講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日に筆記試験を行い、包括的評価を行う。但し、筆記試験の中に実習試験を含むものとする。
- ・脳解剖実習は口頭試問等で形成的評価をする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「分担解剖学第2巻 脈管学・神経系」 金原出版
- ・「最新カラー組織学」(L.P.ガートナー、J.L. ハイアット 著)西村書店
- ・「標準生理学」第6版(本郷利憲・廣重 力・豊田順一監修) 医学書院(詳細な記述が多く、末梢から中枢を網羅)
- ・「新生理学」第3版(小幡ら編) 文光堂(比較的中枢機能の説明が詳細)
- ・Principles of Neural Science 4th.ed McGraw-Hill.(形態と機能を関連づけて説明、神経科学の教科書)
- ・「図説中枢神経系」(水野昇・岩堀修明・中村泰尚著) 医学書院
- ・「人体解剖実習」(浦 良治著) 南江堂
- ・「実習人体解剖図譜」(浦 良治著) 南江堂

担当教員の Office Hour:

柴田俊一 教授	随時(ただし必ず事前に連絡のこと)	sshibata.mfa@tmd.ac.jp
泰羅雅登 教授	随時(ただし必ず事前に連絡のこと)	masato.cnb@tmd.ac.jp
寺島達夫 准教授	随時(ただし必ず事前に連絡のこと)	t.terashima.mfa@tmd.ac.jp
鹿野俊一 助教	随時(ただし必ず事前に連絡のこと)	shika.mfa@tmd.ac.jp
阿部達彦 助教	火水金 16:00-18:00	tatsu_ab.mfa@tmd.ac.jp
馬場麻人 助教	水木金 16:30-18:00	o.baba.bss@tmd.ac.jp
太田正人 助教	水木金 16:30-18:00	mota-dev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	生理機能実習
ユニット調整者	泰羅雅登
ユニット番号	10
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	27+0 (必要自習時間 8時間)
授業形態	実習

学習目標(GIO):

人体が正常に機能する「しくみ」を実験をととして実体験し、得られたデータを正確な解釈のもとに組み立てて現象を論理的に修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 神経が機能する現象を観測してそのメカニズムを解釈し説明できる。
- 2) 運動器官が機能する現象を観測してそのメカニズムを解釈し説明できる。
- 3) 中枢神経系が機能する現象を観測してそのメカニズムを解釈し説明できる。

実習項目

- 1) 神経の興奮と伝導 …………… 実験1回、データ整理1回
- 2) 咀嚼筋電図…………… 実験1回、データ整理1回

05 人体の構造と機能

- 3) 誘発筋電図 (H波・M波)・・・実験1回、データ整理1回
 4) 誘発脳波 (AVR, SEP)・・・実験1回、データ整理1回

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	7	10	実験	3	泰羅雅登、小島久幸 勝山成美、臼井信男 神代万里、山下晶子 磯田昌岐	1号館6F 実習室	複数のグループに分け、実習項目1)～4)を並行して実施する。	1,2,3
		11	データ整理	3				1,2,3
		12	実験	3				1,2,3
		17	データ整理	3				1,2,3
		18	実験	3				1,2,3
		19	データ整理	3				1,2,3
		23	実験	3				1,2,3
		24	データ整理	3				1,2,3
		26	筆記試験	3	実習室(予定)			

評価方法:

- ・実習項目毎のレポート(個人または班単位:実習項目による)と筆記試験による評価

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・特に定めない

担当教員の Office Hour:

- ・泰羅雅登 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp
- ・小島久幸 講師 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) yojima.cnb@tmd.ac.jp
- ・勝山成美 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) katz.cnb@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯の解剖
ユニット責任者	寺島達夫
ユニット番号	11
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	14 + 2 (必要自習時間 14 時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

ヒトの乳歯と永久歯の正常形態を学び、歯の形態の特徴と機能の関係を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 乳歯と永久歯の名称と、個々の歯の形態的特徴を説明できる。
- 2) 歯を正しく鑑別できる。
- 3) 歯列と咬合について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	歯の解剖総論	2	阿部達彦	第2講義室	講義・実習	1,2,3
		19	前歯の形態と鑑別	2	寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	1,2
		26	小臼歯の形態と鑑別	2	寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	1,2
	5	10	下顎大臼歯の形態と鑑別	2	寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	1,2
		17	上顎大臼歯の形態と鑑別	2	寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	1,2,
		24	乳歯の形態と鑑別	2	寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	1,2,3
		31	歯列および歯の異常	2	寺島達夫、阿部達彦 馬場麻人	第2講義室	講義・実習	1,3
	6	11	歯の解剖試験	2		第2講義室		

評価方法:

- ・筆記試験、実習試験の結果をもとに包括的評価をする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「歯の解剖学」第22版(藤田恒 太郎著 桐野忠大、山下靖雄 改訂) 金原出版

担当教員の Office Hour: ユニット情報

寺島達夫 准教授 随時 t.terashima.mfa@tmd.ac.jp

阿部達彦 助教 火水金 16:00-18:00 tatsu_ab.mfa@tmd.ac.jp

馬場麻人 助教 水木金 16:30-18:00 o.baba.bss@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯の発生と組織
ユニット責任者	高野吉郎
ユニット番号	12
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	23+2 (必要自習時間 12時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

歯と歯周組織の組織構造およびそれらの発生の仕組みを学び、顎顔面の発達に伴う咀嚼器の発生と発達、経年的変化の過程を包括的に修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯と歯周組織の発生の仕組みを説明できる。
- 2) 歯胚の構成要素と役割を説明できる。
- 3) 歯の硬組織の構造と組成および形成機構の概要を説明できる。
- 4) 歯髄の特徴と役割、経年変化を説明できる。
- 5) 歯周組織の構造と機能を説明できる。
- 6) 歯の萌出と交換の仕組みを説明できる。
- 7) 歯牙歯肉境の構造と機能を説明できる。
- 8) 歯と歯周組織の脈管と神経の特徴、それらの経年変化を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	28	歯の発生 (I)	2	高野吉郎	第1講義室	講義	1,2
	7	2	歯の発生 (II)	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	講義・実習	1,2,3
	7	5	エナメル質	3	高野吉郎	第1講義室	講義	1,2,3
		12	象牙質、歯髄(象牙質・歯髄複合体)	3	高野吉郎	第1講義室	講義	1,2,3,4
		18	エナメル質・象牙質(実習)	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	1,2,3,4
		20	歯周組織、歯の萌出と交換	3	高野吉郎	第1講義室	講義	5,6,8
		26	歯周組織、歯の萌出と交換(実習)	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	5,6,8
		27	歯牙歯肉境	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	講義・実習	7
		30	歯の発生と組織ユニット試験	2		第1講義室		

評価方法:

・筆記試験、実習試験の結果をもとに包括的評価をする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「口腔組織・発生学」(脇田 稔ら編) 医歯薬出版
- ・「カラーエッセンシャル口腔組織・発生学」(J. Avery 著、高野吉郎 監訳) 西村書店
- ・「Ten Cate's Oral Histology」6th Ed. Antonio Nanci, Mosby・「Oral Anatomy, Embryology and Histology」B. K. B. Berkovitz, G. R. Holland, B. J. Moxham, Mosby

備考:

- ・顕微鏡観察実習ではスケッチを行うので、実習日には12色程度の鉛筆セットを持参すること。
- ・スケッチ用紙としてA4普通紙を用意するが、A4ケント紙を持参してもいい。

担当教員の Office Hour: ユニット情報

高野吉郎 教授 随時 takanoy.bss@tmd.ac.jp (事前にメールでアポイントをとること)

ユニット情報

ユニット名	歯型彫刻
ユニット責任者	三浦宏之
ユニット番号	13
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	24+0
必要自習時間	5
授業形態	実習

学習目標(GIO):

永久歯の歯冠の解剖学的形態を正確に理解し、歯冠形態を回復するための基本的技法を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) ワックス棒を彫刻し、直線、曲線、点および面によって構成される種々の立体を造ることができる。
- 2) 解剖学的歯冠形態を描画できる。
- 3) ワックス棒を彫刻し、解剖学的歯冠形態を造ることができる。
- 4) 歯牙石膏半切模型にワックスを築盛し、歯冠形態を回復できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	11	歯型彫刻 上顎右側中切歯近心側ワックス修復	3	田上順次、高垣智博	補綴実習室	実習	1,2,3,4
		18	上顎右側第1大臼歯近心側ワックス修復	3	田上順次、高垣智博	補綴実習室	実習	1,2,3,4
		25	上顎右側第1小臼歯近心側ワックス修復	3	田上順次、高垣智博	補綴実習室	実習	1,2,3,4
	2	1	下顎右側第2大臼歯頬側ワックス修復	3	田上順次、高垣智博	補綴実習室	実習	1,2,3,4
	2	8	上顎左側第1大臼歯スケッチ, ワックス歯型彫刻	3	三浦宏之、和達重郎 水口俊介、秋葉徳寿 吉田恵一、吉田隆義 南 孝	補綴実習室	実習	1,2,3,4
		15	上顎左側第1大臼歯ワックス歯型彫刻	3	三浦宏之、和達重郎 水口俊介、秋葉徳寿 吉田恵一、吉田隆義 南 孝、能木場公彦 馬場史郎	補綴実習室	実習	1,2,3,4
		22	下顎左側第1大臼歯スケッチ, ワックス歯型彫刻	3	三浦宏之、和達重郎 水口俊介、秋葉徳寿 吉田恵一、吉田隆義 南 孝	補綴実習室	実習	1,2,3,4

評価方法:

・実習への参加姿勢、提出された製作物による形成的評価を行い、別途行われる実技試験で包括的評価をする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

・歯型彫刻実習は、実習の際に指導書が配布される。

担当教員の Office Hour:

三浦宏之 教授 水 10:30 - 12:00 h.miura.fpro@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	学年混合選択セミナー
モジュール責任者	(正)倉林 亨 (副)三輪全三、鈴木聖一、森尾郁子、豊福 明
モジュール番号	06
開設時期	3, 4, 5年 前期
モジュールコマ数	10

学習目標(GIO)

興味を抱く医歯学領域のテーマを自ら選び、理解を深める。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	選択コース 1-A, B, C, D, E, F, G, H, I, J (いずれか一つを選択する)	講義, 演習
02	選択コース 2-A, B, C, D, E, F, G, H, I (いずれか一つを選択する)	講義, 演習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、すべてのユニット(=2 ユニット)に合格しなければならない。各ユニット共に、授業回数の 2/3 以上 (5 回中 4 回以上)に出席しなければならない。ユニットの合格判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。

構成ユニット (* は、以前に受講した学生は選択できません)

[ユニット責任者]

* 1-A: 顔・顔・顔	[鈴木]
* 1-B: 海外留学と海外協力	[倉林]
* 1-C: 研究論文作成・特許取得	[三輪]
* 1-D: 明るい開業の道しるべ	[川元]
* 1-E: 多職種との連携・協働について考える	[遠藤]
1-F: アルクネットアカデミーを使用した医学英語入門 (1)	[森尾]
1-G: 診療室・国際学会の英語 [初級] (12 名以内)	[森尾]
1-H: Basic English Writing (1) (15 名以内)	[森尾]
1-I: 自分らしいキャリアを創るには ~医療者のキャリアデザイン①~ (30 名以内)	[有馬]
1-J: グローバルヘルスの潮流 (30 名以内)	[吉田]
* 2-A: ロボットの世界	[豊福]
* 2-B: 歯科医師の進路	[倉林]
2-C: 世界の歯科事情	[鈴木]
* 2-D: 製品開発への途	[三輪]
2-E: TMDU の海外拠点を理解し国際貢献を考える (30 名以内)	[吉田]
2-F: アルクネットアカデミーを使用した医学英語入門 (2)	[森尾]
2-G: Intensive Studies in Dental Terminology (20 名以内)	[森尾]
2-H: Basic English Writing (2) (15 名以内)	[森尾]
2-I: キャリア up のためのコミュニケーション ~医療者のキャリアデザイン②~ (30 名以内)	[有馬]

ユニット情報

ユニット名	選択コース 1-A: 顔・顔・顔
ユニット責任者	鈴木聖一
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義

以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。

学習目標(GIO):

顎口領域の治療において、顔に関する知識、配慮が重要であることを認識する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科医師にとって顔を扱うことの重要性を認識する。
- 2) 顔の表現法、評価分析法について説明できる。
- 3) 顔の見映えを変化させる方法、修復する方法を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	イントロダクション、絵画に見る顔	1	坂本光徳 (坂本矯正歯科院長)	保存・矯正 デモ室	講義	1- 3
	4	19	美容外科	1	森 弘樹 (本学形成外科学分野)	保存・矯正 デモ室	講義	1- 3
	4	26	目撃情報から似顔絵を描く	1	飯田康博 (元千葉県警鑑識課)	保存・矯正 デモ室	講義	1- 3
	5	10	化粧	1	青木昭子 (資生堂ライフオリエンター)	保存・矯正 デモ室	講義	1- 3
	5	17	顔の修復	1	向山 仁 (みなと赤十字病院口腔外科)	保存・矯正 デモ室	講義	1- 3

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

鈴木聖一 准教授 火・木 16:00- 17:00 s-suzuki.mort@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 1-B: 海外留学と海外協力
ユニット責任者	倉林 亨
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義

以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。

学習目標(GIO):

歯科医学領域における海外留学の意義を理解すると共に、海外協力に関する知識を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 海外留学することの成果について説明できる。
- 2) 世界各国における歯科研究の特徴について説明できる。
- 3) 歯科領域における海外協力の実際について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
23	4	12	海外留学の奨め1(研究編1)	1	小林宏明 (歯周病学分野)	講義室	講義	1-2
	4	19	海外留学の奨め2(研究編2)	1	和達礼子 (歯髄生物学分野)	講義室	講義	1-2
	4	26	海外留学の奨め3(臨床編)	1	西村賢市 (表参道デンタルサロン院長)	講義室	講義	1-2
	5	10	海外研修奨励制度による海外研修	1	三田 稔 (H19年度海外研修奨励制度派遣学生)	講義室	講義	1-2
	5	17	歯科医師の海外協力	1	曾根田兼司 (曾根田歯科室院長)	講義室	講義	3

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

倉林 亨 教授 火・木 16:00- 17:00 kura.orad@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 1-C: 研究論文作成・特許取得
ユニット責任者	三輪全三
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義

以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。

学習目標(GIO):

学会発表や論文発表においてすぐれた評価を受けた研究を知り、受賞や特許取得の意義を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 研究発表における受賞の意義を説明できる。
- 2) 独創的研究、先端医療技術について説明できる。
- 3) 特許取得制度とその出願方法について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	4	12	独創的研究・先端医療技術	1	三輪全三 (小児歯科学分野)	講義室	講義	1-3
	4	19	独創的研究・先端医療技術	1	青木 章 (歯周病学分野)	講義室	講義	1-3
	4	26	独創的研究・先端医療技術	1	金澤 学 (全部床義歯補綴学分野)	講義室	講義	1-3
	5	10	独創的研究・先端医療技術	1	山口 聡 (顎顔面外科学分野)	講義室	講義	1-3
	5	17	独創的研究・先端医療技術	1	渡 一平 (顎顔面矯正学分野)	講義室	講義	1-3

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

三輪全三 講師 月・水・木 16:30- 18:00 miwa.dohs@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 1-D: 明るい開業の道しるべ
ユニット責任者	川元龍夫
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義

以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。

学習目標(GIO):

歯科医院の開設に必要な会計、経営および法的事項の基礎について理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科医院の開設に必要な事項について簡単に説明できる。
- 2) 開業医の資質について考え、そのためにどのような学習、修練が必要か洞察できる。
- 3) 自らが理想とする開業形態について計画し、その概要について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	4	12	開業の手順	1	小島龍哉 (株式会社ヨシダ)	講義室	講義	1-3
	4	19	歯科医院の収支	1	宮田威夫 (株式会社モリタ)	講義室	講義	1-3
	4	26	医療訴訟	1	端山智弘 (衆議院第二議員会館歯科診療室)	講義室	講義	1-3
	5	10	歯科医師会とは	1	高橋秀直 (日本歯科医師会学術・生涯研修委員会副委員長)	講義室	講義	1-3

5	17	開業医の現実	1	辻 隆次 (医療法人社団啓歯会理事長)	講義室	講義	1-3
---	----	--------	---	------------------------	-----	----	-----

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

川元龍夫 講師 月・火・金 16:00- 17:00 t-kawamoto.mort@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 1-E: 多職種との連携・協働について考える
ユニット責任者	遠藤圭子
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義

以前にこのユニットを受講した学生は選択できません

学習目標(GIO):

歯科医師として他職種と協働するために、歯科保健・医療・福祉の場における専門職の種類、役割、業務内容を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科保健・医療・福祉における歯科医療従事者の活動を考える。
- 2) 人の生活機能と障害、その背景を理解する。
- 3) 地域における住民のネットワークづくり支援について考える。
- 4) 病棟における看護師・歯科衛生士の役割を理解する。
- 5) 高齢者支援のあり方と専門職種間の連携を理解する。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	歯科保健医療従事者の活動の現状と課題	1	遠藤圭子 (口腔保健学科准教授)	講義室	講義	1
	4	19	人びとの生活の質を向上するための活動とその意味	1	坪井 真 (口腔保健学科講師)	講義室	講義	1,2
	4	26	地域保健における歯科保健活動 -歯科医師・歯科衛生士の役割-	1	渡辺洋子 (江戸川区葛西健康サポートセンター)	講義室	講義	1,3
	5	10	入院患者の口腔ケアにおける歯科衛生士の役割	1	白田千代子 (口腔保健学科教授)	講義室	講義	1,4
	5	17	高齢者支援と歯科衛生士	1	白田千代子 (口腔保健学科教授)	講義室	講義	1,5

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

遠藤圭子 准教授(口腔保健学科) 火・木 17:00-18:00 usagi.aohc@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 1-F: アルクネットアカデミーを使用した医学英語入門(1)
ユニット責任者	森尾郁子
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	演習

学習目標(GIO):

医学英語の基本的語彙と表現の学習を通して、医療の場で英語が使えるようになるにはどのような学習が必要かを理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) アルクネットアカデミー2「医学英語入門」コースを適切に使用することができる。
- 2) 医学英語の基本的語彙と表現を修得する。
- 3) 自分にあった英語学習方法を見つけることができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	Listening (1) -a	1	森尾郁子 (歯学教育開発学分野)	第1講義室	演習	1-3
	4	19	Listening (2) -a	1	森尾郁子	第4講義室	演習	1-3
	4	26	Reading (1) -a	1	森尾郁子	第4講義室	演習	1-3
	5	10	Reading (2) -a	1	森尾郁子	第4講義室	演習	1-3
	5	17	Vocabulary (1)-a	1	森尾郁子	第4講義室	演習	1-3

評価方法:

・第5回目に行うテストによる。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

森尾郁子 教授 木 16:30- 18:00 imorio.edev@tmd.ac.jp

ユニット情報 (受講学生は 12 名以内とします)

ユニット名	選択コース 1-G: 診療室・国際学会の英語(初級)
ユニット責任者	森尾郁子
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	演習

内容が一部変わっていますので、以前にこのユニットを受講した学生も選択可能です。

06 学年混合選択セミナー

学習目標(GIO):

歯科診療、国際学会発表で使われる表現(初級)を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 診療室での会話で英語が使用できる。
- 2) 国際学会発表スライドを英語で説明できる。
- 3) 発音に注意して会話ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	英会話—医療面接	1	関 奈央子 (国際交流センター)	歯学教育開発学分野 セミナー室 (M&Dタワー7階)	演習	1-3
	4	19	英会話—治療説明一般	1	関 奈央子	同上	演習	1-3
	4	26	英会話—保存・補綴	1	関 奈央子	同上	演習	1-3
	5	10	学会発表の英語1	1	関 奈央子	同上	演習	1-3
	5	17	学会発表の英語2	1	関 奈央子	同上	演習	1-3

評価方法:

・受講態度による。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

以下のような図書を推薦する。

- ・英語で患者と話そう! part1 Thomas R. Ward 著 クインテッセンス出版株式会社
- ・丸ごと覚える 歯科臨床英会話フレーズ集 川口陽子監著 クインテッセンス出版株式会社

担当教員の Office Hour:

森尾郁子 教授 木 16:30 - 18:00 imorio.edev@tmd.ac.jp

ユニット情報(受講学生は15名以内とします)

ユニット名	選択コース 1-H: Basic English Writing (1)
ユニット責任者	森尾郁子
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	演習

学習目標(GIO):

Students will have the opportunity to write on topics of interest to them with increasing fluency.

到達目標(SBOs):

- 1) The learning and practice of strategies for writing clear and concise English.
- 2) The ability to summarize an article and discuss its main points.

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	Basic English Writing (1)	1	Kevin Cleary (国際交流センター)	国際交流センター教室 (1号館4階)	演習	1-2
	4	19	Basic English Writing (2)	1	Kevin Cleary	同上	演習	1-2
	4	26	Basic English Writing (3)	1	Kevin Cleary	同上	演習	1-2
	5	10	Basic English Writing (4)	1	Kevin Cleary	同上	演習	1-2
	5	17	Basic English Writing (5)	1	Kevin Cleary	同上	演習	1-2

評価方法:

・Classwork: Completion and the quality of work

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

森尾郁子 教授 木 16:30 - 18:00 imorio.edev@tmd.ac.jp

ユニット情報(受講学生は30名以内とします)

ユニット名	選択コース 1-I: 自分らしいキャリアを創るには ~医療者のキャリアデザイン①~
ユニット責任者	有馬牧子
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義 及び 演習

学習目標(GIO):

キャリアや自己理解について学び、今後の具体的なキャリアプランの道筋を立てられるようにする。
医療者として男女ともに多様なキャリアがあることを知り、男女共同参画の視点を培う。

到達目標(SBOs):

- 1) キャリアの内容や、「自分らしいキャリアチャンス」の作り方を考える。
- 2) キャリア形成に必要な「自己理解」を行い、自分の価値観について理解する。
- 3) これまでのキャリアと現在のキャリアを振り返り、将来のキャリアをデザインできるようにする。
- 4) 将来の仕事と家庭との両立方法など、男女でキャリアについて考える。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	キャリアとは	1	有馬牧子 (女性研究者支援室)	歯学部演習室 (3, 4)	講義	1-4
	4	19	自分の価値観を知ろう	1	有馬牧子	同上	演習	1-4
	4	26	自分のキャリアを考えよう①	1	有馬牧子	同上	演習	1-4
	5	10	自分のキャリアを考えよう②	1	有馬牧子	同上	演習	1-4
	5	17	将来のキャリアをデザインしよう	1	有馬牧子	同上	演習	1-4

06 学年混合選択セミナー

評価方法:

- ・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

有馬牧子 特任助教 月～金 13:00- 17:00 arima.ang@tmd.ac.jp

ユニット情報 (受講学生は 30 名以内とします)

ユニット名	選択コース 1-J: グローバルヘルスの潮流
ユニット責任者	吉田 丘
ユニット番号	01
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0 (必要自習時間 2時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

グローバル・ヘルスの潮流とJICAが行う国際保健協力について学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 途上国を中心としたグローバル・ヘルスの概況を理解する。
- 2) JICA が行う国際保健協力について理解する。
- 3) 国際保健協力の実践として感染症対策について理解する。
- 4) 国際保健協力の実践として母子保健について理解する。
- 5) 国際保健協力の実践として保健システム強化について理解する。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	グローバルヘルスの潮流と日本の国際保健政策	1	石井 羊次郎 (独立行政法人 国際協力機構)	歯学部演習室(1, 2)	講義	1,2
	4	19	国際保健協力の実践: 感染症対策	1	磯野 光夫 (同上)	同上	講義	3
	4	26	国際保健協力の実践: 母子保健	1	萩原 明子 (同上)	同上	講義	4
	5	10	国際保健協力の実践: 保健システム強化	1	萩原 明子 (同上)	同上	講義	5
	5	17	コース総括: 討議	1	石井 羊次郎 (同上)	同上	講義	1-5

評価方法:

- ・授業態度などを基に総合的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

吉田 丘 特任教授 木 16:00- 17:00 qqy.yoshida.isc@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 2-A: ロボットの世界
ユニット責任者	豊福 明
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義

以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。

学習目標(GIO):

ロボットに何ができ、またどのように使用されているのか認識する。

到達目標(SBOs):

- 1) 現在のロボットにどのようなことができるか説明できる。
- 2) ロボットを使用することの意義について意見を述べられる。
- 3) ロボットが活躍できる場を考え、その有用性について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	24	次世代ロボットの紹介	1	先川原正浩 (千葉工業大学未来ロボット技術研究センター)	保存・矯正 デモ室	講義	1-3
	5	31	咀嚼とロボット	1	高信英明 (工学院大学機械システム工学部)	保存・矯正 デモ室	講義	1-3
	6	14	介護領域のロボット	1	関口史郎 (かながわ福祉サービス振興会)	保存・矯正 デモ室	講義	1-3
	6	21	二足歩行ロボットを動かす	1	近藤博信 (株式会社近藤科学)	保存・矯正 デモ室	講義	1-3
	6	28	コミュニケーションロボット	1	鈴木純二 (三菱重工業機械鉄鋼事業部)	歯科外来 事務棟 4F 演習室	講義	1-3

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

豊福 明 教授 火・水 16:30- 18:00 toyoompm@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 2-B: 歯科医師の進路
ユニット責任者	倉林 亨
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義

以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。

06 学年混合選択セミナー

学習目標(GIO):

歯科医師として、将来の活躍の場に多様な選択肢のあることを認識する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科医師の活動とその社会的意義を説明できる。
- 2) 進路を選択する上で、自らに必要な課題を抽出できる。
- 3) 進路を選択する上で、自らの適性について評価できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
23	5	24	歯科勤務医	1	清水義一 (しみず歯科医院)	講義室	講義	1-3
	5	31	歯科開業医 1	1	中野由美子 (中成堂歯科医院開業)	講義室	講義	1-3
	6	14	東大病院の歯科医師	1	須佐美隆史 (東京大学医学部附属病院顎口腔外科 歯科矯正歯科准教授)	講義室	講義	1-3
	6	21	歯科開業医 2 (インプラント専門医)	1	菅井敏郎 (医療法人 UC 会 銀座 UC デンタルイン プラントセンター所長)	講義室	講義	1-3
	6	28	行政官	1	土屋律子 (葛飾区保健所健康推進課専門副参事)	講義室	講義	1-3

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

倉林 亨 教授 火・木 16:00- 17:00 kura.orad@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 2-C: 世界の歯科事情
ユニット責任者	鈴木聖一
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義 (東京医科歯科大学で学ぶ外国人留学生による平易な英語による講義)

学習目標(GIO):

英語で行われる授業内容を理解する。
世界各国の文化および歯科事情を学び、国際的な感覚を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 英語で行われる授業の内容を理解し把握する。
- 2) 世界各国の歯科教育制度の違いについて説明できる。
- 3) 世界各国の社会医療制度の違いについて説明できる。
- 4) 世界各国の文化的背景の特徴について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	24	世界の歯科事情 1	1	外国人留学生 (本学大学院生)	講義室	講義	1-4
	5	31	世界の歯科事情 2	1	外国人留学生 (本学大学院生)	講義室	講義	1-4
	6	14	世界の歯科事情 3	1	外国人留学生 (本学大学院生)	講義室	講義	1-4
	6	21	世界の歯科事情 4	1	外国人留学生 (本学大学院生)	講義室	講義	1-4
	6	28	世界の歯科事情 5	1	外国人留学生 (本学大学院生)	講義室	講義	1-4

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

鈴木聖一 准教授 火・木 16:00- 17:00 s-suzuki.mort@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 2-D: 製品開発への途
ユニット責任者	三輪全三
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義

以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。

学習目標(GIO):

歯科関連器材が製品開発されるまでの過程を各企業の開発担当社から学び、臨床研究における産学連携の意義を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) どのようなニーズから製品開発プロジェクトが生まれるのか具体例を説明できる。
- 2) 機器や材料の製品開発までの過程を説明できる。
- 3) 産学連携における企業と大学の役割について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	24	製品開発への途 1	1	戸崎 敏 (GC)	講義室	講義	1- 3
	5	31	製品開発への途 2	1	岡上吉秀 (モリタ製作所)	講義室	講義	1- 3
	6	14	製品開発への途 3	1	常川勝由 (日本歯科薬品)	講義室	講義	1- 3
	6	21	製品開発への途 4	1	中嶋省志 (本学特任講師)	講義室	講義	1- 3
	6	28	製品開発への途 5	1	深澤太郎 (株式会社ソシダ)	講義室	講義	1- 3

06 学年混合選択セミナー

評価方法:

・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

三輪全三 講師 月・水・木 16:30- 18:00 miwa.dohs@tmd.ac.jp

ユニット情報 (受講学生は 30 名以内とします)

ユニット名	選択コース 2-E: TMDU の海外拠点を理解し国際貢献を考える
ユニット責任者	吉田 丘
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0 (必要自習時間 2時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

TMDU が行っている海外拠点を理解すると共にJICAの行う草の根技術協力事業を考える。

到達目標(SBOs):

- 1) チリ海外拠点の活動を理解する。
- 2) ガーナ海外拠点の活動について理解する。
- 3) タイ海外拠点の活動について理解する。
- 4) JICAの行う草の根技術協力事業を理解する。
- 5) カンボジアにおける草の根技術協力事業(口腔保健分野)について理解する。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	24	チリ海外拠点について	1	吉田 丘 (国際交流センター)	歯学部演習室(1, 2)	講義	1
	5	31	ガーナ海外拠点について	1	吉田 丘	同上	講義	2
	6	14	タイ海外拠点について	1	吉田 丘	同上	講義	3
	6	21	JICAの草の根技術協力事業について	1	吉田 丘	同上	講義	4
	6	28	カンボジアにおける草の根技術協力事業(口腔保健分野)について	1	吉田 丘	同上	講義	5

評価方法:

・授業態度などを基に総合的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

吉田 丘 特任教授 木 16:00- 17:00 qqy.yoshida.isc@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	選択コース 2-F: アルクネットアカデミーを使用した医学英語入門 (2)
ユニット責任者	森尾郁子
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	演習

学習目標(GIO):

医学英語の基本的語彙と表現の学習を通して、医療の場で英語が使えるようになるにはどのような学習が必要かを理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) アルクネットアカデミー2「医学英語入門」コースを適切に使用することができる。
- 2) 医学英語の基本的語彙と表現を修得する。
- 3) 自分にあった英語学習方法を見つけることができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	24	Listening (1) -b	1	森尾郁子 (歯学教育開発学分野)	第4講義室	演習	1-3
	5	31	Listening (2)-b	1	森尾郁子	同上	演習	1-3
	6	14	Reading (1) -b	1	森尾郁子	同上	演習	1-3
	6	21	Reading (2) -b	1	森尾郁子	同上	演習	1-3
	6	28	Vocabulary (1)-b	1	森尾郁子	同上	演習	1-3

評価方法:

・第5回目に行うテストによる。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

森尾郁子 教授 木 16:30 - 18:00 imorio.edev@tmd.ac.jp

ユニット情報(受講学生は20名以内とします)

ユニット名	選択コース 2-G: Intensive Studies in Dental Terminology
ユニット責任者	森尾郁子
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	演習

内容が一部変わっていますので、以前にこのユニットを受講した学生も選択可能です。

学習目標(GIO):

リーディングを通して専門用語(英語)の学習を目的とする。

06 学年混合選択セミナー

到達目標(SBOs):

- 1) 歯学に関する文章を読み、内容を把握できる。
- 2) 歯学で使われる英単語を理解できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	24	Terminology 1	1	関奈央子 (国際交流センター)	歯学教育開発学分野 セミナー室 (M&Dタワー7階)	演習	1-2
	5	31	Reading 1	1	関奈央子	同上	演習	1-2
	6	14	Terminology 2	1	関奈央子	同上	演習	1-2
	6	21	Reading 2	1	関奈央子	同上	演習	1-2
	6	28	Review/Terminology 3	1	関奈央子	同上	演習	1-2

評価方法:

- ・第5回目に行うテストによる。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

森尾郁子 教授 木 16:30 - 18:00 imorio.edev@tmd.ac.jp

ユニット情報 (受講学生は 15 名以内とします)

ユニット名	選択コース 2- H: Basic English Writing (2)
ユニット責任者	森尾郁子
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	演習

学習目標(GIO):

Students will have the opportunity to write on topics of interest to them with increasing fluency.

到達目標(SBOs):

- 1) The learning and practice of strategies for writing clear and concise English.
- 2) The ability to summarize an article and discuss its main points.

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	24	Basic English Writing (6)	1	Kevin Cleary (国際交流センター)	国際交流センター 教室(1号館4階)	演習	1-2
	5	31	Basic English Writing (7)	1	Kevin Cleary	同上	演習	1-2
	6	14	Basic English Writing (8)	1	Kevin Cleary	同上	演習	1-2
	6	21	Basic English Writing (9)	1	Kevin Cleary	同上	演習	1-2
	6	28	Basic English Writing (10)	1	Kevin Cleary	同上	演習	1-2

評価方法:

- ・Classwork: Completion and the quality of work

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

森尾郁子 教授 木 16:30 - 18:00 imorio.edev@tmd.ac.jp

ユニット情報(受講学生は 30 名以内とします)

ユニット名	選択コース 2- I: キャリア up のためのコミュニケーション ～医療者のキャリアデザイン②～
ユニット責任者	有馬牧子
ユニット番号	02
開設時期	3, 4, 5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0
授業形態	講義 及び 演習

学習目標(GIO):

キャリアを作っていく上で必要な「コミュニケーション力」を身につけ、今後の人間関係やキャリア形成に役立てる。
自分の将来の目標やゴールを考え、それを実現するための行動力を培う。
患者さんとのコミュニケーションの取り方のヒントを学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 自分の物の見方やコミュニケーションのパターンを理解する。
- 2) 職場や家庭など、周囲とより良い人間関係を築くためのコミュニケーションスキルを学ぶ。
- 3) 自分にとってのモチベーションを考える。
- 4) 患者さんとのコミュニケーションの取り方や、医療カウンセリングについて考える。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	24	自分の考え方のパターンを知ろう①	1	有馬牧子 (女性研究者支援室)	歯学部演習室 (3, 4)	講義	1-4
	5	31	自分の考え方のパターンを知ろう②	1	有馬牧子	同上	演習	1-4
	6	14	コミュニケーション力を鍛えよう①	1	有馬牧子	同上	演習	1-4
	6	21	コミュニケーション力を鍛えよう②	1	有馬牧子	同上	演習	1-4
	6	28	患者さんとのコミュニケーション	1	有馬牧子	同上	演習	1-4

評価方法:

- ・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

有馬牧子 特任助教 月～金 13:00- 17:00 arima.ang@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	課題統合セミナー
モジュール責任者	(正)小野 卓史 (副)隅田 由香
モジュール番号	07
開設時	3年 後期、4年 後期、5年 前期
モジュールコマ数	63(3) (必要自習時間 25 時間)

学習目標(GIO)

一つのテーマに沿ってさまざまな側面からの知識の整理を行い、より深い理解を行う。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	咀嚼と嚥下のバイオロジー	講義
02	骨のバイオロジー	講義
03	ことばの世界	講義
04	オクルージョン	講義
05	歯科と色	講義
06	口唇裂口蓋裂	講義
07	全人的総合診断	講義

01、02 ユニットは3年次、03、04、05 ユニットは4年次、06、07 ユニットは5年次に行う。

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	咀嚼と嚥下のバイオロジー
ユニット責任者	泰羅 雅登
ユニット番号	01
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	8+0 (必要自習時間 5時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

咀嚼・嚥下に関する知識を統合理解し、歯科医療における位置付けを確認する。

到達目標(SBOs):

- 1) 咀嚼・嚥下に関わる構造を説明できる。
- 2) 咀嚼・嚥下の機能を説明できる。
- 3) 咀嚼・嚥下の中枢制御機構を説明できる。
- 4) 咀嚼・嚥下に関わる構造および機能の食性による違いを理解する。
- 5) 摂食機能の発達過程を説明できる。
- 6) 摂食・嚥下障害の病態を理解する。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	25	咀嚼機能と中枢制御機構	1	泰羅 雅登	第2講義室	講義	1, 2, 3, 4
	11	1	咀嚼機能と末梢性調節機構	1	泰羅 雅登	第2講義室	講義	1, 2, 3, 4
		8	嚥下の神経機構	1	泰羅 雅登	第2講義室	講義	1, 2, 3, 4
		21	摂食・嚥下機構	2	井上 誠	第2講義室	講義	1, 2, 3, 4
		29	摂食・嚥下障害	1	中根 綾子	第2講義室	講義	6
	12	6	摂食・嚥下障害	1	中根 綾子	第2講義室	講義	6
		13	摂食機能の生後発達	1	石川 雅章	第2講義室	講義	5

評価方法:

- ・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考資料:

- ・摂食・嚥下のメカニズム, 解剖, 生理編(CD-ROM) 井出吉信, 山田好秋監修, 医歯薬出版
- ・咀嚼する脳—咀嚼運動をコントロールする脳・神経の仕組み, 中村嘉男著, 医歯薬出版

担当教員の Office Hour:

泰羅 雅登 教授 (認知神経生物学分野) 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	骨のバイオロジー
ユニット責任者	大谷啓一
ユニット番号	02
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	7+0 (必要自習時間 5時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

骨のバイオロジーに関する知識を統合整理し、歯科医療における位置付けを確認する。

到達目標(SBOs):

- 1) 骨芽細胞の機能を説明できる。
- 2) 破骨細胞の機能を説明できる。
- 3) 骨モデリング、リモデリングを説明できる。
- 4) 骨・軟骨代謝に関わる生物学的調節因子とその連携を理解できる。
- 5) 骨疾患の病態とその治療方法を理解できる。
- 6) 骨発生の分子メカニズムを説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	7	骨芽細胞のバイオロジー	1	二藤 彰	第2講義室	講義	1, 3, 4
		10	骨形成と発生のバイオロジー	1	江面 陽一	第2講義室	講義	1, 3, 4, 6
		17	プロスタグランジンと骨のバイオロジー	1	森田 育男	第2講義室	講義	4, 5
		24	破骨細胞のバイオロジー	1	高柳 広	第2講義室	講義	2, 3, 5
		31	軟骨のバイオロジー	1	篠村 多摩之	第2講義室	講義	4
	2	7	骨病態のバイオロジー	1	山口 朗	第2講義室	講義	4, 5
		14	骨疾患薬物治療とバイオロジー	1	大谷 啓一	第2講義室	講義	2, 3, 5

評価方法:

- ・課題に対するレポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考資料:

- ・Osteoimmunology: Interactions of the Immune and Skeletal Systems, San Diego, CA:ELSEVIER, 2010
- ・Primer on the Metabolic Bone Diseases and Disorders of Mineral Metabolism, Seventh edition, ASBMR Societ, 2009
- ・Connective Tissue and Its Heritable Disorders. (eds: Royce PM, Steinmann B), 2nd ed, Wiley-Liss, New York, 2002
- ・骨研究がわかる(羊土社)

担当教員の Office Hour:

大谷啓一 教授 (硬組織薬理学分野)	月・火	16:00-18:00	kohya.hpha@tmd.ac.jp
二藤彰 非常勤講師 (鶴見大学)			nifuji-a@tsurumi-u.ac.jp
江面陽一 准教授 (分子薬理学)	木	17:00-18:00	ezura.mph@mri.tmd.ac.jp
森田育男 教授 (分子細胞機能学分野)	月・金	18:00-19:00	morita.cell@tmd.ac.jp
高柳広 教授 (分子情報伝達学分野)	月・金	16:00-17:00	taka.csi@tmd.ac.jp
篠村多摩之 准教授 (硬組織再生学分野)	月・水・金	16:00 以降	t.shinomura.trg@tmd.ac.jp
山口朗 教授 (口腔病理学分野)	木	16:30-18:00	akira.mpa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	ことばの世界
ユニット責任者	隅田 由香
ユニット番号	03
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1 (必要自習時間 3時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

音、声、ことばという観点から歯科医療を検討することで知識の整理とさまざまな要因を説明できる。

到達目標(SBOs):

- 1) 構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。
- 2) 口腔外科治療とことばの問題を整理できる。
- 3) ことばに関わる治療を行うために用いられる技術や手法を整理できる。
- 4) 補綴治療とことばの問題を整理できる。
- 5) 言語障害を概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	10	解剖学から見たことば	1	佐藤 巖	第3講義室	講義	1・5
	1	17	口腔外科とことば	1	佐藤 豊	第3講義室	講義	2・5
	1	24	ことばの診断と治療への応用	1	伊福部 達	第3講義室	講義	3・5
	1	31	補綴とことば・症例検討	2	隅田由香・山城正司・服部麻里子	第3講義室	演習	4・5
	2	7	筆記試験	1	各分野代表	第3講義室	試験	1, 2, 3, 4, 5

評価方法:

・ユニット最終日に、筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

07 課題統合セミナー

参考資料:

- ・声と言葉のしくみ 亀田和夫著 口腔保健協会
- ・言語聴覚士に必要な歯科の知識 谷口尚 片倉伸郎 大野友久 隅田由香 インテルナ出版, 2007
- ・顎顔面補綴の臨床 咀嚼・嚥下・発音の機能回復のために 編集 大山喬史 谷口尚, 医学情報社
- ・音の福祉工学 伊福部達 コロナ社 1997
- ・Acoustic analysis of Speech Ray D Kent.編 Singular publishing group INC

担当教員の Office Hour:

隅田 由香 講師 火・水・木 16:00-17:00 yuka.mfp@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	オクルージョン
ユニット責任者	小野卓史
ユニット番号	04
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	6+1 (必要自習時間 3時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

咬合に関する知識を整理し、人の一生とともに俯瞰的に理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 乳歯の正常な萌出ならびに異常とそれに関与する因子を説明できる。
- 2) 乳歯列から混合歯列への正常な移行とその阻害因子を説明できる。
- 3) 混合歯列から永久歯列への正常な移行とその阻害因子を説明できる
- 4) 咬合の維持ならびに崩壊に関与する因子を説明できる。
- 5) 咬合と全身機能との関係を説明できる。
- 6) 咬合と顎機能異常との関連を説明できる。
- 7) 咬合治療におけるチームアプローチの重要性を具体的に述べる事ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	10	歯が生えるまで	1	井上美津子 (昭和大学教授・咬合機能矯正学 非常勤講師)	第3講義室	講義	1
	1	17	乳歯列から混合歯列へ	1	三輪全三 (小児歯科学)	第3講義室	講義	2
	1	24	混合歯列から永久歯列へ	1	松本芳郎 (咬合機能矯正学)	第3講義室	講義	3

1	31	高齢化(老化)と咬合	1	水口俊介 (全部床義歯補綴学)	第3講義室	講義	4
2	7	咬合と顎機能異常	1	木野孔司 (顎関節咬合学)	第3講義室	講義	4.5.67
2	14	咬合と全身機能	1	上野俊明 (スポーツ医歯学)	第3講義室	講義	4.6
2	21	筆記試験	1		第3講義室	講義	4.7

評価方法:

- ・講義中における観察記録、ならびにユニット最終回の筆記試験(平成25年2月21日)により総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考図書等:

- ・咀嚼運動の生理学 中村嘉男著、医歯薬出版、東京、1998
- ・テキストブック オクルージョン Mohl/Zarb/Carlsson/Rugh 共著、藍稔訳、クインテッセンス、東京、1993
- ・入門咬合学(古谷野潔ほか、補綴臨床 Practice Selection、医歯薬出版)
- ・新編咬合学辞典(保母須美也、クインテッセンス出版)
- ・全図解 顎関節症とかみ合わせの悩みが解決する本。健康ライブラリー図解シリーズ。講談社、東京、2011.
- ・歯科技工別冊・図解咬合の基礎知識(五十嵐孝義・田村勝美、医歯薬出版)
- ・オクルージョン・咬合治療の理論と臨床(覚道幸男・三谷春保・碑田豊治、医歯薬出版)
- ・スポーツ歯学の臨床(大山喬史、医学情報社)
- ・スポーツ歯科臨床マニュアル(日本スポーツ歯科医学会編、医学情報社)
- ・Clinical Management of Head, Neck and TMJ Pain and Dysfunction(Gelb H, WB Saunders, 1985)
- ・New Concepts in Craniomandibular and Chronic Pain Management(Gelb H, Mosby-Wolfe, 1994)

担当教員の Office Hour:

小野卓史 教授 月・水 16:00~17:30 t.ono.orts@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科と色
ユニット責任者	大槻昌幸
ユニット番号	05
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	8+0 (必要自習時間 8時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯科診療における色の効果について理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 色の基本的性質について説明できる。

07 課題統合セミナー

- 2) 口腔および顎顔面の色の特徴について説明できる。
- 3) 口腔および顎顔面の治療における色の果たす役割を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	10	色の基本	1	飯田敏朗	第3講義室	講義	1,2,3
	1	17	直接法歯冠修復における色1	1	趙永哲	第3講義室	講義	2
	1	24	直接法歯冠修復における色2	1	大槻昌幸	第3講義室	講義	2
	2	7	口腔粘膜・皮膚と色	1	山城正司	第3講義室	講義	1
	2	14	歯内療法と歯の変色	2	須田英明	第3講義室	講義	3
	2	21	間接法歯冠修復における色	2	三浦宏之	第3講義室	講義	2

評価方法:

- ・小テストを適宜実施し、客観的評価を行う。
- ・課題に対するレポートを提出し評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等

- ・歯の色の話、日本歯科色彩学会編、1999年、クインテッセンス
- ・Fundamentals of color Shade matching and communication in esthetic dentistry 2nd ed, S.J.Chu, A 他、2010年、Quintessence

担当教員の Office Hour:

大槻昌幸 准教授 月・火・木・金 17:00以降 水 18:00以降 otsuki.ope@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	口唇裂口蓋裂
ユニット責任者	小村 健
ユニット番号	06
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+0
授業形態	講義

学習目標(GIO):

口唇口蓋裂の病態ならびに治療法を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 口唇口蓋裂の発生と成因を説明できる。
- 2) 口唇口蓋裂患者の言語の問題を述べることができる。

- 3) 各時期における外科治療について述べることができる。
- 4) 顎発育障害および咬合不全に対する治療体系を説明できる。
- 5) 口唇口蓋裂のチームアプローチの重要性を述べるすることができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	6	口唇口蓋裂の発生と成因	1	井関祥子(発生学)	第4講義室	講義	1
	6	6	出生直後から口唇、口蓋形成術まで	2	落合 聡(小児歯科) 森田圭一(口腔外科)	第4講義室	講義	2, 3, 4, 5
	6	19	幼児期・学童期の治療	3	壬生美智子(言語治療 外来)／森田圭一/馬場 祥之(矯正歯科)	第4講義室	講義	2, 3, 4, 5
	6	22	青少年期から成人までの治療	3	森田圭一/小川卓也(矯 正歯科)／ 隅田由香 (顎顔面補綴)	第4講義室	講義	2, 3, 4, 5

評価方法:

- ・レポートによる総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考資料:

- ・高橋庄二郎: 口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床. 日本歯科評論社、東京、1996.
- ・森口隆彦: 口唇裂口蓋裂の総合治療. 克誠堂出版、東京、2003
- ・David S. Precious. : Cleft lip and palate: A physiological approach. Oral and Maxillofacial Surgery Clinics of North America. W. B. Saunders Co, Philadelphia, 12(3): 2000.

担当教員の Office Hour:

森田圭一 特任講師 木・金 16:00-17:00 keiichi.m.osur@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	全人的総合診断	
ユニット責任者	荒木孝二	
ユニット番号	07	
開設時期	5年 前期	
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+1	(必要自習時間 9時間)
授業形態	講義・演習・実習	

学習目標(GIO):

口腔内診査の基本を理解するとともに、与えられた患者医療情報を全人的・総合的に分析することにより、正しい診断、治療

07 課題統合セミナー

法の選択、治療計画の立案について理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 患者医療情報を正しく収集できる。
- 2) 口腔内診査の基本が正しく実施できる。
- 3) 患者医療情報を分類する。
- 4) 患者医療情報から正しい診断を行う。
- 5) 診断から治療法が選択できる。
- 6) 患者中心の治療計画が立案できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	7	25	全人的総合診断 1	3	荒木孝二 俣木志朗	第4講義室	講義	3,4,5
	7	25	全人的総合診断 2	3	荒木孝二 礪波健一 松成淳一	第4講義室	講義	3,4,5
	7	26	全人的総合診断 3	3	荒木孝二 大山 篤 佐藤光生	第4講義室	講義	3,4,5
	7	27 30	治療法の選択・治療計画 の立案 演習*	3	荒木孝二、小田茂 秀島雅之、礪波健一 浜野英也、松成淳一 飯田浩司、佐野和信	1号館西6階 演習室	講義・演習	1,3,4,5,6
	7	27 30	口腔診査実習*	3	荒木孝二、小田茂 新田浩、大原里子 秀島雅之、礪波健一 浜野英也、松成淳一 佐野和信	1号館西7階 口腔保健学科 実習室	実習	2,3
	7	27 30	医療面接演習*	3	荒木孝二、新田浩 大原里子、礪波健一 大山篤、松成淳一 飯田浩司、佐野和信	1号館西6階 演習室	講義・演習	1,3
	7	31	筆記試験	1	荒木孝二	第3、第4講義 室		1,2,3,4,5,6

*は3班集体でのグループ毎のローテーション演習・実習で実施

評価方法:

- ・原則として各授業のはじめと終わりにミニテストによる形成的評価を行う。
- ・授業・演習・実習中の平常点、およびユニット最後の筆記試験(平成24年7月31日)により総括的に評価する。
- ・グループローテーション演習・実習を休んだ場合は補習を必要とする。補習を受けなかった場合は総括評価を保留とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・イラストレイテッド・クリニカル・デンティストリー①患者の診かたと歯科診療(黒崎紀正他編、医歯薬出版、2001)
- ・Evidence Based Dentistry (The Dental Clinics of North America, Vol. 46, No.1, 2002)
- ・口と歯の病気マップ(齋藤力他編、医歯薬出版、2003)
- ・迷ったときに見る口腔病変の診断ガイド(坂下英明・草間 薫、クインテッセンス出版、2003)
- ・補綴臨床に必要な顎口腔の基礎知識(藍 稔、学建書院、2006)
- ・歯科診療のための内科(子島潤他編、永末書店、2007)
- ・口腔癌の早期診断アトラス(天笠光雄他著、医歯薬出版、2008)

担当教員の Office Hour:

荒木孝二 教授 月～金 16:30-18:00 karaki.gend@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	感染と生体防御
モジュール責任者	(正)東 みゆき (副)中川一路
モジュール番号	08
開設時期	3年 後期
モジュールコマ数	84 (4) (学生自習時間20時間)

学習目標(GIO)

感染症の原因となる病原生物の性状および作用を学ぶとともに、生体防御機構を理解する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	感染と免疫概論	講義
02	病原性細菌と感染症	講義・実習
03	病原性ウイルスと感染症	講義・実習
04	生体免疫応答	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュール単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、当該モジュールの全ユニットにおける講義および実習総数のそれぞれ3分の2以上の出席が単位取得に必要である。

ユニット情報

ユニット名	感染と免疫概論
ユニット責任者	中川 一路
ユニット番号	01
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	14 + 1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

感染と生体防御の基礎的機構を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 感染症と人類の歴史について概説できる。
- 2) 微生物学の歴史を概説できる。
- 3) 滅菌と消毒の意義と代表的な方法について原理を説明できる。
- 4) 微生物の多様性について説明できる。
- 5) 免疫学の歴史を概説できる。
- 6) 微生物の生理代謝について説明できる。
- 7) 細菌の構造について説明できる。
- 8) 環境中の微生物分布や病原性微生物の侵入経路について説明できる。
- 9) 人と微生物の共生について説明できる。
- 10) 血液の構成成分を列挙できる。
- 11) リンパ球循環について説明できる。
- 12) サイトカイン・ケモカインについて説明できる。
- 13) 血液・免疫系細胞の分化について説明できる。
- 14) 免疫細胞の種類が列挙でき、その機能が説明できる。
- 15) T・Bリンパ球の多様性の獲得と抗原認識のしくみが説明できる。
- 16) 化学療法と耐性獲得の仕組みについて説明できる。
- 17) 抗原提示細胞について説明できる。
- 18) 抗原特異的な免疫応答の成立を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	11	20	感染症と微生物学の歴史	1	中川一路	第2講義室	講義	1,2,3
		20	微生物の多様性と分類	1	中川一路	第2講義室	講義	4
		20	免疫システム概論	1	東みゆき	第2講義室	講義	1,5
	11	27	環境と微生物(1)	1	丸山史人	第2講義室	小テスト 講義	6
		27	環境と微生物(2)	1	丸山史人	第2講義室	講義	7
	11	27	微生物の構造	1	中川一路	第2講義室	講義	8
	12	4	微生物の病原因子	1	中川一路	第2講義室	小テスト 講義	9
	12	4	リンパ組織とリンパ球循環	1	東みゆき	第2講義室	講義	10,11,12

	12	4	免疫担当細胞	1	岩井佳子	第2講義室	講義	10,13,14
	12	11	リンパ球の分化と多様性の獲得 (I)	1	岩井佳子	第2講義室	小テスト・講義	15
	12	11	リンパ球の分化と多様性の獲得 (II)	1	岩井佳子	第2講義室	講義	15
	12	17	化学療法と薬剤耐性	1	中川一路	第2講義室	小テスト・講義	16
		17	バイオセーフティの概念: 滅菌と消毒	1	中川一路	第2講義室	講義	3,16
		17	抗原提示細胞とMHC	1	東みゆき	第2講義室	講義	17,18
	12	21	筆記試験	1	中川一路 丸山史人 東みゆき 岩井佳子	第2, 4講義室 (予定)	筆記試験	

評価方法:

- ・小テスト (4回) により形成的評価を行う。
- ・小テスト (30%) および平成 24 年 12 月 21 日に筆記試験 (70%) を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・出席に関係なく履修者全員が受験資格を有す。ただし、当該モジュール全ユニット終了時において、当該モジュール全ユニットの講義および実習総数のそれぞれ 3 分の 2 以上の出席を満たさなかった場合はモジュール未履修となり、次年度に当該モジュールを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・ 口腔微生物学・免疫学 (医歯薬出版) 編集 浜田 茂幸
- ・ 医科細菌学 笹川千尋、林哲也 編、南江堂
- ・ Microbiology: Principles and Explorations, 7th Edition, Jacquelyn G. Black, Wiley Publishers.
- ・ 標準微生物学、監修: 山西 弘一、編集: 平松 啓一 / 中込 治、医学書院
- ・ リップンコット シリーズ イラストレイテッド免疫学 丸善 (原書 Lippincott's Illustrated Reviews Immunology)
- ・ 免疫学イラストレイテッド 原書第7版 南江堂 (原書 Immunology 7th Edition Mosby Elsevier)
- ・ 分子細胞生物学 原書第5版 エルゼビア出版 (原書 Cellular and Molecular Immunology, 6th Ed. Saunders)

担当教員の Office Hour:

中川一路	教授	月～金	16:00 ~ 18:00	ichiro-n.bac@tmd.ac.jp
丸山史人	准教授	月～金	16:00 ~ 18:00	fumito-m.bac@tmd.ac.jp
東みゆき	教授	月～金	16:00 ~ 18:00	miyuki.mim@tmd.ac.jp
岩井佳子	准教授	月～金	16:00 ~ 18:00	iwai.mim@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	病原性細菌と感染症
ユニット責任者	中川一路
ユニット番号	02
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	33+1
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

感染予防と治療の基礎を、微生物の特性に着眼して理解するとともに、その方法と限界について知る。

到達目標(SBOs):

- 1) 細菌の生活環について説明できる。
- 2) 細菌の遺伝と形質転換について説明できる。
- 3) バクテリオファージの特徴とその生活環について説明できる。
- 4) 細菌の病原性について説明できる。
- 5) 細菌の感染・発症にかかわる病原体側の因子、宿主側の因子、感染経路を説明できる。
- 6) グラム陽性球菌について細菌学的特徴、感染症を説明できる。
- 7) グラム陽性桿菌について細菌学的特徴、感染症を説明できる。
- 8) グラム陰性球菌について細菌学的特徴、感染症を説明できる。
- 9) グラム陰性桿菌について細菌学的特徴、感染症を説明できる。
- 10) 真菌感染症について説明できる。
- 11) 口腔フローラの成立過程を説明できる。
- 12) 歯垢の成立過程を理解し、バイオフィルムとしての歯垢を説明できる。
- 13) う蝕および歯周疾患に関与する細菌についてその発症過程と病原性因子を説明できる。
- 14) 口腔細菌により起こる全身疾患について説明できる。
- 15) 細菌の分離培養とその細菌の鑑別ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	7	細菌のライフサイクルと遺伝	1	丸山史人	第2講義室	講義	1
		7	細菌の代謝と呼吸	1	丸山史人	第2講義室	講義	2
	1	8	細菌の遺伝子発現の制御	1	丸山史人	第2講義室	講義	3
		8	プラスミドとトランスポゾン	1	丸山史人	第2講義室	講義	4, 5
		8	バクテリオファージ	1	丸山史人	第2講義室	講義	4, 5
	1	9	細菌の病原性	1	中川一路	第2講義室	講義	5, 6, 7
		9	細菌感染と感染の経路	1	中川一路	第2講義室	講義	5, 6, 7
		9	グラム陽性菌と疾患とその感染症(1)	1	中川一路	第2講義室	講義	6, 7
	1	11	グラム陽性菌と疾患とその感染症(2)	1	中川一路	第2講義室	講義	6, 7
		11	グラム陽性菌と疾患とその感染症(3)	1	中川一路	第2講義室	講義	6, 7
		11	実習説明	1	中川一路	第2講義室	講義	1~15
	1	18	実習1:細菌の分離と同定	3	中川一路 丸山史人	基礎実習室	実習	15
	1	21	グラム陰性菌と疾患とその感染症(1)	1	中川一路	第2講義室	講義	8, 9
		21	グラム陰性菌と疾患とその感染症(2)	1	中川一路	第2講義室	講義	10
		21	グラム陰性菌と疾患とその感染症(3)	1	中川一路	第2講義室	講義	10
	1	22	口腔内フローラとバイオフィルム	1	中川一路	第2講義室	講義	6~12
		22	口腔内グラム陽性菌とその感染症	1	中川一路	第2講義室	講義	6, 7, 13, 14
		22	口腔内グラム陰性菌とその感染症	1	中川一路	第2講義室	講義	9, 10, 13, 14
	1	23	真菌感染症	1	中川一路	第2講義室	講義	10, 14
	2	1	実習2:細菌の分子生物学的実験(1)	3	中川一路 丸山史人	基礎実習室	実習	1~15
	1	28	筆記試験	1	中川一路 丸山史人	第2, 4講義室 (予定)	筆記試験	1~15

08 感染と生体防御

25	2	5	実習 3:細菌の分子生物学的実験(2)	2	中川一路 丸山史人	基礎実習室	実習	1~15
	2	12	実習 4:細菌の分子生物学的実験(3)	3	中川一路 丸山史人	基礎実習室	実習	1~15
	2	19	実習 5:細菌の分子生物学的実験(4)	3	中川一路 丸山史人	基礎実習室	実習	1~15

評価方法:

・実習レポート(20%) および平成 25 年 1 月 28 日に筆記試験(80%)を行い、総合的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

・出席に関係なく履修者全員が受験資格を有す。ただし、当該モジュール全ユニット終了時において、当該モジュール全ユニットの講義および実習総数のそれぞれ3分の2以上の出席を満たさなかった場合はモジュール未履修となり、次年度に当該モジュールを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・口腔微生物学・免疫学(医歯薬出版) 編集 浜田 茂幸
- ・Medical Microbiology and Infection at a Glance, Second Edition, Stephen Gillespie, Kathleen Bamford, and Hammersmith Hospital. Blackwell Publishing Group.
- ・Microbiology: Principles and Explorations, 7th Edition, Jacquelyn G. Black, Wiley Publishers.
- ・標準微生物学、監修:山西 弘一、編集:平松 啓一/中込 治、医学書院
- ・医科細菌学 笹川千尋、林哲也 編、南江堂

担当教員の Office Hour:

中川一路 教授 月~金 16:00 ~ 18:00 ichiro-n. bac@tmd. ac. jp
丸山史人 准教授 月~金 16:00 ~ 18:00 fumito-m. bac@tmd. ac. jp

ユニット情報

ユニット名	病原性ウイルスと感染症
ユニット責任者	中川一路
ユニット番号	03
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	10+1
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

ウイルスの構造と性状を学び、ウイルス感染症の病態を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) ウイルスの形態、構造および分類について説明できる。
- 2) ウイルスの増殖および感染の概略を説明できる。
- 3) DNAウイルスとその感染症および予防法について説明できる。
- 4) RNAウイルスとその感染症および予防法について説明できる。
- 5) レトロウイルス(HIV, HTLV-I)とその感染症および予防法について説明できる。
- 6) 肝炎ウイルスとその感染症と予防法について説明できる。
- 7) ウイルス感染の予防と治療の基礎を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	23	ウイルスのライフスタイル	1	中川一路	第2講義室	講義	1
		23	ウイルスの形態と構造	1	中川一路	第2講義室	講義	2
	1	28	DNA ウイルスとその感染症(1)	1	中川一路	第2講義室	講義	3
		28	DNA ウイルスとその感染症(2)	1	中川一路	第2講義室	講義	3, 5
	2	4	DNA ウイルスとその感染症(3)	1	中川一路	第2講義室	講義	3, 6
		4	RNA ウイルスとその感染症(1)	1	中川一路	第2講義室	講義	4, 5
		4	RNA ウイルスとその感染症(2)	1	中川一路	第2講義室	講義	4, 6
	2	5	実習:バクテリオファージの定量法	1	中川一路	基礎実習室	実習	1, 2, 7
	2	6	RNA ウイルスとその感染症(3)	1	中川一路	第2講義室	講義	4, 5, 7
		6	ウイルス疾患に対する感染制御	1	中川一路	第2講義室	講義	3, 7
		6	ワクチンによるウイルス疾患の防御	1	中川一路	第2講義室	講義	3, 7
	2	18	筆記試験	1	中川一路	第2, 4講義室	筆記試験	1~7

評価方法:

・実習レポート(10%)および平成 25 年 2 月 18 日に筆記試験(90%)を行い、総合的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

・出席に関係なく履修者全員が受験資格を有す。ただし、当該モジュール全ユニット終了時において、当該モジュール全ユニットの講義および実習総数のそれぞれ 3 分の 2 以上の出席総数の 3 分の 2 以上の出席を満たさなかった場合はモジュール未履修となり、次年度に当該モジュールを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・口腔微生物学・免疫学(医歯薬出版) 編集 浜田 茂幸
- ・標準微生物 山西弘一, 平松啓一 編集 医学書院
- ・医科ウイルス学 改訂第2版 大里外誉郎 編集 南光堂
- ・Medical Microbiology, 24th Edition, Brooks GF, Butel JS, and Morse SA., Lange Medical Book/McGraw-Hill.

担当教員の Office Hour:

中川一路 教授 月～金 16:00 ~ 18:00 ichiro-n.bac@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	生体免疫応答
ユニット責任者	東みゆき
ユニット番号	04
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	23+1
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

病原生物や様々な刺激に対して生体の免疫系がどのように応答するかを理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 細胞性免疫と液性免疫が説明できる。
- 2) T細胞の機能や特徴を説明できる。

08 感染と生体防御

- 3) B細胞の機能や特徴を説明できる。
- 4) 免疫寛容について説明できる。
- 5) 補体・抗体の役割について説明できる。
- 6) 免疫関連疾患とその発症機序を説明できる。
- 7) 自然免疫と適応免疫が説明できる。
- 8) 細菌・ウイルスに対する免疫応答が説明できる。
- 9) アレルギーの分類とその内容が説明できる。
- 10) 癌に対する免疫応答について説明できる。
- 11) 粘膜免疫の特徴について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
25	2	14	Tリンパ球のエフェクター機能	1	東みゆき	第2講義室	講義	1,2
		14	Bリンパ球および抗体の役割	2	烏山一	第2講義室	講義	1,3
	2	15	免疫寛容	1	東みゆき	第2講義室	講義	4
		15	移植免疫	1	東みゆき	第2講義室	講義	5,6
		15	感染免疫(1)	1	東みゆき	第2講義室	講義	5,6,7,8
	2	18	感染免疫(2)	1	東みゆき	第2講義室	講義	5,6,7,8
		18	感染免疫(3)	1	岩井佳子	第2講義室	講義	5,6,7,8
	2	21	免疫学実習(1)	3	東みゆき、岩井佳子 大野建州、齊藤潔 伊東大典、塗谷達 朴今花、上條達央	基礎実習室	実習	1,6,9
	2	22	免疫学実習(2)	3	大野建州、東みゆき 岩井佳子	基礎実習室	実習	1,6,9
	2	25	自己免疫	1.5	東みゆき	第2講義室	講義	4,5,6
		25	アレルギー	1.5	横関博雄	第2講義室	講義	6,9
	2	26	腫瘍免疫	1.5	東みゆき	第2講義室	講義	10
		26	粘膜免疫	1.5	清野 宏	第2講義室	講義	7,11
		26	免疫学実習(3)	3	大野建州、東みゆき 岩井佳子	図書館情報検索 室・基礎実習室	実習	1,6,9
	2	28	筆記試験	1	東みゆき、岩井佳子 大野建州	第2,4講義室 (予定)	筆記試験	

評価方法:

- ・小テスト(4回)により形成的評価を行う。
- ・小テスト(20%)、レポート(20%)および平成25年2月28日に筆記試験(60%)を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・出席に関係なく履修者全員が受験資格を有す。ただし、当該モジュール全ユニット終了時において、当該モジュール全ユニットの講義および実習総数のそれぞれ3分の2以上の出席を満たさなかった場合はモジュール未履修となり、次年度に当該モジュールを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・リップンコット シリーズ イラストレイテッド免疫学 丸善(原書 Lippincott's Illustrated Reviews Immunology)
- ・免疫学イラストレイテッド 原書第7版 南江堂(原書 Immunology 7th Edition Mosby elsevier)
- ・分子細胞生物学 原書第5版 エルゼビア出版(原書 Cellular and Molecular Immunology, 6th Ed. Saunders)

担当教員のOffice Hour:

東みゆき	教授	月～金	16:00 ~ 18:00	miyuki.mim@tmd.ac.jp
岩井佳子	准教授	月～金	16:00 ~ 18:00	iwai.mim@tmd.ac.jp
大野建州	助教	月～金	16:00 ~ 18:00	tohno.mim@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	歯科生体材料	
モジュール責任者	宇尾 基弘	
モジュール番号	09	
開設時期	3年 後期	
モジュールコマ数	71 (2)	(必要自習時間 19時間)

学習目標(GIO)

歯科医療で使用される材料の物理化学的特性および生体や環境への影響, および成型法を理解する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	生体材料の科学	講義・実習
02	歯科生体材料の性質	講義・実習
03	歯科材料の成型技術と臨床	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、当該モジュールの全ユニットにおける講義総数の3分の2、実習総数の4分の3以上の出席が単位取得に必要である。

ユニット情報

ユニット名	生体材料の科学		
ユニット責任者	埴 隆夫		
ユニット番号	01		
開設時期	3年 後期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	15+1	(必要自習時間 5時間)	
授業形態	講義・実習		

学習目標(GIO):

歯科材料を含む生体材料を理解するための基礎として、材料科学の基本知識を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 材料の分類と特性について説明できる。
- 2) 材料の力学的性質および試験法について説明できる。
- 3) 金属材料の構造と基本的性質を説明できる。
- 4) セラミック材料の構造と基本的性質を説明できる。
- 5) 高分子材料の構造と基本的性質を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	7	生体材料概論 材料の力学的・物理的・化学的性質	3	埴 隆夫	第2講義室	講義	1, 2
		10	高分子材料と歯科応用	3	由井伸彦	第2講義室	講義	5
		15	セラミック材料と歯科応用	3	山下仁大 永井亜紀子	第2講義室	実習	4
		16	金属材料と歯科応用	3	埴 隆夫	第2講義室	講義	3
		16	材料試験	3	野村直之 土居 寿 宇尾基弘	基礎系実習室	講義	1, 2, 3
	2	4	筆記試験	1	宇尾基弘	第2講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・実習レポート(2割)および平成25年2月4日筆記試験(8割)により、総括的評価を行う。

試験の受験資格:

- ・出席に関係なく履修者全員に受験資格を有する。ただし、当該モジュール全ユニット終了時において、当該モジュール全ユニットの講義総コマ数の3分の2以上、実習総コマ数の4分の3以上出席を満たさなかった場合はモジュール未履修とし、次年度に当該モジュールを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・スタンダード歯科理工学—歯科生体材料・歯科材料— 第4版 (鈴木一臣 他監修、学建書院、2009)
- ・コア歯科理工学 (小倉 英夫 他監修、医歯薬出版、2008)
- ・バイオマテリアルの基礎 (日本バイオマテリアル学会監修、日本医学館、2010)

備考:

- ・ユニット1の試験に不合格の者は次年度に当該ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour: 埴 隆夫 教授 月・金 16:30-18:00 hanawa.met@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科生体材料の性質		
ユニット責任者	宇尾 基弘		
ユニット番号	02		
開設時期	3年 後期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	22+0.5	(必要自習時間 6時間)	
授業形態	講義・実習		

学習目標(GIO):

各用途に使用される歯科生体材料の性質について、必要とされる特性との関連に基づき理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 成形修復材料と接着について説明でき、適切に準備できる。
- 2) 合着材、接着材の種類と性質を説明できる。
- 3) コンポジットと硬質レジンについて説明できる。
- 4) 印象材と模型材の種類と性質を説明でき、適切に準備できる。
- 5) 歯科用合金について説明できる。
- 6) インプラント材料、歯周治療用材料、その他の歯科治療用材料について説明できる。
- 7) 歯質の機械的性質について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	23	成形修復材料、合着材、接着の概念	3	宇尾基弘	第2講義室	講義	1,2
		24	成形修復と歯科用レジン	3	宇尾基弘 高橋英和 二階堂 徹	基礎系実習室	実習	1,2,3
		25	コンポジットレジンと硬質レジン	3	宇尾基弘	第2講義室	講義	1,3
		28	印象採得と模型作製	3	宇尾基弘 高橋英和 三浦宏之 五十嵐順正	基礎系実習室	実習	4
		29	歯科用合金	3	埴 隆夫	第2講義室	講義	5
		30	印象材と模型材	3	高橋英和	第2講義室	講義	4
		31	インプラント材料と歯周治療用材料	2	春日井昇平	第2講義室	講義	6
		31	歯質の機械的性質	1	宇尾基弘	第2講義室	講義	7
	2	28	筆記試験	0.5	宇尾基弘	第2講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・実習レポート(2割)および平成 25 年 2 月 28 日の筆記試験(8割)により、総括的評価を行う。

試験の受験資格:

・出席に関係なく履修者全員に受験資格を有する。ただし、当該モジュール全ユニット終了時において、当該モジュール全ユニットの講義総コマ数の3分の2以上、実習総コマ数の4分の3以上出席を満たさなかった場合はモジュール未履修とし、次年度に当該モジュールを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・スタンダード歯科理工学－歯科生体材料・歯科材料－ 第4版 (鈴木一臣 他監修、学建書院、2009)

- ・歯科理工学教育用語集 第2刷(小倉 英夫 他監修、医歯薬出版、2009)
- ・臨床歯科理工学 (宮崎 隆 他監修、医歯薬出版、2006)
- ・コア歯科理工学(小倉 英夫 他監修、医歯薬出版、2008)
- ・Phillip's Science of Dental Materials 11th ed. (Annusavice K, Saunders, 2003)

備考:

- ・ユニット 2, 3 の試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

宇尾 基弘 教授 月・火 16:30-18:00 uo.abm@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科材料の成型技術と臨床		
ユニット責任者	宇尾 基弘		
ユニット番号	03		
開設時期	3年 後期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	34+0.5	(必要自習時間 8時間)	
授業形態	講義・実習		

学習目標(GIO):

歯科材料の成型加工技術を理解し、操作できるとともに、種々の臨床場面において適切な歯科材料を選択するために、組成・特性についての基礎知識を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科で用いられている成型加工技術を説明できる。
- 2) 歯科鑄造に用いる材料を説明でき、鑄造体を作製できる。
- 3) 義歯床用材料の性質を説明でき、重合体を作製できる。
- 4) 切削・研磨用器具について説明でき、研磨ができる。
- 5) 修復材料、補綴材料、印象材、合着材の選択基準について説明できる。
- 6) 歯科用陶材の物性と成形法について説明できる。
- 7) 歯科用合金の熱処理と腐食挙動について説明できる。
- 8) 歯科器材のクラス分類と認証・承認、生体材料の生体安全性について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	30	歯科鑄造に用いる材料	3	宇尾基弘	第2講義室	講義	1, 2
		31	成型加工技術(鑄造・ろう付・CAD)	2	宇尾基弘	第2講義室	講義	1, 2
	2	4	修復材料の選択基準と歯質接着	2	二階堂徹	第2講義室	講義	1, 5
		5	歯科鑄造1	3	宇尾基弘 高橋英和 三浦宏之 五十嵐順正	基礎系実習室	実習	2
		7	歯科鑄造2	3	宇尾基弘 高橋英和 三浦宏之 五十嵐順正	補綴実習室 鑄造室	実習	2
		8	義歯床用材料と重合	3	宇尾基弘	第2講義室	講義	3

	13	レジンの重合	3	宇尾基弘 高橋英和 水口俊介 本郷敏雄	基礎系実習室	実習	5
	13	印象材と合着材の選択基準	2	三浦宏之	第2講義室	講義	5
		義歯材料の選択基準とメンテナンス	1	五十嵐順正			
	18	レジンの重合	3	宇尾基弘 高橋英和 水口俊介 本郷敏雄	基礎系実習室	実習	3
	19	歯科用合金の腐食	3	宇尾基弘	第2講義室	講義	7
	20	歯科用合金の熱処理	2	宇尾基弘	第2講義室	講義	7
	20	切削と研磨	1	宇尾基弘	第2講義室	講義	3
	20	鋳造体とレジンの研磨と合着	3	宇尾基弘 高橋英和 水口俊介 本郷敏雄	補綴実習室	実習	3, 4
	21	生体環境と生体材料の安全性	2	本郷敏雄	第2講義室	講義	8
		歯科器材のクラス分類と認証・承認	1	原田直子	第2講義室	講義	8
	25	生体環境と生体材料の安全性	2	本郷敏雄	第2講義室	講義	6
		歯科用陶材・セラミックス	1	宇尾基弘			
2	28	筆記試験	0.5	宇尾基弘	第2講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・実習レポート(2割)および平成 25 年 2 月 28 日の筆記試験(8割)により、総括的評価を行う。

試験の受験資格:

- ・出席に関係なく履修者全員に受験資格を有する。ただし、当該モジュール全ユニット終了時において、当該モジュール全ユニットの講義総コマ数の3分の2以上、実習総コマ数の4分の3以上出席を満たさなかった場合はモジュール未履修とし、次年度に当該モジュールを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・スタンダード歯科理工学－歯科生体材料・歯科材料－ 第4版 (鈴木一臣 他監修、学建書院、2011)
- ・歯科理工学教育用語集 第2刷(小倉 英夫 他監修、医歯薬出版、2009)
- ・臨床歯科理工学 (宮崎隆 他監修、医歯薬出版、2006)
- ・コア歯科理工学(小倉 英夫 他監修、医歯薬出版、2008)
- ・Phillip's Science of Dental Materials 11th ed. (Annusavice K, Saunders, 2003)

備考:

- ・ユニット 2,3 の試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

宇尾 基弘 教授 月・火 16:30-18:00 uo.abm@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	病 理
モジュール責任者	(正)山口 朗 (副)坂本 啓
モジュール番号	10
開設時期	3年 後期
モジュールコマ数	99 (6)

学習目標 (GIO)

疾病の原因、病態に関する基本的知識を体系的に修得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	病理学序論	講義
02	先天異常と遺伝性疾患	講義
03	細胞傷害と物質代謝異常	講義・実習
04	増殖と再生	講義・実習
05	循環障害	講義・実習
06	炎症	講義・実習
07	腫瘍	講義・実習
08	口腔領域の病理	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	病理学序論
ユニット責任者	山口 朗
ユニット番号	01
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	1+0/3
授業形態	講義

学習目標(GIO):

医学の一分野としての病理学の位置付け、特に基礎医学と臨床医学の中間に位置し、医療に貢献する病理学的研究の歴史、研究方法の進歩、疾患概念の変遷を理解し、臨床医学を学習する際に必要な基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 病理学の定義、成立の歴史について概説できる。
- 2) 病理学の研究領域、研究方法について概説できる。
- 3) 病理学と他の医療分野、特に臨床医学との関連について概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	25	病理学序論	1	山口 朗	第1講義室	講義	1,2,3
	12	3	ユニット1-7 試験	0/3		第1講義室		

評価方法:

・ユニット1～7について、まとめてユニット試験(平成24年12月3日)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット1～7のユニット試験の受験資格は、講義部分の授業コマ数合計の3分の2以上と、実習部分の授業コマ数合計の4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット1～7未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・標準病理学(第4版)、坂本 穆彦、北川 昌伸、仁木 利郎編、医学書院
- ・ロビンス 基礎病理学(原書8版) 豊國 伸哉、高橋 雅英 監訳、丸善出版
- ・Basic Pathology—an Introduction to the Mechanisms of Disease, 3rd ed.(2003), Sunil R. Lakhani, et al. Arnold, London

備考:

・ユニット1～7試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

山口 朗 教授 水 16:30 - 18:00 akira.mpa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	先天異常と遺伝性疾患
ユニット責任者	飯村忠浩
ユニット番号	02
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	2+0.1/3
授業形態	講義

学習目標(GIO):

先天異常と遺伝性疾患に関する基本的事項と病理所見の特徴について理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 先天異常の原因分類を説明できる。
- 2) 大奇形、小奇形の定義と奇形相互の関連を説明できる。
- 3) 病理学で重要な奇形を概説できる。
- 4) 遺伝性疾患の原因分類を説明できる。
- 5) 遺伝性疾患の診断法について説明できる。
- 6) 病理学で重要な遺伝性疾患を概説できる。
- 7) 発育異常の分類を説明できる。
- 8) 病理学的に重要な発育異常を概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	25	先天異常と遺伝疾患	2	飯村忠浩	第1講義室	講義	1,2,3,4, 5,6,7,8
	12	3	ユニット1-7 試験	0.1/3		第1講義室		

評価方法:

・ユニット1～7について、まとめてユニット試験(平成24年12月3日)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット1～7のユニット試験の受験資格は、講義部分の授業コマ数合計の3分の2以上と、実習部分の授業コマ数合計の4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット1～7未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・標準病理学(第4版)、坂本 穆彦、北川 昌伸、仁木 利郎編、医学書院
- ・ロビンス 基礎病理学(原書8版) 豊國 伸哉、高橋 雅英 監訳、丸善出版
- ・Basic Pathology—an Introduction to the Mechanisms of Disease, 3rd ed.(2003), Sunil R. Lakhani, et al. Arnold, London

備考:

・ユニット1～7試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

勝部憲一 講師 月・金 16:00 - 17:30 katsube.mpa@tmd.ac.jp
山口 朗 教授 水 16:30 - 18:00 akira.mpa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	細胞傷害と物質代謝異常
ユニット責任者	勝部憲一
ユニット番号	03
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (増殖と授業コマ数+試験コ)	6+ 0.3/3
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

細胞傷害と物質代謝異常に関する基本事項と病理学的側面を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 細胞傷害、組織傷害を組織学的に説明できる。
- 2) 変性と萎縮の細胞学的メカニズムを概説できる。
- 3) 変性と萎縮の代表例を説明できる。
- 4) 壊死のメカニズムと代表例を説明できる。
- 5) アポトーシスのメカニズムと病理に関連した代表例を説明できる。
- 6) 糖質代謝障害が病理学的変化を起こす例について概説できる。
- 7) 脂質代謝異常、アミノ酸代謝異常が病理学的変化を起こす例について概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	2	細胞傷害と組織傷害	1	勝部憲一	第1講義室	講義	1,2,3,4,5
	10	2	変性・萎縮と壊死・アポトーシス	2	勝部憲一	第1講義室	講義・実習	12,3,4,5
	10	3	代謝障害の病理	3	勝部憲一	第1講義室	講義・実習	6,7
	12	3	ユニット1-7 試験	0.3/3		第1講義室		

評価方法:

- ・ユニット1～7について、まとめてユニット試験(平成24年12月3日)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット1～7のユニット試験の受験資格は、講義部分の授業コマ数合計の3分の2以上と、実習部分の授業コマ数合計の4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット1～7未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・標準病理学(第4版)、坂本 穆彦、北川 昌伸、仁木 利郎編、医学書院
- ・ロビンス 基礎病理学(原書8版) 豊國 伸哉、高橋 雅英 監訳、丸善出版
- ・Basic Pathology—an Introduction to the Mechanisms of Disease, 3rd ed.(2003), Sunil R. Lakhani, et al. Arnold, London.

備考:

- ・ユニット1～7試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

勝部憲一 講師 月・金 16:00 - 17:30 katsube.mpa@tmd.ac.jp
 山口 朗 教授 水 16:30 - 18:00 akira.mpa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	増殖と再生
ユニット責任者	坂本 啓
ユニット番号	04
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	6+ 0.4/3
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

増殖と再生に関する基本事項と病理学的側面を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 肥大・過形成について相違を説明できる。
- 2) 化生とその例を説明できる。
- 3) 炎症と修復について説明できる。
- 4) 肉芽組織とその形成から転帰までを説明できる。
- 5) 各器官ごとの増殖と再生に関する特徴を説明できる。
- 6) 各器官ごとの炎症と修復の特徴を説明できる。
- 7) 再生医療の基礎について概説できる。
- 8) 増殖と腫瘍の関係について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	5	進行性病変	1	坂本 啓	第1講義室	講義	1,2,3,4
	10	5	進行性病変の各器官ごとの特徴(1)	2	坂本 啓	第1講義室	講義・実習	5,6
	10	9	増殖と修復	1	坂本 啓	第1講義室	講義・実習	5,6
	10	9	進行性病変の各器官ごとの特徴(2)	2	坂本 啓	第1講義室	講義・実習	7,8
	12	3	ユニット 1-7 試験	0.4/3		第1講義室		

評価方法:

・ユニット1～7について、まとめてユニット試験(平成24年12月3日)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット1～7のユニット試験の受験資格は、講義部分の授業コマ数合計の3分の2以上と、実習部分の授業コマ数合計の4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット1～7未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・標準病理学(第4版)、坂本 穆彦, 北川 昌伸, 仁木 利郎編、医学書院
- ・ロビンス 基礎病理学(原書8版) 豊國 伸哉, 高橋 雅英 監訳、丸善出版
- ・Basic Pathology—an Introduction to the Mechanisms of Disease, 3rd ed.(2003), Sunil R. Lakhani, et al. Arnold, London.

備考:

・ユニット1～7試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

坂本 啓 助教 月 - 金 16:00 - 17:00 s-kei.mpa@tmd.ac.jp

山口 朗 教授 水 16:30 - 18:00 akira.mpa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	循環障害
ユニット責任者	坂本 啓
ユニット番号	05
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	6+ 0.4/3
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

循環障害の基本的事項を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 浮腫、充血、うっ血、出血の原因と転帰について説明できる。
- 2) 血栓の成り立ちと血栓症の原因、転帰について説明できる。
- 3) 塞栓症、梗塞の原因と種類、転帰について説明できる。
- 4) ショックの原因と種類、転帰について説明できる。
- 5) 傍側循環について説明できる。
- 6) 血圧の異常について概説できる。
- 7) 循環障害について病理組織学的に説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	11	循環障害の基礎	3	坂本 啓	第1講義室	講義・実習	1-7
	10	16	循環障害の実例	3	坂本 啓	第1講義室	講義・実習	1,2,3
	12	3	ユニット 1-7 試験	0.4/3		第1講義室		

評価方法:

- ・ユニット1～7について、まとめてユニット試験(平成24年12月3日)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット1～7のユニット試験の受験資格は、講義部分の授業コマ数合計の3分の2以上と、実習部分の授業コマ数合計の4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット1～7未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・標準病理学(第4版)、坂本 穆彦、北川 昌伸、仁木 利郎編、医学書院
- ・ロビンス 基礎病理学(原書8版) 豊國 伸哉、高橋 雅英 監訳、丸善出版
- ・Basic Pathology—an Introduction to the Mechanisms of Disease, 3rd ed.(2003), Sunil R. Lakhani, et al. Arnold, London

備考:

- ・ユニット1～7試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

坂本 啓 助教 月 - 金 16:00 - 17:00 s-kei.mpa@tmd.ac.jp
 山口 朗 教授 水 16:30 - 18:00 akira.mpa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	炎症
ユニット責任者	山口 朗
ユニット番号	06
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+ 0.9/3
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

炎症の定義、形態学的特徴、生化学的変化、臨床経過など、基本的事項についての知識を習得し、それらの事項について十分に理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 炎症の定義、形態学的分類、経時的変化について説明できる。

- 2) 炎症の形態的变化に関する生化学的、分子生物学的変化について説明できる。
- 3) 炎症による組織変化を理解し、炎症性細胞の種類、機能、免疫学的特徴を説明できる。
- 4) 特異性炎について理解し、その代表的疾患の病理像について説明できる。
- 5) ウイルス感染症のうち代表的疾患について、その病因および臨床病態を説明できる。
- 6) 敗血症について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	19	炎症の定義	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	1,2,3
	10	23	炎症の分類	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	1,2,3
	10	24	炎症性疾患 I	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	3,4,5
	10	25	炎症性疾患 II	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	3,4,5,6
	10	30	免疫病理 I	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	1,2,3
	11	1	免疫病理 II	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	1,2,3
	12	3	ユニット 1-7 試験	0.9/3		第1講義室		

評価方法:

- ・ユニット1～7について、まとめてユニット試験(平成24年12月3日)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット1～7のユニット試験の受験資格は、講義部分の授業コマ数合計の3分の2以上と、実習部分の授業コマ数合計の4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット1～7未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・標準病理学(第4版)、坂本 穆彦、北川 昌伸、仁木 利郎編、医学書院
- ・ロビンス 基礎病理学(原書8版) 豊國 伸哉、高橋 雅英 監訳、丸善出版
- ・Basic Pathology—an Introduction to the Mechanisms of Disease, 3rd ed.(2003), Sunil R. Lakhani, et al. Arnold, London.

備考:

- ・ユニット1～7試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

山口 朗 教授 水 16:30 - 18:00 akira.mpa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	腫瘍
ユニット責任者	山口 朗
ユニット番号	07
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+0.9/3
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

腫瘍の基本的事項を理解する。

10 病理

到達目標(SBOs):

- 1) 腫瘍の定義と分類について説明できる。
- 2) 腫瘍の広がりかた、進行度について説明できる。
- 3) 腫瘍発生の原因を説明できる。
- 4) 癌の診断、進展、予後について概説できる。
- 5) 癌の疫学について概説できる。
- 6) 発生頻度の高い腫瘍について、病理組織学的に説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	31	腫瘍の病因とその分類(1)	3	山口 朗	第1講義室	講義	1,2
	11	6	腫瘍の病因とその分類(2)	3	山口 朗	第1講義室	講義	3,4
	11	7	癌の進展(浸潤と転移)	3	山口 朗 米田俊之 今村健志	第1講義室	講義	5,6
	11	13	癌の疫学、癌研究の現状	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	5,6
	11	14	症例検討 I	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	5,6
	11	16	症例検討 II	3	山口 朗 出雲俊之	第1講義室	講義・実習	5,6
	12	3	ユニット 1-7 試験	0.9/3		第1講義室		

評価方法:

- ・ユニット1～7について、まとめてユニット試験(平成24年12月3日)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット1～7のユニット試験の受験資格は、講義部分の授業コマ数合計の3分の2以上と、実習部分の授業コマ数合計の4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット1～7未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・標準病理学(第4版)、坂本 穆彦, 北川 昌伸, 仁木 利郎編、医学書院
- ・ロビンス 基礎病理学(原書8版) 豊國 伸哉、高橋 雅英 監訳、丸善出版
- ・Basic Pathology—an Introduction to the Mechanisms of Disease, 3rd ed.(2003), Sunil R. Lakhani, et al. Arnold, London.

備考:

- ・ユニット1～7試験に不合格の者は次年度に当該全ユニットを履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

山口 朗 教授 水 16:30 - 18:00 akira.mpa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	口腔領域の病理
ユニット責任者	山口 朗
ユニット番号	08
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	33+3
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

口腔領域に生じる主な疾患の病因、病理発生、病理像について理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯牙硬組織病変の臨床像と病理像について説明できる。
- 2) 歯髄炎の病理像について説明できる。
- 3) 歯周炎の病理像について説明できる。
- 4) 口腔領域の奇形について、その臨床像と病理像を説明できる。
- 5) 口腔粘膜病変の主なものについて、その病因と病理像を説明できる。
- 6) 顎骨、顎関節疾患の主なものについて、その病因と病理像を説明できる。
- 7) 唾液腺疾患の主なものについて、その病因と病理像を説明できる。
- 8) 全身疾患に伴う口腔病変について、その臨床像と病理像を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	12	7	歯牙、歯髄炎、歯周炎の病理	2	山口 朗	第1講義室	講義	1,2,3
	12	7	口腔領域の奇形	1	勝部憲一	第1講義室	講義	4
	12	10	口腔粘膜病変(非腫瘍性)	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	5,8
25	1	8	口腔粘膜病変(非腫瘍性)	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	5
	1	9	口腔粘膜病変(腫瘍性)	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	5
	1	15	口腔領域の嚢胞	3	勝部憲一	第1講義室	講義・実習	6
	1	21	歯原性腫瘍	3	坂本 啓	第1講義室	講義・実習	6
	1	22	歯原性腫瘍	3	坂本 啓	第1講義室	講義・実習	6
	1	29	顎骨の病変	3	勝部憲一	第1講義室	講義・実習	6
	2	6	唾液腺の非腫瘍性病変	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	7
	2	12	唾液腺腫瘍	3	山口 朗	第1講義室	講義・実習	7
	3	1	ユニット8 試験	3		第1講義室		

評価方法:

・ユニット8について、平成25年3月1日にユニット8試験を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット8のユニット試験の受験資格は、ユニット8の講義部分の授業コマ数合計の3分の2以上と、実習部分の授業コマ数合計の4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット8未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・Oral Pathology: J. A. Regezi and J. J. Sciubba, W. B. Saunders Co, 2003(参考:各自で購入することを薦める)
- ・Diagnostic Surgical Pathology of the Head and Neck, Gnepp, D. R., Saunders Co.2009(参考)
- ・口腔病理アトラス第2版 高木實編、文光堂(参考:各自で購入することを薦める)
- ・口腔病理学I, II、石川梧桐監修、永末書店(参考)
- ・Oral and Maxillofacial Pathology, 3rd edition: Neville, Damm, Allen, Bouquot, Saunders

備考:

・ユニット8試験に不合格の者は、次年度ユニット8を履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

山口 朗 教授 水 16:30 - 18:00 akira.mpa@tmd.ac.jp
 勝部憲一 講師 月・金 16:00 - 17:30 katsube.mpa@tmd.ac.jp
 坂本 啓 助教 月・金 16:00 - 17:00 s-kei.mpa@tmd.ac.jp

11 臨床体験実習 1

モジュール情報

モジュール名	臨床体験実習 1
モジュール責任者	新田 浩
モジュール番号	11
開設時期	3年 前期、後期
モジュールコマ数	52(0)

学習目標 (GIO)

将来の歯科医師としての自覚を高めるために、歯科臨床の現場を体験することを通じて基礎科目と臨床科目の関連性を理解し、歯科医療に必要な基本的な態度、技能、知識を身につける。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	各診療科における診療の補助 I	講義・実習
02	各診療科における診療の補助 II	実習
03	各診療科における診療の補助 III	実習・SGD・発表

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	各診療科における診療の補助 I
ユニット責任者	新田 浩
ユニット番号	01
開設時期	3年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+0
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

将来の歯科医師としての自覚を高めるために、各診療科の現場を体験することを通じて基礎科目と臨床科目の関連性を理解し、歯科医療に必要な基本的な態度、技能、知識を身につける。

到達目標(SBOs):

- 1) 患者さんに自己紹介、挨拶をする。
- 2) 患者さんを安全に誘導する。
- 3) 患者さんの問題点に配慮する。
- 4) 指導教員、D6 学生および同級生と良好なコミュニケーションをとる。
- 5) 各診療室で基本的な診療補助をする。
- 6) 清潔・不潔に配慮した行動をする。
- 7) 安全に配慮した行動をする。
- 8) コデンタルスタッフの業務を補助あるいは体験する。
- 9) 基礎科目と臨床科目の関連性を例を挙げて説明する。
- 10) 歯科臨床の現場を体験し、今後の学習の方向性を見出す。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	13	オリエンテーション	3	新田 浩 俣木志朗	第2講義室	講義・実習	1-10
	4	20	各診療科での診療の補助・相互実習	3	新田 浩	各診療科外来 第1総合診療室2	実習	1-10
	4	28	各診療科での診療の補助・相互実習	3	新田 浩	各診療科外来 第1総合診療室2	実習	1-10
	5	11	各診療科での診療の補助	3	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
	5	18	各診療科での診療の補助	3	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
	5	25	各診療科での診療の補助	3	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10

評価方法:

- 1) 毎回の指導教員による観察記録(形成的評価)
- 2) 毎回の実習記録(形成的評価)

ユニット試験について:

- ・本ユニットでは試験を行わないが、全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・必要な出席数を満たさない学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

備考:

※臨床体験実習2の前段階として、各診療科、第1総合診療室、第2総合診療室で診療補助を中心とした実習を行う。

11 臨床体験実習 1

D3 ではまだ臨床科目の知識が習得されていないため、患者接遇、診療補助を通して基本的態度を身につけるとともに基礎科目と臨床の関連性を認識することが中心となる。

毎回の指導教員による評価、自己評価、実習記録の提出を持って出席とする。

欠席する場合は各自で実習する診療科の指導責任者に連絡する。

※ 統括責任者は歯科医療行動科学分野の新田 浩准教授が担当する。

担当教員の Office Hour:

新田 浩 准教授 月・水 16:30-18:00 nitta.behd@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	各診療科における診療の補助 II
ユニット責任者	新田 浩
ユニット番号	02
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	24+0
授業形態	実習

学習目標(GIO):

将来の歯科医師としての自覚を高めるために、各診療科の現場を体験することを通じて基礎科目と臨床科目の関連性を理解し、歯科医療に必要な基本的な態度、技能、知識を身につける。

到達目標(SBOs):

- 1) 患者さんに自己紹介、挨拶をする。
- 2) 患者さんを安全に誘導する。
- 3) 患者さんの問題点に配慮する。
- 4) 指導教員、D6 学生および同級生と良好なコミュニケーションをとる。
- 5) 各診療室で基本的な診療補助をする。
- 6) 清潔・不潔に配慮した行動をする。
- 7) 安全に配慮した行動をする。
- 8) コデンタルスタッフの業務を補助あるいは体験する。
- 9) 基礎科目と臨床科目の関連性を例を挙げて説明する。
- 10) 歯科臨床の現場を体験し、今後の学習の方向性を見出す。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	4	各診療科での診療の補助	3	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		11	各診療科での診療の補助	3	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		18	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		25	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
	11	1	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		8	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		15	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		22	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		29	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10

	12	6	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		13	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10

評価方法:

- 1) 毎回の指導教員による観察記録(形成的評価)
- 2) 毎回の実習記録(形成的評価)

ユニット試験の受験資格:

- ・本ユニットでは試験を行わないが、全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・必要な出席数を満たさない学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

備考:

- ※臨床体験実習2の前段階として、各診療科、第1総合診療室、第2総合診療室で診療補助を中心とした実習を行う。
D3 ではまだ臨床科目の知識が習得されていないため、患者接遇、診療補助を通して基本的態度を身につけるとともに、基礎科目と臨床の関連性を認識することが中心となる。
毎回の指導教員による評価、自己評価、実習記録の提出を持って出席とする。
欠席する場合は各自で実習する診療科の指導責任者に連絡する。
※ 統括責任者は歯科医療行動科学分野の新田 浩准教授が担当する。

担当教員の Office Hour:

新田 浩 准教授 月・水 16:30-18:00 nitta.behd@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	各診療科における診療の補助Ⅲ
ユニット責任者	新田 浩
ユニット番号	03
開設時期	3年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	10+0 (必要自習時間3時間)
授業形態	実習・SGD・発表

学習目標(GIO):

将来の歯科医師としての自覚を高めるために、各診療科の現場を体験することを通じて基礎科目と臨床科目の関連性を理解し、歯科医療に必要な基本的な態度、技能、知識を身につける。

到達目標(SBOs):

- 1) 患者さんに自己紹介、挨拶をする。
- 2) 患者さんを安全に誘導する。
- 3) 患者さんの問題点に配慮する。
- 4) 指導教員、D6 学生および同級生と良好なコミュニケーションをとる。
- 5) 各診療室で基本的な診療補助をする。
- 6) 清潔・不潔に配慮した行動をする。
- 7) 安全に配慮した行動をする。
- 8) コデンタルスタッフの業務を補助あるいは体験する。
- 9) 基礎科目と臨床科目の関連性を例を挙げて説明する。
- 10) 歯科臨床の現場を体験し、今後の学習の方向性を見出す。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	10	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
		17	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10

11 臨床体験実習 1

	24	各診療科での診療の補助	2	新田 浩	各診療科外来	実習	1-10
2	7	Small group discussion (SGD)	2	新田 浩 俣木志朗	第4講義室	SGD	1-10
	14	SGD 発表・レポート提出	2	新田 浩 俣木志朗	第2講義室	発表	1-10

評価方法:

- 1) 毎回の指導教員による観察記録(形成的評価)
- 2) 毎回の実習記録(形成的評価)
- 3) 実習記録、実習態度、SGD の発表、レポートによる総括的評価

ユニット試験の受験資格:

- ・本ユニットでは試験を行わないが、全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・必要な出席数を満たさない学生、レポートを提出しない学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

備考:

- ※ 臨床体験実習2の前段階として、各診療科、第1総合診療室、第2総合診療室で診療補助を中心とした実習を行う。
D3 ではまだ臨床科目の知識が習得されていないため、患者接遇、診療補助を通して基本的態度を身につけるとともに、基礎科目と臨床の関連性を認識することが中心となる。
毎回の指導教員による評価、自己評価、実習記録の提出を持って出席とする。
欠席する場合は各自で実習する診療科の指導責任者に連絡する。
- ※ 統括責任者は歯科医療行動科学分野の新田 浩准教授が担当する。

担当教員の Office Hour:

新田 浩 准教授 月・水 16:30-18:00 nitta.behd@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	歯科医療基礎
モジュール責任者	(正)大谷 啓一 (副)川口 陽子、倉林 亨
モジュール番号	12
開設時期	4年 前期
モジュールコマ数	194(9) (必要自習時間 89時間)

学習目標(GIO)

口腔疾患の予防、診断、治療、および管理を行うために必要な基本的知識と技術を身につける。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	薬理学概説(薬理Ⅰ)	講義
02	神経系と薬物、麻酔薬、組織の損傷・炎症・治癒過程と薬物(薬理Ⅱ)	講義
03	感染の予防および治療薬、内科的疾患とその治療薬(薬理Ⅲ)	講義
04	薬物と生体反応の実際(薬理Ⅳ)	実習
05	口腔顎顔面領域の画像診断(放射線Ⅰ)	講義
06	口腔顎顔面領域の画像診断実習(放射線Ⅱ)	実習
07	放射線の人体に対する影響(放射線Ⅲ)	講義
08	予防と健康管理Ⅰ(予防歯科Ⅰ)	講義
09	予防と健康管理Ⅱ(予防歯科Ⅱ)	実習
10	歯科と栄養	講義
11	歯科医療政策	講義
12	歯科法医学	講義

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	薬理学概説(薬理 I)
ユニット責任者	大谷啓一
ユニット番号	01
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	12+1 (必要自習時間 6時間)
授業形態	講義

学習目標(GO):

生体における薬物作用に関する基本的知識と、薬物を安全に使用するための基本的な考え方を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 薬理作用の種類を説明できる。
- 2) 薬物受容体と細胞内情報伝達系について説明できる。
- 3) 薬物の投与方法とその特徴について説明できる。
- 4) 薬物の生体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)について説明できる。
- 5) 薬理作用を規定する要因について説明できる。
- 6) 薬物を安全に使用するための基本的考え方を修得する。
- 7) 新薬の開発とその臨床応用について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	9	薬理学序論	1	大谷啓一	第3講義室	講義	1
			薬理作用	1	大谷啓一	第3講義室	講義	1
			薬物の作用機序 1	1	大谷啓一	第3講義室	講義	2
		11	化学構造と薬理作用	1	大谷啓一	第3講義室	講義	2
			薬物の動態(薬物の投与方法、吸収と分布、排泄、代謝)1	1	大谷啓一	第3講義室	講義	3,4
			薬物の動態 2	1	大谷啓一	第3講義室	講義	3,4
		13	薬物の毒性と副作用	1	大谷啓一	第3講義室	講義	6
			生物学的検定法、用量反応曲線	1	大谷啓一	第3講義室	講義	6
			薬理作用を規定する要因 1(用量、生体の感受性)	1	大谷啓一	第3講義室	講義	5
		16	薬理作用を規定する要因 2(薬物の反復投与、薬物の併用)	2	大谷啓一	第3講義室	講義	5
			新薬の開発と臨床応用	1	原澤秀樹	第3講義室	講義	7
	5	7	試験	1	大谷啓一、原澤秀樹	第3講義室		

評価方法:

・各講義での小テスト(1割)と、5月7日におこなう筆答試験(9割)を総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

・3分の2以上出席を必要とする。

・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・現代歯科薬理学第4版(小椋秀亮、加藤有三、篠田壽、大谷啓一) 医歯薬出版
- ・現代の薬理学(田中潔) 金原出版
- ・New 薬理学(加藤隆一、田中千賀子) 南江堂
- ・グッドマン、ギルマン薬理学 廣川書店
- ・臨床歯科薬理学ビジュアル 学建書院
- ・コアリーダー歯科薬理学 学建書院
- ・ハーバード大学テキスト 病態生理に基づく臨床薬理学 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・Pharmacology 3rd edition, Lippincott Williams & Wilkins

担当教員の Office Hour:

大谷啓一 教授(硬組織薬理学分野) 月・火 1600-1800 kohyahpha@tmd.ac.jp
 原澤秀樹 部長(歯学部附属病院薬剤部) 月・木 1600-1700 hharasawa.dpha@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	神経系と薬物、麻酔薬、組織の損傷・炎症・治癒過程と薬物(薬理Ⅱ)
ユニット責任者	青木和広
ユニット番号	02
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+1 (必要自習時間 9時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

中枢神経系および末梢神経系に作用する代表的な薬物と麻酔薬、鎮痛薬、抗炎症薬、免疫調節薬などを理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 中枢神経系に作用する薬物について説明できる。
- 2) 自律神経系に作用する薬物について説明できる。
- 3) 運動神経系に作用する薬物について説明できる。
- 4) 全身麻酔薬、局所的麻酔薬について説明できる。
- 5) 抗炎症薬、鎮痛薬について説明できる。
- 6) 免疫系作用薬物の種類と作用について概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	18	中枢神経系に作用する薬物(麻薬性鎮痛薬)	2	大谷啓一	第3講義室	講義	1
			中枢神経系に作用する薬物(抗不安薬)	1	大谷啓一	第3講義室	講義	1
		23	中枢神経系に作用する薬物(向精神薬、パーキンソン病治療薬)	2	大谷啓一	第3講義室	講義	1
			中枢神経系に作用する薬物(興奮薬、抗痙攣薬)	1	田村幸彦	第3講義室	講義	1

12 歯科医療基礎

	25	中枢神経系に作用する薬物(全身麻酔薬)	2	大谷啓一	第3講義室	講義	1, 4
		局所麻酔薬	1	大谷啓一	第3講義室	講義	4
5	8	自律神経系総論	1	青木和広	第3講義室	講義	2
		自律神経系に作用する薬物(アドレナリン作動性、抗アドレナリン作動性薬)	2	青木和広	第3講義室	講義	2
	9	自律神経系に作用する薬物(コリン作動性薬、抗コリン作動性薬)	2	青木和広	第3講義室	講義	2
		運動神経系に作用する薬物	1	青木和広	第3講義室	講義	3
	14	免疫調節薬、免疫療法薬	1	青木和広	第3講義室	講義	6
		鎮痛薬、抗炎症薬	2	森田育男	第3講義室	講義	5
	21	試験	1	青木和広・大谷啓一 森田育男・田村幸彦	第3講義室	講義	

評価方法:

・各講義での小テスト(1割)と、5月21日におこなう筆答試験(9割)を総合的に評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・現代歯科薬理学第4版(小椋秀亮、加藤有三、篠田壽、大谷啓一) 医歯薬出版
- ・現代の薬理学(田中潔) 金原出版
- ・New 薬理学(加藤隆一、田中千賀子) 南江堂
- ・グッドマン、ギルマン薬理学 廣川書店
- ・臨床歯科薬理学ビジュアル 学建書院
- ・コアリーダー歯科薬理学 学建書院
- ・ハーバード大学テキスト 病態生理に基づく臨床薬理学 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・Pharmacology 3rd edition, Lippincott Williams & Wilkins

担当教員の Office Hour:

青木和広	准教授 (硬組織薬理学分野)	火	16:00-18:00	kazu.hpha@tmd.ac.jp
大谷啓一	教授 (硬組織薬理学分野)	月・火	16:00-18:00	kohya.hpha@tmd.ac.jp
森田育男	教授 (分子細胞機能学分野)	月・金	18:00-19:00	morita.cell@tmd.ac.jp
田村幸彦	助教 (硬組織薬理学分野)	金	16:00-18:00	tamu.hpha@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	感染の予防および治療薬、内科的疾患とその治療薬 (薬理Ⅲ)
ユニット責任者	田村幸彦
ユニット番号	03
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	17+1 (必要自習時間 17時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

唾液分泌に関連する薬物、消毒薬、感染症治療薬、悪性腫瘍治療薬、代謝性骨疾患治療薬、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、血液に作用する代表的な薬物、重金属拮抗薬について理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 唾液腺に作用する薬物について説明できる。
- 2) 代表的な消毒薬について説明できる。
- 3) 代表的な感染症治療薬について説明できる。
- 4) 代表的な悪性腫瘍治療薬について説明できる。
- 5) 代表的な代謝性骨疾患治療薬を説明できる。
- 6) 循環器系疾患の代表的な治療薬を説明できる。
- 7) 呼吸器系疾患の代表的な治療薬を説明できる。
- 8) 消化器系疾患の代表的な治療薬を説明できる。
- 9) 血液に作用する薬物を説明できる。
- 10) 内分泌系に作用する薬物を説明できる。
- 11) 代表的な重金属拮抗薬を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	16	唾液腺に作用する薬物	1	田村幸彦	第3講義室	講義	1
			消毒薬	2	大谷啓一	第3講義室	講義	2
		23	悪性腫瘍治療薬	2	田村幸彦	第3講義室	講義	4
			血液に作用する薬物	1	青木和広	第3講義室	講義	9
			感染症治療薬 1	2	大谷啓一	第3講義室	講義	3
		28	感染症治療薬 2	2	大谷啓一	第3講義室	講義	3
			呼吸器系に作用する薬物	1	田村幸彦	第3講義室	講義	7
		30	骨組織と薬物	1	齋藤広章・青木和広	第3講義室	講義	5
			循環器系に作用する薬物	2	田村幸彦	第3講義室	講義	6
	6	6	消化器系に作用する薬物	1	田村幸彦	第3講義室	講義	8
			内分泌系と薬物	1	大谷啓一	第3講義室	講義	10
			毒物と解毒薬(重金属拮抗薬)	1	田村幸彦	第3講義室	講義	11
		12	試験	1	田村幸彦・大谷啓一 青木和広	第3講義室	講義	

評価方法:

・各講義での小テスト(1割)と、6月12日におこなう筆答試験(9割)を総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

12 歯科医療基礎

参考資料:

- ・現代歯科薬理学第4版(小椋秀亮、加藤有三、篠田壽、大谷啓一) 医歯薬出版
- ・現代の薬理学(田中潔) 金原出版
- ・New 薬理学(加藤隆一、田中千賀子) 南江堂
- ・グッドマン、ギルマン薬理学 廣川書店
- ・臨床歯科薬理学ビジュアル 学建書院
- ・コアリーダー歯科薬理学 学建書院
- ・ハーバード大学テキスト 病態生理に基づく臨床薬理学 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・Pharmacology 3rd edition, Lippincott Williams & Wilkins

担当教員の Office Hour:

田村幸彦	助教 (硬組織薬理学分野)	金	1600-1800	tamuhpha@tmdac.jp
大谷啓一	教授 (硬組織薬理学分野)	月・火	1600-1800	kohyahpha@tmdac.jp
青木和広	准教授 (硬組織薬理学分野)	火	16:00-18:00	kazuhpha@tmdac.jp
齋藤広章	非常勤講師(硬組織薬理学分野)			

ユニット情報

ユニット	薬物と生体反応の実際 (薬理IV)
ユニット責任者	青木和広
ユニット番号	04
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+0 (必要自習時間 4時間)
授業形態	実習

学習目標(GLO):

薬物によりおこる生体反応を観察して薬理作用について理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 中枢神経系に作用する薬物による生体反応を説明できる。
- 2) 全身麻酔薬、鎮痛薬による生体反応を説明できる。
- 3) 体性神経系に作用する薬物による生体反応を説明できる。
- 4) 局所麻酔薬、筋弛緩薬による生体反応を説明できる。
- 5) 自律神経系に作用する薬物による生体反応を説明できる。
- 6) 硬組織に作用する薬物による生体反応を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	20	実習1 中枢神経系の薬理 1	3	硬組織薬理学 教員 非常勤講師	基礎実習室	実習	1
		27	実習2 中枢神経系の薬理 2	3	硬組織薬理学教員 非常勤講師	基礎実習室	実習	2
	5	11	実習3 体性神経系の薬理	3	硬組織薬理学教員	基礎実習室	実習	3

					非常勤講師			
		18	実習4 炎症の薬理	3	硬組織薬理教員 非常勤講師	基礎実習室	実習	4
		25	実習5 鎮痛薬の薬理	3	硬組織薬理教員 非常勤講師	基礎実習室	実習	5
	6	6	実習6 硬組織の薬理	3	硬組織薬理学教員 非常勤講師	基礎実習室	実習	6

* 非常勤講師名: 久保村英一、脇能広、高橋悦子、齋藤広章、永野健一

評価方法:

・実習レポートによる総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・4分の3以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・現代歯科薬理学第4版(小椋秀亮、加藤有三、篠田壽、大谷啓一) 医歯薬出版
- ・現代の薬理学(田中潔) 金原出版
- ・New 薬理学(加藤隆一、田中千賀子) 南江堂
- ・グッドマン、ギルマン薬理学 廣川書店
- ・臨床歯科薬理学ビジュアル 学建書院
- ・コアリーダー歯科薬理学 学建書院
- ・ハーバード大学テキスト 病態生理に基づく臨床薬理学 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・Pharmacology 3rd edition, Lippincott Williams & Wilkins

担当教員の Office Hour:

青木和広	准教授	(硬組織薬理学分野)	火	16:00-18:00	kazuhp@tmdac.jp
大谷啓一	教授	(硬組織薬理学分野)	月・火	16:00-18:00	kohyahp@tmdac.jp
田村幸彦	助教	(硬組織薬理学分野)	金	16:00-18:00	tamuhp@tmdac.jp

ユニット情報

ユニット名	口腔顎顔面領域の画像診断 (放射線 I)
ユニット責任者	倉林 亨
ユニット番号	05
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21+1 (必要自習時間 7時間)
授業形態	講義

学習目標(GO):

口腔顎顔面領域で利用される画像検査法の種類、特徴および適応を理解する。

12 歯科医療基礎

到達目標(SBOs):

- 1) 放射線の物理学的性質を説明できる。
- 2) エックス線画像の形成原理を説明できる。
- 3) エックス線フィルム および増感紙の構造と性質を説明できる。
- 4) エックス線写真処理の原理と方法を説明できる。
- 5) デジタルエックス線撮影の原理および特徴を説明できる。
- 6) 口内法エックス線撮影の種類を列挙し、それぞれの方法および適応を説明できる。
- 7) パノラマエックス線撮影の原理、方法および適応を説明できる。
- 8) 頭部エックス線撮影の種類を列挙し、それぞれの方法 および適応を説明できる。
- 9) 造影エックス線撮影の種類と適応を説明できる。
- 10) CT, MRI, US, 核医学検査の原理と口腔顎顔面領域における適応を説明できる。
- 11) 各種画像に見られる顎口腔領域の正常像について説明できる。
- 12) 各種画像に見られる顎口腔領域の異常所見を指摘できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	9	放射線とX線の性質	3	渡邊 裕	第3講義室	講義	1-2
	4	11	放射線とX線の性質	3	渡邊 裕	第3講義室	講義	3-5
	4	12	放射線診断学総論	3	倉林 亨	第3講義室	講義	6, 7
	4	16	放射線診断学総論	3	倉林 亨	第3講義室	講義	8-10
	4	19	放射線診断学総論・各論	3	倉林 亨	第3講義室	講義	10-12
	4	23	放射線診断学各論	3	倉林 亨	第3講義室	講義	11-12
	4	26	放射線診断学各論	3	倉林 亨	第3講義室	講義	11-12
	6	12	試験	1	倉林 亨	第3講義室		

評価方法:

- ・6月12日の筆記試験を総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・“歯科放射線学 第4版”、医歯薬出版、古本啓一他 編集
- ・“第2版 歯科放射線診断ティーチングファイル”、砂書房、金田 隆、倉林 亨他 編集
- ・“歯科臨床における画像診断アトラス”、医歯薬出版、日本歯科放射線学会 編集
- ・“Oral Radiology: Principles and Interpretation 6th ed.” Mosby, SC White and M Pharoah eds

担当教員の Office Hour:

倉林 亨 教授 水・木 16:00-17:00 kura.orad@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	口腔顎顔面領域の画像診断実習（放射線Ⅱ）
ユニット責任者	大林尚人
ユニット番号	06
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+0 (必要自習時間 9時間)
授業形態	実習

学習目標(GIO):

口腔顎顔面領域で利用される画像検査法の基礎と臨床を実習を通じて理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) エックス線写真処理の方法を説明し、実施できる。
- 2) 放射線の物理学的性質を説明できる。
- 3) phantomを用いた口内法エックス線撮影の方法を説明し、実施できる。
- 4) パノラマエックス線撮影の方法を説明できる。
- 5) 頭部エックス線撮影の種類を列挙し、それぞれの方法および適応を説明できる。
- 6) CT, MRIの口腔顎顔面領域における適応を説明できる。
- 7) 各種画像に見られる顎口腔領域の正常像について説明できる。
- 8) 各種画像に見られる顎口腔領域の異常所見を指摘できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	14	実習 1	3	口腔放射線医学分野全 教員および非常勤講師 (太田耕造・遠藤秀基・小 林 馨・荒木和之・高山 香名子)	講義室・実習室	実習	1
	5	17	実習 2	3	同上	講義室・実習室	実習	2
	5	21	実習 3	3	同上	講義室・実習室	実習	3
	5	24	実習 4	3	同上	講義室・実習室	実習	5,7,8
	5	28	実習 5	3	同上	講義室・実習室	実習	4,5,7
	5	31	実習 6	3	同上	講義室・実習室	実習	6,7,8

評価方法:

・レポートを総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・4分の3以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

・“歯科放射線学 第4版”、医歯薬出版、古本啓一他 編集

12 歯科医療基礎

- ・“第2版 歯科放射線診断ティーチングファイル”、砂書房、金田 隆、倉林 亨他 編集
- ・“歯科臨床における画像診断アトラス”、医歯薬出版、日本歯科放射線学会 編集
- ・“Oral Radiology: Principles and Interpretation 6th ed.” Mosby, SC White and M Pharoah eds

担当教員の Office Hour:

大林尚人 講師 月・水・木 1600-1700 nao.orad@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	放射線の人体に対する影響（放射線Ⅲ）
ユニット責任者	三浦雅彦
ユニット番号	07
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+1 (必要自習時間 4時間)
講義形態	講義

学習目標(CLO):

放射線の人体に対する影響について十分な知識を修得し、併せて防護の方法を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 放射線の細胞致死効果を説明できる。
- 2) 組織および臓器に対する放射線の影響を説明できる。
- 3) 腫瘍に対する放射線の作用について説明できる。
- 4) 人体に対する放射線の影響を分類し説明できる
- 5) 医療被曝における患者の防護について説明できる。
- 6) 医療従事者の放射線防護の原則を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	7	放射線管理学	3	吉野教夫	第3講義室	講義	4,5,6
	5	8	放射線腫瘍学・治療学	3	三浦雅彦	第3講義室	講義	1,2,3
	5	10	放射線生物学	3	三浦雅彦	第3講義室	講義	1,2,3
	6	4	試験	1	三浦雅彦	第3講義室		

評価方法:

- ・6月4日の筆記試験を総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・“標準歯科放射線学第2版” 医学書院、淵端孟他編集

・“Radiobiology for the Radiologist 7th ed” Lippincott Williams & Wilkins, Eric J Hall and Amato J Giaccia eds

担当教員の Office hour

三浦雅彦 教授 月～金 16:00-18:00 masamdh@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	予防と健康管理 I (予防歯科 I)
ユニット責任者	川口陽子
ユニット番号	08
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21+1 (必要自習時間 10時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

口腔疾患の予防と健康管理を実践していく歯科医師となるために必要な知識、技術、態度を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 日本の歯科保健医療制度を説明できる。
- 2) 日本と海外の歯科保健状況や歯科保健制度を国際比較して概説できる。
- 3) 口腔疾患の疫学と疫学的指標を説明できる。
- 4) 口腔の健康と環境・社会・経済的状況との関連を説明できる。
- 5) 口腔と全身の健康との関連を説明できる。
- 6) 口腔疾患の第一次予防、第二次予防、第三次予防を説明できる。
- 7) 口腔疾患のセルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケアを説明できる。
- 8) ライフステージにおける口腔疾患の予防を説明できる。
- 9) 主な口腔疾患の予防を説明できる。
- 10) 個人レベルと集団レベルの口腔疾患の予防と健康管理を説明できる。
- 11) 予防歯科学に関連した科学論文を読み、その内容を説明できる。
- 12) 大災害時の歯科保健医療を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	10	総論、歯科疾患の第 123 次予防	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,6
			母子保健	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,5,8-10
			母子歯科保健	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,5,8-10
	4	17	学校保健	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,5,8-10
			学校歯科保健	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,5,8-10
			口臭・不正咬合の予防	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,5,8-10
	4	24	成人保健、成人歯科保健、	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,5,8-10
			産業歯科保健、老人歯科保健	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,5,8-10
			大災害時の歯科保健医療	1	川口陽子	第 3 講義室	講義	1,5,8-12

5	15	口腔の不潔物	1	植野正之	第3講義室	講義	6-10
		プラークコントロール	1	植野正之	第3講義室	講義	6-10
		歯磨剤・洗口剤	1	渋谷耕司	第3講義室	講義	6-10
5	22	う蝕の予防法(細菌対策)	1	植野正之	第3講義室	講義	6-10
		歯周疾患の予防法(細菌対策)、リスクテスト	1	植野正之	第3講義室	講義	6-10
		歯周疾患の予防法(喫煙対策、栄養指導)	1	植野正之	第3講義室	講義	6-10
5	29	企業における成人の歯周病対策	1	加藤 元	第3講義室	講義	6-10
		う蝕の予防法(フッ化物の局所応用)	1	植野正之	第3講義室	講義	6-10
		う蝕の予防法(フッ化物の全身応用)	1	植野正之	第3講義室	講義	6-10
6	5	口腔疾患の疫学1	1	植野正之	第3講義室	講義	1-5,11
		口腔疾患の疫学2	1	植野正之	第3講義室	講義	1-5,11
		我が国の歯科保健状況	1	植野正之	第3講義室	講義	1-10
6	11	試験	1	川口陽子	第3講義室		

評価方法:

・6月11日の筆記試験を総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・新予防歯科学(米満正美ら監修) 医歯薬出版
- ・予防歯科実践ハンドブック(予防歯科臨床教育協議会編) 医歯薬出版
- ・Oral Health Promotion (Lone Schou and Anthony Blinkhorn) Oxford Medical Publications

担当教員の Office Hour:

川口陽子 教授 水・木 1600-18:00 ykocohp@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	予防と健康管理Ⅱ(実習) (予防歯科Ⅱ)
ユニット責任者	川口陽子
ユニット番号	09
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	24+0 (必要自習時間 12時間)
授業形態	実習

学習目標(GIO):

口腔疾患の予防と健康管理を実践していく歯科医師となるために必要な知識、技術、態度を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 日本の歯科保健医療制度を説明できる。
- 2) 日本と海外の歯科保健状況や歯科保健制度を国際比較して概説できる。
- 3) 口腔疾患の疫学と疫学的指標を説明できる。
- 4) 口腔の健康と環境・社会・経済的状況との関連を説明できる。
- 5) 口腔と全身の健康との関連を説明できる。
- 6) 口腔疾患の第一次予防、第二次予防、第三次予防を説明できる。
- 7) 口腔疾患のセルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケアを説明できる。
- 8) ライフステージにおける口腔疾患の予防を説明できる。
- 9) 主な口腔疾患の予防を説明できる。
- 10) 個人レベルと集団レベルの口腔疾患の予防と健康管理を説明できる。
- 11) 予防歯科学に関連した科学論文を読み、その内容を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	10	乳幼児の歯科保健指導	3	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、半田紀 穂子、他教室員	第3講義室 演習室(1号館6F) 基礎実習室(1号館6F)	実習	4-10
	4	17	学校歯科健康診断 プラークコントロール、口臭検査	3	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、森智恵 子、半田紀穂子、南郷里奈、安 川由里子、他教室員	口腔保健学科実習室 (1号館7階、8階)	実習	4-10
	4	24	学校歯科健康診断 プラークコントロール、口臭検査	3	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、半田紀 穂子、柳澤道子、南郷里奈、安 川由里子、他教室員	口腔保健学科実習室 (1号館7階、8階)	実習	4-10
	5	15	栄養指導、味覚検査、リスクテスト フッ化物の応用	2	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、半田紀 穂子、南郷里奈、他教室員	口腔保健学科実習室 (1号館7階、8階) 演習室(1号館6F)	実習	4-10
			疫学課題演習1 (TBL: Team Based Learning)	1	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、半田紀 穂子、南郷里奈、他教室員	演習室(1号館6F)	実習	1-5,11
	5	22	栄養指導、味覚検査、リスクテスト フッ化物の応用	2	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、半田紀 穂子、南郷里奈、他教室員	口腔保健学科実習室 (1号館7階、8階) 演習室(1号館6F)	実習	4-10
			疫学課題演習2 (TBL: Team Based Learning)	1	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、半田紀 穂子、南郷里奈、他教室員	演習室(1号館6F)	実習	1-5,11
	5	29	疫学課題演習3(全体発表) 2班に分かれる	3	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、半田紀 穂子、他教室員	第2講義室 第3講義室	実習	1-5,11
	6	1	口腔機能と口腔ケア	3	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、白田千 代子、他教室員	第3講義室	実習	4-10
	6	5	歯科保健指導、歯科健康教育	3	川口陽子、植野正之、財津崇 竹原祥子、大貫茉莉、半田紀 穂子、他教室員	第3講義室 演習室(1号館6F) 基礎実習室(1号館6F)	実習	4-10

評価方法:

- ・レポート(9割)および実習態度(1割)を総括的評価とする。なお、実習を休んだ場合も課題レポートは提出すること。

ユニット試験の受験資格:

- ・4分の3以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・新予防歯科学(米満正美ら監修) 医歯薬出版
- ・予防歯科実践ハンドブック(予防歯科臨床教育協議会編) 医歯薬出版
- ・Oral Health Promotion (Lone Schou and Anthony Blinkhorn) Oxford Medical Publications

担当教員の Office Hour:

川口陽子 教授 水・木 16:00-18:00 yoko.ohp@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科と栄養
ユニット責任者	品田佳世子
ユニット番号	10
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+1 (必要自習時間 2時間)
授業形態	講義

学習目標(GLO):

健康づくりの基本となる栄養・食生活を理解し、口腔の健康との関連を概説できる。

到達目標(SBOs):

- 1) 日本人の栄養・食生活の現状を説明できる。
- 2) 栄養・食生活の診断・評価法を説明できる。
- 3) 基礎疾患を有する患者の臨床栄養について説明できる。
- 4) 口腔の健康と栄養・食生活との関連を説明できる。
- 5) 栄養・食生活の改善方法を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	13	日本人の栄養・食生活の現状と課題	1	品田佳世子	第3講義室	講義	1, 2
			食事摂取基準	1	品田佳世子	第3講義室	講義	1, 2, 5
			食事バランスガイド	1	品田佳世子	第3講義室	講義	1, 2, 5

4	20	栄養アセスメント・必要栄養量の算定	1	豊島瑞枝	第3講義室	講義	3
		食形態、食事療法	1	豊島瑞枝	第3講義室	講義	3
		臨床栄養	1	豊島瑞枝	第3講義室	講義	2, 3, 5
4	27	口腔疾患と栄養との関連	1	品田佳世子	第3講義室	講義	4
		う蝕と甘味料、食生活	1	品田佳世子	第3講義室	講義	4
		食育における歯科の役割	1	品田佳世子	第3講義室	講義	4
5	7	試験	1	品田佳世子	第3講義室		1,2,3,4,5

評価方法:

・レポート(1割)および5月7日の筆記試験(9割)を総合的に評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・食品成分表 改訂最新版 女子栄養大学出版社 2011年
- ・厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準 第一出版 2005年
- ・口腔保健推進ハンドブック 医歯薬出版 2009年

担当教員の Office Hour:

品田佳世子 教授 金 1600-1800 shinadapvoh@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療政策
ユニット責任者	大原里子
ユニット番号	11
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	15+1 (必要自習時間 3時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯科保健・医療政策の立案と評価に関連する制度・法規と社会歯科学の基本的知識・技術を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科医師法、医療法、健康増進法等の歯科保健・医療の関連制度・法規を概説できる。
- 2) EBMに基づいた歯科保健・医療政策の立案と評価の基本的手法を説明できる。
- 3) 歯科医師需給、歯科医療関係者の資質向上等、社会歯科に関する要点を説明できる。
- 4) 保健・医療・福祉に関連する社会制度を概説できる。
- 5) 保健・医療・福祉の連携を理解し、歯科医師の役割(かかりつけ機能等)を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	保健・医療・福祉関連制度	2	大原里子	第3講義室	講義	1、4、5
	4	19	歯科医療の需要と供給	2	五十嵐 公	第3講義室	講義	3
	4	26	医事法制1	2	五十嵐 公	第3講義室	講義	1、4
	5	10	保健・医療・福祉分野での歯科医師の役割	2	北原 稔	第3講義室	講義	2、4、5
	5	17	歯科保健・医療政策の立案と評価	2	平田幸夫	第3講義室	講義	2、3
	5	23	医事法制2	1	五十嵐 公	第3講義室	講義	1、4
	5	24	医事法制3	2	五十嵐 公	第3講義室	講義	1、4
	5	31	歯科医療関係者の資質向上・かかりつけ機能	2	大原里子	第3講義室	講義	3
	6	4	試験	1	大原里子	第3講義室		

評価方法:

・レポート(1割)、各講義での小テスト(2割)、および6月4日の筆記試験(7割)を総合的に評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

・スタンダード社会歯科学第4版(石井拓男他編) 学建書院

担当教員の Office Hour:

大原里子 講師 水 16:30-18:00 charagend@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科法医学
ユニット責任者	佐藤慶太(非常勤、鶴見大学)
ユニット番号	12
開設時期	4年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	12+1(必要自習時間 6時間)
授業形態	講義

学習目標(GO):

歯科医師として必要な法医学の知識と、法医学的視点から問題を解決できる能力を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科医師が担当する法医学の領域や社会的及び法規上の役割を説明できる。

- 2) 法医学上の傷害の発生原因と病態並びに各種の死体所見について説明できる。
- 3) 個人識別の原理及び方法について説明できる。
- 4) 社会的な諸問題に対する歯科医の役割、行政等の取組みや関連法規について説明できる。
- 5) 医療過誤に関連して歯科医師に科せられた社会的責任と罰則規定(行政処分、民事責任、刑事責任、司法解剖)の基本的事項、歯科医療事故の特性を説明できる。
- 6) 大規模災害時等における歯科医師による個人識別の必要性及び業務などについて説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	5	11	歯科法医学概論	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	1,56
	5	11	死後変化の原理と特徴	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	2
	5	11	損傷の鑑別1	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	12
	5	18	損傷の鑑別2	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	12
	5	18	窒息の種別と病態	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	26
	5	18	異常環境下での生体障害	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	2
	5	25	遺伝標識と個人識別	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	3
	5	25	硬組織の形態的特徴による個人識別	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	3
	5	25	歯科医学の応用による個人識別	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	1,35
	6	1	大規模災害における個人識別	1	佐藤慶太	第3講義室	講義 実習	1,36
	6	1	虐待の早期発見と防止	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	24
	6	1	医療事故の検証と医事紛争の解決	1	佐藤慶太	第3講義室	講義	1,45
	6	11	試験		佐藤慶太	第3講義室		

評価方法:

- ・6月11日の筆答試験を総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全講義時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・臨床のための法医学(第6版) 朝倉出版 2010年
- ・Forensic Dentistry Paul G. Stimson, Curtis A. Mertz, Editors

担当教員の Office Hour :

佐藤慶太 sato-k@tsurumi-u.ac.jp

13 研究体験実習

モジュール情報

モジュール名	研究体験実習
モジュール責任者	(正)小野卓史 (副)井関祥子、中川一路
モジュール番号	13
開設時期	4年 前期
モジュールコマ数	237(O) (必要自習時間 70時間)

学習目標(GIO)

自らの関心に基づいて研究活動を行い、自主的学習態度、論理的思考能力を養い、問題解決の方法を習得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	研究体験実習	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	研究体験実習	
ユニット責任者	小野卓史	
ユニット番号	01	
開設時期	4年 前期	
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	237+0	(必要自習時間 70 時間)
授業形態	講義・実習	

学習目標(GIO):

自らの関心に基づいて研究活動を行い、自主的学習態度、論理的思考能力を養い、問題解決の方法を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 自ら関心を持つ研究課題を設定することができる。
- 2) 研究課題を遂行するための活動計画を立案することができる。
- 3) 研究活動に必要とされる知識、技能、適切態度を、自ら習得することができる。
- 4) 研究活動中に生ずる諸問題を、適切に解決することができる。
- 5) 研究活動について、報告書を作成し、発表することができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	18	概説(配属手続き、諸手続きについて)	3	小野卓史	第3講義室	講義	1
		25	研究の基本・計画立案1	3	井関祥子	第3講義室	講義	1,2,3
	5	9	研究の基本・計画立案2 研究室の実際	3	井関祥子、近藤香	第3講義室	講義 テュートリアル	1,2,3
		16	動物実験	1 2	金井正美、遠藤 衆	第3講義室 演習室	講義 テュートリアル	1,2,3
		30	研究の基本・計画立案3 研究倫理	3	中川一路、藍真澄	第3講義室 演習室	講義	1,2,3
6	12		オリエンテーション・統計の実際	3	小野・井関 木野孔司	第3講義室	講義 テュートリアル	1
		13	研究体験実習(初日)	6	配属先教員	配属先	実習	1,2,3,4,5
			6月14日～7月31日 (6月14日、21日、28日は、5コマ(学年 混合選択セミナーのため)、それ以外は 1日6コマとする)	195	配属先教員	配属先	実習	1,2,3,4,5
7	31		研究体験実習(最終日)	6	配属先教員	配属先	実習	1,2,3,4,5
			夏期休暇中への延長は、学生が希望し、 受入機関が承諾した場合のみとする。					
9	20		研究体験実習発表会(口演発表)	6	小野・井関・中川 学生・審査員	第2講義室	発表	5
		21	研究体験実習発表会(口演発表)	6	小野・井関・中川 学生・審査員	第2講義室	発表	5

13 研究体験実習

評価方法:

- ・学生は自ら活動記録を付け、活動記録を定期的に配属先教員に提出し、形成的評価を受ける。
- ・学生は、研究体験実習発表会(全員必須)において研究活動を発表し、形成的評価を受ける。
- ・モジュール終了時には、配属先教員による評価シート、研究活動報告書の評価を合わせ、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数の3/4以上活動(出席)。
- ・活動(出席)状況については、配属先教員が記録する。

参考図書等:

- ・科学者をめざす君たちへー科学者の責任ある行動とは一、米国科学アカデミー編、池内了訳、化学同人、1996、ISBN4-7598-0296-7
- ・ノーベル賞その栄光と真実 - 科学における受賞者はいかにして決められたか、ISTVAN HARGITTAI著、阿部剛久訳、2007、森北出版
- ・イグ・ノーベル賞 大真面目で奇妙キテレツな研究に拍手!、マーク・エイブラハムズ著、2004、阪急コミュニケーションズ
- ・学術振興のすすめ(1)、沢田敏男編、日本学術振興会、1991、ISBN4-8181-9102-7
- ・学術振興のすすめ(2)、沢田敏男編、日本学術振興会、1991、ISBN4-8181-9103-5
- ・At the Bench: A Laboratory Navigator, Kathy Barker, Cold Spring Harbor Laboratory, 2004、ISBN-10: 0879697083
- ・日本学術会議 HP: <http://www.scj.go.jp/index.html>
- ・日本学術会議 科学者の行動規範について: <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-s3.pdf>
- ・日本学術振興会 HP: <http://www.jsps.go.jp/>

コース設定:

1. Aコース:大学内研究室(医/歯/難治研/生材研)へ配属するコース
2. Bコース:国内外研究機関、学術交流協定校へ配属するコース

[上記 A,B コースとも1分野(研究室)1人制。希望調査時に第1希望ー第3希望を調査し、希望者が複数の場合は希望者間で調整すること]

8月1日～9月20日までの夏季休暇における実習の延長については、学生本人が希望した上で、配属先分野が了承した場合のみ可とする。

学生発表会事前抄録について:

8月31日(金)17:00までに、事前抄録を、PDF書類とした上で、メールにて、小野まで提出すること。(件名は、『事前抄録 2012(事務処理番号/氏名)』とすること。)

事前抄録について:MS明朝12ポイントにて、目的、研究方法、結果、考察について、A4紙1枚に収める事。図表の使用も可。印刷については、白黒となることを承知のこと。

学生発表会(発表方法)について:

9月20、21日の両日、全員を対象として口演発表[12分発表、3分質疑(予定)]を実施する。審査委員による審査結果、上位4名の学生に対して、歯学部長賞を授与する。

研究活動報告書について:

9月28日(金)17:00までに、PDF書類とした上で、メールにて、期限厳守で小野まで提出すること。(件名は『研究体験実習 2012(事務処理番号/氏名)』活動報告書提出』とすること。内容は研究背景、目的、方法、結果、考察、展望、感想を含むこと。活動報告書については学内研究室および学生所属研究室へCDにて配付される予定のため、学内公表可能な内容であることを配属先教員に確認したのちに提出すること。

その他:

期間中は、各分野へ配属するため、情報伝達についてはブラックボードへの掲載情報を随時、各人が確認すること。特に事前抄録や研究活動報告書などの提出時期には、ブラックボード経由で指示を通達するため、確認を怠らないこと。また、書類提出などに関する全ての期限は厳守すること。

研究室配属が基本となるので、通常の講義、実習とは異なり、仕事場の一員となることを強く自覚し、社会人としてふさわしい行動をとるようにすること。

研究体験実習については、配属先研究室で、「教えてもらう」時間ではなく、「学ぶ」時間を得ていることを、きちんと認識し、能動的に実習を行うこと。

配属期間中、相談等がある場合は、下記、Office Hour に研究室訪問(要事前連絡)をすること。

担当教員の Office Hour:

小野卓史 教授 木	16:00-17:00	t.ono.orts@tmd.ac.jp
井関祥子 教授 木	16:00-17:00	sach-dev@tmd.ac.jp
中川一路 教授 月~金	16:00-21:00	ichiro-n.bac@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	臨床体験実習 2
モジュール責任者	(正)木下淳博 (副)秀島雅之
モジュール番号	14
開設時期	4年 後期
モジュールコマ数	48(0)

学習目標(GIO)

医療現場を体験することにより、将来の歯科医師としての自覚を高め、歯科臨床に必要な基本的態度と知識を身につける。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	D6体験実習	実習
02	コンピュータシミュレーション実習	実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	D6体験実習
ユニット責任者	木下淳博
ユニット番号	01
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21+0 × 2 グループ
授業形態	実習

学習目標 (GIO)

包括臨床実習現場を体験することにより、将来の歯科医師としての自覚を高め、歯科臨床に必要な基本的態度と知識を身につける。

歯科における治療計画立案の重要性を理解し、症例分析能力・治療計画立案能力を修得する。

包括臨床実習現場において、実際の患者さんに医療面接を行い、将来の歯科医師としての自覚を高め、医療面接に必要な基本的態度と知識を身につける。

到達目標 (SBOs)

- 1) 感染予防の概念を理解し、適切に実践できる。
- 2) 歯科臨床に必要な基本的態度(守秘義務、言動、服装等)を実践できる。
- 3) 診療室への患者の誘導を適切にできる。
- 4) 歯科診療の診査・検査結果を記録できる。
- 5) 歯科治療のアシストができる。
- 6) 歯科治療の準備ができる。
- 7) 口腔内状態の記録ができる。
- 8) 一口腔内で保存治療および補綴治療を行った(行う必要のある)ひとりの患者について、過去の治療経過および今後の治療方針を理解し、その内容をプレゼンテーションできる。
- 9) 他の学生による上記プレゼンテーションの内容を理解し、討論ができる。
- 10) 患者に挨拶して自己紹介できる。
- 11) 診療室における患者の心理と行動を理解し配慮できる。
- 12) 患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- 13) 初診時の主訴、初診時の現症、初診時までの病歴(初診時の現病歴)、既往歴、現在の状態に関する医療面接が実施でき、適切に記録できる。
- 14) 主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。
- 15) 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
- 16) 的確な病歴聴取(現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等)を行い、必要な部分を抽出できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	19	オリエンテーション(全体) ・D6体験実習 ・ソフトシム実習 ・ハードシム実習	1	木下淳博、大山 篤 秀島雅之	第4講義室	講義	1-16
		19	D6体験実習1日目(グループ2)	2	竹内康雄、大山 篤 石村 瞳、吉岡隆知	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習	1-16
		26	D6体験実習1日目(グループ1)	3	内田達郎、南 一郎 駒田 亘	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習	1-16

14 臨床体験実習2

24	11	2	D6体験実習2日目(グループ2)	3	竹内康雄、大山 篤 石村 瞳、吉岡隆知	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
		9	D6体験実習2日目(グループ1)	3	内田達郎、南 一郎 駒田 亘	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
		16	D6体験実習3日目(グループ2)	3	竹内康雄、大山 篤 石村 瞳、吉岡隆知	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
12	14		D6体験実習3日目(グループ1)	3	内田達郎、南 一郎 駒田 亘	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
		21	D6体験実習4日目(グループ2)	3	竹内康雄、大山 篤 石村 瞳、吉岡隆知	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
25	1	11	D6体験実習4日目(グループ1)	3	内田達郎、南 一郎 駒田 亘	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
		18	D6体験実習5日目(グループ2)	3	竹内康雄、大山 篤 石村 瞳、吉岡隆知	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
		25	D6体験実習5日目(グループ1)	3	内田達郎、南 一郎 駒田 亘	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
2	1		D6体験実習6日目(グループ2)	3	竹内康雄、大山 篤 石村 瞳、吉岡隆知	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
		8	D6体験実習6日目(グループ1)	3	内田達郎、南 一郎 駒田 亘	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習 討論	1-16
		15	D6体験実習7日目(グループ2)	3	竹内康雄、大山 篤 石村 瞳、吉岡隆知	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習	1-16
		22	D6体験実習7日目(グループ1)	2	内田達郎、南 一郎 駒田 亘	第1総合診療室 第4講義室 保存矯正実習室 実習示説室	臨床実習	1-16
		22	ケース票提出 授業アンケート (コンピュータシミュレーション実習 の最終回の中で実施する)	1	木下淳博、大山 篤	保存矯正実習室	書類審査	

評価方法:

- ・適宜実習記録、ケース履修票等を確認し、形成的評価を行う。
- ・各回の討論において、形成的評価を行う。
- ・実習記録、ケース票による総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット授業コマ数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・医療面接法 よりよい医師－患者関係のために、C.Knight Aldrich 著、田口博國 訳、医学書院、2000。

備考:

- ・第4学年学生を、グループ1、2に分け、基本的に隔週で交代しながら、本ユニットとコンピュータシミュレーション実習ユニットを交互に履修する。
- ・本ユニット内では、各グループを10名程度の3班に分け、各班学生を臨床系分野教員1名が担当する。

担当教員のOffice Hour:

木下淳博 教授 金 16:00-17:00 kinoshita.emdv@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	コンピュータシミュレーション実習
ユニット責任者	秀島雅之
ユニット番号	02
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	27+0 × 2グループ
授業形態	実習

学習目標 (GIO)

コンピュータを用いて歯科臨床のシミュレーションを行うことにより、歯科臨床の知識、技能を自己学習する能力を身につける。

到達目標 (SBOs)

- 1) シミュレーション実習室の学生用システムを適切に操作できる。
- 2) マネキンを患者さんとして扱い、歯科の処置を繰り返し練習して、手本を模倣することができる。(支台歯形成、レジン充填、スケーリング、ルートプレーニング、歯肉切除、歯肉整形、髓腔開拓、根管形成等)
- 3) コンピュータ画面上で、医療面接、診査、検査、処置、準備、診断、治療方針立案等を繰り返し行い、歯科における典型的な症例、および稀にしか遭遇できない症例をひと通り体験する。
- 4) マネキンまたは学生相互で概形印象採得ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	19	オリエンテーション(全体)	1	秀島雅之、木下淳博 大山 篤	第4講義室	講義	1-4
		19	ハード・ソフトシム実習(グループ1)	2	秀島雅之、小長谷光 木下淳博、須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室	実習	1-3
		26	ハード・ソフトシム実習(グループ2)	3	大槻昌幸、趙 永哲 樺沢勇司、木下淳博 須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室	実習	1-3

14 臨床体験実習2

	11	2	ハード・ソフトシム実習(グループ1)	3	秀島雅之、小長谷光 木下淳博、須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室	実習	1-3
		9	ハード・ソフトシム実習(グループ2)	3	大槻昌幸、趙永哲 樺沢勇司、木下淳博 須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室	実習	1-3
		16	ハード・ソフトシム実習(グループ1)	3	秀島雅之、小長谷光 木下淳博、須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室	実習	1-3
		30	ハード・ソフトシム実習(グループ1, 2)	3	大槻昌幸、趙永哲 樺沢勇司、木下淳博 須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室	実習	1-3
	12	7	ハード・ソフトシム実習(グループ1, 2) 概形印象採得	3	秀島雅之、水口俊介 小長谷光、木下淳博 須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室 第一総診2	実習	1-4
		14	ハード・ソフトシム実習(グループ2) 概形印象採得	3	大槻昌幸、趙永哲 水口俊介、樺沢勇司 木下淳博、須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室 第一総診2	実習	1-4
		21	ハードシム評価実習(グループ1) 概形印象採得 ケース票提出(中間評価)	3	秀島雅之、大槻昌幸 趙永哲、水口俊介 木下淳博、須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室 第一総診2	実習	1, 2, 4
25	1	11	ハードシム評価実習(グループ2) 概形印象採得 ケース票返却	3	秀島雅之、大槻昌幸 趙永哲、水口俊介 木下淳博、須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室 第一総診2	実習	1, 2, 4
		18	ハード・ソフトシム実習(グループ1) 概形印象採得	3	秀島雅之、水口俊介 小長谷光、木下淳博 須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室 第一総診2	実習	1-4
		25	ハード・ソフトシム実習(グループ2) 概形印象採得	3	大槻昌幸、趙永哲 水口俊介、樺沢勇司 木下淳博、須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室 第一総診2	実習	1-4
	2	1	ハード・ソフトシム実習(グループ1)	3	秀島雅之、小長谷光 木下淳博、須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室	実習	1-3
		8	ハード・ソフトシム実習(グループ2)	3	大槻昌幸、趙永哲 樺沢勇司、木下淳博 須永昌代	シミュレーション実習室 保存矯正実習室	実習	1-3
		15	ソフトシム実習(グループ1)	3	小長谷光、木下淳博 須永昌代	保存矯正実習室	実習	1-3
		22	ソフトシム実習(グループ2)	2	樺沢勇司、木下淳博	保存矯正実習室	実習	1-3
		22	ケース票提出 授業アンケート	1	樺沢勇司、木下淳博 大山 篤	保存矯正実習室	書類 審査	

評価方法:

- ・適宜実習記録、ケース履修票等を確認し、形成的評価を行う。
- ・実習記録、ケース票による総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット授業コマ数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

備考:

- ・第4学年学生を、グループ1, 2に分け、基本的に隔週で交代しながら、本ユニットとD6体験実習ユニットを交互に履修する。

- ・本ユニット内では、各グループを約15名の2班に分け、シミュレーション実習室(ハードシム実習)と保存矯正実習室(ソフトシム実習)に交替で分かれて実習を行う。
- ・包括臨床実習の日程により、グループ1、グループ2の合同実習とする日がある。

担当教員のOffice Hour:

木下淳博 教授 金 16:00-17:00 kinoshita.emdv@tmd.ac.jp

秀島雅之 講師 水 17:00-18:00 m.hideshow@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	咬合育成・発達		
モジュール責任者	(正)森山啓司 (副)小野芳明		
モジュール番号	15		
開設時期	4年 後期		
モジュールコマ数	114 (3)	(必要自習時間	22 時間)

学習目標(GIO)

口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長発育を理解し、咬合異常の予防、診断および治療に必要な知識と基本的技能を修得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	顎顔面の成長発育機構と矯正治療の生物学的背景	講義・実習
02	小児の成長発育と咬合育成	講義・実習
03	不正咬合と歯科矯正・外科的矯正治療	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	顎顔面の成長機構と矯正治療の生物学的背景	
ユニット責任者	鈴木聖一	
ユニット番号	01	
開設時期	4年後期	
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	19+1	(必要自習時間 5時間)
授業形態	講義・実習	

学習目標(GIO):

顎顔面頭蓋の成長発育機構とその異常、正常咬合の成立に必要な要件と不正咬合の原因および矯正力や顎整形力に対する歯、骨、軟組織の生体応答性など、矯正治療のメカニズムを習得する上で必要な生体の構造と機能について理解を深める。

到達目標(SBOs):

- 1) 顎顔面頭蓋の正常な成長発育様相について説明できる。
- 2) 矯正治療の目的と意義を説明できる。
- 3) 正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。
- 4) 不正咬合によって生じる障害を列挙できる。
- 5) 不正咬合の分類・原因を列挙しそれに起因する障害と予防法を説明できる。
- 6) 不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。
- 7) 矯正力、顎整形力(矯正治療)によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。
- 8) 矯正治療によって生じる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関 SBOs
24	9	24	歯科矯正学総論	2	森山啓司、小野卓史	第3講義室	講義	1,2,3,4
	9	24 25	成長発育	4	森山啓司、鈴木聖一	第3講義室	講義	1,2
	10	1	咬合学	3	小野卓史	第3講義室	講義	3,5,6
	10	2	原因論	2	森山啓司	第3講義室	講義	5,6
	10	2	診断学	2	小野卓史	第3講義室	講義	1,2,5,6
	10	2	診断学実習(セファログラムを用いた分析)	2	咬合機能矯正学教員・ 顎顔面矯正学教員	保存矯正実習室	実習	1,2,3,5,6
	10	3	診断学実習(セファログラムを用いた分析)	1	咬合機能矯正学教員・ 顎顔面矯正学教員	保存矯正実習室	実習	1,2,3
	10	4	先天異常総論	1	森山啓司	第3講義室	講義	2,4,5,6
	10	4	矯正刺激と生体反応	2	咬合機能矯正学教員	第3講義室	講義	3,4,7
25	1	7	筆記試験	1	森山啓司	第3講義室	試験	

評価方法:

・授業科目ごとに、講義においては観察記録および口頭試験、実習においては実地試験、観察記録および口頭試験、ならびにレポートにより形成的評価を行う。さらに、モジュール最終回の客観試験、論述試験(平成25年1月7日)により総括的評価を行う。

試験の受験資格:

- ・ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席し、かつ実習部分の全コマ数の4分の3以上に出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・口腔組織学 第5版、Ten Cate 編著、川崎堅三・矢嶋俊彦他訳、医歯薬出版
- ・人体発生学 第6版、Moore 著、瀬口春道監訳、医歯薬出版
- ・アトラス顎顔面矯正 -顎変形症と口唇口蓋裂の矯正治療- 黒田敬之監修、医歯薬出版
- ・Gorlin's Syndromes of the Head and Neck, 5th edition, Hennekam/Krantz/Allanson 共著、Oxford University Press
- ・歯科矯正学 第5版、相馬邦道他編著、医歯薬出版
- ・Contemporary Orthodontics 4th Ed., W. R. Proffit 他著、MOSBY

担当教員の Office Hour:

森山啓司 教授 月・木 16:00-17:30 k-moriyama.mort@tmd.ac.jp

鈴木聖一 准教授 水・木 16:00-17:30 s-suzuki.mort@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	小児の成長発育と咬合育成
ユニット責任者	小野芳明
ユニット番号	02
開設時期	4年後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	42+1 (必要自習時間 8時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

小児の成長発育に伴う口腔領域の健康を維持・増進させるために、疾患や異常を予防・治療し、健全な顎口腔の形態と機能を育成するための理論と方法を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 小児の精神発達と身体発育の特徴を述べ、発育の評価法を説明できる。
- 2) 小児の口腔・頭蓋・顎顔面領域の形態的・機能的特徴を説明できる。
- 3) 小児の歯、歯列および咬合の発育と異常を説明できる。
- 4) 乳歯と幼若永久歯の特徴を説明できる。
- 5) 小児のう蝕と歯髄・歯周疾患の特徴を列挙し、それらの予防・診断・治療の方法を説明し実践できる。
- 6) 小児の歯の外傷の診断・治療の方法を説明できる。
- 7) 小児の口腔外科的処置を説明できる。
- 8) 咬合誘導の概念を説明し、保隙装置を製作できる。
- 9) 小児患者の対応法を説明できる。
- 10) 小児の継続的口腔健康管理の意義を説明しそのための計画を立案できる。
- 11) 心身障害児の口腔健康管理の問題点を指摘し、歯科診療の方法を説明できる。
- 12) フッ化物の歯面塗布を実践できる。

- 13) 予防填塞を実施できる。
 14) 適切な口腔清掃法を指導できる。
 15) 適切な食事指導(間食指導)を実施できる。
 16) 適切な生活習慣を指導できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	5	小児の歯科診療の目的と意義	1	小野芳明	第3講義室	講義	1, 2, 3, 5, 8, 10
			小児の心身の発育の特徴	2	小野芳明	第3講義室	講義	1, 9
	10	15	小児の口腔・頭蓋・顎顔面領域の形態および機能の発育	2	小野芳明	第3講義室	講義	2
			小児の歯・歯列・咬合の発育と評価(1)	1	小野芳明	第3講義室	講義	2
		16	小児の歯・歯列・咬合の発育と評価(2)	1	三輪全三	第3講義室	講義	3
			乳歯・幼若永久歯の特徴	2	三輪全三	第3講義室	講義	4
		17	小児のう蝕とう蝕予防	3	小野芳明	第3講義室	講義	4, 5
	11	12	小児の歯冠修復	1	小野芳明	第3講義室	講義	4, 5
			小児の歯髄疾患と歯内治療	2	小野芳明	第3講義室	講義	4, 5
		15	小児の歯周・口腔軟組織疾患	1	三輪全三	第3講義室	講義	4, 5
			小児の歯の外傷と口腔外科的処置	2	三輪全三	第3講義室	講義	6, 7
		19	咬合誘導の概念と実際	2	小野芳明	第3講義室	講義	2, 3, 8
			小児患者の対応法	1	小野芳明	第3講義室	講義	1, 9
		22	小児の口腔健康管理	3	三輪全三	第3講義室	講義	1, 9, 10, 14, 15, 16
		30	心身障害児の口腔保健と歯科治療	3	三輪全三	第3講義室	講義	9, 11, 14, 15, 16
		3 6 12 10 13 20	模型実習(ラバーダム装着、フッ化物歯面塗布、予防填塞、生活歯髄切断処置、乳歯冠修復、可撤保隙装置)	15	小児歯科学分野教員・非常勤講師	保存矯正実習室	模型実習	4, 5, 8, 12, 13
25	1	7	筆記試験	1	小野芳明	第3講義室	試験	

評価方法:

- ・授業科目ごとに、講義においては観察記録および適宜小テスト等により、また実習においては観察記録および口頭試験、ならびにレポートにより形成的評価を行う。さらに、モジュール最終回の客観試験、論述試験(平成25年1月7日)により総括的評価を行う。

試験の受験資格:

- ・ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席し、かつ実習部分の全コマ数の4分の3以上に出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・小児歯科学 第4版、高木裕三・井上美津子・田村康夫・白川哲夫編、医歯薬出版

15 咬合育成・発達

担当教員の Office Hour:

小野 芳明 講師 火・木 16:00-18:00 y-ono.dohs@tmd.ac.jp
 三輪 全三 講師 水・木 16:00-18:00 miwa.dohs@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	不正咬合と歯科矯正・外科的矯正治療		
ユニット責任者	小野卓史		
ユニット番号	03		
開設時期	4年後期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	50+1	(必要自習時間	9時間)
授業形態	講義・実習		

学習目標(GIO):

不正咬合の病因と随伴する顎口腔領域の形態・機能異常を理解し、予防と治療の意義を踏まえた上で歯科矯正・外科的矯正治療の理論と方法を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科矯正治療・外科的矯正治療の目的と意義を説明できる。
- 2) 不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。
- 3) 矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。
- 4) 矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。
- 5) 矯正治療に必要な力学を説明できる。
- 6) 後戻りと保定について説明できる。
- 7) 先天異常および顎変形症患者における外科的矯正治療の診断・治療法を説明できる。
- 8) 歯科矯正治療・外科的矯正治療の治療計画を立案できる。
- 9) 顎変形症、口唇口蓋裂患者を含む先天異常患者に対する咬合改善のための包括治療の流れを説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	5	治療学総論1-3	3	小野卓史、森山啓司	第3講義室	講義	1,2,7,8,9
	10	9	ワイヤーベンディング実習	3	咬合機能矯正学教員・ 顎顔面矯正学教員	保存矯正 実習室	実習	3,5
	10	15	治療学総論4, 5	2	咬合機能矯正学教員	第3講義室	講義	1,2,7,8
	10	23 26	舌側弧線装置実習	6	咬合機能矯正学教員・ 顎顔面矯正学教員	保存矯正 実習室	実習	2,3,4,5
	10	25 11 5	治療学各論	6	小野卓史、森山啓司	第3講義室	講義	2,3,4,5,6,8
	10	30 11 1 9	タイポドント実習	9	咬合機能矯正学教員・ 顎顔面矯正学教員	保存矯正 実習室	実習	2,3,4,5
	11	6	顎変形症総論	1	森山啓司	第3講義室	講義	1,2,7,8,9
	11	6	顎変形症の外科的矯正治療	2	小野卓史	第3講義室	講義	2,7,8,9

11	8	先天異常症例の矯正治療	2	森山啓司	第3講義室	講義	2,7,8,9
11	8	口唇口蓋裂症例の矯正治療	2	森山啓司、小野卓史	第3講義室	講義	2,7,8,9
12	11						
11	21	治療学実習(矯正装置)	3	咬合機能矯正学教員 顎顔面矯正学教員	保存矯正実習室	実習	2,4,5,6
11	27	診断学実習(診断計画立案)	3	咬合機能矯正学教員 顎顔面矯正学教員	保存矯正実習室	実習	1,2,4,6,7,8,9
11	29	診断学実習(模擬患者説明)	3	咬合機能矯正学教員・非常勤講師*1 顎顔面矯正学教員・非常勤講師*2	保存矯正実習室 演習室	実習	1,2,4,6,7,8,9
12	11	顎矯正学まとめ	1	森山啓司	第3講義室	講義	1,2,7,8,9
12	11	歯科矯正学まとめ	1	小野卓史	第3講義室	講義	1,2,7,8,9
12	17	咬合育成・発達診断実習	3	小児歯科学教員・非常勤講師	保存矯正実習室	実習	5, 8, 11,12 (ユニット02)
25	1	7	筆記試験	1	咬合機能矯正学教員	第3講義室	試験

*1: 久野昌隆、福山英治、金香佐和、村本 健、松原 望、桐本博章、尾崎周作、堀内洋輔、佐藤 忠、武居真希

*2: 寺島多美子、加藤嘉之、馬場祥行、石渡靖夫、天願俊泉、横関雅彦、檜山成寿 大隈瑞恵

評価方法:

・授業題目ごとに、講義においては観察記録および口頭試験、実習においては実地試験、観察記録、simulation test、口頭試験、ならびにレポートにより形成的評価を行う。さらに、モジュール最終回の客観試験、論述試験(平成25年1月7日)により総括的評価を行う。

試験の受験資格:

・講義部分の全コマ数の3分の2以上に出席し、かつ実習部分の全コマ数の4分の3以上に出席していなければならない。
・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

・歯科矯正学 第5版、相馬邦道他編著、医歯薬出版
・Contemporary Orthodontics 4th Ed., W. R. Proffit 他著, MOSBY
・Orthodontics Current Principles & Techniques 4th Ed., T. M. Graber 他著, ELSEVER/MOSBY
・Handbook of Orthodontics 4th Ed., R. E. Moyers 著, YEAR BOOK MEDICAL PUBLISHERS
・Contemporary Treatment of Dentofacial Deformity, W. R. Proffit 他著, MOSBY
・アトラス顎顔面矯正 -顎変形症と口唇口蓋裂の矯正治療- 黒田敬之監修、医歯薬出版
・Gorlin's Syndromes of the Head and Neck, 5th edition, Hennekam/Krantz/Allanson 共著、Oxford University Press

担当教員の Office Hour:

小野卓史 教授 月・水 16:00-17:00 t.ono.orts@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	う蝕と歯髄疾患
モジュール責任者	(正)三浦宏之 (副)大槻昌幸、池田英治、吉田恵一
モジュール番号	16
開設時期	4年 後期、5年 前期
モジュールコマ数	246(18) (必要自習時間 42時間)

学習目標(GO)

歯と根尖歯周組織に生ずる疾患の病因・病態を理解し、その予防・診断および治療に関する知識と基本的技能を修得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	講義形態
01	歯の硬組織疾患とその臨床 概論	講義
02	歯の軟組織疾患とその臨床	講義
03	保存修復治療	実習
04	保存修復治療の臨床応用と審美的展開	講義
05	保存修復治療の展開	講義
06	歯髄/根尖歯周組織疾患を治す	講義
07	歯髄/根尖歯周組織を考える	講義
08	歯内治療の展開	講義
09	歯内治療実習	実習
10	クラウン修復	講義
11	支台築造	講義・実習
12	全部鑄造冠修復	講義・実習
13	審美的なクラウン修復	講義・実習
14	高速切削	実習

ユニット01から09までは4年次、10から14までは5年次に実施

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	歯の硬組織疾患とその臨床 概論
ユニット責任者	田上順次
ユニット番号	01
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	6+0(第4ユニットで実施)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯の硬組織疾患とその治療の概要を理解し、臨床に必要な基礎知識を身につける。

到達目標(SBOs):

- 1) 保存修復治療の概要を説明できる。
- 2) 歯内治療の概要を説明できる。
- 3) クラウン治療の概要を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	25 26	保存修復の概要	1 1	田上順次	第3講義室	講義	1
		25	歯内治療の概要	2	須田英明	第3講義室	講義	2
	9	26	クラウン治療の概要	2	三浦宏之	第3講義室	講義	3

※TAは、授業計画に基づき、適宜、講義準備の補助を行う。

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成25年1月7日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・保存修復学21第四版、永末書店
- ・う蝕学、永末書店
- ・う蝕治療ガイドライン、日本歯科保存学会編、永末書店
- ・Art and science of operative dentistry, Mosby.
- ・改訂版エンドデンティックス21、永末書店
- ・Pathway of the Pulp 8th ed, Mosby
- ・Seltzer and Bender's The Dental Pulp, 2nd ed, Quintessence
- ・失敗しない歯髄保存療法、初版、クインテッセンス出版
- ・バイオロジーに基づいた実践歯内療法学、クインテッセンス出版
- ・Essential Endodontology, 2nd ed, Blackwell Publishing
- ・クラウンブリッジ補綴学 第3版、医歯薬出版、2004.
- ・クラウンブリッジテクニック 医歯薬出版、2008.

担当教員の Office Hour :

趙 永哲 月・火・金 16:30-18:30 cho.ope@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯の硬組織疾患とその臨床
ユニット責任者	田上順次
ユニット番号	02
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	23+0 (第4ユニットで実施)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯の常態を理解し、う蝕ならびにその他の歯質欠損の病態と治療の進め方を理解する。
 歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。
 修復材料の特性、成分及び構造を把握し、適切な材料の選択ならびに取り扱い方を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯の硬組織の構造と機能を説明できる。
- 2) う蝕の病因と病態を説明できる。
- 3) う蝕の症状・診断・治療法を説明できる。
- 4) 歯冠欠損に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。
- 5) 窩洞の意義と窩洞形成の方法を説明できる。
- 6) 切削・研磨用材料と使用機器の特徴と使い方を説明できる。
- 7) 歯冠修復に用いる材料の構造と物性を理解する。
- 8) 歯冠修復法の種類と特徴及びその適応を説明できる。
- 9) 接着性修復材料をもちいた修復の概要と特性を説明できる。
- 10) 修復に必要な前処理の目的と意義を説明できる。
- 11) 歯髄保護の種類を述べ、その重要性を説明できる。
- 12) う蝕の予防法を理解し、う蝕リスクの診断法を説明できる。
- 13) 間接法修復の進め方と使用する材料の種類と性質を説明できる。
- 14) 仮封ならびに暫間装置の意義、種類及び特徴を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	27	歯の硬組織疾患の正常と異常	3	大槻昌幸	第3講義室	講義	1,2
		28	コンポジットレジン修復	3	二階堂徹	第3講義室	講義	7-9
		28	う蝕の処置と不潔域、窩洞	2	中島正俊	第3講義室	講義	3-6
	10	24	歯科用セメント(グラスアイオノマー)、アマルガム	3	島田康史	第3講義室	講義	7,8,10,11
		31	カリオロジーの最前線	3	花田信弘	第3講義室	講義	2,12
	11	7	コンポジットレジン修復とレーザー治療 保存修復の臨床-1	3	稲井紀通・加藤純二 西村耕三	第3講義室	講義	5,6,9
		14	間接法修復(メタルインレーとレジンインレー)	3	二階堂徹	第3講義室	講義	13,14
		20	う蝕のリスク検査、保存修復治療の臨床-2	3	北迫勇一・池田忠雄	第3講義室	講義	4,9

※TAは、授業計画に基づき、適宜、講義準備の補助を行う。

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成 25 年 1 月 7 日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・保存修復学21第四版、永末書店
- ・う蝕学、永末書店
- ・う蝕治療ガイドライン、日本歯科保存学会編、永末書店
- ・Art and science of operative dentistry, Mosby.

担当教員の Office Hour :

趙 永哲 助教 月・火・金 16:30—18:30 choope@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	保存修復治療
ユニット責任者	趙 永哲
ユニット番号	03
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	51+0 (第5ユニットで実施)
授業形態	実習

学習目標(GO):

う蝕の診察、検査、診断、治療及び予防を行うために必要な、基本的な技能及び態度を身につける。
う蝕ならびにその他の歯質欠損に対する歯冠修復の進め方を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 診察、検査、診断及び治療に必要な器材を準備できる。
- 2) 切削・研磨用材料と機器を使用できる。
- 3) う蝕の除去ならびに窩洞形成ができる。
- 4) 歯の欠損の病態に対応した処置方針を選択し、説明できる。
- 5) 直接法接着修復の基本操作を行うことができる。
- 6) 修復に必要な前処理の基本的操作ができる。
- 7) 間接法修復に関する模型上での基本的操作を理解し、行うことができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
23	9	26	器材検査、抜去歯検査	3	趙 永哲	保存矯正実習室	実習	1
	9	28	器材の使い方、抜去歯検査	3	趙 永哲	保存矯正実習室	実習	1,2
	10	3						
		4	う蝕の除去	3	島田康史・新田義人	保存矯正実習室	実習	1-4

	10	う蝕の除去、レジン修復	3	井上剛・ディネシュ ヴ イーラセンハ	保存矯正実習室	実習	1-5
	11 19	前歯レジン修復(単純窩洞、人工歯・抜去歯)	6	高垣 智博・大野康博	保存矯正実習室	実習	5
	24 31	臼歯レジン修復(単純窩洞、人工歯・抜去歯)	6	趙 永哲・田代浩史	保存矯正実習室	実習	5
11	1	前歯レジン修復(複雑窩洞、人工歯・抜去歯)	3	保坂啓一・有吉芽生	保存矯正実習室	実習	5.6
	6 7	臼歯レジン修復(複雑窩洞、人工歯・抜去歯)	6	北迫勇一・東高士	保存矯正実習室	実習	5.6
	13	歯根面う蝕修復(単純窩洞、人工歯・抜去歯)	3	中島正俊・浦部功	保存矯正実習室	実習	5
	14	間接法修復序論(拡大歯)	3	吉川孝子・堀口 尚司	保存矯正実習室	実習	7
	20	メタルインレー修復(人工歯)	3	大槻昌幸・日下輝雄	保存矯正実習室	実習	7
	26 27 28	ハイブリッドレジンインレー修復(人工歯)	9	二階堂徹・池田正臣・ 高田恒彦	保存矯正実習室	実習	7

※TAは、授業計画に基づき、適宜、実習準備と学生指導の補助を行う。

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成25年1月7、8日に筆記ならびに実習試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜、実習態度の評価、作品の評価および実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・保存修復学21第四版、永末書店
- ・う蝕学、永末書店
- ・う蝕治療ガイドライン、日本歯科保存学会編、永末書店
- ・Art and science of operative dentistry, Mosby.

担当教員の Office Hour :

趙 永哲 助教 月・火・金 16:30—18:30 choope@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	保存修復治療の臨床応用と審美的展開
ユニット責任者	田上順次
ユニット番号	04
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+3
授業形態	講義

学習目標(GO):

- 審美的な歯科治療に関する知識を習得し、その治療方法を理解する。
- 歯質保存的な歯冠修復の意義を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯の変色の原因、種類及び処置を説明できる。
- 2) 審美的な歯科治療の意義を説明できる。
- 3) 審美的な歯科治療法を列挙し、その基本的な術式と特徴を説明できる。
- 4) MIの意義を説明できる。
- 5) 修復後の術後管理の目的と方法を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	11	28	歯の色調回復	3	大槻昌幸	第3講義室	講義	2,3
	12	4	ライブ講義 修復治療と術後管理	3	田上順次	第3講義室	講義	1-3
		5	MIと審美レジン修復	3	田上順次・保坂啓一	第3講義室	講義	2-5
25	1	7	試験	3	田上順次・趙 永哲	第3講義室	試験	

※TAは、授業計画に基づき、適宜、講義準備の補助を行う。

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成25年1月7日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・保存修復学21第四版、永末書店
- ・Art and science of operative dentistry, Mosby.

担当教員の Office Hour :

趙 永哲 月・火・金 16:30—18:30 choope@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	保存修復治療の展開
ユニット責任者	田上順次
ユニット番号	05
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	12+3
授業形態	実習

学習目標(GO):

歯の硬組織疾患に対する審美的治療の基本的術式を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 前歯の審美的接着修復の基本操作を行うことができる。
- 2) 臼歯の審美的接着修復の基本操作を行うことができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	12	4 5	前歯の審美的レジン修復	6	岸川隆蔵、保坂啓一	保存矯正実習室	実習	1
		7 12	臼歯の審美的レジン修復	6	二階堂徹	保存矯正実習室	実習	2
25	1	8	実習試験	3	趙 永哲	保存矯正実習室	試験	

※TAは、授業計画に基づき、適宜、実習準備と学生指導の補助を行う。

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成25年1月7、8日に筆記試験ならびに実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・保存修復学21第四版、永末書店
- ・Art and science of operative dentistry, Mosby.

担当教員の Office Hour :

趙 永哲 助教 月・火・金 16:30—18:30 cho.ope@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯髄/根尖歯周組織疾患を治す
ユニット責任者	須田英明
ユニット番号	06
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	7+0 (08 ユニットで実施)
授業形態	講義

学習目標(GO):

歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の診断と治療法を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の診断法をフローチャートを用いて説明できる。
- 2) 歯髄保存療法を分類し、説明できる。
- 3) 歯髄除去療法を分類し、説明できる。
- 4) 歯髄疾患の治療に必要な無菌的処置法を説明できる。
- 5) 感染根管治療を説明できる。
- 6) 感染根管治療の補助療法を列挙し、説明できる。
- 7) 根管の機械的拡大・形成と化学的清掃を説明できる。
- 8) 根管充填の目的、時期及び方法を説明できる。

9) 歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
25	1	8	総論、Infection control	1	須田英明	第3講義室	講義	1-9
	1	8	歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の診断	1	須田英明	第3講義室	講義	1
	1	8	歯髄保護、歯髄保存療法	1	須田英明	第3講義室	講義	2,9
	1	9	歯髄除去療法	1	須田英明	第3講義室	講義	3,9
	1	9	感染根管治療	1	須田英明	第3講義室	講義	5,6,9
	1	9	根管拡大・形成、洗浄	1	須田英明	第3講義室	講義	7
	1	16	根管充填	1	小林千尋	第3講義室	講義	8,9

評価方法:

- ・各講義終了後に小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成25年3月1日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・改訂版エンドドンティックス21、永末書店
- ・Pathways of the Pulp 10th ed, Mosby
- ・Seltzer and Bender's The Dental Pulp, 2nd ed, Quintessence
- ・失敗しない歯髄保存療法、初版、クインテッセンス出版
- ・バイオロジーに基づいた実践歯内療法学、クインテッセンス出版
- ・Essential Endodontology, 2nd ed, Blackwell Publishing

担当教員の Office Hour :

小林千尋 准教授 月～金16:00～18:00 c.kobayashi.endo@tmd.ac.jp
 竹田淳志 講師 月～金16:00～18:00 takeda.a.endo@tmd.ac.jp
 池田英治 講師 月～金16:00～18:00 hms-ikeda.endo@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯髄/根尖歯周組織を考える
ユニット責任者	須田英明
ユニット番号	07
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+0 (08ユニットで実施)
授業形態	講義

16 う蝕と歯髄疾患

学習目標(GO):

歯髄・根尖歯周組織の常態から疾患への移行を生物学的に理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯髄疾患及び根尖歯周組織疾患において細菌の果たす役割を説明できる。
- 2) 歯髄疾患及び根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。
- 3) 外来刺激に対する歯髄・根尖歯周組織の防御反応を概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
25	1	16	歯髄/根尖歯周組織の細菌学	2	星野悦郎	第3講義室	講義	1
		23	歯髄/根尖歯周組織の病理学	1	小林千尋	第3講義室	講義	2
		23	歯髄/根尖歯周組織の免疫学	2	興地隆史	第3講義室	講義	3

評価方法:

- ・各講義終了後に小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成25年3月1日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・改訂版エンドドンティックス21、永末書店
- ・Pathways of the Pulp 10th ed, Mosby
- ・Seltzer and Bender's The Dental Pulp, 2nd ed, Quintessence
- ・失敗しない歯髄保存療法、初版、クインテッセンス出版
- ・バイオロジーに基づいた実践歯内療法学、クインテッセンス出版
- ・Essential Endodontology, 2nd ed, Blackwell Publishing

担当教員の Office Hour :

小林千尋 准教授 月～金16:00～18:00 c.kobayashi.endo@tmd.ac.jp
 竹田淳志 講師 月～金16:00～18:00 takedaa.endo@tmd.ac.jp
 池田英治 講師 月～金16:00～18:00 hms-ikeda.endo@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯内治療の展開
ユニット責任者	須田英明
ユニット番号	08
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+3
授業形態	講義および少人数教育

学習目標(GO):

歯内治療に関する知識を深め、総合的に理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯内治療に関する知識を総合的に結びつけ、診査、診断、治療法を説明できる。
- 2) 歯内治療における救急処置の種類と方法を説明できる。
- 3) 再根管治療の基準と方法を説明できる。
- 4) 外科的歯内治療を列挙し、概説できる。
- 5) 歯内治療時における偶発症について、種類、処置及び予防を説明できる。
- 6) 歯内-歯周疾患を分類し、診断と治療法を説明できる。
- 7) 歯根吸収の原因、症状、診断及び処置を説明できる。
- 8) 高齢者の歯内治療を説明できる。
- 9) 新しい歯内治療を説明できる。
- 10) 歯の外傷の種類と治療法を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
25	1	28	歯内治療実践チュートリアル	2	池田英治、川島伸之、和達礼子 石村 瞳、澤田則宏、寺内吉継 河西裕美、小澤雅彦、福元康恵 吉川剛正、石塚裕子、辺見浩一	演習室	少人数 教育	1-3
		28	外科的歯内治療、偶発症の原因と対処法	1	須田英明	第3講義室	講義	4,5
2	4		歯内治療実践チュートリアル	2	砂川光宏、竹田淳志、松本宏之 鈴木規元、安生智郎、菊地和泉 金子実弘、岩波真紀子、大井智恵 中野生和子、花田隆周、東春生	演習室	少人数 教育	1-3
		4	歯内-歯周疾患、歯根吸収	1	須田英明	第3講義室	講義	6,7
		20	高齢者の歯内治療、新しい歯内治療	1	小林千尋	第3講義室	講義	8,9
		20	歯の外傷	2	恵比須繁之	第3講義室	講義	10
3	1		試験	3	須田英明	第3講義室	試験	

評価方法:

- ・歯内治療実践チュートリアルは2コマ終了毎に形成的評価を行う。
- ・各講義終了後に小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成25年3月1日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・改訂版エンドドンティックス21、永末書店
- ・Pathways of the Pulp 10th ed, Mosby
- ・Seltzer and Bender's The Dental Pulp, 2nd ed, Quintessence

16 う蝕と歯髄疾患

- ・失敗しない歯髄保存療法、初版、クインテッセンス出版
- ・バイオロジーに基づいた実践歯内療法学、クインテッセンス出版
- ・Essential Endodontology, 2nd ed, Blackwell Publishing

担当教員の Office Hour :

小林千尋 准教授 月～金 16:00-18:00 c.kobayashi.endo@tmd.ac.jp
 竹田淳志 講師 月～金 16:00-18:00 takeda.a.endo@tmd.ac.jp
 池田英治 講師 月～金 16:00-18:00 hms-ikedo.endo@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯内治療実習
ユニット責任者	海老原 新
ユニット番号	09
開設時期	4年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	42+6
授業形態	実習

学習目標(GO):

歯髄疾患および根尖歯周組織疾患の基本的治療術式を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) エックス線写真で歯髄腔の形態、位置を読影できる。
- 2) 髄腔開拡が正しくできる。
- 3) 根管拡大形成が正しくできる。
- 4) 作業長を正しく測定できる。
- 5) 到達度、緊密度の適切な側方加圧充填法が行える。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	10	器械検査、抜去歯検査、貸与器具配布、アクリル植立模型作製	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1
		11	エックス線読影、髄腔開拡	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-2
		21	エックス線読影、髄腔開拡、EMR、根管形成	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-4
		25	髄腔開拡、EMR、根管形成	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	2-4
		28	髄腔開拡、EMR、根管形成	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	2-4
		30	髄室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	試験	2-4
	2	1	髄室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-4
		4	実習試験1	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-5
		6	髄室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-5
		7	髄室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-5
		8	髄室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-5
		13	髄室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-5

	15	髓室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-5
	20	髓室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-5
	27	髓室開拡、ラバーダム防湿、EMR、根管形成、根管充填(顎模型)	3	海老原 新	保存矯正実習室	実習	1-5
3	1	実習試験2、貸与器具返却	3	海老原 新	保存矯正実習室	試験	1-5

評価方法:

- ・実習態度の評価、作品の評価および実習試験1(平成25年2月4日)を行い、形成的評価を行う。
- ・実習試験2(平成25年3月1日)を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・改訂版エンドドンティックス21、永末書店
- ・Pathways of the Pulp 10th ed, Mosby
- ・Seltzer and Bender's The Dental Pulp, 2nd ed, Quintessence
- ・失敗しない歯髄保存療法、初版、クインテッセンス出版
- ・バイオロジーに基づいた実践歯内療法学、クインテッセンス出版
- ・Essential Endodontology, 2nd ed, Blackwell Publishing

担当教員の Office Hour :

海老原 新 助教 月～金16:00～18:00 aebihara.endo@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	クラウン修復
ユニット責任者	三浦宏之
ユニット番号	10
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	2+0 (14 ユニットで実施) (必要自習時間 1時間)
授業形態	講義

学習目標(GO):

クラウンによる修復について理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) クラウンによる修復の特徴を説明できる。
- 2) クラウンによる修復の種類を列挙できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	9	クラウン総論	1	三浦宏之	第4講義室	講義	12
	4	9	クラウンの要件、治療計画	1	三浦宏之	第4講義室	講義	12

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成24年6月13日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・クラウンブリッジ補綴学 第4版、医歯薬出版、2009。
- ・クラウンブリッジテクニック 医歯薬出版、2008。
- ・Contemporary Fixed Prosthodontics 4th Edition Mosby 2006。

担当教員の Office Hour :

吉田恵一 准教授 月・水 16:30~17:30 kyoshidaipro@tmdac.jp

ユニット情報

ユニット名	支台築造
ユニット責任者	三浦宏之
ユニット番号	11
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	16+0 (15 ユニットで実施) (必要自習時間 8時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GO):

支台築造の意義を理解し、治療法の基礎的術式を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 支台築造の意義を説明できる。
- 2) 支台築造の術式を説明できる。
- 3) 支台築造を模型・抜去歯で行うことができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	9 23	支台築造	2	駒田 亘	第4講義室	講義	1,2,3
	4	11	メタルコア窩洞形成	3	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江・山崎有子	補綴実習室	実習	1,2,3
	4	11 18	メタルコア印象	2	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江・山崎有子 酒井麻乃	補綴実習室	実習	1,2,3
	4	18	メタルコア模型作製	2	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江・山崎有子 酒井麻乃	補綴実習室	実習	1,2,3
	4	18	メタルコア wax up	2	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江・山崎有子 酒井麻乃	補綴実習室	実習	1,2,3
	4	18	メタルコア埋没	1	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江・山崎有子 酒井麻乃	補綴実習室	実習	1,2,3

	4	25	メタルコア Cast(含 In)	1	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江・山崎有子	補綴実習室	実習	123
	4	25	メタルコア調整	1	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江・山崎有子	補綴実習室	実習	123
	4	25	レジン築造(直接法)	2	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江・山崎有子	補綴実習室	実習	123

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成 24 年 6 月 18 日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜、実習態度の評価、作品の評価および平成 24 年 6 月 13 日に実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・クラウンブリッジ補綴学 第4版、医歯薬出版、2009.
- ・クラウンブリッジテクニック 医歯薬出版、2008.
- ・Contemporary Fixed Prosthodontics 4th Edition Mosby 2006.

担当教員の Office Hour :

吉田恵一 准教授 月・水 16:30~17:30 kyoshidaipro@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	全部鑄造冠修復		
ユニット責任者	三浦宏之		
ユニット番号	12		
開設時期	5年 前期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	28+0(14 ユニットで実施) (必要自習時間 15 時間)		
授業形態	講義・実習		

学習目標(GIO):

全部鑄造冠修復の意義を理解し、治療の基礎的術式を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 全部鑄造冠修復の意義と特徴を説明できる。
- 2) 全部鑄造冠修復の術式を説明できる。
- 3) 模型歯で全部鑄造冠修復を行うことができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	16	全部鑄造冠	3	吉田恵一	第4講義室	講義	123
	4	11 25 27	全部鑄造冠支台歯形成	6	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 武井規子・渡邊希江 山崎有子	補綴実習室	実習	123

4 5	27 9	個歯トレー作製	2	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 武井規子・渡邊希江 山崎有子	補綴実習室	実習	123
5	9	印象	1	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江 山崎有子	補綴実習室	実習	123
5	9 11	模型作製	2	三浦宏之・吉田恵一 武井規子・渡邊希江 山崎有子	補綴実習室	実習	123
5	11	咬合器装着	1	三浦宏之・吉田恵一 武井規子・渡邊希江 山崎有子	補綴実習室	実習	123
5	11 16	wax up	7	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 武井規子・渡邊希江 山崎有子・鶴田 潤 川津・麻乃	補綴実習室	実習	123
5	18	埋没	2	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 鶴田 潤・川津・麻乃	補綴実習室	実習	123
5	18	鑄造	2	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 武井規子・渡邊希江 鶴田 潤・山崎有子 川津・麻乃	補綴実習室	実習	123
5	18	研磨	2	三浦宏之・吉田恵一 武井規子・渡邊希江 山崎有子	補綴実習室	実習	123

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成 24 年 6 月 18 日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜、実習態度の評価、作品の評価および平成 24 年 6 月 13 日に実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・クラウンブリッジ補綴学 第4版、医歯薬出版、2009.
- ・クラウンブリッジテクニク 医歯薬出版、2008.
- ・Contemporary Fixed Prosthodontics 4th Edition Mosby 2006.

担当教員の Office Hour :

吉田恵一 准教授 月・水 16:30~17:30 kyoshidapro@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット	審美的なクラウン修復
ユニット責任者	三浦宏之
ユニット番号	13
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	29+0 (14ユニットで実施) (必要自習時間 15時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GO):

審美的なクラウン修復に意義と特徴を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 審美的なクラウン修復を列挙し、その特徴を説明できる。
- 2) 模型歯にレジン前装冠修復を行うことができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	9	前装冠	3	三浦宏之	第4講義室	講義	12
	5	23	前装冠 支台歯形成、築造窩洞形成	4	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 武井規子・渡邊希江 山崎有子・鶴田 潤 新木紘子	補綴実習室	実習	2
	5	23 30	前装冠 レジン築造(直接法)	4	三浦宏之・吉田恵一 武井規子・渡邊希江 山崎有子・宮坂宗永 新木紘子	補綴実習室	実習	2
	5	30	前装冠 築造窩洞印象	2	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 武井規子・渡邊希江 山崎有子・鶴田 潤 森川 理・新木紘子・宮坂宗永	補綴実習室	実習	2
	5	30	前装冠 築造窩洞模型作製	2	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 鶴田 潤・宮坂宗永	補綴実習室	実習	2
	6	1	wax up	3	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 鶴田 潤	補綴実習室	実習	2
	6	8	前装冠 埋没	1	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・武井規子 渡邊希江・山崎有子 川和篤史	補綴実習室	実習	2
	6	8	前装冠 鑄造	2	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・武井規子 渡邊希江・山崎有子 川和篤史	補綴実習室	実習	2
	6	8	前装冠 研磨	1	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・武井規子 渡邊希江・山崎有子 川和篤史	補綴実習室	実習	2

	6	8 13	前装冠 レジン前装	5	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・武井秀典 武井規子・渡邊希江 山崎有子・鶴田 潤 川和篤史	補綴実習室	実習	2
	6	7	その他の審美修復(オールセラミック、 ポストクラウン、部分被覆冠)	1	三浦宏之	第1講義室	講義	12
	6	13	前装冠 調整、研磨	1	三浦宏之・吉田恵一 古木 譲・鶴田 潤	補綴実習室	実習	2

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成 24 年 6 月 18 日に、筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜、実習態度の評価、作品の評価および平成 24 年 6 月 13 日に実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・クラウンブリッジ補綴学 第4版、医歯薬出版、2009.
- ・クラウンブリッジテクニック 医歯薬出版、2008.
- ・Contemporary Fixed Prosthodontics 4th Edition Mosby 2006.

担当教員の Office Hour :

吉田恵一 准教授 月・水 16:30~17:30 kyoshidaipro@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	高速切削
ユニット責任者	三浦宏之
ユニット番号	14
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	7+3 (必要自習時間3時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

高速切削法を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 高速切削の意義と方法を説明できる。
- 2) 高速切削器具を用いて模型歯で支台形成を行うことができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	21 28	高速切削	7	三浦宏之・吉田恵一 木津喜裕子・古木 讓 武井秀典・武井規子 渡邊希江・山崎有子 鶴田 潤	補綴実習室	実習	12
	6	18	筆記試験	1	三浦宏之・吉田恵一	第2講義室	試験	12
		13	実習試験	2	三浦宏之・吉田恵一	補綴実習室	試験	12

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成 24 年 6 月 18 日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜、実習態度の評価、作品の評価および平成 24 年 6 月 13 日に実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・クラウンブリッジ補綴学 第4版、医歯薬出版、2009.
- ・クラウンブリッジテクニック 医歯薬出版、2008.
- ・Contemporary Fixed Prosthodontics 4th Edition Mosby 2006.

担当教員の Office Hour :

吉田恵一 准教授 月・水 16:30~17:30 kyoshidaipro@tmdac.jp

モジュール情報

モジュール名	咬合回復 I
モジュール責任者	(正)五十嵐順正 (副)水口俊介
モジュール番号	17
開設時期	4年 後期
モジュールコマ数	231(10) (必要自習時間 32時間)

学習目標(GIO)

歯の欠損による顎口腔系の形態および機能の異常を理解し、その診断・治療に必要な基本的知識と技能を修得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	咬合回復基礎	講義
02	可撤性義歯	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	咬合回復基礎		
ユニット責任者	上野 剛史		
ユニット番号	01		
開設時期	4年 後期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	12+1	(必要自習時間 3時間)	
授業形態	講義		

学習目標(GIO):

咬合回復治療に関連する基礎的な知識を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 咬合回復の臨床的意義を説明できる。
- 2) 咬合に関連する形態および機能の常態を説明できる。
- 3) 咬合に関連する形態および機能の異常を説明できる。
- 4) 咬合に関連する形態および機能の回復を説明できる。
- 5) 顎機能異常について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	24	咬合回復の意義 咬合支持・ガイダンスの回復	1	五十嵐順正	第3講義室	講義	1
		24	咬合に関連する形態および機能の常態	2	高野吉郎	第3講義室	講義	2
		27	咬合に関連する形態および機能の常態	3	三浦宏之	第3講義室	講義	2
	10	1	歯の欠損に起因する形態および機能の異常 および回復	2	五十嵐順正 加藤一誠	第3講義室	講義	3, 4
		1	歯の欠損に起因する形態および機能の異常 および回復	1	水口俊介	第3講義室	講義	3, 4
		3	歯の欠損に起因する形態および機能の異常 および回復	1	水口俊介	第3講義室	講義	3, 4
		3	顎機能障害	2	木野孔司	第3講義室	講義	5
		15	筆記試験	1	上野 剛史	第3講義室	講義	

評価方法:

・客観試験(平成 24 年 10 月 15 日)により総括的に評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

- ・「咀嚼運動の生理学」 中村嘉男著, 医歯薬出版, 東京, 1998
- ・「テキストブック オクルージョン」 Norman D Mohl, George A Zarb, Gunnar E Carlsson, John D Rugh 著/監 稔訳, クインテッセンス, 東京, 1993
- ・「Management of Temporomandibular Disorders and Occlusion」 3rd Edition. Jeffrey P Okeson 著, Mosby, St Louis, 1992
- ・「Illustrated Anatomy of the Head and Neck」Margaret J Fehrenback, Susan W Herring 著, W.B.Saunders Company, 1996
- ・「ケルバーの補綴学 I, II」 Korber, K, H 著, 田端, 河野, 福島訳, クインテッセンス, 東京, 1986

担当教員の Office Hour:

五十嵐順正 教授 16:00-18:00 igarashi.rpro@tmd.ac.jp
 水口俊介 教授 17:00-19:00 s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp
 上野剛史 助教 17:00-19:00 takepro1@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	可撤性義歯		
ユニット責任者	五十嵐順正, 水口俊介		
ユニット番号	02		
開設時期	4年 後期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	209+9	(必要自習時間 36 時間)	
授業形態	講義・実習		

学習目標(GIO):

可撤性義歯を用いた咬合回復治療に必要な知識と基本的技能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 可撤性義歯の目的と意義を説明できる。
- 2) 可撤性義歯の種類と適応症を説明できる。
- 3) 歯の欠損の診査および診断を説明できる。
- 4) 可撤性義歯の構成要素を説明できる。
- 5) 可撤性義歯の設計原則を説明できる。
- 6) 可撤性義歯の前処置の意義と方法を説明できる。
- 7) 可撤性義歯の印象採得法を説明できる。
- 8) 可撤性義歯の顎間関係記録法を説明できる。
- 9) 可撤性義歯の咬合を説明できる。
- 10) 可撤性義歯の人工歯の種類および排列法を説明できる。
- 11) 可撤性義歯の研磨面形態を説明できる。
- 12) 蟬義歯の埋没および重合操作を説明できる。
- 13) 可撤性義歯の装着時に必要な基本的事項を説明できる。
- 14) 可撤性義歯のメンテナンスを説明できる。
- 15) 即時義歯および治療義歯の目的と意義を説明できる。
- 16) 全部床義歯製作のための技工操作を修得する。
- 17) 部分床義歯製作のための技工操作を修得する。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	9	全部床義歯講義 序論・診査・概形印象	3	水口俊介	第3講義室	講義	1, 2, 4
		10	[全部床義歯の製作] 器材検査、個人トレー	3	水口俊介 羽田周平	補綴実習室	実習	16
		11	[全部床義歯の製作] 個人トレー	3	水口俊介 安藤一夫	第3講義室	実習	16
		16	全部床義歯講義 精密印象採得、咬合床の制作	3	水口俊介	補綴実習室	講義	7
		17	全部床義歯講義 咬合採得	3	水口俊介	第3講義室	講義	8, 9, 10
		18	[全部床義歯の製作] 咬合床製作	2	水口俊介 東 聡伸	補綴実習室	実習	16

	22	[全部床義歯の製作] 咬合床製作, 咬合採得	6	水口俊介 藤波由希子	補綴実習室	実習	16
	23	全部床義歯講義 咬合器・ゴシックアーチ人工歯排列	3	水口俊介 藤本順平	第3講義室	講義	8, 9, 10
	25	[全部床義歯の製作] 咬合採得	3	水口俊介 安藤一夫	補綴実習室	実習	16
	29	[全部床義歯の製作] 咬合採得	3	水口俊介 藤波由希子	補綴実習室	実習	16
	29	[全部床義歯の製作] 咬合器装着, ゴシックアーチ描記装置製作	3	水口俊介 竹内智	補綴実習室	実習	16
	30	全部床義歯講義 人工歯排列, 試適, 歯肉形成	3	水口俊介 田中慎二	第3講義室	講義	10, 11
11	2	[全部床義歯の製作] 人工歯排列(前歯)	3	水口俊介 安西佐衛子	補綴実習室	実習	16
	5	[全部床義歯の製作] 人工歯排列(前歯)	3	水口俊介 渡辺一騎	補綴実習室	実習	16
	8	[全部床義歯の製作] 人工歯排列(前歯)	3	水口俊介 安藤一夫	補綴実習室	実習	16
	12	[全部床義歯の製作] 人工歯排列(前歯)	3	水口俊介 藤波由希子	補綴実習室	実習	16
	13	全部床義歯講義 埋没, 重合 研磨	3	水口俊介	第3講義室	講義	11, 12
	15	[全部床義歯の製作] 臼歯部排列	3	水口俊介 安藤一夫	補綴実習室	実習	16
	19	[全部床義歯の製作] 臼歯部排列	3	水口俊介 森山 旭	第3講義室	実習	16
	21	[全部床義歯の製作] 臼歯部排列	3	水口俊介 長田英治	補綴実習室	実習	16
	22	[全部床義歯の製作] 歯肉形成	3	水口俊介 安藤一夫	補綴実習室	実習	16
	26	[全部床義歯の製作] 歯肉形成	3	水口俊介 福田徳治	補綴実習室	実習	16
	29	[全部床義歯の製作] 歯肉形成	3	水口俊介 安藤一夫	補綴実習室	実習	16
12	3	全部床義歯実習試験	3	水口俊介 東 聡伸	補綴実習室	実習試験	16
	6	[全部床義歯の製作] 埋没	3	水口俊介 安藤一夫	補綴実習室	実習	16
	10	[全部床義歯の製作] 埋没	3	水口俊介 安西佐衛子	補綴実習室	実習	16
	11	部分床義歯講義 1 序論・構成要素	3	野谷健治 五十嵐順正	第3講義室	講義	1,2,4
	12	部分床義歯講義 2 歯の欠損に伴う顎口腔系の変化	3	五十嵐順正	第3講義室	講義	3
	13	[全部床義歯の製作] 填入 重合	3	水口俊介 安藤一夫	補綴実習室	実習	16
	14	部分床義歯講義 3 部分床義歯に加わる力への対応	3	五十嵐順正 風間龍之輔	第3講義室	講義	1,2,4,5,6

17 咬合回復 I

	17	[全部床義歯の製作] 筋形成実習	3	水口俊介 羽田周平	補綴実習室	実習	16	
	18	[全部床義歯の製作] 削合	6	水口俊介 小林章二	補綴実習室	実習	16	
	19	[全部床義歯の製作] 研磨,	6	水口俊介 東 聡伸	補綴実習室	実習	16	
	20	[全部床義歯の製作] 研磨, 提出	3	水口俊介 安藤一夫	補綴実習室	実習	16	
	21	部分床義歯講義 4 咬合の回復と部分床義歯の機能	3	五十嵐順正 野首孝祠	第3講義室	講義	1~5	
25	1	9	部分床義歯講義 5 支台歯前処置	1	五十嵐順正 若林則幸	第3講義室	講義	6
		9	[部分床義歯の製作]1 器材準備, 個人トレー準備	2	笛木賢治	補綴実習室	実習	6, 17
		15	部分床義歯講義 6 病態・診査・設計	3	若林則幸	第3講義室	講義	1~6
		15	部分床義歯講義 7 印象採得・咬合採得	3	若林則幸	第3講義室	講義	7~9
		16	部分床義歯講義 8 フレームワーク・設計	3	若林則幸 鈴木司郎	第3講義室	講義	5,17
		17	[部分床義歯の製作]2 個人トレー製作	3	笛木賢治 鯉淵英明	補綴実習室	実習	7, 17
		18	[部分床義歯の製作]3 咬合床製作	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	8, 17
		21	部分床義歯講義 9 重合完成と装着	3	若林則幸 小笠原浩一	第3講義室	講義	10~13,17
		22	[部分床義歯の製作]4 咬合床製作	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	8, 17
		22	[部分床義歯の製作]5 咬合採得	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	8, 17
		23	部分床義歯講義 10 メンテナンス・部分床義歯の多様な役割	3	若林則幸 前田芳信	第3講義室	講義	14,15
		24	[部分床義歯の製作]6 咬合器装着	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	8, 17
		29	[部分床義歯の製作]7 サベイング, 設計線記入	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	5, 17
		29	[部分床義歯の製作]8 メタルフレーム: 前処置, ワックスアップ	3	笛木賢治 幸阪保雄	補綴実習室	実習	5, 17
		30	[部分床義歯の製作]9 メタルフレーム: ワックスアップ	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	5, 17
		31	部分床義歯講義 11 チーム基盤学習	3	若林則幸	第3講義室	講義	1~17
2		5	[部分床義歯の製作]10 メタルフレーム調整, 人工歯排列	3	笛木賢治 遠藤泰生	補綴実習室	実習	9, 10, 17
		5	[部分床義歯の製作]11 人工歯排列	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	9, 10, 17

	6	PBL:可撤性義歯	3	水口俊介 佐藤雅之 平野滋三	補綴示説室 演習室	PBL(テュート リアル)	1~15
2	12	[部分床義歯の製作]12 歯肉形成	3	笛木賢治 羽毛田 匡	補綴実習室	実習	11, 17
	12	[部分床義歯の製作]13 鑄造鉤:複印象・耐火模型製作	3	笛木賢治 秋重智司	補綴実習室	実習	4, 17
	13	[部分床義歯の製作]14 鑄造鉤:ワックスアップ, 埋没	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	4, 17
	14	[部分床義歯の製作]15 ワイヤー屈曲①犬歯単純鉤	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	4, 17
	18	[部分床義歯の製作]16 鑄造鉤:ワックスアップ, 埋没	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	4, 17
	18	[部分床義歯の製作]17 鑄造鉤:鑄造, 研磨	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	4, 17
	19	[部分床義歯の製作]18 ワイヤー屈曲②小臼歯単純鉤	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	4, 17
	19	[部分床義歯の製作]19 ワイヤー屈曲③大臼歯リングクラスプ	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	4, 17
	21	PBL:可撤性義歯	3	水口俊介 佐藤雅之 平野滋三	第3講義室	PBL(テュート リアル)	1~15
	22	[部分床義歯の製作]20 ロウ義歯埋没	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	12, 17
	25	[部分床義歯の製作]21 流蠟, レジン填入	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	12, 17
	25	[部分床義歯の製作]22 割り出し, 研磨	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	12, 17
	26	[部分床義歯の製作]23 義歯研磨	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	12, 17
	26	[部分床義歯の製作]24 レストシート, ガイド面形成	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	6, 17
	27	[部分床義歯の製作]25 作品提出	3	笛木賢治	補綴実習室	実習	17
2	28	筆記試験 可撤性義歯	3	五十嵐順正 水口俊介	第3講義室	筆記試験	1~17
	28	[部分床義歯の製作] 実習試験	3	笛木賢治	補綴実習室	実習試験	17

評価方法:

・製作物の客観評価, インストラクターによる評価, 実習試験(FD:平成 24 年 12 月 3 日、PD:平成 25 年 2 月 28 日), 筆記客観試験(FD&PD:平成 25 年 2 月 28 日)により総括的に評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・ユニットコマ数のうち, 4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし, 次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・「無歯顎補綴治療学」第2版 細井紀雄他編 医歯薬出版, 東京, 2009.
- ・「Prosthetic Treatment for Edentulous Patients」12th Edition, George A. Zarb, Charles L. Bolender, Steven Eckert, Rhonda Jacob, Aaron Fenton, Regina Mericke-Stern, Mosby, St.Louis, 2005

17 咬合回復 I

- ・「スタンダード部分床義歯補綴学」 藍 稔 編, 学建書院, 東京, 2006
- ・「パーシャルデンチャーテクニック」 第 4 版, 野首孝祠 他編, 医歯薬出版, 東京, 2006
- ・「現代のパーシャルデンチャー: 欠損補綴の臨床指針」 第2版, 野首孝祠, 五十嵐順正, クインテッセンス出版, 東京, 2008

担当教員の Office Hour:

五十嵐順正	教授	16:00-18:00	igarashi.rpro@tmd.ac.jp
水口俊介	教授	17:00-19:00	s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp
若林則幸	准教授	16:00-18:00	wakabayashi.rpro@tmd.ac.jp
笛木賢治	講師	17:00-19:00	kunfu.rpro@tmd.ac.jp
佐藤雅之	助教	17:00-19:00	msato.rpro@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	咬合回復Ⅱ	
モジュール責任者	(正)水口俊介 (副)岡田大蔵	
モジュール番号	18	
開設時期	5年 前期	
モジュールコマ数	57(3)	(必要自習時間 11 時間)

学習目標(GIO)

歯の欠損による顎口腔系の形態および機能の異常を理解し、その診断・治療に必要な基本的知識と技能を修得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	固定性義歯	実習
02	インプラント義歯	講義
03	咬合回復統合	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	固定性義歯
ユニット責任者	三浦宏之
ユニット番号	01
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	26+2 (必要自習時間 6時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

固定性義歯を用いた咬合回復治療に必要な知識と基本的技能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 固定性義歯の目的と意義を説明できる。
- 2) 固定性義歯の種類と適応症を説明できる。
- 3) 歯の欠損の診査および診断を説明できる。
- 4) 固定性義歯の構成要素を説明できる。
- 5) 固定性義歯の設計原則を説明できる。
- 6) 固定性義歯における支台歯形成の方法を説明できる。
- 7) 固定性義歯の印象採得法を説明できる。
- 8) 固定性義歯の顎間関係記録法を説明できる。
- 9) リテーナーの意義を説明できる。
- 10) 固定性義歯の咬合を説明できる。
- 11) 固定性義歯の埋没ができる。
- 12) 固定性義歯の正しいスプルーイング、埋没ができる。
- 13) 固定性義歯の鑑着できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	6	目的と意義 種類と適応症 診査・診断 構成要素・設計 支台歯形成と歯髄保護 リテーナー 印象採得・顎間関係記録・調節性咬合器	3	三浦宏之	第4講義室	講義	1,2 3,4 5,6
	6	20	右下顎第一大臼歯欠損症例に対するブリッジの作業用模型作製	6	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江 山崎有子	補綴実習室	実習	7,8
	6 7	27 4	右下顎第一大臼歯欠損症例に対するブリッジのワックスアップ	8	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江 山崎有子・川和篤史 新木敏之・古木紀子	補綴実習室	実習	9,10
	7	4	埋没	2	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江 山崎有子・川和篤史 新木敏之・古木紀子	補綴実習室	実習	11

7	4 11	鑄造、調整	3	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江 山崎有子・川和篤史	補綴実習室	実習	12
7	11	鑑着、調整	4	三浦宏之・吉田恵一 武井秀典・渡邊希江 山崎有子・川和篤史	補綴実習室	実習	13
7	23	実習試験	1	三浦宏之・吉田恵一	補綴実習室	試験	
7	23	筆記試験	1	三浦宏之・吉田恵一	第4講義室	試験	

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・平成 24 年 7 月 23 日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜、実習態度の評価、作品の評価および平成 24 年 7 月 23 日に実習試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全ユニットコマ数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・クラウンブリッジ 補綴学 第4版、医歯薬出版、2009.
- ・クラウンブリッジ テクニック 医歯薬出版、2008.
- ・Contemporary Fixed Prosthodontics 4th Edition Mosby 2006.

担当教員のOffice Hour:

吉田恵一 准教授 月・水 16:30～17:30 k.yoshida.fpro@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	インプラント義歯	
ユニット責任者	春日井昇平	
ユニット番号	02	
開設時期	5年 前期	
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+1	(必要自習時間 2時間)
授業形態	講義	

学習目標(GIO):

インプラント義歯を用いた咬合回復治療に必要な基礎的知識を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) インプラント治療の利点と欠点を説明できる。
- 2) インプラント治療に必要な診査および診断を説明できる。
- 3) インプラント治療の外科術式を説明できる。
- 4) インプラント治療の補綴術式を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	22	概説	1	春日井昇平	第4講義室	講義	1
		22	診断、治療計画	2	塩田真	第4講義室	講義	2
		28	外科治療	1	立川敬子	第4講義室	講義	3
		28	補綴治療	2	黒田真司	第4講義室	講義	4
		29			近藤尚知 鬼原英道			
		29	補足	3	宗像源博 藤森達也 鳥居紗和子 前沢周文 佐藤大輔 金井亨 丸尾勝一郎 今真帆 伊達佑生	第4講義室	講義	1-4
	7	9	筆記試験	1	春日井昇平	第3講義室	試験	

評価方法:

- ・ユニット最後の筆記試験により総合的に評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全ユニットコマ数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考資料:

- ・Dental Implant Prosthetics. Misch Carl E. /Publisher:Elsevier MOSBY
- ・よくわかる口腔インプラント学 医歯薬出版

担当教員のOffice Hour: ユニット情報

ユニット名	咬合回復統合
ユニット責任者	三浦宏之
ユニット番号	03
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	22+0 (必要自習時間 3時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

咬合回復治療に関連する知識を統合的に修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 補綴装置に付与する咬合様式について説明できる。
- 2) 回復した咬合を維持するために必要な知識を身につける。
- 3) 各種咬合器の特徴が説明できる。
- 4) フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明することができる。
- 5) 調節性咬合器の基本操作ができる。
- 6) 咬合回復に必要な器具および材料について説明できる。
- 7) 補綴後の咀嚼回復状態のための必要な知識を身につける。
- 8) 特殊義歯の特徴が説明できる。
- 9) 咬合回復後のメンテナンスの方法が説明できる。
- 10) 新しい歯冠補綴物製作法を理解するための必要な知識を身につける。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	15	天然歯列の咬合、歯冠補綴物に付与する咬合	1	岡田大蔵	第4講義室	講義	1,2
	6	15	総義歯に付与する咬合	1	水口俊介	第4講義室	講義	1,2
	6	15	部分床義歯に付与する咬合	1	五十嵐順正	第4講義室	講義	1,2
	6	29	各種咬合器の特徴と臨床応用	2	三浦宏之	第4講義室	講義	3
	7	6 13 20	調節性咬合器の調整、フェイスボウトランスファーとチェックバイト法	8	三浦宏之・真柳昭紘 吉田隆義・岡田大蔵 進 千春・古木 譲 田中義浩	補綴実習室	実習	4,5
	6 7	15 11	咬合回復に関連する歯科材料	2	宇尾基弘 駒田 亘	第4講義室	講義	6
		20	補綴後の咀嚼様相	1	加藤 均	第4講義室	講義	7
		20	特殊な義歯(即時義歯, 治療用義歯, 顎義歯)	2	隅田由香	第4講義室	講義	8
		20	顎機能異常	1	吉田恵一	第4講義室	講義	9
		24	咬合回復治療後のメンテナンス 1	1	和泉雄一	第4講義室	講義	9
		24	咬合回復治療後のメンテナンス 2	1	三浦宏之	第4講義室	講義	9
		24	CAD/CAM の補綴物への応用	1	野崎浩佑	第4講義室	講義	10

評価方法:

- ・レポート内容により総括的に評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・講義はユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席していなければならない。また、実習は全ユニット実習コマ数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員のOffice Hour:

岡田大蔵 講師 月・火 16:30~17:30 d.okada.fpro@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	歯周病	
モジュール責任者	(正)和泉 雄一 (副)渡辺 久	
モジュール番号	19	
開設時期	5年 前期	
モジュールコマ数	78(6)	(必要自習時間27時間)

学習目標(GIO)

歯周病の病因・病態を理解し、その予防、診断および治療のための知識と基本的技能を習得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	歯周病基礎編	講義
02	歯周病臨床編	講義
03	歯周病・歯周治療実習	実習
04	歯周病のトピックス	講義・演習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。

ユニット情報

ユニット名	歯周病基礎編
ユニット責任者	和泉 雄一
ユニット番号	01
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	12+1 (必要自習時間 4時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

生涯にわたって健全な歯列と咬合を維持することの重要性を理解し、歯周組織の常態および歯周病の成因を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯周病・歯周治療について説明できる。
- 2) 歯周組織の機能および構造について説明できる。
- 3) 歯周病の病因(細菌, 宿主(免疫, 炎症)、環境)について説明できる。
- 4) 歯周組織再生について説明できる。
- 5) 歯周病の疫学について説明できる。
- 6) 歯周病の病態・症状・分類について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	10	歯周病・歯周治療とは	1	和泉 雄一	第4講義室	講義	1
		10	歯周組織の機能と構造	2	和泉 雄一	第4講義室	講義	2
		10	歯周病の病因: 宿主(炎症・免疫応答)、環境	3	西原 達次	第4講義室	講義	3
	4	17	歯周病の病因: プラークとバイオフィルム	1	中川 一路	第4講義室	講義	3
		17	歯周組織再生: ティッシュエンジニアリング	1	小牧 基浩	第4講義室	講義	4
		17	歯周病の疫学	1	竹内 康雄	第4講義室	講義	5
		17	歯周病の病態・症状・分類	3	和泉 雄一	第4講義室	講義	6
	5	7	筆記試験	1	荒川 真一	第4講義室	試験	1-6

評価方法:

- ・適宜、形成的評価(小テスト)を行う。
- ・平成24年5月7日に総括的評価(筆記試験)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考資料:

- ・ザ・ペリオドントロジー、和泉雄一ら編集、永末書店、2009
- ・臨床歯周病学、吉江弘正ら編、医歯薬出版、2007

19 歯周病

- ・ Clinical Periodontology and Implant Dentistry 5th ed., Lindhe J, Karring T, Lang P (著), Blackwell Munksgaard, 2008
- ・ Carranza's Clinical Periodontology 11th ed., Newman MG, Takei HH, Klokkevold PR (著), Elsevier, 2011.
- ・ エッセンシャル免疫学(第2版)、Peter Parham(著)、笹月健彦(監訳)、メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2010.8

担当教員のOffice Hour:

荒川 真一 助教 月一金 17:00-19:00 shinichi.peri@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯周病臨床編
ユニット責任者	和泉 雄一
ユニット番号	02
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21+1 (必要自習時間 7時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯周病の検査・診断、その予防、ならびに歯周治療に必要な基本的な知識を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯周疾患の症状を説明できる。
- 2) 歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。
- 3) 歯周基本治療を説明できる。
- 4) プラークコントロールの意義を説明できる。
- 5) スケーリング及びスケーリングルートプレーニングの意義を説明できる。
- 6) 歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。
- 7) 咬合性外傷について説明できる。
- 8) 歯周外科手術の種類と適応症、ならびに再生治療を説明できる。
- 9) 歯周疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。
- 10) 分岐部病変の治療を説明できる。
- 11) 歯周治療における薬物療法を説明できる。
- 12) 歯周治療のメンテナンスを説明できる。
- 13) 歯周病と全身疾患との関係について説明できる。
- 14) 歯周治療における矯正治療の意義を説明できる。
- 15) 歯周治療における咬合補綴治療の意義を説明できる。
- 16) 歯周治療におけるインプラント治療の意義を説明できる。
- 17) 症例を通じた包括的な歯周治療の意義を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
22	4	24	歯周病の検査・診断・治療計画	2	和泉雄一	第4講義室	講義	1, 2
		24	歯周基本治療	3	和泉雄一	第4講義室	講義	3-6
		24	咬合性外傷と咬合調整	1	和泉雄一	第4講義室	講義	7
	5	15	歯周外科手術	2	和泉雄一	第4講義室	講義	8,9
		15	歯周形成外科	1	和泉雄一	第4講義室	講義	8
		22	歯周組織再生治療	1	和泉雄一	第4講義室	講義	8
		22	海外における歯周外科の話題	2	Diego A. Borgese	第4講義室	講義	8-12
		29	分岐部病変の治療	1	和泉雄一	第4講義室	講義	10
		29	歯周治療と薬物療法	1	和泉雄一	第4講義室	講義	11
		29	メンテナンス・Periodontal Medicine	1	和泉雄一	第4講義室	講義	12,13
	6	5	歯周治療と矯正治療	1	森山啓司	第4講義室	講義	14
		5	歯周治療と咬合回復治療	1	三浦宏之	第4講義室	講義	15
		5	歯周治療とインプラント治療	1	塩田 真	第4講義室	講義	16
		12	症例供覧	3	二階堂雅彦	第4講義室	講義	17
		25	筆記試験	1	小林宏明	第4講義室	試験	1-17

評価方法:

- ・適宜、形成的評価(小テスト)を行う。
- ・平成24年6月25日に総括的評価(筆記試験)を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考資料:

- ・ ザ・ペリオドントロジー、和泉雄一ら編集、永末書店、2009
- ・ 臨床歯周病学、吉江弘正ら編、医歯薬出版、2007
- ・ インプラント時代の歯周マネジメント、和泉雄一ら編著、デンタルダイヤモンド社、2011
- ・ 新インプラント周囲炎へのアプローチ、和泉雄一ら編著、永末書店、2010
- ・ インプラント周囲炎を治療する、和泉雄一ら編著、医学情報社、2010
- ・ Clinical Periodontology and Implant Dentistry 5th ed., Lindhe J, Karring T, Lang P (著), Blackwell Munksgaard, 2008
- ・ Carranza's Clinical Periodontology 11th ed., Newman MG, Takei HH, Klokkevold PR (著), Elsevier, 2011

担当教員のOffice Hour:

小林 宏明 助教 月一金 17:00-19:00 h-kobayashi.peri@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯周病・歯周治療実習
ユニット責任者	渡辺 久
ユニット番号	03
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	36+3 (必要自習時間 12時間)
授業形態	実習

学習目標(GIO):

歯周治療に必要な基本的な知識を理解し、その技能および態度を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯周組織の構造・機能を説明できる。
- 2) 歯周病の各種検査を行うことができる。
- 3) 診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。
- 4) プラークコントロールの重要性を説明でき、必要な器具操作ができる。
- 5) スケーリングに必要な器具操作ができる。
- 6) 歯周外科手術に必要な器具操作ができる。
- 7) 咬合調整に必要な器具操作ができる。
- 8) 固定法に必要な器具操作ができる。
- 9) ナイトガード製作に必要な器具操作ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	15	歯周組織の観察・検査	3	渡辺 久、萩原さつき	保存矯正実習室	実習	1-3
		22	プラークコントロール	3	青木 章、荒川真一	保存矯正実習室	実習	3, 4
		29	スケーリング	3	小林宏明、竹内康雄	保存矯正実習室	実習	3, 5
	6	5	スケーリング	3	秋月達也、片桐さやか	保存矯正実習室	実習	3, 5
		12	スケーリング	3	小島丈尚、弘岡秀明	保存矯正実習室	実習	3, 5
		19	歯周外科	3	富岡栄二、矢沢浩史	保存矯正実習室	実習	3, 6
		26	歯周外科	3	矢野 章	保存矯正実習室	実習	3, 6
	7	3	咬合調整	3		補綴実習室	実習	3, 7
		10	咬合調整	3		保存矯正実習室	実習	3, 7
		10	咬合調整	3		保存矯正実習室	実習	3, 7
		12	固定	3		保存矯正実習室	実習	3, 8
		17	ナイトガード	3		補綴実習室	実習	3, 9
		19	実習試験	3	渡辺 久	保存矯正実習室	試験	1-9

評価方法:

- ・各回、形成的評価(小テストおよび製作物提出)を行う。
- ・平成 24 年 7 月 19 日に総括的評価(実習試験:実技試験(50%)ならびに口頭試問(50%))を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。

参考図書等:

- ・ ザ・ペリオドントロジー、和泉雄一ら編集、永末書店、2009
- ・ 臨床歯周病学、吉江弘正ら編、医歯薬出版、2007
- ・ 歯科医のためのスケーリング、ルートプレーニング、石川 烈、小田 茂 監著、クインテッセンス出版、2003
- ・ Clinical Periodontology and Implant Dentistry 5th ed., Lindhe J, Karring T, Lang P (著), Blackwell Munksgaard, 2008
- ・ Carranza's Clinical Periodontology 11th ed., Newman MG, Takei HH, Klokkevold PR (著), Elsevier, 2011

担当教員のOffice Hour:

渡辺 久 准教授 月一金 17:00-19:00 watanabe.peri@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯周病のトピックス
ユニット責任者	青木 章
ユニット番号	04
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+1 (必要自習時間 4 時間)
授業形態	講義・演習

学習目標(GIO):

歯周病研究・治療の最近の動向および今後の方向性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯周治療の科学的根拠を説明できる。
- 2) 歯周治療の最近の動向を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	26	説明・準備、シナリオの提示	1	青木 章	第 4 講義室	PBL	1-2
	6	26	歯周治療の最近の動向	2	松井 徳雄	第 4 講義室	講義	1-2
	7	3	発表準備	3	青木 章	第 4 講義室	PBL	1-2
	7	9	筆記試験	1	青木 章	第 4 講義室	試験	1-2
		18	グループ毎発表	3	青木 章	実習示説室	PBL	1-2

19 歯周病

評価方法:

- ・適宜、形成的評価(小テスト)を行う。
- ・平成 24 年 7 月 9 日に総括的評価(筆記試験(50%))を行う。
- ・平成 24 年 7 月 18 日に総括的評価(グループ発表(50%))を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考図書等:

- ・ ザ・ペリオドントロジー、和泉雄一ら編集、永末書店、2009
- ・ 臨床歯周病学、吉江弘正ら編、医歯薬出版、2007
- ・ Clinical Periodontology and Implant Dentistry 5th ed., Lindhe J, Lang P, Karring T (著), Blackwell Munksgaard, 2008
- ・ Carranza's Clinical Periodontology 11th ed., Newman MG, Takei HH, Klokkevold PR (著), Elsevier, 2011.

担当教員のOffice Hour:

青木 章 講師 月一金 17:00-18:00 aoperi@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	臨床情報処理
モジュール責任者	佐々木好幸
モジュール番号	20
開設時期	5年 後期
モジュールコマ数	13(1) (+包括臨床実習内の3コマ) (必要自習時間 8時間)

学習目標(GIO)

根拠に基づいた歯科医療を実践するために、情報を適切に処理・活用する能力を修得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	EBM・EBD	演習
02	歯科医療情報システム	演習
03	歯科診療業務入門	演習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	EBM・EBD	
ユニット責任者	佐々木好幸	
ユニット番号	01	
開設時期	5年 後期	
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	6+1/3	(必要自習時間 5時間)
授業形態	演習	

学習目標(GIO):

EBM(Evidence-based Medicine)の重要性を理解し、歯科医療に必要な情報を検索・収集・吟味し、歯科医療に応用する能力を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) EBM の概念を説明できる。
- 2) 歯科治療に関する根拠を説明できる。
- 3) 根拠(Evidence)のレベルについて具体的に説明できる。
- 4) いくつかの症例における患者の問題を定式化できる。
- 5) 情報を自ら収集、分析して問題点を探し出すことができる。
- 6) 問題解決のための情報収集と絞込みができ、その評価の方法を説明できる。
- 7) 情報の批判的吟味ができる。
- 8) リスク比, オッズ比, 感度, 特異度, NNT を説明できる。
- 9) 統合された情報(二次情報)を解釈でき、いくつかの症例に適用できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	11	EBM について	1	佐々木好幸	第4講義室	講義	1,2,3,8
	9	11	実習課題説明、EBM 演習1	2	佐々木好幸	第4講義室	演習、宿題	4,5,6
	9	18	EBM 演習2	2	佐々木好幸	第4講義室	演習	5,6,7
	9	18	EBM 演習プレゼンテーション	1	佐々木好幸	第4講義室	討論	4,9
	10	1	モジュール全体の筆記試験	1/3	佐々木好幸	第4講義室	試験	

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・モジュール全体として、ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・Evidence-based medicine EBMの実践と教育, David L. Sackett 他著, エルゼビア・サイエンス, 2003.
- ・EBM の道具箱, Douglas Badenoch 他著, 斉尾武郎 監訳, 中山書店, 2002.
- ・SE Straus, WS Richardson, P Glasziou, RB Haynes: Evidenced-based Medicine 3rd ED, Elsevier, 2005.

担当教員の Office Hour:

佐々木好幸 准教授 月・水 17:00-19:00 sasaki.prev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療情報システム		
ユニット責任者	佐々木好幸		
ユニット番号	02		
開設時期	5年 後期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	3+1/3 (+包括臨床実習の3コマ)		(必要自習時間 1時間)
授業形態	演習		

学習目標(GIO):

歯科医療における情報の特性を理解し、歯科医療情報を適切に処理・活用する能力を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 医療情報の特性を説明できる。
- 2) 医療情報における歯科の特性を説明できる。
- 3) 診療録が具備すべき要件を説明できる。
- 4) POMR の概念を説明できる。
- 5) 患者情報からプロブレムを発見し、プロブレムリストを作成できる。
- 6) 医療情報をプロブレムごとに SOAP にまとめることができる。
- 7) 患者情報からの確かな治療方針を立案し説明できる。
- 8) 歯学部附属病院医療情報システムを操作できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	25	歯科医療情報基礎	1	佐々木好幸	第4講義室	講義	1,2,3,4
	9	25	POMR	1	佐々木好幸	第4講義室	講義	4,5,6
	9	25	POMR 演習	1	佐々木好幸	第4講義室	演習	5,6,7
	10	1	モジュール全体の筆記試験	1/3	佐々木好幸	第4講義室	試験	
	11 ~ 12		電子総合診療録操作実習 (包括臨床実習のコマとして)	(3)	佐々木好幸、大林尚人 歯病情報処理委員会	歯科総合診療部 医局	演習	8

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・モジュール全体として、ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・POSをナースに 第2版, 中木高夫, 医学書院, 1998.
- ・POS 医療と医学教育の革新のための新しいシステム, 日野原重明, 医学書院, 1973.
- ・新版 電子カルテってどんなもの?, 電子カルテ研究会, 中山書店, 2002.

担当教員の Office Hour:

佐々木好幸 准教授 月・水 17:00-19:00 sasaki.prev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科診療業務入門		
ユニット責任者	佐々木好幸		
ユニット番号	03		
開設時期	5年 後期		
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	3+1/3	(必要自習時間 2時間)	
授業形態	演習		

学習目標(GIO):

日本における歯科医療保険制度の概要を理解し、適切な診療を実施するための基本的業務を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 保健、医療制度を説明できる。
- 2) 医療保険制度を説明できる。
- 3) 守秘義務、医療情報のセキュリティ管理の重要性を説明できる。
- 4) 個人情報の適切な保護について説明できる。
- 5) プライバシーと個人情報の違いを説明できる。
- 6) 医療情報の開示に関する注意点を説明できる。
- 7) 歯科医療における処方箋、依頼書、報告書、紹介状、照会状などの文書を記述できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
23	9	27	個人情報の保護・診療業務	2	佐々木好幸、木下淳博	第4講義室	演習	1,2,3,4,5
	9	27	診療文書演習	1	佐々木好幸、木下淳博	第4講義室	演習	6,7
	10	1	モジュール全体の筆記試験	1/3	佐々木好幸	第4講義室	試験	

評価方法:

・筆記試験を行い、総合的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・モジュール全体として、ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・カルテ改ざん, 石川寛俊 監修, さいろ社, 2004.
- ・歯科医療過誤訴訟の課題と展望, 若松陽子, 世界思想社, 2005.

担当教員の Office Hour:

佐々木好幸 准教授 月・水 17:00-19:00 sasaki.prev@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	全身と歯科治療
モジュール責任者	(正) 深山治久 (副) 小長谷 光
モジュール番号	21
開設時期	5年 前期
モジュールコマ数	100(18)

学習目標(GIO)

1. 歯科医療に必要な臨床医学の基本的知識を身につける。
2. 特別なケアを必要とする患者の全身状態の評価法を学び、それに対する歯科医療の知識と基本的な技能を修得する。
3. 歯科医療に必要な全身管理ならびに麻酔に関する知識と技能を身につける。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	歯科医療と老年疾患	講義
02	歯科医療と麻酔	講義・実習
03	歯科医療と救急医療	講義・実習
04	歯科医療と内科診断学	講義・実習
05	歯科医療と血液・内分泌・膠原病・消化器疾患	講義
06	歯科医療と遺伝疾患	講義
07	歯科医療と循環器・腎尿路・神経・呼吸器疾患	講義
08	歯科医療と小児疾患	講義
09	歯科医療と精神疾患	講義

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と老年疾患
ユニット責任者	大渡凡人
ユニット番号	01
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	12+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な老年医学の基本的知識を修得する。歯科医療との関連を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 代表的な老人の疾患の概念を理解できる。
- 2) 代表的な老人の疾患の詳細を調べることができる。
- 3) 歯科治療が、合併する老人の疾患に及ぼす影響を予想できる。
- 4) 歯科治療が、合併する老人の疾患に及ぼす影響を最小限にとどめるような全身管理ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	12	高齢社会と高齢者の心身機能	1	大渡凡人	第1講義室	講義	1,2
		12	高齢者の口腔機能	1	大渡凡人	第1講義室	講義	1,2,3
		13	慢性疾患と高齢者のADL	1	大渡凡人	第4講義室	講義	1,2,3,4
		13	機能低下と介護	1	大渡凡人、戸原 玄	第4講義室	講義	1,2,3,4
		13	高齢者の摂食機能と評価	1	大渡凡人	第4講義室	講義	1,2,3
		19	摂食・嚥下障害の間接的訓練	1	大渡凡人、大野友久	第4講義室	講義	1,2,3
		19	高齢者の内科的疾患	1	下門顕太郎	第4講義室	講義	1,2,3,4
		20	高齢者の身体機能	1	大渡凡人	第4講義室	講義	1,2,3,4
		20	摂食・嚥下障害の直接的訓練	1	大渡凡人、藤谷順子	第4講義室	講義	1,2,3
		20	口腔ケアと効果	1	大渡凡人、角 保徳	第4講義室	講義	1,2,3
		26	病院・施設の歯科診療	1	大渡凡人、大田洋二郎	第4講義室	講義	1,2,3,4
		26	介護保険と在宅訪問診療	1	大渡凡人	第4講義室	講義	1,2,3,4
	5	7	試験	1	大渡凡人	第4講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日(H24年5月7日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
- ・レポート提出により受験資格を認めることがある。

担当教員の Office Hour:

大渡凡人 教授 火・木 17:00-18:00 matsu.gerd@tmc.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と麻酔
ユニット責任者	深山治久
ユニット番号	02
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	31+1
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な麻酔学の知識を修得する。歯科医療との関連性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科医療における麻酔学の役割を理解できる。全身状態評価の概要を理解できる。
- 2) 全身状態評価の概要を理解できる。
- 3) 全身麻酔法が理解できる。
- 4) 日帰り全身麻酔法を概念を理解できる。
- 5) 局所麻酔の方法・種類について理解できる。
- 6) 局所麻酔が実施できる。
- 7) 精神鎮静法について理解できる。
- 8) 歯科治療中の呼吸・循環管理の概要が理解できる。
- 9) 歯科治療中の全身異常の診断と処置が理解できる。
- 10) 障害者歯科治療における麻酔の役割を理解できる。
- 11) ペインクリニックにおける病態と治療法を理解できる。
- 12) 歯科における東洋医学について理解できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	23	歯科医療と麻酔学	1	深山治久	第4講義室	講義	1
		23	全身状態評価	2	深山治久	第4講義室	講義	1,2
24	5	7	全身麻酔法	2	深山治久	第4講義室	講義	1,2,3
		8	全身麻酔法	2	深山治久	第4講義室	講義	1,2,3
	5	8	局所麻酔薬	1	深山治久	第4講義室	講義	5
	5	10	局所麻酔薬	2	深山治久	第4講義室	講義	5
		14	精神鎮静法	2	深山治久	第4講義室	講義	7
		14	障害者歯科治療と麻酔/日帰り全身麻酔	1	深山治久	第4講義室	講義	4,10
	5	17	障害者歯科治療と麻酔/日帰り全身麻酔	2	深山治久	第4講義室	講義	4,10

21 全身と歯科治療

	5	24	全身状態評価(心電図演習)	2	瀬畑 宏	第4講義室	講義・実習	1,2
	5	25	局所麻酔・鎮静法(実習)	3	小長谷光、神野成治 吉川文広、宮本智行 松村朋香、鈴木あつ子 奥村ひさ、三浦雅明 飯島毅彦、中地 進	麻酔外来等	講義/実習	6,7
	5	31	歯科治療中の呼吸・循環監視	2	深山治久	第4講義室	講義	8
	6	1	局所麻酔・鎮静法(実習)	3	小長谷光、神野成治 吉川文広、宮本智行 松村朋香、鈴木あつ子 奥村ひさ、三浦雅明 中村全宏、木下 樹 元橋功典、海野雅浩	麻酔外来等	講義/実習	6,7
	6	4	ペインクリニックと東洋医学療法	3	室賀一宏	第4講義室	講義	11,12
		7	ペインクリニックと東洋医学療法	3	嶋田昌彦	第4講義室	講義	11,12
	6	11	総括	3	深山治久	第3講義室	講義	1~12
	6	25	試験	1	深山治久	第4講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日(H24年6月25日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・Miller's Anesthesia, 6th ed, ミラーの麻酔科学(Medical science international) 歯科麻酔学(医歯薬出版)

担当教員の Office Hour:

深山治久 教授 水 17:00-18:00 fukayama.anph@tmd.ac.jp

小長谷 光 准教授 月 17:00-18:00 hkohase.anph@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と救急医療
ユニット責任者	小長谷 光
ユニット番号	03
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	11+1
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な救急医学の基本的知識を修得する。歯科医療との関連性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科治療に際しての全身的ならびに局所的な偶発症を理解できる。
- 2) 歯科治療に際しての全身的ならびに局所的な偶発症に対処できる。
- 3) 心肺蘇生法が行える。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	14	歯科医療と救急医療・集中治療学	1	小長谷 光	第2講義室など	講義	1,2
		14	歯科医療と救急医療・集中治療学	2	小長谷 光	第2講義室など	講義	1,2
		25	救急蘇生法の理論	2	小長谷 光	第4講義室など	講義	1,2,3
24	7	2	救急蘇生法の理論と実際(実習を含む)	6	小長谷 光	第4講義室など	実習	1,2,3
	7	9	試験	1	小長谷 光	第4講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日(H24年7月9日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
- ・レポート提出により受験資格を認めることがある。

参考資料:

- ・AHA Health Care Provider Manual G2010

備考:

- ・このユニットの実習は歯科医療と内科診断学実習とリンクしている。

担当教員の Office Hour:

小長谷光 准教授 月 17:00-18:00 hkohase.anph@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と内科診断学
ユニット責任者	吉川 文広
ユニット番号	04
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な内科診断学の基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 主訴, 既往歴, 現病歴, 現症, 身体所見を正確に把握できる。
- 2) 意識, 血圧, 脈拍, 呼吸数, 体温などのバイタルサインを測定し, 評価できる。
- 3) 基本的な臨床検査の目的と検査法が説明できる。
- 4) 代表的な内科学的な疾患の概念を理解しており, その詳細を調べることができる。

21 全身と歯科治療

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6	25	身体所見の取り方、バイタルサイン・各種の臨床検査法とその評価	2	吉川文広	第4講義室	講義	1,2,3,4
	7	6	バイタルサイン・各種の臨床検査法とその評価・実習	3	吉川文広 小長谷光	第4講義室 など	実習	1,2,3,4
	7	31	試験	1	吉川文広	第4講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日(H24年7月31日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
- ・レポート提出により受験資格を認めることがある。

備考:

このユニットの実習は歯科医療と救急医療実習とリンクしている。

担当教員の Office Hour:

吉川文広 助教 月 17:00-18:00 yoshikawa.anph@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と血液・内分泌・腎・膠原病・消化器疾患
ユニット責任者	宮本 智行
ユニット番号	05
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	8+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な血液・内分泌疾患・膠原病・消化器疾患に関する基本的知識を修得する。さらに歯科医療との関連性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 代表的な血液・内分泌疾患・膠原病・消化器疾患の概念を理解できる。
- 2) 代表的な血液・内分泌疾患・膠原病・消化器疾患の詳細を調べることができる。
- 3) 血液・内分泌疾患・膠原病・消化器疾患を合併している患者の歯科治療上の注意点を述べることができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	7	5	内分泌疾患(糖尿病)	2	吉本貴宣 三原 正	第4講義室	講義	1,2
	7	13	膠原病	1	溝口史高	第4講義室	講義	1,2

	13	血液疾患	2	山本正英	第4講義室	講義	1,2
7	18	感染症と消化器疾患	2	柿沼 晴	第4講義室	講義	1,2
	18	血液・内分泌・膠原病・消化器疾患と歯科治療	1	篠塚 修	第4講義室	講義	3
7	31	試験	1	宮本智行	第4講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日(H24年7月31日)に筆記試験を行い、形成的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
- ・レポート提出により受験資格を認めることがある。

担当教員の Office Hour:

宮本智行 助教 火 17:00-18:00 to-miyamo.anph@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と遺伝疾患
ユニット責任者	吉川 文広
ユニット番号	06
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	6+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な遺伝病学の基本的知識を 修得する。歯科医療との関連性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 代表的な遺伝疾患の概念を理解できる。
- 2) 代表的な遺伝疾患を詳細に調べることができる。
- 3) 歯科治療が、合併する遺伝疾患に及ぼす影響を予想できる。
- 4) 歯科治療が、合併する遺伝疾患に及ぼす影響を最小限にとどめるような全身管理ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
23	7	24	遺伝疾患の診断	3	木村彰方	第4講義室	講義	1,2
		26	染色体異常症候群	2	稲澤譲治	第4講義室	講義	1,2
		26	遺伝病を合併した患者の歯科治療	1	篠塚 修	第4講義室	講義	3,4
	7	31	試験	1	吉川文広	第4講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日(24年7月31日)に筆記試験を行い、総括的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

21 全身と歯科治療

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
- ・レポート提出により受験資格を認めることがある。

担当教員の Office Hour:

吉川文広 助教 月 17:00-18:00 yoshikawa.anph@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と循環器・腎尿路・神経・呼吸器疾患
ユニット責任者	松村 朋香
ユニット番号	07
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	12+3
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な循環器病学と呼吸器内科学の基本的知識を修得する。さらに歯科医療との関連性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 代表的な循環器病の概念を理解しており、その詳細を調べられる。
- 2) 歯科治療が、合併する循環器病に及ぼす影響を予想できる。
- 3) 歯科治療が、合併する循環器病に及ぼす影響を最小限にとどめるような全身管理ができる。
- 4) 代表的な神経疾患の概念を理解しておりその概略を述べることができる。
- 5) 歯科治療が合併する神経疾患について及ぼす影響を予想できる。
- 6) 代表的な腎尿路疾患の概念を理解しておりその概略を述べることができる。
- 7) 歯科治療が合併する腎尿路疾患について及ぼす影響を予想できる。
- 8) 代表的な呼吸器病の概念を理解しており、その詳細を調べられる。
- 9) 歯科治療が、合併する呼吸器病に及ぼす影響を予想できる。
- 10) 歯科治療が、合併する呼吸器病に及ぼす影響を最小限にとどめるような全身管理ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	10	1. 虚血性心疾患	1	足利貴志	第4講義室	講義	1
		10	2. 高血圧・動脈硬化症・弁疾患	1	吉川俊治	第4講義室	講義	1
		10	3. 不整脈	1	横山泰広	第4講義室	講義	1
		12	4. 神経疾患	2	水澤英洋	第4講義室	講義	4
		12	5. 睡眠時無呼吸症候群	1	佐藤光生	第4講義室	講義	8,9
		14	6. 呼吸器疾患	2	土屋公威 古澤春彦	第4講義室	講義	8
		14	7. OSAS の歯科的アプローチ	1	佐藤光生	第4講義室	講義	9,10
		18	8. 腎尿路疾患	2	大井克征 蘇原映誠	第4講義室	講義	7

	18	9. 循環器病・呼吸器病を合併した患者の歯科治療	1	篠塚 修	第4講義室	講義	2,3,5,7,9,10
9	24	試験①(1,2,3,4),までの範囲)	1	松村 朋香	第4講義室		
9	24	試験②(5,6,7,8),までの範囲)	1	松村 朋香	第4講義室		
9	24	試験③(9の範囲)	1	松村 朋香	第4講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日(H24年9月24日)に筆記試験を行い、形成的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
- ・レポート提出により受験資格を認めることがある。

担当教員の Office Hour:

松村 朋香 助教 月 17:00-18:00 tomoanph@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と小児疾患
ユニット責任者	吉川 文広
ユニット番号	08
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+2
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な小児科学の基本的知識を修得する。歯科医療との関連性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 代表的な小児の疾患の概念を理解しており、その詳細を調べることができる。
- 2) 歯科治療が、合併する小児科疾患に及ぼす影響を予想できる。
- 3) 歯科治療が、合併する小児科疾患に及ぼす影響を最小限にとどめるような全身管理ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	19	1. 小児の呼吸器・循環器疾患	1	土井庄三郎	第4講義室	講義	1,2
		19	2. 小児の消化器疾患と腎・尿路疾患	1	元吉八重子	第4講義室	講義	1,2
		19	3. 小児の感染症・アレルギー疾患	3	森尾友宏	第4講義室	講義	1,2
		19	1. 小児の呼吸器・循環器疾患	1	西山光則	第4講義室	講義	1,2
		25	4. 小児の血液・内分泌・代謝疾患	2	鹿島田健一 高木 正稔	第4講義室	講義	1,2
		25	5. 小児科疾患を合併した患者の歯科治療	1	篠塚 修	第4講義室	講義	3
	9	26	試験(1,2,3,4の範囲)	1	吉川文広	第4講義室		
		26	試験(5の範囲)	1	吉川文広	第4講義室		

21 全身と歯科治療

評価方法:

- ・ユニット最終日(H24年9月26日)に筆記試験を行い、形成的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
- ・レポート提出により受験資格を認めることがある。

担当教員の Office Hour:

吉川文広 助教 月 17:00-18:00 yoshikawa.anph@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯科医療と精神疾患
ユニット責任者	神野 成治
ユニット番号	09
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	9+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

歯科医療に必要な精神医学の基本的知識を修得する。歯科医療との関連性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 代表的な精神疾患の概念を理解できる。
- 2) 代表的な精神疾患の詳細を調べられる。
- 3) 歯科治療が、合併する精神疾患に及ぼす影響を予想できる。
- 4) 歯科治療が、合併する精神疾患に及ぼす影響を最小限にとどめるような全身管理ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBO
24	9	20	てんかんとその他の精神疾患	1	車地暁生	第4講義室	講義	1,2
		20	躁鬱病と睡眠障害	1	西川 徹	第4講義室	講義	1,2
	9	21	精神障害を合併した患者の歯科治療	2	豊福 明	第4講義室	講義	1,2,3,4
		21	歯科心身医学	1	豊福 明	第4講義室	講義	1,2,3,4
		26	人格障害	1	武田充弘	第4講義室	講義	1,2
		26	統合失調症	1	山本直樹	第4講義室	講義	1,2
		26	歯科心身症	1	豊福 明	第4講義室	講義	1,2,3,4
		27	歯科心身症	1	豊福 明	第4講義室	講義	1,2,3,4
24	10	1	試験	1	神野成治	第4講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日(H24年10月1日)に筆記試験を行い、形成的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
- ・レポート提出により受験資格を認めることがある。

担当教員の Office Hour:

神野 成治 講師 火 17:00—18:00 sjinno.anph@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	顎口腔医療
モジュール責任者	(正)小村 健 (副) 原田浩之 山口 聡
モジュール番号	22
開設時期	5年 前期
モジュールコマ数	162(13) (必要自習時間 48時間)

学習目標(GIO)

外科的治療を要する口腔・頭蓋・顎顔面領域における疾患の病因・病態を理解し、その予防、診断および治療のための知識と基本的技能を修得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	顔面・顎・口腔疾患	講義
02	皮膚疾患	講義
03	眼疾患	講義
04	耳鼻咽喉疾患	講義
05	消化器系・乳腺疾患	講義
06	循環器・呼吸器系疾患(外科系)	講義
07	腎・泌尿器系疾患	講義
08	生殖器系疾患	講義
09	脳神経疾患	講義
10	運動器系疾患	講義

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、新歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	顔面・顎・口腔疾患
ユニット責任者	原田浩之
ユニット番号	01
開設時期	5年 前期、後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	70+4 (必要自習時間 49 時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

顔面・顎・口腔の構造と機能を理解し、顔面・顎口腔疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶとともに、基本的な技能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 顔面・顎・口腔・口唇の構造と機能を説明できる。
- 2) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する先天異常および後天性異常の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 3) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する変形症の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 4) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する炎症の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 5) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する外傷の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 6) 口腔領域に発生する粘膜疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 7) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する血液疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 8) 顔面・顎・口腔領域に症状を現す感染症の種類と症状を列挙できる。
- 9) ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症の検査法とその口腔症状と検査法を列挙できる。
- 10) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する神経疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 11) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する嚢胞性疾患の種類と特徴を列挙できる。
- 12) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する嚢胞性疾患の診断、治療、予後を説明できる。
- 13) 顎関節疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 14) 前癌病変の特徴、症状、治療法を説明できる。
- 15) 前癌状態の種類と特徴を列挙できる。
- 16) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する良性腫瘍の病態、診断(組織診、画像診断)、治療と予後を概説できる。
- 17) エナメル上皮腫の特徴、症状および治療法を概説できる。
- 18) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する悪性腫瘍の病態、診断(組織診、画像診断)、治療と予後を概説できる。
- 19) 顔面・顎・口腔・口唇に発生する肉腫を列挙できる。
- 20) 唾液腺疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。
- 21) 顔面・顎・口腔領域に発生する疾患に対して、基本的検査とカルテ記載ができる。
- 22) 顔面・顎・口腔領域に発生する主な疾患に対して、基本的な外科処置ができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	9	口腔外科総論	3	小村 健	第4 講義室	講義	1,21,22
	4	12	外科総論(移植・人工臓器)	1	田中真二	第1 講義室	講義	21, 22
	4	12	外科総論(輸液・輸血、栄養管理)	1	工藤敏文	第1 講義室	講義	21, 22
	4	12	外科総論(創傷治療、出血・止血)	1	永井 鑑	第1 講義室	講義	21, 22
	4	13	先天異常	3	吉増秀実	第1 講義室	講義	2

22 顎口腔医療

4	16	炎症	3	森田圭一	第4講義室	講義	4
4	19	顎変形症	3	原田 清	第4講義室	講義	3
4	20	外科総論 (概念、侵襲と生体)	1	飯田 聡	第4講義室	講義	7, 22
4	20	外科総論 (感染症、腫瘍)	1	石黒めぐみ	第4講義室	講義	8, 9, 22
4	20	外科総論 (基本手技、無菌・消毒)	1	植竹宏之	第4講義室	講義	21, 22
4	23	外傷	2	樺沢勇司	第4講義室	講義	5
4	26	血液疾患	2	道 泰之	第4講義室	講義	7
4	26	骨系統疾患 1	1	佐藤 豊	第4講義室	講義	2
4	27	嚢胞性疾患	3	山口 聡	第4講義室	講義	11, 12
5	7	外科総論 (災害医学)	2	大友康裕	第4講義室	講義	21, 22
5	8	基本手術 (抜歯)	2	原田浩之	第4講義室	講義	21, 22
5	8	良性腫瘍	1	鵜澤成一	第4講義室	講義	16
5	10	歯源性腫瘍	3	鵜澤成一	第4講義室	講義	16, 17
5	14	悪性腫瘍 (診断法)	1	小村 健	第4講義室	講義	18
5	14	悪性腫瘍 (治療法)	1	小村 健	第4講義室	講義	18
5	14	骨系統疾患 2	1	佐藤 豊	第4講義室	講義	2
5	16	唾液腺疾患	3	山城正司	第4講義室	講義	20
5	17	口腔粘膜疾患	3	桜井仁亨	第4講義室	講義	6
5	21	基本手術 (根切)	1	丸川恵理子	第4講義室	講義	21, 22
5	21	基本手術 (骨整形)	1	丸川恵理子	第4講義室	講義	21, 22
5	21	基本手術 (歯の再植)	1	丸川恵理子	第4講義室	講義	21, 22
5	24	神経疾患	2	嶋田昌彦	第4講義室	講義	10
5	24	前癌病変・状態	1	山城正司	第4講義室	講義	14, 15
5	25	悪性腫瘍 (癌腫)	3	小村 健	第4講義室	講義	18
5	31	悪性腫瘍 (肉腫・黒色腫)	1	島本裕彰	第4講義室	講義	19
5	31	悪性腫瘍 (悪性リンパ腫)	1	島本裕彰	第4講義室	講義	18, 19

6	4	消毒 (実習)	3	中島雄介 澤井俊宏	歯学部基礎系実習室	実習	22
6	11	抜歯の基本手技 (実習)	3	丸川恵理子 津島文彦 森 正次	保存・矯正実習室	実習	22
6	14	臨床検査 (実習)	2	黒原一人 和気裕之	歯学部基礎系実習室	実習	21
6	18	顎関節疾患	2	木野孔司	第2講義室	講義	13
6	18	切開・縫合 (実習)	3	中久木康一 小林淳二 山田隆文	歯学部基礎系実習室	実習	22

6	21	顎間固定(実習)	3	儀武啓幸 小林明子	歯学部基礎系実習室	実習	22
7	9	外科総論筆記試験	1	儀武啓幸	第4講義室		
7	17	口腔外科筆記試験	3	原田浩之	第4講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

- ・「外科研修マニュアル」京都大学医学研究科外科学教室編集、南江堂、2002
- ・塩田重利:「最新口腔外科学」第4版、医歯薬出版、東京、1999
- ・野間弘康、瀬戸皖一:「標準口腔外科学」第3版、医学書院、東京、2004
- ・角 保徳、樋口勝規、梅村長生:「一からわかる口腔外科疾患の診断と治療」、医歯薬出版、東京、2006
- ・Fonseca Raymond J.: Oral and Maxillofacial Surgery.SAUNDERS W B CO, 2000. (ISBN: 0721696325)
- ・日本口腔外科学会編:「口腔外科ハンドマニュアル'06、クインテッセンス出版株式会社、東京、2006

担当教員の Office Hour:

原田浩之 准教授 火・木 16:00-17:00 hiro-harada.osur@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	皮膚疾患
ユニット責任者	津島文彦
ユニット番号	02
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	6+1 (必要自習時間 2時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

皮膚の構造と機能を理解し、主な皮膚疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 皮膚の構造と機能を説明できる。
- 2) 湿疹・皮膚炎を概説できる。
- 3) 蕁麻疹を概説できる。
- 4) 薬疹・水疱症・膿疱症を概説できる。
- 5) 皮膚悪性腫瘍を概説できる。
- 6) 皮膚感染症を概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	7	19	解剖と機能	1	佐藤貴浩	第4講義室	講義	1
	7	19	診断	1	佐藤貴浩	第4講義室	講義	2~6
	7	19	湿疹・皮膚炎	1	佐藤貴浩	第4講義室	講義	2
	7	23	蕁麻疹・紅斑症, 紅皮症	1	佐藤貴浩	第4講義室	講義	3
	7	23	薬疹・水疱症・膿疱症	1	佐藤貴浩	第4講義室	講義	4
	7	23	腫瘍・感染症	1	佐藤貴浩	第4講義室	講義	5,6
	7	31	筆記試験	1	津島文彦	第4講義室		

評価方法:

・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

・参考図書: 池田重雄:「今日の皮膚疾患治療指針」医学書院、東京

担当教員の Office Hour:

・津島文彦 助教 火 17:00-18:00 ft.osur@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	眼疾患
ユニット責任者	津島文彦
ユニット番号	03
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	4+1 (必要自習時間 2時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

眼の構造と機能を理解し、主な眼疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 眼球と付属器の構造と機能を説明できる。
- 2) 基本的眼科検査法を列挙できる。
- 3) 屈折異常(近視, 遠視, 乱視)を概説できる。
- 4) 結膜・角膜疾患を列挙できる。
- 5) 白内障を概説できる。
- 6) 緑内障を概説できる。
- 7) ぶどう膜炎を概説できる。
- 8) 網膜疾患を列挙できる。
- 9) 全身性疾患の眼底変化を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	7	5	解剖と機能・屈折異常	1	田中明子	第4講義室	講義	1,2,3
	7	5	結膜・角膜疾患・白内障	1	高瀬 博	第4講義室	講義	4,5
	7	12	緑内障・ぶどう膜炎	1	望月 學	第4講義室	講義	6,7
	7	12	網膜疾患・全身疾患	1	鴨居功樹	第4講義室	講義	8,9
	7	23	筆記試験	1	津島文彦	第4講義室		

評価方法:

・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

飛見立郎:「眼疾患のやさしい知識」南山堂、東京

担当教員の Office Hour:

・津島文彦 助教 火 17:00-18:00 ft.osur@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	耳・鼻・咽喉疾患
ユニット責任者	島本裕彰
ユニット番号	04
開設時期	5年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	8+1 (必要自習時間4時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

耳・鼻・咽喉の構造と機能を理解し、主な耳鼻咽喉疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 耳・鼻・咽喉の構造と機能を説明できる。
- 2) 難聴を概説できる。
- 3) 眩暈を概説できる。
- 4) 中耳炎を概説できる。
- 5) 副鼻腔炎を概説できる。
- 6) アレルギー性鼻炎を概説できる。
- 7) 扁桃疾患を列挙できる。
- 8) 喉頭疾患を列挙できる。
- 9) 甲状腺疾患を列挙できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	11	扁桃疾患	1	杉本太郎	第4講義室	講義	1,3
	9	11	喉頭疾患	1	杉本太郎	第4講義室	講義	4
	9	11	甲状腺疾患	1	杉本太郎	第4講義室	講義	2
	9	12	鼻疾患	1	角田篤信	第4講義室	講義	1,6
	9	12	副鼻腔疾患	1	角田篤信	第4講義室	講義	5
	9	20	耳疾患(炎症)	1	野口佳裕	第4講義室	講義	7
	9	20	耳疾患(難聴)	1	野口佳裕	第4講義室	講義	1,8
	9	20	耳疾患(眩暈)	1	野口佳裕	第4講義室	講義	9
	10	1	筆記試験	1	島本裕彰	第4講義室		

評価方法:

・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

参考図書:

- ・河本和友:「耳鼻咽喉科学書」第3版、金原出版、東京
- ・野村恭也、本庄 巖、平出文久:「耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンド」中山書店、東京、1998

担当教員の Office Hour:

島本裕彰 助教 金 16:00-18:00 hiroaki.osur@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	消化器・乳腺疾患
ユニット責任者	佐藤 豊
ユニット番号	05
開設時期	5年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	8+1 (必要自習時間3時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

消化器系および乳腺の構造と機能を理解し、主な消化器疾患、乳腺疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 消化器系の構造と機能を説明できる。
- 2) 主な食道疾患を列挙できる。
- 3) 主な胃・十二指腸疾患を列挙できる。
- 4) 主な胆・肝・膵疾患を列挙できる。
- 5) 主な小腸疾患を列挙できる。
- 6) 主な大腸疾患を列挙できる。

7) 乳腺の構造と機能、乳腺疾患を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	28	小腸、大腸の解剖と機能、小腸疾患	1	石川敏昭	第4講義室	講義	1,5
	5	28	大腸疾患	1	石川敏昭	第4講義室	講義	6
	6	7	食道の解剖と機能、食道疾患	1	川田研郎	第1講義室	講義	1,2
	6	7	胃・十二指腸の解剖と機能、胃・十二指腸疾患	1	加藤敬二	第1講義室	講義	1,3
	6	15	乳腺の解剖と機能	1	中川剛士	第4講義室	講義	7
	6	15	乳腺疾患	1	中川剛士	第4講義室	講義	7
	6	21	胆・肝・膵の解剖と機能	1	工藤 篤	第1講義室	講義	1
	6	21	胆・肝・膵疾患	1	中村典明	第1講義室	講義	4
	7	9	筆記試験	1	佐藤 豊	第4講義室		

評価方法:

・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

- ・岡 博:「消化器疾患最新の治療」南江堂、東京
- ・泉雄勝:「乳腺疾患」金原出版、東京
- ・「外科研修マニュアル」京都大学医学研究科外科学教室編集、南江堂、2002

担当教員の Office Hour:

佐藤 豊 助教 月 17:00-18:00 yu-sato.mfs@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	循環器・呼吸器系疾患
ユニット責任者	黒原一人
ユニット番号	06
開設時期	5年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	6+1 (必要自習時間2時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

循環器・呼吸器系の構造と機能を理解し、主な循環器・呼吸器系疾患(外科系)の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 循環器系の構造と機能を説明できる。
- 2) 主な心像・大動脈疾患を列挙できる。
- 3) 主な動脈・静脈疾患を列挙できる。
- 4) 原発性肺癌と転移性肺腫瘍を概説できる。

22 顎口腔医療

5) 胸膜・縦隔疾患を列挙できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	13	肺腫瘍	1	藤原直之	第4講義室	講義	4
	9	13	胸膜・縦隔疾患	1	藤原直之	第4講義室	講義	5
	9	13	動静脈疾患	2	工藤敏文	第4講義室	講義	1,3
	9	13	心臓・胸部大動脈疾患の外科治療	2	川口 悟	第4講義室	講義	1,2
	10	1	筆記試験	1	黒原一人	第4講義室	講義	

評価方法

・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

- ・宮本昭正:「今日の内科学」医歯薬出版、1993
- ・加藤繁次:「外科学」医学書院、1996
- ・Fauci Anthony S. HARRISON'S PRINCIPLES OF INTERNAL MEDICINE. MCGRAW-HILL PUBLISHING CO. (ISBN : 9780071624336)

担当教員の Office Hour:

黒原一人 助教 月 16:00-17:00 kuzkuroh.mfs@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	腎・泌尿器系疾患
ユニット責任者	鶴澤成一
ユニット番号	07
開設時期	5年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	2+1 (必要自習時間1時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

腎・泌尿器系の構造と機能を理解し、主な腎・泌尿器系疾患(外科系)の原因, 症候, 病態, 診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 腎・泌尿器系の構造と機能を説明できる。
- 2) 尿路系結石を概説できる。
- 3) 腎嚢胞・腫瘍を概説できる。
- 4) 主な膀胱疾患を列挙できる。
- 5) 前立腺・精巣疾患を概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	27	尿路の解剖と機能	1	石岡淳一郎	第4講義室	講義	1,2,
	9	27	腎・膀胱疾患	1	吉田宗一郎	第4講義室	講義	3,4,5
	10	1	筆記試験	1	鶴澤成一	第4講義室		

評価方法:

・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

- ・宮本昭正:「今日の内科学」医歯薬出版、1993
- ・奥山明彦:「泌尿・生殖器系疾患」(看護のための最新医学講座第22巻)、中山書店、2001

担当教員の Office Hour:

鶴澤成一 講師 月・水 17:00-18:00 n-uzawa.mfs@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	生殖器系疾患
ユニット責任者	津島文彦
ユニット番号	08
開設時期	5年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	4+1 (必要自習時間 2 時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

生殖器系の構造と機能を理解し、主な生殖器系疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 女性の生殖器系の構造と機能を説明できる。
- 2) 妊娠・不妊を概説できる。
- 3) 外陰・膣疾患を列挙できる。
- 4) 子宮疾患を列挙できる。
- 5) 卵巣疾患を列挙できる。
- 6) 妊婦の歯科治療時の注意点を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	10	妊娠と不妊症	1	大井理恵	第4講義室	講義	1,2
	9	10	女性生殖器疾患	2	吉木尚之	第4講義室	講義	3,4,5,
	9	12	歯科治療と妊娠の関連	1	和泉雄一	第4講義室	講義	6
	9	24	筆記試験	1	津島文彦	第4講義室		

22 顎口腔医療

・評価方法:

- ・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

- ・奥山明彦:「泌尿・生殖器系疾患」(看護のための最新医学講座第22巻)、中山書店、2001

担当教員の Office Hour:

津島文彦 助教 火 17:00-18:00 ft.osur@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	脳神経疾患
ユニット責任者	儀武啓幸
ユニット番号	09
開設時期	5年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	3+1 (必要自習時間 1時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

脳神経系の構造と機能を理解し、主な脳神経疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 脳の血管支配と血液・脳関門を説明できる。
- 2) 頭蓋内圧亢進を概説できる。
- 3) 脳血管障害(脳梗塞, 脳内出血, くも膜下出血)を概説できる。
- 4) 頭部外傷を概説できる。
- 5) 頭蓋内血腫を列挙できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	14	解剖と機能	1	成相 直	第4講義室	講義	1,
	9	14	頭蓋内圧亢進	1	成相 直	第4講義室	講義	2,4,5
	9	14	血管障害	1	成相 直	第4講義室	講義	3,4,5
	9	24	筆記試験	1	儀武啓幸	第4講義室		

評価方法:

- ・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

- ・平塚秀雄:「よくわかる脳神経外科」金原出版、1996
- ・太田富雄:「脳神経外科学」改訂8版、金芳堂、2000

担当教員の Office Hour:

儀武啓幸 助教 月・水 16:30-17:30 h-yoshitake.mfs@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	運動器疾患
ユニット責任者	山口 聡
ユニット番号	10
開設時期	5年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	3+1 (必要自習時間 1 時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

運動器の構造と機能を理解し、主な運動器疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能を説明できる。
- 2) 骨粗鬆症を概説できる。
- 3) 関節疾患を列挙できる。
- 4) 骨肉腫, ユーイング肉腫を概説できる。
- 5) 椎間板ヘルニアを概説できる。
- 6) 脊髄損傷を概説できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	28	解剖と機能・脊椎疾患	1	大川 淳	第4講義室	講義	1,5,6
	9	28	下肢疾患	1	柳下和慶	第4講義室	講義	2,3,4
	9	28	上肢疾患	1	若林良明	第4講義室	講義	2,3,4
	10	1	筆記試験	1	山口 聡	第4講義室		

評価方法:

- ・受講態度, 筆記試験の成績を総合して評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書:

- ・鳥巢岳彦:「標準整形外科学」第10版 医学書院、2008
- ・Weinstein, Stuart L : TUREK'S ORTHOPAEDICS: PRINCIPLES AND THEIR APPLICATION. LIPPINCOTT WILLIAMS & WILKINS. 2005. (ISBN 9780781742986)

22 顎口腔医療

担当教員の Office Hour:

山口 聡 助教 月・水 17:00-18:00 yamachan.mfs@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	包括臨床実習
モジュール責任者	(正)荒木 孝二 (副) 小田 茂、秀島雅之
モジュール番号	23
開設時期	5年 後期、6年 前期、後期
モジュールコマ数	5年次 552(0) 6年次 授業全コマ

学習目標(GIO)

診療参加型臨床実習を円滑に実践、遂行するための準備段階として必要な基本的態度・知識・技能は何であるのかを理解する。患者本位の歯科医療を実践するために、必要な態度・知識・技能を修得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	包括臨床実習 Phase I	実習
02	包括臨床実習 Phase II (A)	実習
03	包括臨床実習 Phase II (B)	実習
04	包括臨床実習 Phase III	実習

01, 02ユニットは5年次後期、03, 04ユニットは6年次に行う。

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	包括臨床実習 Phase I
ユニット責任者	荒木孝二、小田 茂、秀島雅之
ユニット番号	01
開設時期	5年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	234+0 (必要自習時間35時間)
授業形態	実習

学習目標(GIO):

診療参加型臨床実習を円滑に実践、遂行するための準備段階として必要な基本的態度・知識・技能は何であるのかを理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。
- 2) 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。
- 3) 患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- 4) 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- 5) 診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。
- 6) 診療室への患者の誘導を適切にできる。
- 7) 患者に挨拶して自己紹介できる。
- 8) 救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。
- 9) 患者との信頼関係を築くことができる。
- 10) 個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
- 11) 患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- 12) 患者に最も適した医療を説明できる。
- 13) 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- 14) 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- 15) 説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
- 16) 患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- 17) 患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。

授業計画 (今後変更されることがあり得る)

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	2	オリエンテーション	4	荒木、小田、秀島	特別講堂	講義	4,5
		2	臨床関連講義	2	臨床指導教員	特別講堂	講義	1~17,
		3	患者対応接遇研修	6	外部講師	学内各会議室等	セミナー	1,2,3,6,7
	10	9	各科実習	6	臨床指導教員	各診療科	実習	1~17
	11	8	各科実習	6	臨床指導教員	各診療科	実習	1~17
	11	9	オーバーラップ説明会	3	荒木、小田、秀島	第3講義室	講義	4,5
		9	臨床関連講義	3	臨床指導教員	第3講義室	講義	4,5

	11	12	オーバーラップ(D6と)	6	臨床指導教員	第1総合診療室	実習	1~17
	11	28	オーバーラップ(D6と)	6	臨床指導教員	第1総合診療室	実習	1~17

評価方法:(詳細はオリエンテーション時に示す)

- ・各診療科における指導教員のチェックリスト(形成評価)。
- ・ポートフォリオによる自己チェック(形成評価)。
- ・オーバーラップ時の引き継ぎ予定患者に対する医療面接の観察。
- ・各科実習、オーバーラップ時の平常実習態度。
- ・必要に応じて臨床指導教員が適宜口頭試問を行う。また、適宜レポートを出す。

ユニット試験の受験資格:

- ・5年後期の包括臨床実習Phase I の全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければ包括臨床実習Phase II (A)を履修できない。

参考資料:

- ・「補綴臨床に必要な顎口腔の基礎知識」 藍 稔 学建書院
- ・「バイオロジーに基づく実践歯内療法」 Gunnner Bergenholtz ほか(著) 須田英明 監訳 クインテッセ出版
- ・「誰でも治せる歯内治療」 澤田則宏、吉川剛正(著) クインテッセ出版
- ・「歯周病治療のストラテジー」 吉江弘正・宮田隆 編 医歯薬出版
- ・「クリニカルカリオロジー」 熊谷 崇 ほか 医歯薬出版
- ・「ステップアップ接着治療—正しい理解と実践」 安田 登ほか 口腔保健協会

備考:

- ・具体的な班分け、詳細な包括臨床実習Phase I の日程は別に定める。

担当教員のOffice Hour:

荒木孝二 教授 月～金 16:30–18:00 karaki.gend@tmd.ac.jp
 小田 茂 准教授 oda.peri@tmd.ac.jp
 秀島雅之 講師 m.hideshow.rpro@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	包括臨床実習 Phase II (A)	
ユニット責任者	荒木孝二、小田 茂、秀島雅之	
ユニット番号	02	
開設時期	5年 後期	
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	450+0	(必要自習時間70時間)
授業形態	実習	

学習目標(GIO):

患者本位の歯科医療を实践するために、必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 患者との信頼関係を築くことができる。
- 2) 個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
- 3) 患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- 4) 患者に最も適した医療を説明できる。
- 5) 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- 6) 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。

23 包括臨床実習

- 7) 説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
- 8) 患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- 9) 医療事故や潜在的医療事故(ニアミス)に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- 10) 患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。
- 11) 的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。
- 12) インフォームドコンセントを行うことができる。
- 13) 処方と処方箋の書き方を説明できる。
- 14) 研究用模型を作製するための印象を適切に採得できる。
- 15) 基礎実習で習得した基本的治療技術を実施できる。
- 16) 自ら行った処置の予後について予測ができる。
- 17) 歯科診療上の偶発的な事態に適切に対処できる。
- 18) 歯科保健の維持・増進に適切な助言・援助ができる。
- 19) 症例報告の準備ができる。
- 20) 症例報告ができる。

授業計画（今後変更されることがあり得る）

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	11	29	Phase II オリエンテーション	6	荒木、小田、秀島	第4講義室	講義	4,5
		30	Phase II オリエンテーション	6	荒木、小田、秀島	第4講義室	講義	1~8
	12	3	臨床関連講義	3	臨床指導教員	第4講義室	講義	1~8
	12	3	Phase II オリエンテーション	3	荒木、小田、秀島	第4講義室他	講義	1~8
	12	4	包括臨床実習+各科実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
	12	21	包括臨床実習+各科実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
25	1	7	包括臨床実習+各科実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
	3	29	包括臨床実習+各科実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20

評価方法: (詳細はPhase II オリエンテーション時に示す)

- ・ポートフォリオによる自己チェック(形成評価)。
- ・エッセシャルリクワイアメント達成度
- ・平常点(包括臨床実習ライター、専門(特殊)診療外来実習担当指導者、看護師等からの観察記録)

ユニット試験の受験資格:

- ・5年後期の包括臨床実習Phase II (A)の全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければ第6学年に進級できない。

参考資料:

- ・「失敗しない歯髄保存療法」 須田英明 他 クインテッセンス出版
- ・「歯科領域における偶発症の予防とその対策」 藤井彰(編) クインテッセンス出版
- ・「歯科におけるくすりの使い方 2007-2010」 佐々木次郎、東理十三雄(編) デンタルダイヤモンド社
- ・「チェアサイドにおける<アトラス>義歯修理の押さえどころ」 小林賢一 医歯薬出版
- ・「印象採得・精密印象を知る—適合のよい補綴物製作のために」 中村公雄、西川 徹 他 クインテッセンス出版
- ・「クラウンブリッジの臨床」 Stephen F. Rosenstiel ほか著、藤本順平共著・監訳 医歯薬出版
- ・「楽しく分かるクリニカルエンドントロジー」 小林千尋 医歯薬出版
- ・「若手歯科医のための臨床の技 50 保存修復」 安田 登 デンタルダイヤモンド社
- ・「猪越重久のMI 臨床—接着性コンポジットレジン充填修復」 猪越重久 デンタルダイヤモンド社

備考:

- ・具体的な班分け、詳細な包括臨床実習Phase II (A)の日程は別に定める。
- ・エッセンシャルリクワイアメントの詳細は別に定める。

担当教員のOffice Hour:

荒木孝二 教授 月～金 16:30–18:00 k.araki.gend@tmd.ac.jp
 小田 茂 准教授 oda.peri@tmd.ac.jp
 秀島雅之 講師 m.hideshowima.rpro@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	包括臨床実習 Phase II (B)
ユニット責任者	荒木孝二、小田 茂、秀島雅之
ユニット番号	03
開設時期	6年前期、後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	876+0 (必要自習時間数150時間)
授業形態	実習

学習目標(GIO):

患者本位の歯科医療を実践するために、必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 患者との信頼関係を築くことができる。
- 2) 個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
- 3) 患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- 4) 患者に最も適した医療を説明できる。
- 5) 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- 6) 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- 7) 説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
- 8) 患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- 9) 医療事故や潜在的医療事故(ニアミス)に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- 10) 患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。
- 11) 的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。
- 12) インフォームドコンセントを行うことができる。
- 13) 処方と処方箋の書き方を説明できる。
- 14) 研究用模型を作製するための印象を適切に採得できる。
- 15) 基礎実習で習得した基本的治療技術を実施できる。
- 16) 自ら行った処置の予後について予測ができる。
- 17) 歯科診療上の偶発的な事態に適切に対処できる。
- 18) 歯科保健の維持・増進に適切な助言・援助ができる。
- 19) 症例報告の準備ができる。
- 20) 症例報告ができる。

23 包括臨床実習

授業計画(今後変更されることがあり得る)

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	4	2	包括臨床実習+各科実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
	7	20	包括臨床実習+各科実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
24	8	20	包括臨床実習+各科実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
	11	9	包括臨床実習+各科実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
	11	12	オーバーラップ(D5 と)+包括臨床実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
	11	28	オーバーラップ(D5 と)+包括臨床実習	6	臨床指導教員	第1総合診療室他	実習	1~20
	11	29	器具回収	6	臨床指導教員	第1総合診療室	実習	1~20
	11	30	技工室大清掃	6	臨床指導教員	総合技工室	実習	1~20

評価方法: (詳細はPhase II オリエンテーション時に示す)

- ・臨床能力判定試験(OSCE、症例発表)
- ・エッセンシャルリクワイアメント達成度
- ・平常点(包括臨床実習ライター、専門(特殊)診療外来実習担当指導者、看護師等からの観察記録)

ユニット試験の受験資格:

- ・6年の包括臨床実習Phase II (B)の全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければ臨床能力判定試験(OSCE、症例発表)を受験することができない。

備考:

- ・具体的な班分け、詳細な包括臨床実習Phase II (B)の日程は別に定める。
- ・エッセンシャルリクワイアメントの詳細は別に定める。
- ・臨床能力判定試験(OSCE、症例発表の実施方法、合格基準等は別に定める。

担当教員のOffice Hour:

荒木孝二 教授 月~金 16:30-18:00 k.araki.gend@tmd.ac.jp
 小田 茂 准教授 oda.peri@tmd.ac.jp
 秀島雅之 講師 m.hideshowima.rpro@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	包括臨床実習 Phase III
ユニット責任者	荒木孝二、小田 茂、秀島雅之
ユニット番号	03
開設時期	6年後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	120+0 (必要自習時間数20時間)
授業形態	講義+実習

学習目標(GIO):

卒後研修の現場を体験するとともに、卒後研修へ円滑に進めるために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 卒後研修の意義を説明できる。
- 2) 卒後研修の現場を体験する。
- 3) 診療の補助・介助が円滑にできる。
- 4) 症例報告に対して適切な質疑応答ができる。
- 5) 包括臨床実習 Phase II で習得した基本的治療技術を実施できる。
- 6) 個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。
- 7) 患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- 8) 患者に最も適した医療を説明できる。
- 9) 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- 10) 説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
- 11) 患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- 12) 患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。

授業計画(今後変更されることがあり得る)

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	11	30	PhaseⅢオリエンテーション	1	荒木、小田、秀島	第4講義室	講義	1
25	2	14	包括臨床実習 PhaseⅢ	6	臨床指導教員	各診療科	実習	1~12
	3	9	包括臨床実習 PhaseⅢ	6	臨床指導教員	各診療科	実習	1~12

評価方法:

- ・ 詳細はPhaseⅢオリエンテーション時に示す。

ユニット試験の受験資格:

- ・ ユニット試験は行わないが、6年の包括臨床実習PhaseⅢの全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければユニット履修を認めない。

備考:

- ・ 詳細な包括臨床実習PhaseⅢの内容・日程は別に定める

担当教員のOffice Hour:

荒木孝二 教授 月～金 16:30–18:00 k.araki.gend@tmd.ac.jp
 小田 茂 准教授 oda.peri@tmd.ac.jp
 秀島雅之 講師 m.hideshow.rpro@tmd.ac.jp

履 修 内 規

試 験 内 規

単位取得及び進級判定基準

(平成23年度以降歯学部歯学科入学者)

東京医科歯科大学歯学部歯学科専門科目履修内規

〔平成23年2月2日
歯学部長制定〕

（趣旨）

第1条 この内規は、東京医科歯科大学歯学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。）第11条に基づき、歯学部歯学科における専門に関する教育科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

（学習の評価）

第2条 定期試験及び追試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、履修規則別表2のとおり学習の評価を行う。

- 2 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。
- 3 第1項及び前項の学習の評価に、平常の学習の成果を加味することができる。

（必修科目及び仮進級）

第3条 履修規則別表3(3)に掲げる科目は、必修科目とする。

- 2 必修科目に係る試験の不合格者については、仮進級を認めない。

（G P）

第4条 G P（Grade Point）で成績を評価する場合は次のとおりとする。

成績評価	秀	優	良	可	不可
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0
成績区分	90点以上	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下

附 則

- 1 この内規は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に歯学部歯学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

歯学科教育課程

授業科目	単位数	履修学年											
		1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
歯学入門	4		○										
人体の構造と機能	19			○	○	○							
患者と医療者	3			○	○								
医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）	7			○	○	○	○						
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）				○	○								
医歯学基盤教育（医学英語Ⅰ）				○	○								
医歯学基盤教育（生命倫理Ⅱ）								○					
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）						○	○						
医歯学基盤教育（医学英語Ⅱ）						○	○						
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅲ）								○					
医歯学基盤教育（医学英語Ⅲ）								○					
頭頸部基礎		4			○								
社会と環境	1				○								
生命の分子的基盤	5				○								
臨床歯学イントロダクション	2					○							
感染と生体防御	4					○							
臨床予備実習	3					○	○						
病理	4					○							
予防と健康管理	3					○	○						
生体と薬物	3					○	○						
歯科放射線基礎	1						○						
病態科学演習	3						○						
内科・小児・遺伝疾患	3						○						
外科系疾患	2						○						
課題統合セミナー	3						○			○			
学年混合選択セミナー	1					○		○		○			
頭頸部臨床	4						○						

老年医学	2						○						
歯科生体材料	3						○	○					
研究実習	4							○					
歯と根尖歯周組織の疾患	5								○				
咬合回復	12						○	○	○				
臨床体験実習	1							○	○				
歯周病	3								○				
咬合育成・発達	4									○			
顎口腔医療	3									○			
全身と歯科医療	3									○			
発展歯科医療	4									○			
臨床情報処理	1									○			
包括臨床実習	43										○	○	○
包括医療統合教育	1											○	
計	168												

注) すべて必修科目とする

歯学科

<p>(1) 第1学年次末までに次の授業科目の単位を修得もしくは試験に合格しなければ、第2学年次に進級することができない。</p> <p>歯学入門</p>
<p>(2) 第2学年次末までに次の授業科目の単位を修得もしくは試験に合格しなければ、第3学年次に進級することができない。</p> <p>患者と医療者、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）、社会と環境、生命の分子的基盤、頭頸部基礎、 （2学年次に開講される授業科目内のユニットを対象とする）人体の構造と機能、医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）、医歯学基盤教育（医学英語Ⅰ）</p>
<p>(3) 第3学年次末までに次の授業科目の単位を修得もしくは試験に合格しなければ、第4学年次に進級することができない。</p> <p>人体の構造と機能、医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）、医歯学基盤教育（医学英語Ⅱ）、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）、臨床歯学イノベーション、感染と生体防御、臨床予備実習、病理、予防と健康管理、生体と薬物、歯科放射線基礎、病態科学演習、内科・小児・遺伝疾患、外科系疾患、頭頸部臨床、老年医学、 （3学年次に開講される授業科目内のユニットを対象とする）課題統合セミナー、学年混合選択セミナー、歯科生体材料、咬合回復</p>
<p>(4) 第4学年次末までに次の授業科目の単位を修得もしくは試験に合格しなければ、第5学年次に進級することができない。</p> <p>歯科生体材料、研究実習、歯と根尖歯周組織の疾患、咬合回復、臨床体験実習、歯周病、医歯学基盤教育（生命倫理Ⅱ）、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅲ）、医歯学基盤教育（医学英語Ⅲ）、 （4学年次に開講される授業科目内のユニットを対象とする）学年混合選択セミナー</p>

(5) 第5学年次前期末までに次の授業科目の単位を修得し、かつ、共用試験に合格しなければ、第5学年次後期の授業科目を履修することができない。

課題統合セミナー、学年混合選択セミナー、咬合育成・発達、顎口腔医療、全身と歯科医療、発展歯科医療、臨床情報処理、

(5学年次に開講される授業科目内のユニットを対象とする) 共用試験 (CBT、OSCE)

(6) 第5学年次末までに次の授業科目の単位を修得しなければ第6学年次に進級することができない。

(5学年次に開講される授業科目内のユニットを対象とする) 包括臨床実習

注 : 医歯学基盤教育は医学英語 I、II、III、臨床統計 I、II、III、生命倫理 I、II から成り立っており、全ての授業科目に合格しなければ、単位を修得することができない。

東京医科歯科大学歯学部歯学科試験内規

平成 23 年 2 月 2 日
歯学部長 制定

(趣旨)

第 1 条 この内規は、東京医科歯科大学試験規則（平成 23 年規則第 1 号。以下「試験規則」という。）第 6 条第 3 項及び第 12 条に基づき、歯学部歯学科における専門に関する教育科目の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(試験の種類)

第 2 条 試験規則第 5 条に規定する定期試験とは、ユニット試験及び臨床能力判定試験とする。

(ユニット試験)

第 3 条 ユニット試験とは、専門科目履修規則別表(4)において定める授業科目におけるユニット終了時に行う試験をいう。

2 ユニット試験の実施日時は、原則として各ユニットの最終日に行う。

(臨床能力判定試験)

第 4 条 臨床能力判定試験とは、歯学部歯学科の第 6 学年末に行う包括臨床実習終了時技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（OSCE）及び臨床推論能力試験（症例発表会）をいう。

2 臨床能力判定試験の合格基準は、別に定める。

(共用試験)

第 5 条 試験規則第 6 条第 1 項に規定する共用試験は、第 5 学年前期の授業終了後に実施する。

2 共用試験を受験できる者は、第 5 学年前期に開講される授業科目内のユニット試験の受験資格を有する者とする。

3 共用試験の合格基準は、別に定める。

(追試験)

第 6 条 ユニット試験に係る追試験の実施時期は、担当教員と追試験を受験しようとする者が相談して決めることができるものとする。

(再試験)

第 7 条 ユニット試験に係る再試験は、原則として学年末の再試験期間において実施する。

2 共用試験及び臨床能力判定試験の再試験合格基準は、別に定める。

(成績の報告)

第 8 条 ユニット成績提出用紙には、科目責任者の確認印を必要とする。

2 ユニット成績及び授業科目成績の最終責任者は、教授であるものとする。

3 ユニット責任者と科目責任者の両名が教授でない場合、第 1 項の用紙には、歯学科教育委員会が指定した教授の確認印を必要とする。

附 則

1 この内規は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

2 東京医科歯科大学歯学部歯学科に平成 23 年 3 月 31 日に在学し、引き続き本学科の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成 23 年 4 月 1 日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

歯学カリキュラム(平成 23 年度以降入学者) 単位取得及び進級判定基準

1. 総則

- 1) 教養教育の進級判定は、教養部がこれを定める。
- 2) 専門科目の進級判定は、1 学年終了時、2 学年終了時、3 学年終了時、4 学年終了時、5 年前期終了時および5 年後期終了時に行う。履修内規別表に示す各終了時まで実施されるモジュール単位を全て修得した場合に進級を認める。進級が認められなかった場合は当該学年に留年とする。
- 3) 5 学年後期に実施される包括臨床実習の成績判定については、出席日数及び平常学習態度を対象とし、包括臨床実習リクワイヤメント達成度については6 学年の包括臨床実習に含むものとする。
- 4) 6 学年に実施される包括臨床実習モジュールの単位判定、および6 学年修了判定については別途定める。
- 5) 留年した場合は、修得できなかったモジュールの一部または全部のユニットを次年度に再履修しなければならない。
- 6) 共用試験が不合格で留年した場合は、次年度の共用試験 (C B T, O S C E) に合格しなければならない。共用試験の合格基準は別に定める。

2. モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

3. ユニット試験の受験資格

各ユニットの受験資格はユニットごとに判定する。

各ユニットの全授業時間数のうち、授業形態が「実習」では4分の3以上、「講義」、「演習」、および「講義+演習」では3分の2以上、出席していなければならない。また、「講義+実習」では講義部分の全授業時間数の3分の2以上の出席、かつ実習部分の全授業時間数の4分の3以上の出席をしていなければならない。

ただし、時間数の少ないユニットにおいては、別途定める。

なお、受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

4. 包括臨床実習の単位判定

包括臨床実習モジュールの単位判定は、以下の成績によるものとする。

- 1) 包括臨床実習リクワイヤメント達成度
- 2) 臨床能力判定試験結果：包括臨床実習終了時臨床技能確認試験(終了時 OSCE を含む)臨床推論能力 (症例発表会)
- 3) 平常点 (ポートフォリオ提出状況、D 6 臨床実習ライター、専門 (特殊) 診療外来実習担当指導者、看護師等からの観察記録)

なお、包括臨床実習モジュールの単位が取得できずに留年した場合の再履修に関しては、同モジュールの履修状況を勘案し、別途定める。

5. 学年混合選択セミナーの単位判定

単位取得のためには、すべてのユニット (=6 ユニット) に合格しなければならない。

ユニットの合格基準は以下の 1), 2) を満たすこととする。

- 1) 授業回数数の 2/3 以上 (5 回中 4 回以上) に出席すること。
- 2) ユニットごとに定める試験 (レポート提出を含む) に合格すること。

6. 課題統合セミナーの単位判定

単位取得のためには、すべてのユニット (= 7 ユニット) に合格しなければならない。ユニットの合格基準は以下の 1), 2) を満たすこととする。

- 1) 授業回数の 2/3 以上に出席すること。
- 2) ユニットごとに定める試験 (レポート提出を含む) に合格すること。

7. この規程は平成 23 年度入学者から施行するが、それ以前の入学者に対してはこの規程に合わせて単位取得を行い、従前の必要単位取得をしたものとする。

8. その他

以上に定めがない事項については、教育委員会で審議し、歯学部長及び歯学部歯学科教授会の承認を得るものとする。

専 門 科 目

(平成23年度以降歯学部歯学科入学者)

平成24年度D1 歯学入門 授業カレンダー

前期		8:50～10:20	10:30～12:00	12:00～14:00	14:30～16:00
4/17	火	カリキュラム提示/ 歯学概説-1 歯学部特別講堂	歯学概説 (歯学部及び歯学部附属病院見学) 歯学部特別講堂	保健管理センター抗体検査	歯学概説 (歯学部及び歯学部附属病院見学) 歯学部特別講堂
後期		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00
10/2	火	歯学概説-2 歯学部第4講義室	歯学概説-3 歯学部第4講義室	最新の歯学-1 歯学部第4講義室	最新の歯学-2 歯学部第4講義室
10/9	火	<p style="text-align: center;">早期臨床体験実習</p> <p style="text-align: center;">早期臨床体験実習(歯学部附属病院各診療科長)</p> <p style="text-align: center;">学生臨床総合実習見学</p> <p style="text-align: center;">各診療科外来見学・病棟見学</p> <p style="text-align: center;">(10/9 - 11/6 まで第4講義室)</p> <p style="text-align: center;">(11/13 は歯学部特別講堂)</p>			
10/16	火				
10/23	火				
10/30	火				
11/6	火				
11/13	火				
11/20	火				
11/27	火	最新の歯学-4 歯学部第4講義室	最新の歯学-5 歯学部第4講義室	歯学概説-5 歯学部第4講義室	歯学史-3 (鈴木)歯学部第4講義室
12/4	火	最新の歯学-6 歯学部第4講義室	医の倫理-1(藤井・森本) 歯学部第4講義室	歯学概説-6 歯学部第4講義室	歯学史-4 (鈴木)歯学部第4講義室
12/11	火	最新の歯学-7 歯学部第4講義室	医の倫理-2(藤井・森本) 歯学部第4講義室	歯学概説-7 歯学部第4講義室	歯学史-5 (長谷川)歯学部第4講義室
12/18	火	最新の歯学-8 歯学部第4講義室	医の倫理-3(藤井・森本) 歯学部第4講義室	歯学概説-8 歯学部第4講義室	歯学史-6 (長谷川)歯学部第4講義室
冬季休業 平成24年12月25日～平成25年1月4日					
1/8	火	歯学概説-9 歯学部第4講義室	医の倫理-4(藤井・森本) 歯学部第4講義室	基礎情報医歯学-1 (大谷 他)	図書館情報検索室(M&Dタワー4階)
1/15	火	歯学概説-10 歯学部第4講義室	医の倫理-5(藤井・森本) 歯学部第4講義室	基礎情報医歯学-2 (大谷 他)	図書館情報検索室(M&Dタワー4階)
1/22	火	最新の歯学-9 歯学部第4講義室	医の倫理-6(藤井・森本) 歯学部第4講義室	基礎情報医歯学-3 (大谷 他)	図書館情報検索室(M&Dタワー4階)
1/29	火	最新の歯学-10 歯学部第4講義室	医の倫理-7(藤井・森本) 歯学部第4講義室	基礎情報医歯学-4 (大谷 他)	図書館情報検索室(M&Dタワー4階)
2/5		予備日			

モジュール情報

モジュール名	歯学入門
モジュールコーディネータ	荒木孝二
モジュール番号	01
開設時期	1年 後期
モジュールコマ数	45 (5)

学習目標(GIO)

早期に歯学に関する様々な関連事項を知ること、歯科医学を学ぶ学生としての興味と意識を高めるとともに、今後歯科医師になるための基礎的な情報の収集方法を理解する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	歯学概説	講義・実習
02	歯学史	講義
03	最新の歯学	講義
04	早期臨床体験実習	講義・実習
05	医の倫理	講義
06	基礎情報医歯学	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

科目名 (英 訳)	ユニット番号01：歯学概説 Introduction to Dentistry	開講学期 曜日時限	後期 火曜日3時限 (一部他の時限あり)
対象学年	第1学年	単位数	歯学入門全体で4単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	大学院医歯学総合研究科歯学系教員、学外非常勤講師		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>東京医科歯科大学歯学部とは一体どんなところだろうか、歯学部ではどんな先生からどんなことを学ぶのだろうか、歯科医師として社会からどんなことを期待されているのだろうか、歯科医学界の将来はどのようなのだろうか。この科目の教育項目は、次のように構成されている。</p> <p>第一は、本学歯学部の教育課程に関する項目である。これに関連してまず、本学歯学部の建学の精神について学び、その後の発展の跡を辿り、諸君が本学歯学部の歴史の中でどのような位置を占めているかを理解する。さらに、本学歯学部における教育の理念、方針及び教科課程の構成を把握した上で、専門科目の履修および卒後の学習、研修、研究の場となる歯学部の研究室及び附属病院を見学して、歯学部の実際の教育・研究・診療の諸活動の一端を体験学習する。</p> <p>第二は、職業人として社会から期待されている事柄を、歯科医療を取り巻く環境や職業倫理と関連させて把握することを目的とする項目である。ここでは、第一線の医療現場から講師を迎え、歯科医と患者の両方の立場から、歯科医療の諸問題を論じ、歯科医のあるべき姿について考える。また、歯科医療への美的感覚の必要性といった意外な側面にも触れて、歯科医に要求されることの多様性を理解する。</p> <p>第三に、歯科医学の研究の最近の動向を紹介する。ここでは、多数の先輩が留学を経験しているアメリカの歯学研究の実態と、最新の研究技術を駆使して行われている本学歯学部の研究その他を紹介する。歯科医学における研究が、世界的な視野で様々な魅力的な主題について行われていることを理解する。</p> <p>最後に我が国の歯科医学と歯科医療の現状に関する展望を知り、職業人としての諸君を取り巻く環境を把握する。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>歯学部に進学する学生の多くが抱いているこのような疑問に答え、全学共通科目履修の間、しっかり将来を見据えて、はっきりとした方向性と自覚を持って学習を組織し、教養部での生活を充実した有意義なものにすることを目的とする。</p> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>1) 講 義 次ページの別紙日程表のとおり。</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)</p> <p>講義ごとにレポートを課し、担当教員が評価する。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>その都度、必要に応じて提示する。</p>			

科目名 (英 訳)	ユニット番号01：歯学概説 Introduction to Dentistry	開講学期 曜日時限	後期 火曜日3時限 (一部他の時限あり)
対象学年	第1学年	単位数	歯学入門全体で4単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	大学院医歯学総合研究科歯学系教員		

平成24年度「歯学概説」日程表

時 間： 8：50～10：20 (講義)
10：30～12：00、14：30～16：00 (学部・病院見学)

場 所： 特別講堂 (歯科棟南 4階)

月	日	曜日	講 義 名	講 師	世話 (担当) 分野
4	17	火	歯学部及び歯学部附属病院見学	田上順次歯学部長	教務掛

時 間： 10/2 は 8：50～12：00 (講義)
11/20～12/18 は12：50～14：20 (講義)
1/8, 15 は 8：50～10：20 (講義)

場 所： 10/2～ 1/15 歯学部第4講義室：7号館 (歯学部校舎棟) 4階

月	日	曜日	講 義 名	講 師	世話 (担当) 分野
10	2	火	歯学概説のオリエンテーション	俣木 志朗 教授	歯科医療行動科学
10	2	火	病院歯科の役割	佐野 晴男 先生	麻酔・生体管理学
11	20	火	歯科医療の現場から 「開業医として、先輩として」	国光 隆史 先生	口腔放射線医学
11	27	火	補綴学の立場からみた歯科医学 (仮題)	五十嵐 順正先生	部分床義歯補綴学
12	4	火	アメリカの歯学の研究	柳下 正樹 教授	硬組織病態生化学
12	11	火	歯科医療とアート 「顔面美について」	宮永美知代 先生	教授掛
12	18	火	インフォームドコンセントについて	植村 研一 先生	高齢者歯科学
1	8	火	患者と心	大藪 正哉 先生	硬組織薬理学
1	15	火	本学歯学部附属病院の役割について (仮題)	嶋田 昌彦病院長	教務掛

科目名 (英 訳)	ユニット番号02 : 歯学史 History of Dentistry	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日 4 時限 (一部他の時限あり)																								
対象学年	第1学年	単位数	歯学入門全体で4単位																								
受講資格	歯学科	募集人数																									
担当教員	長谷川 成男、鈴木聖一																										
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method) 今日に至る歯科医学および歯科医療発展の経緯について歴史的事象をふまえて解説する。 授業は講義形式で行う。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal) 歯科医学、歯科医療の歴史的発達について学ぶ。先人達の今日の歯科医学を築き上げるに至った努力、研鑽の跡を知ることは、未曾有の歯科医師過剰時代に、過ちのない対応で乗り切り、歯科医学を探究し新しい知識を拓いてゆくのである。</p> <p>●到達目標 (Objectives) 1) 歯学史を学ぶ意義を理解する。 2) 世界および日本における歯科医学発展の概要を説明できる。 3) 義歯の誕生と改良、および咬合に関する研究の軌跡を説明できる。 4) 木床義歯など日本固有の技術、歯科医療における先人の工夫の跡を知る。 5) 近代における歯学教育の発展と東京医科歯科大学の歴史を知る。</p> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <table border="0"> <tr> <td>1) 11月20日</td> <td>歯学史を学ぶ</td> <td>歯科医学の起源「はいしゃ」の始まり</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>2) 11月20日</td> <td>仏像から木床義歯</td> <td>木床義歯の誕生、江戸時代の歯科医術</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>3) 11月27日</td> <td>楊子と歯磨</td> <td>楊子と歯磨の歴史、歯科医療の発展</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>4) 12月 4日</td> <td>歯学教育</td> <td>近代日本の歯学教育、東京医科歯科大学の歴史</td> <td>鈴木</td> </tr> <tr> <td>5) 12月11日</td> <td>世界の歯科医学の歴史(1)</td> <td>古代から近世へ</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>6) 12月18日</td> <td>世界の歯科医学の歴史(2)</td> <td>近代から現代へ</td> <td>長谷川</td> </tr> </table> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 授業態度、必要に応じてレポートにより総合的に評価する。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials) スタンダード歯科医学史 石井拓男、渋谷 鈺、西巻明彦 学建書院</p>				1) 11月20日	歯学史を学ぶ	歯科医学の起源「はいしゃ」の始まり	鈴木	2) 11月20日	仏像から木床義歯	木床義歯の誕生、江戸時代の歯科医術	鈴木	3) 11月27日	楊子と歯磨	楊子と歯磨の歴史、歯科医療の発展	鈴木	4) 12月 4日	歯学教育	近代日本の歯学教育、東京医科歯科大学の歴史	鈴木	5) 12月11日	世界の歯科医学の歴史(1)	古代から近世へ	長谷川	6) 12月18日	世界の歯科医学の歴史(2)	近代から現代へ	長谷川
1) 11月20日	歯学史を学ぶ	歯科医学の起源「はいしゃ」の始まり	鈴木																								
2) 11月20日	仏像から木床義歯	木床義歯の誕生、江戸時代の歯科医術	鈴木																								
3) 11月27日	楊子と歯磨	楊子と歯磨の歴史、歯科医療の発展	鈴木																								
4) 12月 4日	歯学教育	近代日本の歯学教育、東京医科歯科大学の歴史	鈴木																								
5) 12月11日	世界の歯科医学の歴史(1)	古代から近世へ	長谷川																								
6) 12月18日	世界の歯科医学の歴史(2)	近代から現代へ	長谷川																								

科目名 (英 訳)	ユニット番号03：最新の歯学 The introduction to dentistry — Up to date dentistry—	開講学期 曜日・時限	後期(H24年10月～H25年2月、10回) 火曜日1時限目 (一部他の時限あり) (10月2日、11月27日は1日2回)																																												
対象学年	第1学年	単位数	歯学入門全体で4単位																																												
受講資格	歯学科	募集人数																																													
担当教員	荒木孝二、大学院医歯学総合研究科(歯学系)教授																																														
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>大学院医歯学総合研究科(歯学系)の分野長(基礎系および臨床系教授)が専門分野の最新トピックスについて説明する。基礎系は科学研究のおもしろさや重要性、臨床系は歯科臨床がどこまで国民あるいは社会に貢献しているかを分かりやすく説明し、将来学生諸君がこのような歯科研究者あるいは歯科臨床家になりたいという夢と希望を与える。講師は毎週異なり、各講師が一つのテーマについてそれぞれの立場から分かりやすく講義を行う。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>歯科研究・歯科臨床の最新トピックスを理解する。科学研究のおもしろさや重要性を理解する。 歯科研究・歯科臨床が国民・社会にどこまで貢献しているかを理解する。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <p>最新の歯科研究・歯科臨床の内容を説明出来る。 学部専門科目内容の緒を掴む。</p> <p>● 授業計画 (Schedule)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日時</th> <th>講義内容</th> <th>担当教員</th> <th>(所属分野)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 10月 2日</td> <td>きれいな歯、白い歯の最前線</td> <td>三浦 宏之</td> <td>(摂食機能保存学)</td> </tr> <tr> <td>2. 10月 2日</td> <td>ゲノム時代の細菌学</td> <td>中川 一路</td> <td>(細菌感染制御学)</td> </tr> <tr> <td>3. 11月20日</td> <td>バーチャルリアリティで体験する匠の技</td> <td>木下 淳博</td> <td>(教育メディア開発学)</td> </tr> <tr> <td>4. 11月27日</td> <td>ここまで出来る顎顔面補綴</td> <td>谷口 尚</td> <td>(顎顔面補綴学)</td> </tr> <tr> <td>5. 11月27日</td> <td>歯周病はメタボリックシンドロームの黒幕?</td> <td>和泉 雄一</td> <td>(歯周病学)</td> </tr> <tr> <td>6. 12月 4日</td> <td>炎症の科学</td> <td>森田 育男</td> <td>(分子細胞機能学)</td> </tr> <tr> <td>7. 12月11日</td> <td>歯科治療における麻酔の威力</td> <td>深山 治久</td> <td>(麻酔・生体管理学)</td> </tr> <tr> <td>8. 12月18日</td> <td>においの科学：口臭臨床最前線</td> <td>川口 陽子</td> <td>(健康推進歯学)</td> </tr> <tr> <td>9. 1月22日</td> <td>心の病と歯科疾患</td> <td>豊福 明</td> <td>(歯科心身医学)</td> </tr> <tr> <td>10. 1月29日</td> <td>歯科と脳科学研究</td> <td>泰羅 雅登</td> <td>(認知神経生物学)</td> </tr> </tbody> </table> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)</p> <p>出席とレポートによる評価を行う。全10回中2/3以上の出席が履修の条件である。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>教科書は使用せず、レジュメ・資料等をその都度配布する。 参考図書・文献は講義の中で随時紹介する。</p>				日時	講義内容	担当教員	(所属分野)	1. 10月 2日	きれいな歯、白い歯の最前線	三浦 宏之	(摂食機能保存学)	2. 10月 2日	ゲノム時代の細菌学	中川 一路	(細菌感染制御学)	3. 11月20日	バーチャルリアリティで体験する匠の技	木下 淳博	(教育メディア開発学)	4. 11月27日	ここまで出来る顎顔面補綴	谷口 尚	(顎顔面補綴学)	5. 11月27日	歯周病はメタボリックシンドロームの黒幕?	和泉 雄一	(歯周病学)	6. 12月 4日	炎症の科学	森田 育男	(分子細胞機能学)	7. 12月11日	歯科治療における麻酔の威力	深山 治久	(麻酔・生体管理学)	8. 12月18日	においの科学：口臭臨床最前線	川口 陽子	(健康推進歯学)	9. 1月22日	心の病と歯科疾患	豊福 明	(歯科心身医学)	10. 1月29日	歯科と脳科学研究	泰羅 雅登	(認知神経生物学)
日時	講義内容	担当教員	(所属分野)																																												
1. 10月 2日	きれいな歯、白い歯の最前線	三浦 宏之	(摂食機能保存学)																																												
2. 10月 2日	ゲノム時代の細菌学	中川 一路	(細菌感染制御学)																																												
3. 11月20日	バーチャルリアリティで体験する匠の技	木下 淳博	(教育メディア開発学)																																												
4. 11月27日	ここまで出来る顎顔面補綴	谷口 尚	(顎顔面補綴学)																																												
5. 11月27日	歯周病はメタボリックシンドロームの黒幕?	和泉 雄一	(歯周病学)																																												
6. 12月 4日	炎症の科学	森田 育男	(分子細胞機能学)																																												
7. 12月11日	歯科治療における麻酔の威力	深山 治久	(麻酔・生体管理学)																																												
8. 12月18日	においの科学：口臭臨床最前線	川口 陽子	(健康推進歯学)																																												
9. 1月22日	心の病と歯科疾患	豊福 明	(歯科心身医学)																																												
10. 1月29日	歯科と脳科学研究	泰羅 雅登	(認知神経生物学)																																												

科目名 (英 訳)	ユニット番号04：早期臨床体験実習 Introduction to Clinical Dentistry	開講学期 曜日時限	後期 火曜日
対象学年	第1学年	単位数	歯学入門全体で4単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	大学院医歯学総合研究科歯学系教員、歯学部附属病院教員等		
<p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>今後6年間にわたって歯科医学を学んでいくにあたり、今後の学習への強い動機を獲得するために、歯科医学ならびに歯科医療の現状を認識するとともに、医の原則を理解し、医療人としての基本的態度を修得する。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：歯科医療従事者に求められる基本的態度（挨拶、時間厳守、言葉づかい）を身につける。 2：歯科医療が人々の健康の維持・増進に果たす社会的役割を認識する。 3：1口腔単位として歯科疾患を理解する。 4：基礎医学、一般教養科目の重要性を説明できる。 5：自分自身の将来像を具体的に述べることができる。 6：自分の将来像を具現化するための具体的な目標設定ができる。 7：自分自身で問題を提起し、自ら解決する能力を養う習慣を身につける。 <p>●授業計画 (Schedule)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループ2～3人で各臨床の診療科あるいは専攻分野に配属され、研究テーマを自ら選定し、研究結果を成果発表会で発表する。 <p>10月9日(火) 全体の概要説明、外来見学、研究室見学、テーマ抽出、テーマ発表の準備 10月16日(火) テーマ発表会(1組5分)、テーマ再検討、演習 10月23日(火) 演習、中間発表の準備 10月30日(火) 中間発表会、 11月6日(火) 演習、成果発表会の準備 11月13日(火) 成果発表会</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)</p> <p>出席、遅刻の有無、受講態度、実習態度、中間発表会および成果発表会での発表内容、発表の態度等を総合的に評価する。</p> <p>●教科書及び参考図書 (Textbooks and materials)</p> <p>必要に応じて、各研究分野の教員から適宜、提示される。</p>			

科目名 (英 訳)	ユニット番号05：医の倫理 Medical Ethics and Bioethics	開講学期 曜日・時限	後期 火曜2時限
対象学年	1年生	単位数	歯学入門全体で4単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	藤井達夫、森本直子		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>この講義では、歯学部歯学科の学生諸君が歯科医療・歯学研究の「専門家」として従うべき規範について理解を深めるとともに、「医学倫理」という幅広い視座から現代医学の諸問題を把握し、分析するための基本的な能力を身につけることが目指されます。</p> <p>ところで一口に「医の倫理」と言っても、その舞台となるのが現代の医歯学である以上、はるか昔の「ヒポクラテスの誓い」を引き合いに出すだけではもはや十分ではありません。実際、20世紀の後半に「バイオエシックス(生命倫理)」が成立し、「患者の権利」が確立されてゆきつかけとなったのは、第二次世界大戦後の医学・医療における人体実験の問題でした。そしてそれゆえに、現代の「医の倫理」にあっては、「倫理的な思考」と「法的な思考」とが分かつことのできない関係になっています。現代の医歯学はそれを「職業」とする人々に、従来の「医の心」や「医師の良心」にはとどまらない倫理規範と思考とを求めているのです。</p> <p>そこでこの講義も、現代の医療や医歯学のあれこれの「約束事」についてただ解説するという形はとりません。むしろ、現代の「医の倫理」の由来を歴史のうちに探りながら、他方ではその意義と課題とを具体的な諸問題から検討する、という形で進めてゆきます。それゆえこの講義では、いわゆる「座学」による基本的な知識の提供だけでなく、さまざまな問題提起にもとづいた学生諸君によるプレゼンテーションとディスカッションの機会も設けられています。したがって学生諸君には、何よりもまず、自らの頭脳で思考することが求められます。</p> <p>講義への、そして、そこで提示される諸問題への積極的なコミットメントを期待します。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>医療者にとって必須である「医の倫理」の入門編。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <p>上記のテーマに関して、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な理解を得ること。 ② 基本的な文献を自分で読めるようになること。 ③ さらなる問いを自分で立て、自分で考えられるようになること。 <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>講義の計画は以下のとおりです。(内容・順序等が一部変更になることもあります。)</p> <p>第1回 なぜ「医の倫理」を学ばねばならないのか——倫理学および法学の視点から</p> <p>第2-3回 生命倫理の基礎(1)——「治療するとはどういうことか」を考える</p> <p>第3-4回 生命倫理の基礎(2)——「自己決定権」について考える</p> <p>第5-6回 生命倫理の基礎(3)——「いのちの平等」と「いのちの質」について考える</p> <p>第7回 これからの生命倫理に求められること——批判的考察</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)</p> <p>期末試験、プレゼンテーションとディスカッションへの参加、講義への出席等をもとに総合的に評価します。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布します。</p> <p>参考文献は講義のなかで随時紹介してゆきます。</p> <p>ただし、以下にあげる文献については、夏休みが終わるまでに各自で読んでおくこと。</p> <p>市野川容孝編『生命倫理とは何か』(平凡社、2002年)</p>			

科目名 (英 訳)	ユニット番号06：基礎情報医歯学 Medical and Dental Informatics	開講学期 曜日時限	後期 火曜日3・4時限
対象学年	第1学年	単位数	歯学入門全体で4単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	大谷 啓一、木下 淳博、田畑 純		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>医歯学に関連する基礎的情報技術の知識・操作について講義および実習を行う。実習は図書館のパソコンを使用する。毎回、課題の提出を行う。また、CBT試験を行う。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>医学・歯学の研究・調査に必要な情報技術を理解し、その利用方法を習得する。ワープロ、メール、インターネットといった基本的な情報技術に加えて、研究・調査に実際に使用する情報技術について実習を行いながら学ぶ。ファイル操作などOSの基本的操作、e-learningの操作は習得済みであることを前提として講義・実習を行うので、事前に自身の知識を確認すること。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターを使用したプレゼンテーションの作成と発表ができる。 2. オリジナル・ホームページを作ることができる。 3. 動画像の編集ができる。 4. 生物医学画像の取り扱いと解析ができる。 <p>●授業計画 (Schedule)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットセキュリティ、著作権 / 医歯学プレゼンテーション入門 (Powerpoint) : 講義・実習 2. メディアコンテンツ作成1 (静止画像処理) : 講義・実習 3. メディアコンテンツ作成2 (動画像処理) : 講義・実習 4. オリジナル・ホームページの作成 : 講義・実習 <p>●成績評価の方法 (Grading scheme)</p> <p>実習における課題の達成度、CBT試験の成績を評価する。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>備考：実習では一人一台のコンピューターを使用する。 USBメモリーを持参すること。 動画像処理実習の際は、各自のステレオイヤホンを持参することが望ましい。 遅刻しないこと。</p>			

モジュール情報

モジュール名	人体の構造と機能
モジュールコーディネータ	(正) 高野吉郎 (副) 井関祥子、泰羅雅登、柴田俊一
モジュール番号	02
開設時期	2年 前期、後期、3 年前期
モジュールコマ数	543 (36)

学習目標(GIO)

人体を構成する組織、器官の構造と生理的機能および発生の仕組みを知るとともに、成長、発育・発達、加齢の過程でそれらがどの様に変化するかを理解する。

構成ユニット

ユニット番号	人体の構造と機能	授業形態
01	人体の構造 I (解剖学総論、運動系)	講義・実習
02	人体の構造 II (脈管系、末梢神経系、器官系)	講義
03	人体の発生	講義
04	人体の基本要素 (人体組織総論)	講義・実習
05	人体の組織構造 (脈管、消化器、呼吸器、泌尿生殖器、感覚器)	講義・実習
06	神経系の機能 I (神経生理学総論、運動機能)	講義
07	神経系の機能 II (知覚、情動、本能、睡眠、高次機能)	講義
08	生命維持のための生体機能	講義
09	人体解剖実習	実習
10	中枢神経解剖	講義・実習
11	生理学実習	実習
12	口腔生理	講義
13	歯の発生と組織	講義・実習
14	医療と造形	講義・実習
15	歯の解剖	講義・実習
16	歯型彫刻 (平成25年度 D3前期で実施)	実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	人体の構造 I (解剖学総論、運動系)
ユニット責任者	寺島達夫
ユニット番号	01
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	36+3 (必要自習時間 20 時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

解剖学用語を正確に使える。

人体の正常構造が系統的にどのように構成されているかを3次的に理解する。

人体を構成する骨・関節・筋の正常構造と機能を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 人体の基本構造について解剖学用語を用いて説明できる。
- 2) 系統を構成する臓器とそれらのつながりを説明できる。
- 3) 人体を構成する骨と関節を体系的に分類し、その特徴について説明できる。
- 4) 人体を構成する主要な筋の起始停止・走向・作用・神経支配を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	10	解剖学総論	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1,2
	4	10	骨学実習1 体幹の骨	3	鹿野俊一、寺島達夫 阿部達彦、馬場麻人 柴田俊一	解剖実習室	講義・実習	3
		11	骨学実習2 上肢の骨	3	鹿野俊一、寺島達夫 阿部達彦、馬場麻人 柴田俊一	解剖実習室	講義・実習	3
		11	骨学実習3 下肢の骨	3	鹿野俊一、寺島達夫 阿部達彦、馬場麻人 柴田俊一	解剖実習室	講義・実習	3
		12	骨学実習4 頭蓋の骨1	3	鹿野俊一、寺島達夫 阿部達彦、馬場麻人 柴田俊一	第4講義室	講義・実習	3
		12	骨学実習5 頭蓋の骨2	3	鹿野俊一、寺島達夫 阿部達彦、馬場麻人 柴田俊一	第4講義室	講義・実習	3
		13	骨学実習6 頭蓋の骨3	3	鹿野俊一、寺島達夫 阿部達彦、馬場麻人 柴田俊一	第4講義室	講義・実習	3
		16	筋学1 頭部、頸部の筋1	3	寺島達夫	第1講義室	講義	4
		23	筋学2 頭部、頸部の筋2	3	寺島達夫	第1講義室	講義	4
5	7		筋学3 頭部、頸部の筋3	3	寺島達夫	第1講義室	講義	4
		14	筋学4 体幹の筋	3	寺島達夫	第1講義室	講義	4
		16	筋学5 上肢の筋	3	寺島達夫	第1講義室	講義	4
5	21		筋学6 下肢の筋	3	寺島達夫	第1講義室	講義	4
9	19		解剖学総論、運動系試験	3	寺島達夫	第1講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に、筆記試験と実習試験を行い、総括的評価を行う。

02 人体の構造と機能

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「分担解剖学 第1巻 総説・骨学・靭帯学・筋学」(森 於菟 他著)金原出版
- ・「グレイ解剖学」(訳塩田浩平 他)エルゼビア・ジャパン
- ・「グレイ解剖学アトラス」(訳塩田浩平 他)エルゼビア・ジャパン
- ・「ネッター解剖学アトラス」(訳相磯貞和)南江堂
- ・「解剖学講義」(伊藤 隆・高野廣子 著)南山堂
- ・「骨学の手びき」(寺田春水・藤田恒夫 著)南山堂
- ・「口腔解剖学 1-2」(上條雍彦著)アナトーム社

その他

- ・解剖実習室内では、専用の解剖実習衣、実習室専用の靴の使用が必要となります。

担当教員の Office Hour:

- 柴田俊一 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) sshibata.mfa@tmd.ac.jp
寺島達夫 准教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) t.terashima.mfa@tmd.ac.jp
鹿野俊一 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) shika..mfa@tmd.ac.jp
阿部達彦 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) tatsu_ab.mfa@tmd.ac.jp
馬場麻人 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) o.baba.bss@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	人体の構造Ⅱ(脈管系、末梢神経系、器官系)
ユニット責任者	柴田俊一
ユニット番号	02
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	77+3(必要自習時間40時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

人体を構成する各器官系(脈管系、末梢神経系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系)の正常構造と機能を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 末梢神経系の構成と基本機能を説明できる。
- 2) 体性神経系と自律神経系の構造的、機能的相違を説明できる。
- 3) 脊髄と脊髄神経の構成と機能を説明できる。
- 4) 脳神経の構成と機能を説明できる。
- 5) 大循環、肺循環、胎児循環を説明できる。
- 6) 三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。
- 7) 心臓の構造と機能を説明できる。
- 8) 主な動脈、静脈、リンパ管を説明できる。
- 9) 頭頸部の血管とリンパ管の走行および血流路、リンパ流路を説明できる。
- 10) 消化器系の構成を概説できる。
- 11) 気道と肺の構成と構造を説明できる。
- 12) 縦隔と胸膜を説明できる。
- 13) 泌尿器の構成、位置と形態を説明できる。
- 14) 生殖器の構成、位置と形態を説明できる。
- 15) 内分泌器官を列挙し、構造と機能を説明できる。

- 16) 口唇・口腔の基本構造が説明できる。
17) 唾液腺の種類、構造が説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	18	脈管系 1 概説、頭頸部の動脈(1)	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-14
		20	末梢神経系 1 概説、線維の種類	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-14
		25	脈管系 2 頭頸部の動脈(2)	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-5, 7, 8
		27	末梢神経系 2 脳神経 1	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-5, 7, 8
	5	9	脈管系 3 頭頸部の静脈、リンパ	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-5, 7, 8
		11	末梢神経系 3 脳神経 2(三叉神経)	2	柴田俊一	第1講義室	講義	1-14
		16	末梢神経系 4 脳神経 3(顔面神経)	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-12, 15
		18	脈管系 4 体幹の動・静脈	2	柴田俊一	第1講義室	講義	1-14
		23	器官系 1 消化器系 1(口腔、食道、胃)	2	柴田俊一 阿部達彦	第1講義室	講義	1-14
		24	末梢神経系 脳神経 4(舌咽、迷走、副、舌下神経)	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-5, 7, 9
		25	脈管系 5 上肢の動・静脈	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-14
		28	末梢神経系 6 脊髄神経 1	4	柴田俊一	第1講義室	講義	1-5, 7, 9
		30	脈管系 6 下肢の動・静脈	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-5, 7-9
		31	器官系 2 消化器系 2(小腸、大腸、肝臓、膵臓)	3	柴田俊一 阿部達彦	第1講義室	講義	1-5, 12-14
	6	1	末梢神経系 7 脊髄神経 2	2	柴田俊一	第2講義室	講義	1-14
		4	末梢神経系 8 自律神経系 1	1	柴田俊一	第1講義室	講義	1-14
		4	脈管系 7 心臓の構造	3	柴田俊一	第2講義室	講義	1-14
		5	器官系 3 呼吸器系 1(鼻腔、咽頭、喉頭)	3	柴田俊一 阿部達彦	第2講義室	講義	1-14
		7	末梢神経系 9 自律神経系 2	3	柴田俊一	第2講義室	講義	1-14
		8	器官系 4 呼吸器系 2(気管、肺)	2	柴田俊一 阿部達彦	第2講義室	講義	1-14
		14	器官系 5 泌尿器系	3	柴田俊一 阿部達彦	第1講義室	講義	1-14
		15	器官系 6 生殖器系	1	柴田俊一 阿部達彦	第2講義室	講義	1-14
		18	器官系 7 内分泌系 1	1	柴田俊一 阿部達彦	第1講義室	講義	1-14
		18	器官系 8 内分泌系 2	3	柴田俊一 阿部達彦	第2講義室	講義	1-14
		20	頭頸部局所解剖 1(口腔周囲の壁)	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1-14
		25	頭頸部局所解剖 2(頭頸部の筋間隙)	2	寺島達夫	第2講義室	講義	1-14
		26	頭頸部局所解剖 3(頭頸部の脈管神経)	3	柴田俊一	第1講義室	講義	1-14
		27	頭頸部局所解剖 4(顎関節の構造)	1	柴田俊一	第2講義室	講義	1-14
		28	頭頸部局所解剖 5(口腔の構造と連絡路)	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1-14

02 人体の構造と機能

	9	18	頭頸部局所解剖 6(解剖実習の総復習と試験対策)	3	柴田俊一 寺島達夫	第1講義室	講義	1-14
	9	19	脈管系・末梢神経系・器官系試験	3	柴田俊一 寺島達夫	第1講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に、筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・分担解剖学 第1巻 総説・骨学・靭帯学・筋学 (森 於菟 他著)金原出版
- ・分担解剖学 第2巻 脈管学・神経系 (森 於菟 他著)金原出版
- ・分担解剖学 第3巻 感覚器学・内蔵学 (森 於菟 他著)金原出版
- ・解剖学講義 (伊藤 隆・高野廣子 著) 南山堂
- ・解剖学アトラス(越智淳三訳) 文光堂
- ・ネッター解剖学アトラス 南江堂
- ・トータル人体の構造と機能 丸善

担当教員の Office Hour:

柴田俊一 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) sshibata.mfa@tmd.ac.jp
阿部達彦 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) tatsu_ab.mfa@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	人体の発生
ユニット責任者	井関祥子
ユニット番号	03
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	22+1 (必要自習時間 10 時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO)

人体の発生とその基本的な仕組みについて、初期発生から器官形成の過程を理解する。また、頭頸部融合ブロック基礎の前に、口腔・頭蓋・顎顔面領域の形成について概要を把握する。

到達目標(SBOs)

- 1) 人体における初期発生の仕組みを説明できる。
- 2) 減数分裂の過程を概説できる。
- 3) 生殖細胞(卵子・精子)形成および受精の過程を概説できる。
- 4) 三胚葉の形成過程を説明できる。
- 5) 三胚葉から形成される器官を説明できる。
- 6) 各器官の器官形成の概要を説明できる。
- 7) 各器官の器官形成に重要な分子を挙げ、その役割を説明できる。
- 8) 胚性幹細胞と組織幹細胞を区別し、その特徴を説明できる。
- 9) 発生過程の異常と先天異常との関連を概説できる。
- 10) 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。
- 11) 頭部神経堤細胞の役割について説明できる。
- 12) 一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	11	人体の発生 1 初期発生	2	井関祥子	第 1 講義室	講義	1, 2, 3,
	5	18	人体の発生 2 三胚葉形成、器官形成概要	2	池田正明	第 1 講義室	講義	4, 5, 6
	5	23	人体の発生 3 心臓脈管系	2	井関祥子	第 1 講義室	講義	6,7
	5	28	人体の発生 4 呼吸器・消化器系	2	池田正明	第 1 講義室	講義	6,7
	6	1	人体の発生 5 尿生殖器系	2	太田正人	第 2 講義室	講義	6,7
	6	4	人体の発生 6 幹細胞	2	太田正人	第 1 講義室	講義	6,7, 8
	6	8	人体の発生 7 骨格筋系	2	池田正明	第 2 講義室	講義	6,7
	6	11	人体の発生 8 神経系	2	太田正人	第 1 講義室	講義	6,7, 11
	6	18	人体の発生 9 感覚器系	2	太田正人	第 1 講義室	講義	7,8
	6	22	人体の発生 10 形態形成と先天異常	2	井関祥子	第 2 講義室	講義	7,9
	6	25	人体の発生 11 頭頸部発生導入	2	井関祥子	第 2 講義室	講義	10,11,12
	9	20	筆記試験	2		第 1 講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に、筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「ラングマン人体発生学」第 9 版（訳：安田峯生）メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・「ラーセン最新人体発生学」第 2 版（監訳：相川英三・山下和雄・三木昭徳・大谷浩）西村書店
- ・「ムーア人体発生学」第 7 版（訳：瀬口春道・小林俊博他）・医歯薬出版

担当教員の Office Hour :

井関祥子 教授 随時 s.iseki.emb@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	人体の基本要素（人体組織総論）
ユニット責任者	高野吉郎
ユニット番号	04
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	30+ 3 (必要自習時間 18 時間)
授業形態	講義+実習

学習目標 (GIO): 人体の最小構成単位である細胞とそれが分化して形成される諸組織の形態的、機能的特徴を修得する。

到達目標 (SBOs):

- 1) 組織標本作成法、観察法の概要を説明できる。
- 2) 細胞の基本構造を説明できる。
- 3) 細胞接着の概念、接着装置の構造と機能を説明できる。

02 人体の構造と機能

- 4) 人体を構成する4つの組織を列挙し、概説できる。
- 5) 組織と器官を類別し、説明できる。
- 6) 上皮組織を形態的、機能的に分類できる。
- 7) 腺の概念と基本構造、種類を説明できる。
- 8) 結合組織の概念と構成(線維性要素、基質、細胞要素)を説明できる。
- 9) 骨の形成と改造の仕組み、構造を説明できる。
- 10) 軟骨の区分、構造と機能を説明できる。
- 11) 造血の場としての骨髄と血球の特徴を説明できる。
- 12) 筋の区分、組織構造の特徴と機能を説明できる。
- 13) 神経系の構成要素とそれらの構造の特徴を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	4	13	人体の基本要素 1 組織学研究法 顕微鏡操作実習	3	高野吉郎 馬場麻人	第1講義室	講義・実習	1
		16	人体の基本要素 2 上皮組織	3	高野吉郎	第1講義室	講義	6,7
		18	人体の基本要素 3 細胞・上皮実習	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	1,2,3,4,5,6,7
		20	人体の基本要素 4 結合組織 I	3	高野吉郎	第1講義室	講義	8,9,10,11
		23	人体の基本要素 6 結合組織 II	3	高野吉郎	第1講義室	講義	8,9,10,11
		25	人体の基本要素 7 結合組織実習 (細胞要素、線維要素、骨、軟骨)	3	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	8,9,10,11
		27	人体の基本要素 8 筋組織	3	高野吉郎	第1講義室	講義	12
	5	7	人体の基本要素 9 神経組織	3	高野吉郎	第1講義室	講義	13
		9	人体の基本要素 10 筋・神経実習	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	12,13
	9	21	人体の基本要素 試験	3		第1講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・実習はすべて出席が前提である。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「標準組織学総論」第3版(藤田尚男、藤田恒夫 著)医学書院
- ・「最新カラー組織学」(L.P.ガートナー、J.L. ハイアット 著)西村書店
- ・「カラーアトラス組織・細胞学」(岩永 敏彦 著) 医歯薬出版
- ・「Histology and Cell Biology」(A. L. Kierszenbaum 著) Mosby

備考:

- ・顕微鏡観察実習ではスケッチを行うので、実習日には12色程度の鉛筆セットを持参すること。
- ・スケッチ用紙としてA4普通紙を用意するが、A4ケント紙を持参してもいい。

担当教員の Office Hour:

高野吉郎 教授 随時 takanoy.bss@tmd.ac.jp (事前にアポイントをとること)

ユニット情報

ユニット名	人体の組織構造（人体組織各論）
ユニット責任者	田畑 純
ユニット番号	05
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	44+3（必要自習時間 22時間）
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

人体を構成する細胞と組織を各論で学ぶ。循環系、リンパ系、消化管系、内分泌系、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器を網羅して、それぞれの組織学的な特徴を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 循環器の発生を説明できる。
- 2) 動脈、静脈、毛細血管、リンパ管の組織構造を説明できる。
- 3) リンパ組織とリンパ器官の構造と機能を説明できる。
- 4) 毛細血管の壁の構造と物質交換を説明できる。
- 5) 消化器系の発生と構成を概説できる。
- 6) 口腔粘膜の特徴を説明できる。
- 7) 舌の構造と機能、支配神経を説明できる。
- 8) 唾液腺の名称と局在、組織構造を説明できる。
- 9) 消化管(食道、胃、小腸、大腸、肛門)の基本構造を説明できる。
- 10) 消化管の付属腺の組織構造と機能を説明できる。
- 11) 内分泌器の発生と組織構造を説明できる。
- 12) 脳下垂体、視床下部などの神経内分泌機能を説明できる。
- 13) 甲状腺、副腎、膵臓、消化器、生殖器などの内分泌機能を説明できる。
- 14) 呼吸器の発生、組織構造、機能を説明できる。
- 15) 泌尿器の発生、組織構造、機能を説明できる。
- 16) 腎臓の脈管と尿管、腎単位と尿細管の構造を説明できる。
- 17) 男性生殖器の発生、組織構造、機能を説明できる。
- 18) 男性生殖器の付属腺、尿路、精路の構造や働きを説明できる。
- 19) 女性生殖器の発生、組織構造、機能を説明できる。
- 20) 性周期、卵胞の成熟、黄体の形成過程を説明できる。
- 21) 精子と卵の形成過程、受精のプロセスを説明できる。
- 22) 感覚器および特殊感覚器の構造と機能を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	14	循環器とリンパ器官	3	田畑 純	第1講義室	講義	1-4
		15	循環器の組織観察	3	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	1-4
		17	消化器系(口腔、舌、唾液腺)	3	高野吉郎	第1講義室	講義	5-8
		21	消化器系(消化管)	3	高野吉郎	第1講義室	講義	5,9
		22	消化器系(唾液腺、舌、消化管)の組織観察	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	5-9
		25	消化器系(肝・胆・膵)	3	高野吉郎	第1講義室	講義	5, 10
		29	消化器系(肝・胆・膵)の組織観察	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	5, 10
	6	6	内分泌器と呼吸器	3	田畑 純	第1講義室	講義	11-14

02 人体の構造と機能

	11	内分泌器と呼吸器の組織観察	2	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	11-14
	12	泌尿器	3	田畑 純	第1講義室	講義	15, 16
	19	泌尿器の組織観察	3	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	15, 16
	20	生殖器	3	田畑 純	第1講義室	講義	17-21
	21	生殖器の組織観察	3	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	17-21
	27	感覚器	3	田畑 純	第1講義室	講義	22
	29	感覚器の組織観察	3	田畑 純、馬場麻人 飯村忠浩	第1講義室	実習	22
9	24	筆記試験	3		第2講義室		

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・ユニット最終日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。但し、筆記試験の中に実習試験を含むものとする。

実習について:

- ・組織標本の顕微鏡観察とスケッチを行うので、12色程度の色鉛筆を持参すること。A4 のケント紙もあるとなおよい。
- ・実習は全てに出席し、全ての課題を提出しなければ、ユニット最終日の筆記試験の受験資格を得られない。

ユニット試験の受験資格:

- ・全時間数のうち、講義は3分の2以上出席していなければならない。
- ・実習は全てに出席し、課題を全て提出していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「分担解剖学第2巻 脈管学・神経系」金原出版
- ・「分担解剖学第3巻 感覚器学・内臓学」金原出版
- ・「ネッター解剖学アトラス」第4版 南江堂
- ・「カラー人体解剖学」(井上貴央監訳) 西村書店
- ・「新解剖学」改訂第6版 (加藤征著) 日本医事新報社
- ・「標準組織学各論」第4版 (藤田尚男・藤田恒夫著) 医学書院
- ・「入門組織学」(牛木辰男著) 南江堂
- ・「最新カラー組織学」(L.P.ガートナー、J.L. ハイアット 著) 西村書店
- ・「新組織学」改訂第5版 (野上晴雄著) 日本医事新報社
- ・「カールソン人体発生学」(白井敏雄監訳) 西村書店

担当教員の Office Hour:

田畑 純 准教授 随時 tabatamj.bss@tmd.ac.jp
高野吉郎 教授 随時 takanoy.bss@tmd.ac.jp (事前にアポイントをとること)

ユニット情報

ユニット名	神経系の機能 I (神経生理学総論、運動機能)
ユニット責任者	泰羅雅登
ユニット番号	06
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	17+ 3 (必要自習時間 9 時間)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

感覚、知覚、運動にかかわる末梢、中枢神経系の機能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明できる。
- 2) シナプスの構造と興奮伝達の仕組みを説明できる。
- 3) 骨格筋の収縮のメカニズムを説明できる。
- 4) 筋の伸展受容器の構造と機能を説明できる。
- 5) 脊髄・脳幹反射について説明できる。
- 6) 小脳の機能について説明できる。
- 7) 大脳基底核の機能について説明できる。
- 8) 皮質運動野の機能について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	5	30	神経生理学総論・一般神経生理	3	泰羅雅登	第1講義室	講義	1,2
	6	6	一般神経生理	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	1,2
	6	11	骨格筋の収縮メカニズム	2	泰羅雅登	第1講義室	講義	3,4
		13	反射	3	泰羅雅登	第1講義室	講義	4,5
		22	運動の中枢制御	2	泰羅雅登	第2講義室	講義	6,7,8
		25	運動の中枢制御	2	泰羅雅登	第2講義室	講義	6,7,8
		27	運動の中枢制御	2	泰羅雅登	第2講義室	講義	6,7,8
	9	26	筆記試験	3		第2講義室		

評価方法:

ユニット終了後に筆記試験を行い包括的評価を行う。
 尚、この試験の合計得点が6割に達したものを合格とする。
 不合格者には、原則として1回の再試験の機会を与える。
 尚、再試験も合計得点が6割に達したものを合格とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「標準生理学」第6版(本郷利憲・廣重 力・豊田順一監修) 医学書院(神経系に限らない一般的な生理学教科書)
- ・「カールソン神経科学テキスト 脳と行動」丸善(病態も含めた神経科学の教科書)
- ・「ベアー コノーズ パラディーソ 神経科学」西村書店(神経科学の教科書)
- ・「基礎歯科生理学」医歯薬出版(口腔領域が詳細)
- ・「Principles of Neural Science」4th.ed McGraw-Hill.(神経科学の教科書)

担当教員の Office Hour:

泰羅雅登 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	神経系の機能Ⅱ(知覚、情動、本能、睡眠、高次機能)
ユニット責任者	泰羅雅登
ユニット番号	07
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	30+3 (必要自習時間15時間)
授業形態	講義

02 人体の構造と機能

学習目標(GIO):

感覚、知覚、運動にかかわる末梢、中枢神経系の機能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 体性感覚系の機能について説明できる。
- 2) 聴覚系の機能について説明できる。
- 3) 前庭系の機能について説明できる。
- 4) 味覚、嗅覚系の機能について説明できる。
- 5) 視覚系の機能について説明できる。
- 6) 情動、本能、睡眠の神経機構について説明できる。
- 7) 高次脳機能について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	9	10	知覚	6	泰羅雅登	第1講義室	講義	1,2,3
		11	知覚	6	泰羅雅登	第1講義室	講義	1,2,3
		12	情動、本能、睡眠	6	泰羅雅登	第1講義室	講義	5
		13	高次脳機能	6	泰羅雅登	第1講義室	講義	6
		14	高次脳機能	6	泰羅雅登	第1講義室	講義	7
		27	筆記試験	3		第2講義室		

評価方法:

ユニット終了後に筆記試験を行い包括的評価を行う。
 尚、この試験の合計得点が6割に達したものを合格とする。
 不合格者には、原則として1回の再試験の機会を与える。
 尚、再試験も合計得点が6割に達したものを合格とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「標準生理学」第6版 (本郷利憲・廣重 力・豊田順一監修) 医学書院 (神経系に限らない一般的な生理学教科書)
- ・「カールソン神経科学テキスト 脳と行動」丸善 (病態も含めた神経科学の教科書)
- ・「ベアー・コノーズ パラディーソ 神経科学」西村書店 (神経科学の教科書)
- ・「基礎歯科生理学」医歯薬出版 (口腔領域が詳細)
- ・「Principles of Neural Science」4th.ed McGraw-Hill. (神経科学の教科書)

担当教員の Office Hour:

泰羅雅登 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	生命維持のための生体機能
ユニット責任者	泰羅雅登
ユニット番号	08
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21 + 3 (必要自習時間XX時間)
授業形態	講義

学習目標 (GIO) :

人体生命維持システムの機能を修得する。

到達目標 (SBOs) :

- 1) 自律神経の構造と機能について説明できる。
- 2) 循環の機能について説明できる。
- 3) 呼吸の機能について説明できる。
- 4) 消化と吸収の機能について説明できる。
- 5) 体液、体温調節、代謝の機能について説明できる。
- 6) 排泄と体液調節の機能について説明できる。
- 7) 内分泌と生殖の機能について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	29	自律神経の構造と機能	3	小島久幸	第2講義室	講義	1
	11	2	循環の機能	3	勝山成美	第2講義室	講義	2
		7	呼吸の機能	3	小島久幸	第1講義室	講義	3
		9	消化と吸収	3	勝山成美	第1講義室	講義	4
		14	体液、体温調節、代謝機能	3	勝山成美	第2講義室	講義	5
		19	排泄と体液調節機能	3	勝山成美	第1講義室	講義	6
		21	内分泌と生殖の機能	3	小島久幸	第1講義室	講義	7
	12	21	筆記試験	3	小島・勝山	第1講義室		

評価方法 :

ユニットの最終講義時間に筆記試験を行ない、包括的評価を行なう。

尚、この試験の合計得点が6割に達したものを合格とする。

不合格者には、原則として1回の再試験の機会を与える。

尚、再試験も合計得点が6割に達したものを合格とする。

ユニット試験の受験資格 :

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等 :

- ・「基礎歯科生理学」第6版 (森本俊文・山田好秋編) 医歯薬出版 (ユニット全体にわたって参照します)
- ・「標準生理学」第7版 (本郷利憲・廣重力・豊田順一監修) 医学書院 (生理学全般の教科書)
- ・「生理学テキスト」第6版 (大地陸男) 文光堂 (生理学全般の教科書)

担当教員の Office Hour :

- ・泰羅雅登 教授 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp
- ・小島久幸 講師 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) yojima.cnb@tmd.ac.jp
- ・勝山成美 助教 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) katz.cnb@tmd.ac.jp

ユニット情報

* 医歯融合カリキュラムとして行う。

ユニット名	人体解剖実習
ユニット責任者	柴田俊一
ユニット番号	09
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	60+3 (必要自習時間 66 時間)
授業形態	講義・実習

人体解剖実習

学習目標(GIO):

修得した解剖学的、生理学的知識を、実際にご遺体に触れ、身体の内部構造を剖出する作業を通して、人体の正常な構造を肉眼的なレベルで三次元的に観察することにより、人体の構造の形態学的特徴と機能的特性を有機的に修得する。

実習を通して生命の尊厳に触れ、将来の歯科医師を目指す歯学生としての自覚を促し、倫理観の養成につとめるとともに、献体の意義についても考える。

到達目標(SBOs):

- 1) 人体の体表に現れる形態的特徴を認識し、それらに直接触れることで内部構造を類推することができる。
- 2) 人体解剖によって剖出される人体の基本構造の解剖学的名称と相互の位置関係を述べることができる。
- 3) 人体を構成する諸器官の位置・形態・機能・内部構造、それらの神経、血管支配、相互のつながりについて、剖出結果をもとに述べるができる。
- 4) 主要な血管の枝・走行・支配領域について、剖出結果をもとに説明できる。
- 5) 主要な神経の枝・走行・神経叢・神経節・支配領域について、剖出結果をもとに説明できる。
- 6) 主要なリンパ管の枝・走行・支配領域、リンパ節の分布について、剖出結果をもとに説明できる。
- 7) 主要な筋の起始・停止・走行・支配神経について、剖出結果をもとに説明できる。
- 8) 主要な骨や関節の名称と機能について、剖出結果をもとに説明できる。
- 9) 基本的な解剖学的構造の変異を指摘することができる。
- 10) 実習中に出会う疑問点についてグループ内で自発的に調べ、説明することができる。
- 11) 強い精神力と柔軟性を身に付けて心のバランスを保ち、人体解剖にグループの一員として協調的に参加し、規律ある倫理的態度を保って意欲的に実習を遂行できる。
- 12) 生命の尊厳について考え、その重要について自分の意見を述べるができる。
- 13) 人体解剖実習が献体により支えられていることを実感し、感謝の念と使命感を抱き、態度を律することができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	6 ~ 7	29 ~ 27	人体解剖実習 20回	3x20	柴田俊一 寺島達夫 鹿野俊一 阿部達彦 馬場麻人 太田正人	解剖実習室	講義・実習	1-13
	6	29	解剖実習 1	3				
	7	2	解剖実習 2	3				
		3	解剖実習 3	3				
		4	解剖実習 4	3				
		5	解剖実習 5	3				
		6	解剖実習 6	3				
		9	解剖実習 7	3				

		10	解剖実習 8	3			
		11	解剖実習 9	3			
		12	解剖実習10	3			
		13	解剖実習11	3			
		17	解剖実習12	3			
		18	解剖実習13	3			
		19	解剖実習14	3			
		20	解剖実習15	3			
		23	解剖実習16	3			
		24	解剖実習17	3			
		25	解剖実習18	3			
		26	解剖実習19	3			
		27	解剖実習20	3			
		27	(融合ブロック試験)	(3)			
9	25		解剖実習試験	3		第2講義室	

評価方法:

・解剖実習は解剖実習態度、口頭試問による形成的評価とともに、解剖実習終了時の筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・人体解剖実習の4分の3以上出席していなければならない。
- ・毎回の実習に先立ち、実習の進め方と重要事項に対する講義を聴取しなければ、実習に参加できない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「人体解剖実習」(浦 良治著) 南江堂
- ・「実習人体解剖図譜」(浦 良治著) 南江堂
- ・「分担解剖学 第1巻・第2巻・第3巻」金原出版
- ・「口腔解剖学 1-5」(上條雍彦著) アナトーム社
- ・「ネッター解剖学アトラス」第4版 南江堂
- ・解剖学講義 (伊藤 隆・高野廣子 著) 南山堂
- ・「解剖実習の手引き」(寺田春水・藤田恒夫 著) 南山堂

備考:

人体解剖実習用具ならびに実習着等が必要となる。

(詳細については担当教員から指示ある予定)

担当教員の Office Hour:

- 柴田俊一 教授 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) sshibata.mfa@tmd.ac.jp
 寺島達夫 准教授 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) t.terashima.mfa@tmd.ac.jp
 鹿野俊一 助教 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) shika.mfa@tmd.ac.jp
 阿部達彦 助教 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) tatsu_ab.mfa@tmd.ac.jp
 馬場麻人 助教 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) o.baba.bss@tmd.ac.jp
 太田正人 助教 随時 (ただし必ず事前に連絡のこと) mota-dev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	中枢神経系
ユニット責任者	寺島達夫
ユニット番号	10
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21 + 3 (必要自習時間 10 時間)
授業形態	講義・実習

中枢神経系

学習目標(GIO):

中枢神経系の構成を理解し、それらの構造と機能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 中枢神経系の構成と基本機能を説明できる。
- 2) 脊髄の構造と機能を説明できる。
- 3) 脳幹の構造と機能を説明できる。
- 4) 脳と脳被膜の関係を説明できる。
- 5) 脳の外観と内部構造を、機能と関連づけて説明できる。
- 6) 脳の主な線維連絡と伝導路を説明できる。
- 7) 脳の血流と脳脊髄液の流れを説明できる。

脳解剖実習

学習目標(GIO):

人体における脳の系統的観察法を修得し、これらの構造と機能について統合的に理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 神経系の発生の知識を基に脳の区分を説明し、同定することができる。
- 2) 脳の基本構造を実際の脳において剖出・同定し、それらの解剖学的名称と相互の位置関係、機能について述べることができる。
- 3) 脳の主要な血管の走向とその支配領域を、剖出結果をもとに説明することができる。
- 4) 脳幹と脳神経を同定し、その構造と機能を説明することができる。
- 5) グループでの脳実習に協調的に参加することができる。
- 6) 脳と脊髄の内部構造を説明することができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	19	中枢神経系 1	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1-4
		31	中枢神経系 2	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1-4
	11	12	中枢神経系 3	3	寺島達夫	第2講義室	講義	1-4
	11	26	中枢神経系・組織実習1	3	寺島達夫、鹿野俊一 阿部達彦、馬場麻人 太田正人、柴田俊一	第1講義室	講義・実習	1-6
	12	12	脳解剖実習2	3	寺島達夫、鹿野俊一 阿部達彦、馬場麻人 太田正人、柴田俊一	解剖実習室	講義・実習	1-5
		14	脳解剖実習3	3	寺島達夫、鹿野俊一 阿部達彦、馬場麻人 太田正人、柴田俊一	解剖実習室	講義・実習	1-5
		17	脳解剖実習4	3	寺島達夫、鹿野俊一 阿部達彦、馬場麻人 太田正人、柴田俊一	解剖実習室	講義・実習	1-5
		21	中枢神経系筆記試験	3		第1講義室		

評価方法:

- ・ユニット最終日に筆記試験を行い、包括的評価を行う。但し、筆記試験の中に実習試験を含むものとする。
- ・脳解剖実習は口頭試問、レポート等で形式的評価をする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「分担解剖学第2巻 脈管学・神経系」金原出版
- ・「最新カラー組織学」(L.P.ガートナー、J.L. ハイアット 著)西村書店
- ・Principles of Neural Science 4th.ed McGraw-Hill.(形態と機能に関連づけて説明、神経科学の教科書)
- ・「図説中枢神経系」(水野昇・岩堀修明・中村泰尚著) 医学書院
- ・「人体解剖実習」(浦 良治著) 南江堂
- ・「実習人体解剖図譜」(浦 良治著) 南江堂
- ・解剖学講義 (伊藤 隆・高野廣子 著) 南山堂

担当教員の Office Hour:

- 柴田俊一 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) sshibata.mfa@tmd.ac.jp
 寺島達夫 准教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) t.terashima.mfa@tmd.ac.jp
 鹿野俊一 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) shika..mfa@tmd.ac.jp
 阿部達彦 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) tatsu_ab.mfa@tmd.ac.jp
 馬場麻人 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) o.baba.bss@tmd.ac.jp
 太田正人 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) mota-dev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	生理機能実習
ユニット調整者	泰羅雅登
ユニット番号	11
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	27+0 (必要自習時間 8時間)
授業形態	実習

学習目標(GIO):

人体が正常に機能する「しくみ」を実験をとおして実体験し、得られたデータを正確な解釈のもとに組み立てて現象を論理的に修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 神経が機能する現象を観測してそのメカニズムを解釈し説明できる。
- 2) 運動器官が機能する現象を観測してそのメカニズムを解釈し説明できる。
- 3) 中枢神経系が機能する現象を観測してそのメカニズムを解釈し説明できる。

実習項目

- 1) 神経の興奮と伝導 …………… 実験1回、データ整理1回
- 2) 咀嚼筋筋電図…………… 実験1回、データ整理1回
- 3) 誘発筋電図 (H波・M波) …… 実験1回、データ整理1回
- 4) 誘発脳波 (AVR, SEP) …… 実験1回、データ整理1回

02 人体の構造と機能

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	10	3	実験	3	泰羅雅登 小島久幸 勝山成美 臼井信男 神代万里 山下晶子 磯田昌岐	1号館6F 実習室 小実習室	複数のグループに分け、実習項目1)～4)を並行して実施する。	1,2,3
		4	データ整理	3				1,2,3
		10	実験	3				1,2,3
		11	データ整理	3				1,2,3
		24	実験	3				1,2,3
		25	データ整理	3				1,2,3
		31	実験	3				1,2,3
	11	1	データ整理	3				1,2,3
		8	生理機能実習筆記試験	3	実習室(予定)			

評価方法:

・実習項目毎のレポート(個人または班単位:実習項目による)と筆記試験による評価

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

・特に定めない

担当教員の Office Hour:

- ・泰羅雅登 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp
- ・小島久幸 講師 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) yojima.cnb@tmd.ac.jp
- ・勝山成美 助教 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) katz.cnb@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	口腔生理
ユニット責任者	泰羅雅登
ユニット番号	12
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	11+2 (必要自習時間 5時間)
業形態	講義

学習目標(GIO):

人体における末梢神経系と感覚器の構成と役割を理解し、それらの構造と機能を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 口腔領域の体性感覚機能が説明できる。
- 2) 正常な咀嚼の神経制御機構について説明できる。
- 3) 正常な嚥下の神経制御機構について説明できる。
- 4) 唾液の分泌機構について説明できる。
- 5) 口腔領域の痛みについて説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	17	口腔領域の体性感覚機能	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	1
		19	咀嚼と嚥下の神経機構	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	2,3
		22	唾液分泌	3	泰羅雅登	第2講義室	講義	4
		26	口腔領域の痛み	2	泰羅雅登	第1講義室	講義	5
	12	11	筆記試験	2		第1講義室		

評価方法:

ユニットの最終講義時間に筆記試験を行い包括的評価を行う。尚、この試験の合計得点が6割に達したものを合格とする。不合格者には、原則として1回の再試験の機会を与える。尚、再試験も合計得点が6割に達したものを合格とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「標準生理学」第6版 (本郷利憲・廣重 力・豊田順一監修) 医学書院 (神経系に限らない一般的な生理学教科書)
- ・「カールソン神経科学テキスト 脳と行動」丸善 (病態も含めた神経科学の教科書)
- ・「ベアー・コノーズ パラディーソ 神経科学」西村書店 (神経科学の教科書)
- ・「基礎歯科生理学」医歯薬出版 (口腔領域が詳細)
- ・「Principles of Neural Science」4th.ed McGraw-Hill. (神経科学の教科書)

担当教員の Office Hour:

- ・泰羅雅登 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) masato.cnb@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯の発生と組織
ユニット責任者	高野吉郎
ユニット番号	13
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	24 + 3 (必要自習時間 12 時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

歯と歯周組織の組織構造およびそれらの発生の仕組みを学び、顎顔面の発達に伴う咀嚼器の発生と発達、経年的変化の過程を包括的に修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯と歯周組織の発生の仕組みを説明できる。
- 2) 歯胚の構成要素と役割を説明できる。
- 3) 歯の硬組織の構造と組成および形成機構の概要を説明できる。
- 4) 歯髄の特徴と役割、経年変化を説明できる。

02 人体の構造と機能

- 5) 歯周組織の構造と機能を説明できる。
- 6) 歯の萌出と交換の仕組みを説明できる。
- 7) 歯牙歯肉境の構造と機能を説明できる。
- 8) 歯と歯周組織の脈管と神経の特徴、それらの経年変化を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	1	歯の発生 (I)	3	高野吉郎	第1講義室	講義	1,2
		5	歯の発生 (II) (組織観察実習)	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	講義・実習	1,2,3
		15	象牙質、歯髄(象牙質・歯髄複合体)	3	大島勇人	第1講義室	講義	1,2,3,4
		17	歯周組織、歯の萌出と交換	3	馬場麻人	第1講義室	講義	5,6,8
		22	歯周組織、歯の萌出と交換 (組織観察実習)	3	馬場麻人、田畑 純 飯村忠浩	第1講義室	実習	5,6,8
		29	エナメル質	3	高野吉郎	第1講義室	講義	1,2,3
11	14		エナメル質・象牙質(組織観察実習)	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	実習	1,2,3,4
11	15		歯牙歯肉境	3	高野吉郎、田畑 純 馬場麻人、飯村忠浩	第1講義室	講義・実習	7
12	19		筆記試験	3		第1講義室		

評価方法:

- ・筆記試験、実習試験の結果をもとに包括的評価をする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「口腔組織・発生学」(脇田 稔ら編) 医歯薬出版
- ・「カラーエッセンシャル口腔組織・発生学」(J. Avery 著、高野吉郎 監訳) 西村書店
- ・「Ten Cate's Oral Histology」6th Ed. Antonio Nanci, Mosby・「Oral Anatomy, Embryology and Histology」B. K. B. Berkovitz, G. R. Holland, B. J. Moxham, Mosby

備考:

- ・顕微鏡観察実習ではスケッチを行うので、実習日には12色程度の鉛筆セットを持参すること。
- ・スケッチ用紙としてA4普通紙を用意するが、A4ケント紙を持参してもいい。

担当教員の Office Hour: ユニット情報

高野吉郎 教授 随時 takanoy.bss@tmd.ac.jp (事前にアポイントをとること)

ユニット情報

ユニット名	医療と造形
ユニット責任者	(正)高野 吉郎 (副) 三浦宏之、岡田大蔵
ユニット番号	14
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	42+0
授業形態	講義/実習

学習目標(GIO):

人の頭部顔面を観察し、立体構造と特徴を理解し、審美医療を行うための基本的技法を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1)人モデルを観察し、塑像制作の基本的操作を理解し、行うことができる。
- 2)人体外部からの観察により、頭頸部の骨・筋肉の形態が理解できる。
- 3)歯科領域における美的感覚の重要性を説明できる。
- 4)人体解剖における芸術と医学の共通の時代背景を説明できる。
- 5)芸術的視点からの人体の観察法を理解する。
- 6)人体の頭部・顔面領域のサイズを計測し、分類・比較を行うことにより、人体の特徴を深く理解できる。
- 7)骨の特徴から性差を説明できる。
- 8)頭蓋骨から個人を特定する方法を説明できる。
- 9)警察の身元調査に歯科が重要な所見を与えることが理解できる。
- 10)歯の形態と人の顔貌の関連性を説明できる。
- 11)顔貌が人に与える心理的影響を説明できる。
- 12)歯の審美的な治療方法の概要を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	11	5	彫刻(塑造)実習(課題説明、クロッキー)※1	3	館山拓人、藤原彩人 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
			美術解剖学(医療と造形の接点としての美術解剖学)※2	3	宮永美知代、富川紘一	第1講義室	講義	4~6
		12	彫刻(塑造)実習(心棒の制作、粘土練り、制作)	3	館山拓人、藤原彩人 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
			美術解剖学(顔をどう見るか)	3	宮永美知代、富川紘一	第1講義室	講義	4~6
		19	彫刻(塑造)実習(制作)	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
			美術解剖学(頭蓋と顔)	3	宮永美知代、富川紘一	第1講義室	講義	4~6
		26	彫刻(塑造)実習(制作)	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
			美術解剖学(表情と顔)	3	宮永美知代、富川紘一	第1講義室	講義	4~6
	12	3	彫刻(塑造)実習(制作、仕上げ)※1	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
		10	彫刻(塑造)実習(講評、片付け)※1	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
25	1	7	彫刻(塑造)実習(課題説明、クロッキー)※1	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
			美術解剖学(医療と造形の接点としての美術解剖学)※2	3	宮永美知代、富川紘一	第1講義室	講義	4~6
		11	歯と顔貌 (全体講義)	3	三浦宏之	第1講義室	講義	10~12
		18	科学捜査と復顔 (全体講義)	3	宮坂祥夫	第1講義室	講義	7~9
		21	彫刻(塑造)実習(心棒の制作、粘土練り、制作)	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
			美術解剖学(顔をどう見るか)	3	宮永美知代、富川紘一	第2講義室	講義	4~6
		28	彫刻(塑造)実習(制作)	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
			美術解剖学(頭蓋と顔)	3	宮永美知代、富川紘一	第1講義室	講義	4~6
	2	4	彫刻(塑造)実習(制作)	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3

02 人体の構造と機能

2	18	彫刻(塑造)実習(制作、仕上げ)※1	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3
		美術解剖学(表情と顔)	3	宮永美知代、富川紘一	第1講義室	講義	4~6
	25	彫刻(塑造)実習(講評、片付け)※1	3	館山拓人、藤原彩人、 富川紘一	2号館 305室 (連携教育講義室)	実習	1~3

※1、※2は、全体を2班に分割し、平成24年11月5日～12月10日まで、第1班が彫刻(塑造)実習を行い、第2班は美術解剖学の講義を受講する。また、平成25年1月7日および1月21日～2月25日の期間は、各々受講していない実習、講義を受講する。

評価方法:

・レポート内容および適宜、実習態度の評価、作品の評価を行い、総合的に評価する。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

高野吉郎 教授 takanoy.bss@tmd.ac.jp
 三浦宏之 教授 h.miura.fpro@tmd.ac.jp
 岡田大蔵 講師 d.okada.fpro@tmd.ac.jp
 富川紘一 非常勤講師 fukawa.fpro@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	歯の解剖
ユニット責任者	柴田俊一
ユニット番号	15
開設時期	2年後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18 + 3 (必要自習時間 10時間)
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO):

ヒトの乳歯と永久歯の正常形態を学び、歯の形態の特徴と機能の関係を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 乳歯と永久歯の名称と、個々の歯の形態的特徴を説明できる。
- 2) 歯を正しく鑑別できる。
- 3) 歯列と咬合について説明できる。
- 4) 永久歯の形態異常を説明できる

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	24	歯の解剖総論・前歯の形態と鑑別	3	柴田俊一	第2講義室	講義・実習	1,2,3,4
	11	7	小臼歯の形態と鑑別	3	柴田俊一	第2講義室	講義・実習	1,2
		16	下顎大臼歯の形態と鑑別	3	柴田俊一	第2講義室	講義・実習	1,2
		22	上顎大臼歯の形態と鑑別	3	柴田俊一	第1講義室	講義・実習	1,2
	12	5	乳歯の形態と鑑別	3	柴田俊一	第1講義室	講義・実習	1,2
		10	歯列および歯の異常	3	柴田俊一	第2講義室	講義・実習	3,4
		17	歯の解剖試験	3		第1講義室		

評価方法:

- ・筆記試験、実習試験の結果をもとに包括的評価をする。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考図書等:

- ・「歯の解剖学」第22版(藤田恒 太郎著 桐野忠大、山下靖雄 改訂) 金原出版

担当教員の Office Hour: ユニット情報

柴田俊一 教授 随時(ただし必ず事前に連絡のこと) sshibata.mfa@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	患者と医療者
モジュールコーディネータ	(正) 俣木志朗 (副) 礪波健一
モジュール番号	03
開設時期	2年 後期
モジュールコマ数	45 (5)

学習目標(GIO)

将来、歯科医療、歯科医学にたずさわりたい社会に貢献するために、歯科医療に関わる基本的な知識、技能、態度を養う。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	行動科学基礎	講義・演習
02	医の倫理	講義・実習
03	インフォームドコンセント	講義・実習
04	医療面接	講義・実習
05	チーム医療	講義
06	医療安全と危機管理の基礎	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。

ユニット情報

ユニット名	行動科学基礎
ユニット責任者	礪波健一
ユニット番号	01
開設時期	2年 前期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	27 (27+0)
授業形態	講義・演習

学習目標(GIO):

近年の疾病構造に対応した歯科医師-患者関係である mutual participation を実践するために、これまで気づけなかった他者の視点に気づき行動するという、適切な人間関係を構築する能力を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 学習者は、他者と関わる中で、自分自身の中に起こってくる考えや感情とその変化を意識できる。
- 2) 学習者は、自分の中に起こってくる感情を、必要なときには言葉で表現することができる。
- 3) 学習者は、必要に応じて、その感情を相手に伝えることができる。
- 4) 学習者は、相手の話を聴き、確かめ、相手をそのまま理解する体験ができる。
- 5) 学習者は、人と互いに理解しあう、あるいは「人との出会い」の意味を体験的に理解する。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連SBOs
24	5	11	オリエンテーション	2	俣木・礪波	第1講義室	講義	1~5
		18	グループディスカッション	2	市川・各務・久田	第1講義室ほか	演習	1~5
		23	講義 歯科医師のプロフェッショナルリズム	2	五島	第1講義室	講義	1~5
	6	1	グループディスカッション	2	市川・各務・久田	第2講義室ほか	演習	1~5
		8	講義 障害者と社会	2	長瀬	第2講義室	講義	1~5
		15	グループディスカッション	2	市川・各務・久田	第2講義室ほか	演習	1~5
		22	体験実習の準備	2	俣木・礪波	第2講義室	講義	1~5
	夏休み		体験学習		俣木・礪波	各派遣先		1~5
24	10	5	講義 夏の体験のふりかえり	3	俣木・礪波	第2講義室	講義	1~5
		26	グループディスカッション	3	市川・各務・久田	第1講義室ほか	演習	1~5
	11	2	グループディスカッション	2	市川・各務・久田	第1講義室ほか	演習	1~5
	11	5	グループディスカッション	2	市川・各務・久田	第2講義室ほか	演習	1~5
		9	講義 保健医療行動科学	3	中村	第1講義室	講義	1~5
		16	グループディスカッション	3	市川・各務・久田	第1講義室ほか	演習	1~5
		30	グループディスカッション	3	市川・各務・久田	第1講義室ほか	演習	1~5
	12	7	講義 まとめ	3	俣木・礪波	第1講義室	講義	1~5

評価方法:

・体験学習終了後のレポート、「まとめ」のレポートの提出などに関わる態度で30%、さらに学外体験学習施設との関わり方の態度(挨拶・約束、準備の仕方など)やクラスへの参加態度(ノートや筆記用具を持参しない、遅刻など)で残り70%を総合的に評価する。

参考資料:

- ・森 有正『思索と経験をめぐって』講談社学術文庫、1976.
- ・小林純一『創造的に生きる』金子書房、1986.

03 患者と医療者

- ・レイチェル・ナオミ・リーメン『失われた物語を求めて』中央公論新社、2000.
- ・最首 悟:『星子が居る』世織書房、2000.
- ・佐藤 学:『学びの身体技法』太郎次郎社、2003.
- ・AR ホックシールド『管理される心ー感情が商品になるとき』世界思想社 2000.
- ・永田 勝太郎:死にざまの医学、NHKブックス、2006.
- ・永田 勝太郎:バリント療法ー全人的医療入門、医歯薬出版、1992.

担当教員の Office Hour:

俣木志朗 教授 水 16:00-18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp
 礪波健一 講師 火 16:00-18:00 ken1.gend@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	医の倫理
ユニット責任者	俣木志朗
ユニット番号	02
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

将来、適切な歯科医療あるいは歯学研究を实践、遂行するために、医療・歯科医療および医学・歯学研究における倫理の重要性を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
- 2) ヒポクラテスの誓いを説明できる。
- 3) ジュネーブ宣言を説明できる。
- 4) 生と死に関わる倫理的問題を説明できる。
- 5) シドニー宣言を説明できる。
- 6) 患者の権利を説明できる。
- 7) リスボン宣言を説明できる。
- 8) 患者の自己決定権を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	1	倫理、道徳、法	1	俣木志朗	第2講義室	講義	1, 2
			医の倫理 生命倫理	1	俣木志朗	第2講義室	講義	3, 4
			患者ー医療者関係の歴史	1	俣木志朗	第2講義室	講義	1-8
	10	3	患者の権利	1	俣木志朗	第2講義室	講義	6, 7, 8
			生と死に関わる倫理的問題	1	俣木志朗	第2講義室	講義	4, 5
	11	2	試験	1	俣木志朗	第1講義室		1-8

評価方法:

- ・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

・星野一正『医療の倫理』(岩波新書 1991 年)

備考:

・チュートリアル 4コマ(1 課題・方法の説明、2 自己学習日 3 自己学習日 4 発表・質疑応答)

担当教員の Office Hour:

侯木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	インフォームドコンセント
ユニット責任者	侯木志朗
ユニット番号	03
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

将来、患者本位の歯科医療を実践するために、インフォームドコンセントに関する基礎的な知識、技能、態度を修得する

到達目標(SBOs):

- 1) インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。
- 2) インフォームドコンセントの歴史的経過を説明できる。
- 3) インフォームドチョイスを説明できる。
- 4) ヘルシンキ宣言を説明できる。
- 5) インフォームドコンセントの問題点を説明できる。
- 6) 患者の自己決定権を説明できる。
- 7) 患者が自己決定できない場合の対応を説明できる。
- 8) インフォームドコンセントについて、患者さんに解りやすい言葉で説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	10	10	インフォームドコンセントとは1	1	侯木志朗 新田 浩	第2講義室	講義	1, 2
			インフォームドコンセントとは2	1	侯木志朗 新田 浩	第2講義室	講義	3, 4
			歯科医療におけるインフォームドコンセント	1	侯木志朗 新田 浩	第2講義室	講義	3, 6, 8
	10	15	インフォームドコンセントの実際	1	侯木志朗 新田 浩	第2講義室	講義	5, 7
			インフォームドコンセントの問題点	1	侯木志朗 新田 浩	第2講義室	講義	5
	11	5	試験	1	侯木志朗 新田 浩	第2講義室		

評価方法:

・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

03 患者と医療者

参考資料:

- ・水野肇『インフォームド・コンセント——医療現場における説明と同意』(中公新書 1990 年)
- ・星野一正『医療の倫理』(岩波新書 1991 年)
- ・森岡恭彦『インフォームド・コンセント』(NHK ブックス 1994 年)

備考:

- ・チュートリアル 4コマ(1 課題・方法の説明、2 自己学習日 3 自己学習日 4 発表・質疑応答)

担当教員の Office Hour:

俣木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp
 新田 浩 准教授 月・水 16:30~18:00 nitta.peri@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	医療面接
ユニット責任者	俣木志朗
ユニット番号	04
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	15+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

患者との信頼関係を築くために、コミュニケーション、医療面接に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 患者との信頼関係の構築に必要な要素を列挙できる。
- 2) 信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。
- 3) コミュニケーションの目的と技法を概説できる。
- 4) 医療面接の役割を説明できる。
- 5) 言語的、非言語的、準言語的コミュニケーションを説明できる。
- 6) 言語的、非言語的、準言語的コミュニケーションを使い分けができる。
- 7) 患者の心理状態や社会的背景に配慮できる。
- 8) 基本的質問法を説明できる。
- 9) 医療面接に先立ち、身だしなみを整えることができる
- 10) 歯科医学生にふさわしい言葉遣いができる。

授業計画

年	月	日	題 目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	9	医療面接とは	1	俣木志朗 新田 浩 礪波健一	第1講義室	講義	1-4
			医療におけるコミュニケーション	1		第1講義室	講義	3
			指導・コンサルテーション・カウンセリング	1		第1講義室	講義	1-4
	1	16	コミュニケーション技法	1	俣木志朗 新田 浩 礪波健一	第1講義室	実習	3, 5, 6
			医療面接を始める前に	1		第1講義室	実習	1-4
			医療面接の意義	1		第1講義室	講義	1-4
	1	21	ロールプレイ	1	俣木志朗 新田 浩 礪波健一	第1講義室	講義	4
			ロールプレイ	1		第1講義室	講義	5,6,7
			ロールプレイ	1		第1講義室	実習	6,7,9,10

	1	23	模擬患者実習	1	俣木志朗 新田 浩 礪波健一	第1講義室	実習	6,7,9,10
			模擬患者実習	1		第1講義室	実習	6,7,9,10
			模擬患者実習	1		第1講義室	実習	6,7,9,10
	1	28	実習の振り返り	1	俣木志朗 新田 浩 礪波健一	第1講義室	SGD	1-10
			医療面接のまとめ	1		第1講義室	SGD	1-10
			医療面接のまとめ	1		第1講義室	発表	1-10
	2	12	試験	1	俣木志朗 新田 浩	第2講義室		

評価方法:

・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・メディカル・インタビュー (訳 飯島克己、佐々木将人)メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・でんたるこみゆにけーしょん 歯科医療面接総論(山田隆文)学建書院

担当教員の Office Hour:

俣木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp
 新田 浩 准教授 月・水 16:30~18:00 nitta.peri@tmd.ac.jp
 礪波健一 講師 火 16:00~18:00 ken1.gend@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	チーム医療
ユニット責任者	俣木志朗
ユニット番号	05
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

将来歯科医師として社会に貢献するために、社会における歯科医療とその重要性を理解し、医療が組織として実践されることを学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 保健・医療・福祉の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
- 2) 歯科医師に関する法律を概説できる。
- 3) 歯科医師の法的義務を説明できる。
- 4) 医療チームのメンバーの役割と連携を説明できる。
- 5) 高齢者のおかれた社会環境を説明できる。
- 6) ノーマライゼーションの考え方を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
26	2	4	チーム医療の実践 1	3	岩上 好伸	第1講義室	講義	4
	2	12	チーム医療の実践 2	1	遠藤 圭子	第2講義室	講義	1-6

03 患者と医療者

		チーム医療の実践 3	1	鈴木 聖一	第2講義室	講義	1-6
	2	25 試験	1	俣木 志朗	第1講義室	講義	

評価方法:

・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

俣木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	医療安全と危機管理の基礎
ユニット責任者	三輪 全三
ユニット番号	06
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	5+1
授業形態	講義・実習

学習目標(GIO)

将来安全で信頼される歯科医療を実践するために、歯科医療における安全性への配慮と危機管理に関する基本的な知識、考え方を学ぶ。

到達目標(SBOs):

- 1) 歯科医療における事故の特異性を説明できる。
- 2) 医療事故はどのような状況で起こりやすいかを説明できる。
- 3) 医療事故防止のためのリスク管理を説明できる。
- 4) フェイルセーフの必要性を説明できる。
- 5) 医療機関における安全管理体制を概説できる。
- 6) 医療事故とニアミスの違いを説明できる。
- 7) 医療事故やニアミスの事例の原因を分析できる。
- 8) 医療事故やニアミスの防止対策を説明できる。
- 9) 医療事故やニアミスの可能性とその対応を説明できる。
- 10) 医療事故に関連した法律・規則の基本的事項を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	2	20	医療事故はなぜ起こる	1	俣木志朗 三輪全三	第1講義室	講義	1,2
			医療事故防止対策	1	俣木志朗 三輪全三	第1講義室	講義	3
			フェイルセーフ、フルプルーフ	1	俣木志朗 三輪全三	第1講義室	講義	4
	2	25	リスク管理	1	俣木志朗 三輪全三	第1講義室	グループ	3-10
			医療機関における安全管理体制	1	俣木志朗 三輪全三	第1講義室	全体発表	3-10
	2	28	試験	1	俣木志朗 三輪全三	第1講義室		

評価方法:

- ・筆記試験とレポートにより評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・山内桂子、山内隆久『医療事故—なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか』(朝日新聞社 2000 年)
- ・米国医療の質委員会医学研究所『人は誰でも間違える—より安全な医療システムを目指して』(日本評論社 2000 年)
- ・海野雅浩 他、「一から学ぶ歯科医療安全管理」(医歯薬出版 2005 年)

担当教員の Office Hour:

侯木志朗 教授 水 16:30~18:00 mataki.diag@tmd.ac.jp

三輪全三 講師 月・水・木 16:30~18:00 miwa.dohs@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	社会と環境
モジュール責任者	(正)川口陽子 (副)佐々木好幸
モジュール番号	04
開設時期	2年 後期
モジュールコマ数	33 (3)

学習目標(GIO)

健康と社会制度、環境、生活習慣、栄養との関連を理解し、人々の健康の維持・増進を支援できる歯科医師となるために必要な知識、技能、態度を取得する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	環境・社会と健康	講義・演習
02	食生活と健康	講義
03	ライフスタイルと健康	講義

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

ユニット情報

ユニット名	環境・社会と健康
ユニット責任者	佐々木好幸
ユニット番号	01
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	13(12+1)
授業形態	講義・演習

学習目標(GIO):

健康と社会制度や環境との関連を理解し、人々の健康の維持・増進を支援できる歯科医師となるために必要な知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs):

- 1)健康の概念を説明できる。
- 2)環境による健康への影響を説明できる。
- 3)環境基準と環境汚染を説明できる。
- 4)主な保健医療統計を説明できる。
- 5)主な健康指標を説明できる。
- 6)調査方法と統計的分析法を説明できる。
- 7)疫学とEBM の概念を説明できる。
- 8)スクリーニング検査を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	11	21	衛生の主要指標	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	4-8
			人口問題	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	4-8
			生命表	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	4-8
	11	28	疾病・異常の発生要因	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	1,2,3
			疫学の方法論	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	4-8
			疫学演習	1	佐々木好幸	第1講義室	演習	4-8
	12	5	環境保健(気相)	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	2,3
			環境保健(液相)	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	2,3
			環境保健演習	1	佐々木好幸	第1講義室	演習	2,3
	12	12	廃棄物	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	2,3
			食品衛生	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	2,3
			感染対策	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	2,3
	12	19	試験	1	佐々木好幸	第1講義室	講義	

評価方法:

- ・12月19日の筆記試験(9割)とレポート(1割)を総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・衛生学・公衆衛生学(宮武光吉ら編)、医歯薬出版

・国民衛生の動向、厚生統計協会

担当教員の Office Hour:

佐々木好幸 准教授 月・水 17:00-19:00 sasaki.prev@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	食生活と健康
ユニット責任者	品田佳世子
ユニット番号	02
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	10(9+1)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

健康づくりの基本となる栄養・食生活を理解し、口腔の健康との関連を概説できる。

到達目標(SBOs):

- 1) 日本人の栄養・食生活の現状を説明できる。
- 2) 栄養・食生活の診断・評価法を説明できる。
- 3) 基礎疾患を有する患者の臨床栄養について説明できる。
- 4) 口腔の健康と栄養・食生活との関連を説明できる。
- 5) 栄養・食生活の改善方法を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	18	日本人の栄養・食生活の現状と課題	1	品田佳世子	第1講義室	講義	1, 2
			食事摂取基準	1	品田佳世子	第1講義室	講義	1, 2, 5
			食事バランスガイド	1	品田佳世子	第1講義室	講義	1, 2, 5
	1	25	栄養アセスメント・必要栄養量の算定	1	豊島瑞枝	第1講義室	講義	3
			食形態、食事療法	1	豊島瑞枝	第1講義室	講義	3
			臨床栄養	1	豊島瑞枝	第1講義室	講義	2, 3, 5
	2	15	口腔疾患と栄養との関連	1	品田佳世子	第1講義室	講義	4
			う蝕と甘味料、食生活	1	品田佳世子	第1講義室	講義	4
			食育における歯科の役割	1	品田佳世子	第1講義室	講義	4
	2	28	試験	1	品田佳世子	第1講義室		1, 2, 3, 4, 5

評価方法:

・2月28日の筆記試験(9割)とレポート(1割)を総合的に評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・食品成分表 改訂最新版 女子栄養大学出版部 2011年
- ・厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準 第一出版 2005年

・口腔保健推進ハンドブック 医歯薬出版 2009 年

担当教員の Office Hour:

品田佳世子 教授 金 16:00-18:00 shinada.ohp@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	ライフスタイルと健康
ユニット責任者	川口陽子
ユニット番号	03
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	10(9+1)
授業形態	講義

学習目標(GIO):

健康とライフスタイル・生活習慣との関連を理解し、人々の健康の維持・増進を支援できる歯科医師となるために必要な知識、技能、態度を習得する。

到達目標(SBOs):

- 1) 健康の概念を説明できる。
- 2) 口腔と全身の健康との関連を説明できる。
- 3) 疾病の概念、種類および予防を説明できる。
- 4) 健康日本 21 を説明できる。
- 5) 第一次予防、第二次予防、第三次予防を説明できる。
- 6) セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケアを説明できる。
- 7) プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。
- 8) 主な保健医療統計を説明できる。
- 9) 主な健康指標を説明できる。
- 10) 国際保健医療活動を説明できる
- 11) 大災害時の保健医療を説明できる。

授業計画

年	月	日	題 目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	2	6	健康の定義、健康・疾病・障害の概念、疾病構造の変化、ライフスタイルと健康、	1	川口陽子	第 2 講義室	講義	1-4
			第 1,2,3 次予防、セルフケア・プロフェッショナルケア・コミュニティケア、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ	1	川口陽子	第 2 講義室	講義	5-7
			予防歯科臨床とヘルスプロモーション	1	川口陽子	第 2 講義室	講義	5-7
	2	13	歯科医師の任務、保健指導と健康教育、健康情報 感染症と生活習慣病	1	植野正之	第 1 講義室	講義	1-9
			健康日本 21、健康増進法、健康情報、ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケア	1	植野正之	第 1 講義室	講義	1-7
			国際保健協力活動、災害時の保健医療	1	田中健一	第 1 講義室	講義	10,11
	2	19	WHO の健康戦略、国際保健	1	川口陽子	第 1 講義室	講義	7
			健康観と健康指標、QOL、口腔と全身の健康、	1	川口陽子	第 1 講義室	講義	1-4,8,9
			保健医療統計からみた国民の健康状況の変化、社会制度と健康の関連	1	柳澤智仁	第 1 講義室	講義	8,9
	2	28	試験	1	川口陽子	第 1 講義室		

04 社会と環境

評価方法:

- ・2月28日の筆記試験(9割)とレポート(1割)を総括的評価とする。

ユニット試験の受験資格:

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料:

- ・衛生学・公衆衛生学(宮武光吉ら編)、医歯薬出版
- ・The Strategy of Preventive Medicine (Geoffrey Rose) Oxford University Press

担当教員の Office Hour:

川口陽子 教授 火・水 16:00-18:00 yoko.ohp@tmd.ac.jp

モジュール情報

モジュール名	生命の分子的基盤
モジュール責任者	(正) 森田育男 (副) 篠村多摩之
モジュール番号	05
開設時期	2年 後期
モジュールコマ数	109 (4)

学習目標(GIO)

生命現象の物質的基盤を細胞という生命単位を中心に理解する。生命を構成する分子とその代謝を理解し、各種疾患の分子的基盤を理解する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	生命を構成する分子とその代謝	講義
02	遺伝の分子的基盤	講義
03	細胞機能の分子的基盤	講義
04	疾患の分子的基盤	講義
05	生命の分子的基盤実習	実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

05 生命の分子的基盤と細胞の機能

ユニット情報

ユニット名	生命を構成する分子とその代謝
ユニット責任者	中浜健一
ユニット番号	01
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	27+1
授業形態	講義および演習

学習目標(GIO):

生命を構成する分子とその代謝を理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) 生命と物質の関係-概説。
- 2) 生化学を理解する上で必要な知識を説明できる。
- 3) タンパク質の構造と生物学的機能の関係について酵素を例として理解し、説明できる。
- 4) 糖代謝とエネルギー生成の仕組みを説明できる。
- 5) 脂質代謝の仕組みを説明できる。
- 6) アミノ酸、核酸の代謝の仕組みを説明できる。
- 7) 物質代謝の制御による生体機能の調節について説明できる。
- 8) 生命を構成する分子の代謝について討論をおこない、また質問に答えることができる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	11	27	生命の物質的基盤概説	3	高柳 広 中浜健一 篠原正浩	第1講義室	講義	1
		28	基礎生化学演習	3	中浜健一 篠原正浩	第1講義室	演習	2
	12	3	タンパク質の構造と機能	3	中浜健一	第2講義室	講義	3
		7	酵素	3	中浜健一	第2講義室	講義	3
25	1	8	糖代謝とエネルギーの生成	3	中浜健一	第2講義室	講義	4
		9	脂質代謝	3	中浜健一	第2講義室	講義	5
		15	アミノ酸、核酸の代謝	3	中浜健一	第1講義室	講義	6
		16	物質代謝の制御による生体機能の調節	3	中浜健一	第1講義室	講義	7
		22	代謝の総合演習	3	中浜健一	第2講義室	演習	8
		30	試験	1	中浜健一	第1講義室	筆記試験	1-8

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・25年1月30日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考資料(全ユニット共通):

- ・「エリオット 生化学・分子生物学、第3版」エリオットら(東京化学同人)
- ・「カープ 分子細胞生物学」カープら(東京化学同人)
- ・「ストライヤー 生化学」L. Stryerら(東京化学同人)

担当教員の Office Hour:

中浜健一 准教授 水・木 17:00 以降 nakacell@tmd.ac.jp・・・ あらかじめメール連絡を

ユニット情報

ユニット名	遺伝の分子的基盤
ユニット責任者	篠村多摩之
ユニット番号	02
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	15+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

遺伝情報の物質的な基盤とその流れについて説明できる。

到達目標(SBOs):

- 1) 細胞構造と遺伝情報の流れについて相互の関係が説明できる。
- 2) DNA の構造とその複製機構が説明できる。
- 3) RNA の構造と転写の機構が説明できる。
- 4) タンパク質の合成とその分配機構が説明できる。
- 5) 遺伝子発現の制御機構が説明できる。
- 6) 遺伝子の進化とヒトゲノム DNA の特徴について説明できる。
- 7) 遺伝子のクローニングと組み換え技術について説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	11	30	セントラルドグマ、DNA	3	篠村多摩之	第1講義室	講義	1, 2
	12	4	RNA	3	篠村多摩之	第1講義室	講義	3
25	1	7	タンパク質	3	篠村多摩之	第1講義室	講義	4
		10	遺伝子発現制御	3	篠村多摩之	第1講義室	講義	5
		11	ヒトゲノム、遺伝子組み換え	3	篠村多摩之	第1講義室	講義	6, 7
		30	試験	1	篠村多摩之	第1講義室	講義	1-7

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・25年1月30日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

篠村多摩之 准教授 月・水・金 16:00 - 18:00 t.shinomura.trg@tmd.ac.jp

ユニット情報

ユニット名	細胞機能の分子的基盤
ユニット責任者	横山三紀
ユニット番号	03
開設時期	2年 後期

05 生命の分子的基盤と細胞の機能

ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	21+1
授業形態	講義

学習目標(GIO):

生命現象を理解するために生体膜の構造と機能を関連づける。

行動目標(SBOs):

- 1) 生体膜の基本構造を説明できる。
- 2) 低分子の膜輸送の仕組みを説明できる。
- 3) 細胞内小器官の機能を説明できる。
- 4) 高分子の細胞内への取り込みおよび分泌の仕組みを説明できる。
- 5) 細胞外マトリックスの役割を説明できる。
- 6) 細胞骨格の構成分子と形成の仕組みを説明できる。
- 7) 細胞内情報伝達経路の仕組みを説明できる。
- 8) 細胞周期、細胞分裂の仕組みを説明できる。
- 9) 細胞死の仕組みを説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	23	生体膜の基本構造	3	横山三紀	第1講義室	講義	1
		25	低分子の膜輸送	3	横山三紀	第1講義室	講義	2
		29	細胞内小器官と高分子の移動	3	横山三紀	第1講義室	講義	3, 4
	2	1	細胞外マトリックス	3	横山三紀	第1講義室	講義	5
		8	細胞骨格	3	篠原正浩	第1講義室	講義	6
		20	細胞内情報伝達	3	篠原正浩	第1講義室	講義	7
		22	細胞分裂と細胞死	3	篠原正浩	第1講義室	講義	8, 9
	3	1	試験	1	横山三紀	第2講義室	筆記試験	1-9

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・25年3月1日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

横山三紀 准教授 月-金 16:00 - 18:00 m.yokoyama.bch@tmd.ac.jp

篠原正浩 助教 月-金 16:00 - 18:00 shinocsi@tmd.ac.jp・・・あらかじめメール連絡を

ユニット情報

ユニット名	疾患の分子的基盤
ユニット責任者	森田育男
ユニット番号	04
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	24+1
授業形態	講義

学習目標(GIO): 生体の恒常性維持のしくみを理解し、その破綻に伴う各種疾患の発症機序を分子レベルで理解する。

到達目標(SBOs):

- 1) ホルモン役割と、その異常により発症する病態を説明できる。
- 2) ホルモンをはじめとする生理活性物質の作用機序を説明できる。
- 3) オータコイド、サイトカインやケモカインの役割とその作用機序を説明できる。
- 4) メタボリックシンドロームの病態と発症機序を説明できる。
- 5) 歯・骨に関連したミネラルの代謝について説明できる。
- 6) 発がんの仕組みとがん細胞の性質を説明できる。
- 7) 血管形成の仕組みと血管の異常を伴う病態を説明できる。
- 8) 遺伝子の変異に伴う細胞機能の異常により発症する病態を説明できる。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
25	1	30	ホルモン(1)	3	森田育男	第1講義室	講義	1
	2	1	ホルモン(2)	3	森田育男	第1講義室	講義	2
		5	サイトカイン、ケモカイン、オータコイド	3	高柳 広	第1講義室	講義	3
		12	メタボリックシンドローム	3	小川佳宏	第1講義室	講義	4
		18	ミネラルの代謝	3	竹内靖博	第1講義室	講義	5
		19	発がんの仕組み	3	池田正明	第1講義室	講義	6
		21	血管形成と循環器障害	3	森田育男	第1講義室	講義	7
		22	先天性代謝疾患	3	森尾友宏	第1講義室	講義	8
	3	1	試験	1	高柳 広	第2講義室	筆記試験	1-8

評価方法:

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・25年3月1日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour :

森田育男 教授 morita.cell@tmd.ac.jp・・・あらかじめメール連絡を

ユニット情報

ユニット名	生命の分子的基盤実習
ユニット責任者	森田育男
ユニット番号	05
開設時期	2年 後期
ユニットコマ数 (授業コマ数+試験コマ数)	18+0
授業形態	実習

学習目標(GIO):

生命を構成する主要な分子(タンパク質、核酸)の性質について実習を通して知る。

到達目標(SBOs):

- 1) タンパク質の代表としての酵素の機能を知る。

05 生命の分子的基盤と細胞の機能

2) 核酸の性質を知り、核酸の抽出方法を知る。

授業計画

年	月	日	題目	コマ	担当者	場所	方法	関連 SBOs
24	2	6	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1
		7	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1
		8	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	1
		13	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	2
		14	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	2
		15	生命の分子的基盤 実習	3	篠原正浩、井上 Katarzyna (中浜、横山、篠村、桑井、加藤、古賀、中島、岡本)	6, 7F 歯学部実習室	実習	2

評価方法:

・レポート作成

ユニット試験の受験資格:

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

担当教員の Office Hour:

森田育男 教授 morita.cell@tmd.ac.jp・・・ あらかじめメール連絡を

篠原正浩 助教 月・水・金 16:00 - 18:00 shino.csi@tmd.ac.jp・・・ あらかじめメール連絡を

平成24年度歯学科 2 年次学生

連携教育（教養教育）

科目名 (英 訳)	生命科学 (生物物理化学) Life Science (Biophysical Chemistry)	開講学期 曜日・時限	前期 火曜日 1・2時限
対象学年	2年生	単位数	2単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	奈良 雅之、本郷 敏雄		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>1年生の化学(一般化学)で勉強した原子・分子の構造論、化学熱力学をさらに深めることにより、生命現象を物理化学の理論に基づいて理解します。構造化学、化学熱力学全般を奈良が、電気生理学入門を本郷が担当することにより、教養部教育から学部教育への「円滑な橋渡し」を心掛けています。講義内容はかなり高度になりますので、受講者は授業にしっかり取り組まないと「大きなギャップ」とも受け止められるかもしれません。授業は基本的に講義形式で進めます。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>生命現象を物理化学的な視点からとらえることができること。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <p>①量子論、化学結合論の基礎を理解できる。 ②相平衡、化学平衡、酸化還元平衡を熱力学の原理に基づいて理解できる。 ③電気生理学を具体例として、学部で詳しく学ぶ内容と教養部で習う自然科学が深く関わっていることを理解できる。 ④講義内容に関する演習問題や参考文献を自学自習で取り組むことができる。</p> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>①ガイダンス、原子・分子の構造論① 量子論の原理 ②原子・分子の構造論② 量子論の原理 ③原子・分子の構造論③ 量子論の応用 ④原子・分子の構造論④ 化学結合論 ⑤熱力学の原理① ギブスエネルギーと熱力学的関係式 ⑥熱力学の原理② 開放系の熱力学：化学ポテンシャル ⑦相平衡①：相律、溶液の熱力学 ⑧相平衡②：二成分系の状態図の見方、使い方 ⑨化学平衡：ギブスエネルギーと平衡定数、平衡定数の温度変化 ⑩化学熱力学の生化学反応への応用：生化学的標準状態、反応の共役 ⑪電気化学①：電解質、酸化還元反応、電池 ⑫電気化学②：ネルンストの式、標準電極電位、濃淡電池 ⑬電気化学③：電気化学ポテンシャル、膜電位・膜平衡 ⑭電気生理学入門① ⑮電気生理学入門②</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 (筆記試験, レポート, その他)</p> <p>再評価 (有・無)</p> <p>試験100点+平常点α(出席点等)で最大100点として評価します。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>教科書の指定はしません。</p>			

科目名 (英 訳)	教養英語 English	開講学期 曜日・時限	前期・後期 火曜日/ 1・2時限 (前期) 火曜日/ 1時限 (後期)
対象学年	2年生	単位数	2単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	Patrick Foss, Ted O'Neill		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>This is a two-part course. During one semester (either the first or the second), students will study speaking and listening skills by conversing and presenting on dental-related topics. During the other semester, students will concentrate on reading and writing particularly via summarizing dental-related research. New vocabulary will be introduced and tested in both sections of the course.</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>The primary goal of the speaking/listening section of the course is to improve the ability to speak about dental-related conditions with others. The primary goal of the reading/writing section of the course is to read about topics related to dentistry and improve the ability to write short passages about these topics for a general reader.</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <p>To develop the ability to speak in English about feelings, symptoms, causes, side-effects, complications, and other issues concerning dental-related conditions. (Speaking/Listening)</p> <p>To improve the ability to speak in front of others using English. (Speaking/Listening)</p> <p>To improve the ability to read popular and academic texts about dental, oral health, and overall health and to identify important information. (Reading/Writing)</p> <p>To develop skills in summary and paraphrase writing. (Reading/Writing)</p> <p>To develop skills in citing and referencing sources. (Reading/Writing)</p> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>The schedule will depend on the semester and instructor. See the syllabus for your specific class for more details.</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 (筆記試験, レポート, その他)</p> <p>再評価 (有・無)</p> <p>Grading schemes will vary by class and instructor. See the syllabus for your specific class for more details.</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>There is no course textbook. The instructor will provide copies of necessary materials.</p> <p>Students in the Reading/Writing course will use computers each week and all assignments will be submitted online.</p>			

科目名 (英 訳)	人文社会科学総合講義 General lecture on humanities and social sciences	開講学期 曜日・時限	後期 火曜・2時限
対象学年	2年生	単位数	2
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	板橋作美・藤井達夫・土佐朋子		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>本授業では、人間が構築する世界の諸問題について、人文科学的な観点から焦点をあてて考察する。人間という存在は、得体の知れない、不可思議な存在である。これまで、人間は、そのような自らの存在について、あらゆる角度からアプローチを試みてきた。その営みの蓄積は、文学、思想、文化などの形をとって、我々の目の前に存在している。</p> <p>本授業では、主に、文化、文学、思想の立場から、「人間とはどのような存在なのか」ということについて、思索をめぐらしてみることとする。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>人文科学的なものの考え方や見方に触れ、人間という存在ならびに人間が構築する世界について、多角的にとらえ観察する力と、継続して自ら思考し続ける力を身につける。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <p>①「人間とは何か」について、主体的に考える姿勢を養う。 ②人間の創造してきた文化、思想、文学に関する基礎的な知識を身につけ、自ら進んで享受しようとする意識を持てるようにする。</p> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>10月2日 オリエンテーション・思想①【担当：藤井達夫】 10月9日 思想② 10月16日 思想③ 10月23日 思想④ 10月30日 思想⑤ 11月6日 文化① 【担当：板橋作美】 11月13日 文化② 11月20日 文化③ 11月27日 文化④ 12月4日 文化⑤ 12月11日 文学① 【担当：土佐朋子】 12月18日 文学② 1月8日 文学③ 1月15日 文学④ 1月22日 文学⑤・まとめ—人文社会科学の「知」—</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 (筆記試験, レポート, その他)</p> <p>再評価 (有・無)</p> <p>平常点 (それぞれの担当教員の指示したこと) 50% レポート 50%</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>教科書は特になし。プリント使用。参考図書などは授業中に随時紹介する。</p>			

科目名 (英 訳)	生命科学 (人体の生物学) Life Science (Fundamentals of Human Biology)	開講学期 曜日・時限	前期、第2～5週 (4月17日～5月10日) 火・木曜、3・4時限
対象学年	2年生	単位数	1単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	伊藤 正則		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method) 代表的な生命現象とその制御メカニズムを系統発生的・進化的な観点を加えて説明する。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal) 歯学の専門教育の基盤となる生物学を総合的に学習し、専門教育へスムーズにつなげることを目的とする。</p> <p>●到達目標 (Objectives) 生命現象の発現・制御機構を器官、組織、細胞、分子レベルで説明することができる。</p> <p>●授業計画 (Schedule) (講義内容を示したものであり、必ずしも講義順を示したものではない)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞から個体へ 2. 生体における情報伝達 - 内分泌系、神経系 3. ホルモンの種類と作用発現メカニズム 4. 神経系による情報伝達 5. 感覚 - 刺激の受容、脳での情報処理 6. 脳の高次機能 7. ホメオスタシス 8. カルシウム・血糖調節 9. 水と電解質の調節 - 泌尿器系 10. 生殖 - 精子・卵形成、減数分裂、減数分裂 11. 発生と分化 - 細胞増殖、細胞分化、細胞死、器官形成 12. 性決定と性分化 13. 栄養と物質代謝 - 消化器系 14. 進化と環境適応 15. 生態系と人類による干渉 <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 (筆記試験, レポート, その他)</p> <p style="text-align: center;">再評価 (有・無)</p> <p>筆記試験 (90%)と出席状況 (10%) による。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>【教科書】「ヒューマンバイオロジー 第7版」 S. S. Mader 著 坂井建夫、岡田隆夫 監訳 医学書院 必要に応じて関連資料を配布する。</p> <p>【参考書】「からだの構造と機能」 A. Schaffler, S. Schmidt 著 三木明德、井上貴央 監訳 西村書店 「イラスト生化学・分子生物学」 前野正夫、磯川桂太郎 著 羊土社 「Essential 細胞生物学 第2版」 B. Alberts 他 著 中村桂子 他 訳 南江堂</p>			

科目名 (英 訳)	サイエンスPBL Science PBL	開講学期 曜日時限	後期、第1～8週 (10月2日～11月20日) 火曜3・4時限
対象学年	2年生	単位数	1単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	伊藤 正則、澤野 頼子、服部 淳彦、奈良 雅之、清田 正夫		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>10あるいは11名から成るグループによる学習で、配布資料(課題シートなど)から問題点を抽出し、自然科学の知識を活用して、問題点を解決することを試みる。具体的には、次の①から③の順に行う。 ①配布資料の内容を理解し、学生間で話し合い、具体的な問題点を抽出する。②各自が問題点を解決するために必要な情報を得た後、情報を整理する。③整理した情報を発表し、議論する。発表と議論した内容をまとめることによって、問題点に対する答を導き出す。従って、この授業では学生間での話し合いが中心となり、話し合いに参加するためには、明確な目的意識をもった学習態度が必要である。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>具体的な問題点を抽出し、「正確な知識の理解」と「知識を根拠とした正確な論理展開」によって問題点を解決する技術を習得する。学生間での話し合いと教員による指導によって、問題点を解決する方法と正解は必ずしも1つでは無いことを理解すると同時に、自身の学習方法の欠点を理解し、改善する。加えて、簡潔かつ解り易い言葉で説明する技術と建設的な話し合いを行ううえで必要なコミュニケーション技術を習得する。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的な問題点を抽出し、「正確な知識の理解」と「知識を根拠とした正確な論理展開」によって問題点を解決することができる。 2. 簡潔かつ解り易い言葉で説明することができる。 3. 建設的な話し合いを行うことができる。 <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>第1週 ガイダンス 配布資料から問題点を抽出する。</p> <p>第2～8週 問題点に対する答を導き出す。次に、新たに配布された資料をもとにして、同様の作業を行う。</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 (筆記試験, レポート, その他)</p> <p style="text-align: center;">再評価 ((有)・無)</p> <p>レポート (50%)、出席状況と話し合いでの発言内容など (50%) による。 詳細は第1週のガイダンスで説明する。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>その都度、資料を配布する。また参考書などを随時紹介する。</p>			

科目名 (英 訳)	情報科学演習 Exercise in Information Science	開講学期 曜日・時限	後期 (第9～15週のみ) 木曜日 3・4時限
対象学年	2年生	単位数	1単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	中口悦史 (数学), 水口俊介 (全部床義歯補綴学), 金澤学 (全部床義歯補綴学)		
<p>●授業の概要 (Outline of content and teaching method)</p> <p>歯科材料加工など工学の分野におけるCAD/CAM/CAE, 薬物動態や歯垢形成など非線形現象の数理解析など, シミュレーションを含むコンピュータ利用技術は幅広く利用されている。この授業ではシミュレーションの基礎となる数値解析法について概説し, BASIC言語を用いたコンピュータプログラミングによって基礎的なシミュレーションを含む演習を行う。</p> <p>●授業の目的 (Primary goal)</p> <p>コンピュータ利用技術へのより深い理解と, プログラミングを通じた論理的思考力の向上を目指す。</p> <p>●到達目標 (Objectives)</p> <p>数理モデルと数値解析法, コンピュータプログラミングの基礎を理解する。</p> <p>●授業計画 (Schedule)</p> <p>第1回 オリエンテーション: 歯科におけるCAD/CAMとシミュレーション, 数値解析法講義: 数理モデル, 数値解析法と近似誤差</p> <p>第2回 BASICプログラミング1: データ型と演算, 有効数字と演算誤差, 文字入出力</p> <p>第3回 BASICプログラミング2: 条件分岐と繰返し, 漸化計算演習</p> <p>第4回 BASICプログラミング3: グラフィックス, 平面図形描画演習</p> <p>第5回 数値解析法演習1: 質点の運動, 単振子系, ばね連成系シミュレーション</p> <p>第6回 数値解析法演習2: 有限要素法の基礎, 梁の曲げ応答解析</p> <p>第7回 総合演習</p> <p>●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 (筆記試験, レポート, その他)</p> <p>再評価 ((有)・無)</p> <p>最終回の総合演習課題 (40%) と毎回の練習課題 (60%) によって評価する。筆記試験は行わない。ただし出席が所定の回数に満たないものや、期限までに提出されない課題があったものには、単位を認めない。</p> <p>●教科書および参考書 (Textbooks and materials)</p> <p>教科書 特に指定しない。必要な教材はプリントまたはBlackboardで配付する。</p> <p>参考書 菊地文雄『有限要素法概説—工学における基礎と応用』 (サイエンス社)</p> <p>岸正彦『例題で学ぶ有限要素法応力解析のノウハウ』 (森北出版)</p> <p>日本機械学会『材料力学』 (丸善)</p> <p>森口・伊理・武市『Full BASICによる算法通論』 (東京大学出版会)</p>			